

平成**21**年度

子どもの城 事業年報



財団法人 児童育成協会

平成**21**年度

子どもの城
事業年報

Contents

目次

こどもの城 事業年報

平成21年度

1 事業の概要

平成21年度の活動	5
はしめに／一般事業活動／その他の活動／ 国庫補助による事業活動／開館時間・入館料(こども活動エリア)	
平成21年度活動一覧表	13
来館児・者数／クループ活動実施状況／講座・クラフなど／ 視察・見学実績	
1年の歩み	18

2 各部の事業

体育事業部

平成21年度の活動	21
はしめに／スポーツ遊びプログラム／まとめ	
平成21年度活動一覧表	24
一般利用／講座・クラフなど	

プレイ事業部

平成21年度の活動	31
はしめに／プロクラム活動／遊びのなかで育ちあう／まとめ	
平成21年度活動一覧表	34
一般利用／講座・クラフなど	

造形事業部

平成21年度の活動	41
はしめに／オープンスタジオ～造形菜園～／まとめ	
平成21年度活動一覧表	44
一般利用／講座・クラフなど／その他	
平成21年度プログラム一覧表	49
親子コーナー／クリエイティフコーナー	

音楽事業部

平成21年度の活動	51
はしめに／音楽ロビーの活動から／まとめ	
平成21年度活動一覧表	56
一般利用／講座・クラフなど／その他	

AV(オーディオ・ビジュアル)事業部

平成21年度の活動	63
はしめに／ヒテオライフラリ一年間特集「妖怪ライラリー」／ その他の活動／まとめ	
平成21年度活動一覧表	67
一般利用／講座・クラフなど／その他	

保育研究開発部

平成21年度の活動	71
はしめに／保育事業の活動から／まとめ	
平成21年度活動一覧表	76
一般利用／講座・クラフなど／その他	

小児保健部

平成21年度の活動	79
はしめに／診療・相談活動／ 赤ちゃんほっとタイム 子育て学習会～2年間の活動をふりかえって～／ まとめ	
平成21年度活動一覧表	84
一般利用／講座・クラフなど	

企画研修部

平成21年度の活動	87
はしめに／事業全体のとりまとめ／ホランティアの活動と養成／ 講座・クラフ／まとめ	
平成21年度活動一覧表	90
一般利用／ホランティアの活動／講座・クラフなど	
平成21年度「クループ活動」プログラム一覧表	100

劇場事業本部

平成21年度の活動	101
はしめに／主な自主・提携公演／まとめ	
平成21年度公演目一覧表	110
青山劇場／青山円形劇場／その他	

広報部

平成21年度の活動	115
はしめに／[こどもの城]のメディア／まとめ	
平成21年度活動一覧表	117

③ こどもの城から 全国へ

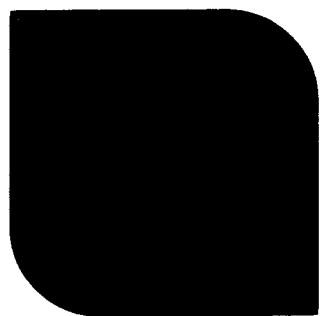
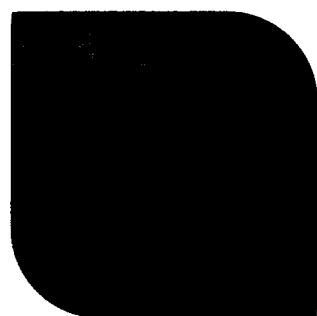
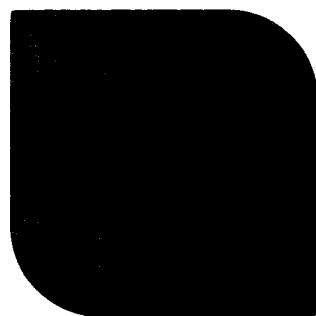
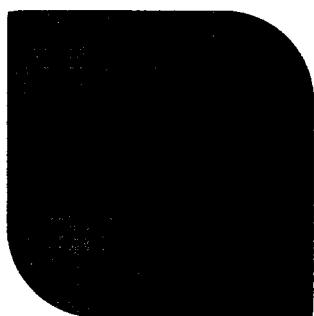
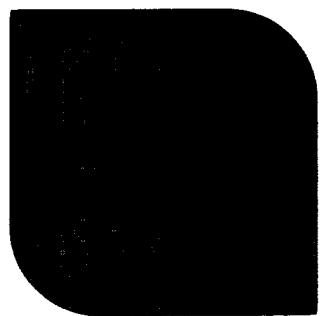
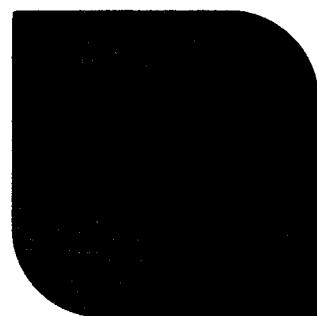
平成21年度の活動	121
はしめに／事業の概要／まとめ	
平成21年度活動一覧表	123
講座・クラフなど／〈動くこどもの城〉ほか(派遣プログラム)一覧／ 助成金による事業	

こどもの城 事業年報 平成21年度

[編集・発行] 財団法人 児童育成協会 理事長 小山敬次郎
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1 電話03-3797-5666
http://www.kodomono-shiro.jp/
表紙イラスト KOHYA/テサイン COIL/印刷所 日本印刷(株)

1

事業の概要



事業の概要



平成 21 年度の活動

1. はじめに

〔こともの城〕の来館児・者の動向は、前年度に増加のきざしが見えたが、本年度は夏休み以降の全国的な規模での新型のインフルエンザの流行の影響か、入館者数の減少をはじめ、講座・クラブの欠席、継続登録の手控え、クループ活動のキャンセルなど、〔こともの城〕の活動全般において、年間入館者数は過去最低となった。11月には「赤ちゃん大集合」を中止したが、こうした大型イベントへの参加がきっかけとなり、以後定期的に来館する利用者も多いたけに、今後の来館児・者数の回復には時間がかかると思われる。

〔こともの城〕の事業において、多くの一般来館児・者に利用してもらうことが基本であり、〔こともの城〕の存在が社会的に認められる上にも、重要な指標ともなっている。より多くの来館児・者が利用してもらえるような戦略をたてることが早急に必要である。

予算が限られるなかで、事業部の枠をこえた全館協力の事業を行い、〔こともの城〕の独自性が發揮できる事業展開を心かけた。特に、プロジェクトチームを作り取り組んだ「ぽかぽか広場」は、新型のインフルエンザの影響で全般的に来館児・者数が減少しているなかで、定期的な〔こともの城〕の利用者を増やすことに貢献したといえる。

〔こともの城〕の社会的な役割は、〔こともの城〕という施設での事業にとどまらない。施設で展開した事業を活用して、全国の児童健全育成事業の活性化や、仕事と子育ての両立支援をとおして優れた子育て環境の形成に寄与することを求められている。一方、社会・

経済情勢は、かつてないほど厳しさを増しており、社会的使命をはたすために、さらに効率的で効果的な事業運営に当たるとともに、〔こともの城〕が実施している事業の意義を社会に広く説明していく必要がある。

2. 一般事業活動

(ア) 来館児・者数

本年度の有料来館児・者は 286,146 人、劇場入場者 353,428 人、保育、小児保健、講座・クラブ関係の利用者および研修・会議室や宿泊施設関係の利用者を加えた総推計は 807,973 人で、前年度比 100,720 人の大幅な減少となった。

有料来館児・者は、前年度比 47,026 人の減少となった。8月後半からの新型のインフルエンザの流行が主たる要因であるが、全体として長引く景気の低迷も要因として挙げられる。

(イ) 一般来館児・者のための活動

【平常期間】

〈平日〉

○3歳未満の子どもを連れた母親の来館が多いため、気軽に参加できるプログラムの提供と、穏やかで居心地の良い雰囲気作りを心かけた。

○アトリウムでヘビーカーを積極的に預かることや、座卓の食事スペースの増設など、乳幼児連れが過ごしやすい対応を心かけた。

○火曜日の午前に、乳幼児と親を対象としたプログラム「ぽかぽか広場」9回と「赤ちゃんサロン」18回を各事

業部の協力のもとに実施し、来館児・者のニーズに応えるとともに、各種の専門性を有する総合施設ならではのプログラム展開をめざした。

〈土曜日〉

○バスケットボール、テニス、バドミントンといった運動量が多く、技術も要求される高学年向けのスポーツ活動を中心とした「ビッグサタデー」を体育室で実施した。

○「ぱらぱらマンガをつくろう」「クルクルかざぐるま」「色のふしげ」など、小学生以上を対象に、知的で体験型の科学遊びを「サタデーラボラトリー」としてプレイホールを中心に実施した。

〈日曜日〉

○乳幼児連れの家族が一緒に楽しめるプログラムに積極的に取り組んだ。(「GO! GO! ヴィーグル」「おはなし人形広場」)

○Bスタジオ、音楽ロビーを使った小さなコンサートなどを講座と連携を取りながら開催した。

○全館あけて取り組む大きなイベント「とり+かえっこ」(6月)、「秋まつり～みんなで縁日楽しもう！～」(9月)、「チキチキドルッチャワールド」(平成22年1月)、「あつまれ！小学生」(2月)を実施した。

〈9月の連休＝秋のフェスティバル：9月19～23日〉

○各事業エリアで催しの充実をはかるとともに、こともの城の秋まつり(21・22日)、フリーマーケット(23日)を開催し、地域や友の会、講座受講者にもあらためて来館してもらえるような働きかけを行った。

【特別期間】

○夏休みなどの特別期間は、キャッチコピーをつけ、全館の催しが相互に関連性を持ち、来館児・者に統一的なイメージが伝わるよう工夫した。

元気はじける@ゴールデンウィーク

(児童福祉週間＝ゴールデンウィーク)

こともの城あそぼ～けんらんど@夏休み（夏休み）

【来館児・者数（対前年度比較）】

来館児・者区分	平成21年度実績①	平成20年度実績②	(人) 差し引き増減①-②
有料来館者（大人）	98,761	117,418	▲18,657
有料来館児（子ども）	81,197	94,690	▲13,493
有料来館児・者（団体）	22,475	20,343	2,132
小計（有料来館児・者）	202,433	232,451	▲30,018
3歳未満児推計	49,454	58,783	▲9,329
招待者・児	34,259	41,938	▲7,679
「ことも活動エリア」来館児・者	286,146	333,172	▲47,026
劇場入場者	353,428	377,984	▲24,556
講座・クラブ受講生	68,186	71,638	▲3,452
その他の	100,213	125,899	▲25,686
合 計	807,973	908,693	▲100,720

冬休み はじけて GO! GO! こともの城（冬休み）

春休み あそんで GO! つないで GO! こどもの城

(春休み)

○児童福祉週間（ゴールデンウィーク）、夏休みなどの特別期間には、エレベーターホール、ロビー、廊下などの共用部分に、花しょうぶや浮き輪をデザインした装飾を施し、それぞれの季節感を強調した。

【外部団体、企業との共催事業】

[こともの城] の活動趣旨に賛同する外部団体、企業の協力を得て以下の事業展開を行った。（順不同）

○造形スタジオ（日常活動） アート・バイ・ゼロックス、山田ダンホール㈱、リンテックス㈱

○マタニティ・コンサート 和光堂㈱、大島椿㈱、ユニ・チャーム㈱、クラランス㈱、ビーンスターク・スノー㈱

○小児保健セミナー ユニ・チャーム㈱、ビーンスターク・スノー㈱

○小児保健部（リーフレット作成） 大塚製薬㈱

○ニッサンゆかいな絵本と童話展 日産自動車㈱

○第17回キンダーフィルムフェスティバル キンダーフィルムフェスティバル実行委員会

○こども探偵団 水のひみつをさがせ！（水をテーマにした展示と謎解きゲーム）／三ツ矢サイダー環境プロモーション みすまもるんの世界（環境と水をテーマにした展示と間伐材を材料にしたワークショップ） 三ツ矢サイダー

○夏休み！サイエンスフェスタ @ TEPIA2009／みなとミュージアムズ2010 参加事業サイエンスショー @ TEPIA 冬(イベント招待) 勤機械産業記念事業財団

(ウ) 講座・クラブ

継続的、体系的に[こともの城]を利用もらうため、講座・クラブ活動を実施した。実施種類、コース数、参加人数は以下のとおりであるが、前年度に比

して総受講者数で減少となった。今後はさらに受講者のニーズに即した講座・クラブの運営をめざしていくことが必要である。

○講座 33種、52コース、受講者数1,631人
(前年度 33種、51コース、受講者数1,355人)

○クラブ 6種、6コース、受講者数710人
(前年度 6種、6コース、受講者数853人)

○講習会 7種、19コース、受講者数483人
(前年度 7種、19コース、受講者数480人)

○短期集中講習会 17種、125コース、
受講者数1,469人

(前年度 17種、134コース、受講者数1,692人)

○専門指導者向け講習会 11種、20コース、
受講者数738人

(前年度 10種、19コース、受講者数734人)

(エ) グループ活動

[こともの城]開館時間前の平日の午前中を利用して、保育所、幼稚園および小学校などの団体を対象に、特別プログラムを提供する「グループ活動」は、一般来館児・者の受け入れ、講座・クラブの実施と並び[こともの城]の事業のなかで重要な位置を占めている。

ハンディキャップを持った子どものグループや、インターナショナルスクールの子ども、自主保育グループなどさまざまな団体からの申し入れがあり、利用件数は安定している。

本年度は156グループ、3,267人(前年度155グループ、3,187人)を受け入れた。

(オ) 保育研究開発部・小児保健部

〈保育研究開発部〉

○保育事業の3つの柱である「保育クラブ」「幼児グループ」および「親子教室」を継続して実施した。

○保育関係者のための研修プログラム(「家庭支援の理論と実践」、ニュースレターの発行、「保育セミナー」の開催など)を実施した。

○一般来館児・者を対象として特別期間に行った「親子工房」や、平常期間の土曜日に親子がゆったりと一緒に遊べる「よちよちクラブ」などにも積極的に取り組んだ。

〈小児保健部〉

○小児保健クリニックでは診療・相談を実施し、その件数は2,161件(前年度2,192件)であった。

○体育事業部と連携した講座、「健康スポーツ教室」および「マタニティ・スイミング」を継続して実施した。

○小児保健関係者のための研修プログラム(「小児保健セミナー」ほか)を実施した。

○「赤ちゃんサロン」は年間18回で2,505人(前年度18回3,722人)と減少した。新型のインフルエンザが原因による出控えが影響した。

○特別期間に行っている、乳幼児と保護者を対象としている「夏・冬休み子育て学習会」は、定員(30組)を超える参加があり、盛況だった。

○妊娠中の女性とその家族を対象とした「マタニティ・コンサート」(7月5日)を青山円形劇場で実施し、196人(前年度247人)の参加者を集めた。

(カ) 劇場事業

児童・青少年をはじめ、各年代にわたる多くの人々の文化・福祉の向上をめざして、国内外の質の高い舞台芸術に親しめる機会を提供している。あわせて、演劇・音楽・舞踊などの分野において、すぐれた劇場機能を生かした先駆的な舞台芸術活動を推進し、芸術文化の発展・普及に努めている。

本年度は、自主・提携公演を、青山劇場で5公演、青山円形劇場で19公演実施した。このうち、児童・ファミリー向け演目、こともの城・キリン・ファミリーオペレッタ『タントさんのふしぎなレストラン』は、社会保障審議会推薦の児童福祉文化賞推薦作品に選ばれた。伝統芸能などの振興をはかる『青山太鼓見聞録』、青山円形劇場がプロデュースした『Second Lesson』は文化庁芸術創造活動特別推薦事業に、11か国から18のアーティスト・カンパニーが参加した国内最大のダンスの祭典『ダンストリエンナーレトーキョー2009』は文化庁国際芸術交流支援事業に、完全円形のユニークな青山円形劇場の空間を生かした独創的な作品を発表する『TOKYO DANCE TODAY』は芸術文化振興基金の助成対象作品に選ばれた。

なお、青山劇場、青山円形劇場の稼働日数は下表のとおり。

劇場公演のほかに、若手舞台芸術家の育成をはかるためのセミナー「APAS = Aoyama Performing Arts Seminar」を24件、実施した。

×公演演目一覧表(110ページ)参照

【青山劇場・青山円形劇場の稼働状況】

	使用可能日数(日)	使用日数(日)	稼働率(%)	前年比(%)
青山劇場	324	286	88.3	89.5
青山円形劇場	357	315	88.2	91.7
計	681	601	88.3	90.6

(キ) 利用者サービス事業

[こともの城]を利用する人などの便宜をはかるため、宿泊施設、売店、各種自動販売機および駐車場の管理、

運営を行うとともに、児童厚生員等を対象とした研修など、各種研修、会合等のための研修室の管理・運営を行った。しかし、長引く不況の影響を受け、実績は前年に比べて低下した。

3. その他の活動

(ア) 広報

【こともの城】の事業・活動内容をより理解、認識してもらうとともに、利用者の増加をはかることを目的として、各種の広報活動を行った。

活動の主な柱としては、

- ①「こともの城ニュース」の発行（年12回発行）
- ②各種広報資料（パンフレット、ちらしなど）の作成・配布
- ③月刊誌「こども未来」などを通じて【こともの城】の活動内容の紹介
- ④新聞・テレビ・雑誌・インターネットなどを通じての広報
- ⑤広報企画の推進

——などであり、新聞、テレビなどの取材は、外国からのものを含めて年間171件（前年度149件）であった。

(イ) こともの城友の会

【こともの城】のサポーターともいえる「こともの城友の会」の会員増加をめざして、キャンペーンや映画試写会（『モンスターVSエイリアン』『ティラノのおとしもの』）試写会への招待、「こともの城秋のフェスティバル フリーマーケット」などのイヘントを実施した。

新規会員は197家族であったが、本年度末現在の会員数は760家族（前年度末884家族）に減少している。

(ウ) 国際交流

例年行っている、京浜地区の外国人学校の合同造形展「アートスケープ2010」にギャラリーを提供したほか、ハンガリ大使館の協力を得て「ハンガリーのクリスマス 絵本作家マレーカ・ペロニカさんを迎えて」の開催、夏休み短期講座のなかでアフリカやインドネシア、ベトナムの民族楽器を紹介し、演奏等をするなど、気軽に自然な国際交流をめざした。

グループ活動におけるインターナショナルスクールの利用件数は61件（前年度59件）で日本の児童文化の紹介と社会体験の機会となっている。

(エ) 実習生・研修生の受け入れ

大学などからの要請に応じて、【こともの城】の各事

業部をフィールドとし、その活動内容を研修対象とする実習生・研修生を受け入れているが、本年度は実習生22人、研修生・研究生2人（前年度 実習生16人、研修生・研究生3人）を受け入れた。

中・高校生の職場体験としての依頼が学校から多く寄せられるようになり、各事業部と調整しながら受け入れた。本年度は中学生5件9人、高校生1件17人（前年度 中学生9件23人、高校生3件48人）だった。なお10月中に受け入れ予定だった中学1校、高校1校は、新型のインフルエンザ流行の影響で中止となつた。

(オ) 講師派遣

【こともの城】で行う指導者向け講習会やセミナー、〈動くこともの城〉の派遣事業以外にも、児童館を中心とした全国の児童健全育成の現場からの要請を受けて、講師派遣という形で各地に出向き、【こともの城】のプログラム運営の実際と理念の普及に努めた。

地域の子育て支援センターや学童クラブなど子育て支援、次世代育成に関わる派遣依頼も増加の傾向にある。本年度の派遣実績は172件（前年度149件）であった。

【講師派遣実績】

部門	件数	部門	件数
体育事業部	3	保育研究開発部	3
プレイ事業部	5	小児保健部	92
造形事業部	3	企画研修部	26
音楽事業部	22	劇場事業本部	2
A.V事業部	13	事業本部	3
			計 172

(カ) 助成金による事業

独立行政法人福祉医療機構の「子育て支援基金」からの助成を受け、「児童館を活用した父親ネットワークづくり事業」を行った。

また、「子育てサークル活動者研修事業」を全国4か所で実施した。

4. 国庫補助による事業活動

(ア) 啓発活動

児童の健全育成にかんする冊子を配布し、事業実例の紹介と理念の普及に努めた。

(イ) 児童館巡回支援活動等事業〈動くこともの城〉

全国の児童厚生施設に対し、【こともの城】で開発、

蓄積した活動プログラムを巡回、提供し、地域における健全育成活動を支援するとともに、児童厚生員等に対する実技指導を行い、併せて今後の活動の充実に向け、プログラムの準備、開発に努めた。

本年度も、特に地域での要望の多い乳幼児と親を対象としたプログラムの充実をはかり、多くの派遣依頼にこたえた。

○乳幼児とその家族を対象とした子育て支援プログラム=「ぽかぽか広場」「すくすくスキンシップ」「うきうき！おんがくあそび」など 15 か所

○幼児や学童を対象とした遊びのプログラム=「身近な道具でスポーツあそび」「手作り楽器のワークショップ」など 15 か所

○展示とワークショップ=「造形ワークショップ展」「おりがみ作品巡回展」など 17 か所

合計、北海道ほか 24 都道府県で 47 か所（前年度 47 か所）の予定であったが、新型のインフルエンザの影響で 2 か所が延期された。

（ウ）中央児童厚生施設事業

【子どもの城】での研修や活動経験をもとに、全国の児童健全育成事業にかかるボランティアの養成、活動ボランティア数の拡充、および活動内容の充実をはかるため、プログラム作成にかんするアドバイスなどの支援を行った。

本年度末までのボランティア講習修了者数は、2,621 人。うち【子どもの城】のボランティアとして登録されているのは 347 人（前年度 347 人）、本年度中に【子どもの城】の事業活動に参加したのは延べ 4,973 人（前年度 4,691 人）であった。

また、全国各地におけるボランティア育成のためのボランティア交流事業（香川県、富山県）、技能向上のための研修会実施（香川県）など地域における活動への直接的な支援も行った。

5. 開館時間・入館料（子ども活動エリア）

（ア）平常期間

【子どもの城】の「ことも活動エリア」の開館時間は以下のとおりである。

平日	12 時 30 分～17 時 30 分
土・日曜日・祝日	10 時 00 分～17 時 30 分
月曜日	休館（祝日・振替休日にあたるとときは開館。翌火曜日が休館）

（イ）特別期間

学校の季節休み（夏休み、冬休み、春休み）、児童福祉週間（ゴールデンウイーク）を特別期間とし、多数の来館児・者が楽しめるようなプログラム作りと施設利用の工夫をした。

なお、5月 5 日「こどもの日」と、11月 3 日「文化の日」は“こども”的入館料を無料とした。

開館時間は、特記した日を除き、10 時～17 時 30 分。

■児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間■

4 月 29 日～5 月 6 日

※4 月 30 日、5 月 1 日は 12 時 30 分開館

■夏休み特別期間■

7 月 18 日～8 月 31 日（毎日開館）

■冬休み特別期間■

12 月 26 日～平成 22 年 1 月 7 日

（12 月 29 日～1 月 2 日は休館）

※1 月 3 日は 12 時 30 分開館

■春休み特別期間■

3 月 20 日～4 月 5 日（3 月 23 日は休館）

（ウ）入館料

【入館料】

一 般	こども（18 歳未満）	400 円
	（保護者が同伴した 3 歳未満児は無料）	
大 人	（18 歳以上）	500 円
回数券	こども（6 枚つづり）	2,000 円
	大 人（6 枚つづり）	2,500 円
団 体	（20 人以上） こども	320 円
	大 人	400 円

【優待パス】

平日ゆうゆうパス（1 年間有効）大人	3,000 円
わくわくパス（夏休み期間限定）大人	1,800 円
ドキドキパス（夏休み期間限定）こども	1,500 円
小・中学生土曜日パス（1 年間有効）	
小・中学生	2,500 円

[こともの城] の概要

		オフィス	13 F 12 F 11 F	
		パソコンルーム	10 F	
		研修室	9 F 8 F	
		ホテル	7 F 6 F	
5 F	屋上遊園 プレイポート	小児保健クリニック 保育室	5 F	ふしきか丘
4 F	ヒテオライフラリー	音楽ロビー A・Bスタジオ	4 F	
3 F	造形スタジオ 青山円形劇場	プレイホール コンピュータプレイルーム	3 F	
2 F	ギャラリー	屋外通路	ファミリーラウンジ	2 F
1 F	アトリウム		エントランスホール レストラン	1 F
B 1	プール観覧室	フリーホール		B 1
B 2	体育室／プール／健康開発室			B 2
		駐車場	B 3 B 4	

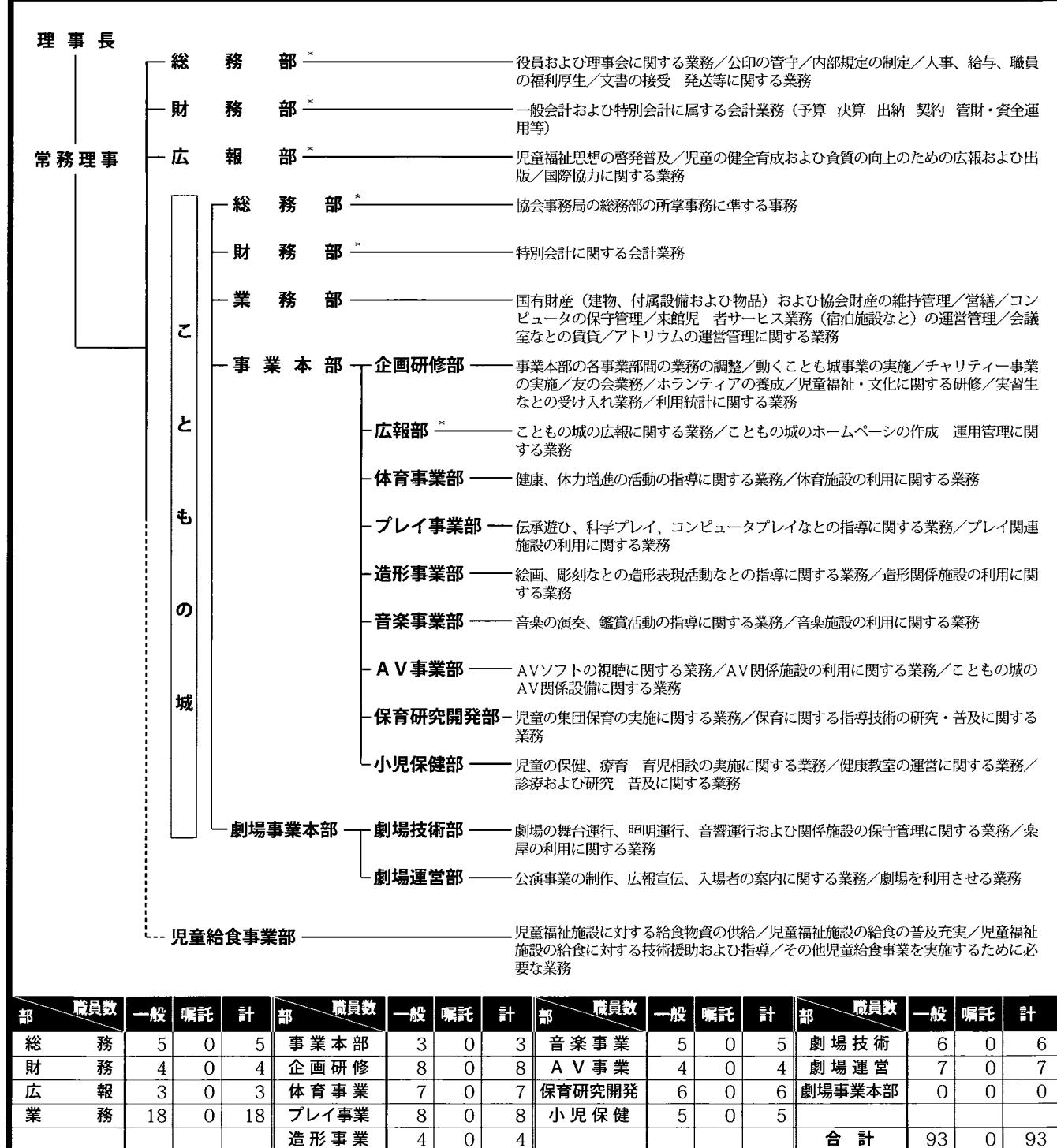
建築概要

所在地	東京都渋谷区神宮前 5-53-1	最高高さ	G L + 57.6 メートル
建築主	厚生労働省（当時 厚生省）	基礎下端	G L - 28.5 メートル
敷地面積	9,923 平方メートル	主要構造	高層部 鉄骨造り 低層部 鉄骨鉄筋コンクリート造り 地下 鉄筋コンクリート造り
建築面積	6,001 平方メートル	着工	昭和 56 年 11 月
延床面積	41,699 平方メートル	完成	昭和 60 年 9 月（11 月 1 日開館）
建ぺい率	60.48%		
容積率	345.38%		
階数	地下 4 階・地上 13 階・塔屋 1 階		

× [こともの城] は 1979 年（昭和 54 年）の国際児童年を記念して、厚生省（当時）が計画・建設した児童の健全育成のための総合施設。運営は、厚生労働省の委託を受けて（財）児童育成協会があたっている。

【子どもの城】組織機構図 (平成 22 年 3 月 31 日現在)

[注] *印は(財)児童育成協会本部と【子どもの城】の役職を兼ねる



(財)児童育成協会役員 (平成 22 年 3 月 31 日現在)

役職	氏名	役職	氏名
理事長	吉武 民樹	理事	篠原 徹
常務理事	林 重夫	理事	山口 規容子
理事	大野 出穂	理事	藤田 興彦
理事	小山 敬次郎	監事	秋山 昭八
理事	廣瀬 友久	監事	弁護士
理事	品川 正治 (財)国際開発センター会長	監事	藤間 秋男
			公認会計士

[こともの城] の付帯事業 (平成 22 年 3 月 31 日現在)

業種	店名等	場所	利用客席数	営業日・営業時間	備考
宿泊施設	こともの城 ホテル	6・7階	客室数 客室定員 27 68	無休(12月28日～1月2日を除く)	洋室 24 室(シングル 3、A ツイン 10、B ツイン 11) 和室 3 室(5人用 1、6人用 1、12人用 1) × 1 泊 7,455 円～
貸し室	研修室	8・9階	研修室 10 ×一部通して使用 できる。利用人員 400 人くらいまで	無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間 = 9:00～21:00	研修および会議など × 1 単位時間 13,335 円～
	ギャラリー	1階アトリウム		無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間 = 10:00～17:30	各種展示会など × 1 日 31,500 円
物品販売	売店	1階アトリウム	1か所	営業日時 = 「ことも活動エリア」の 開館日の 12:30～17:30	かん具、文具、スポーツ用品、講座指 定水着、催事関係用品、印刷出版物、 衣料、雑貨など
	自動販売機	館内各所	飲・食販売 39か所 コイン式インターフィット 1か所 カプセルトイ 2か所	無休	トランク類、牛乳類、カップ麺類など
公衆電話		館内各所	5か所	7台	無休
駐車場		屋内(地下 2 階～ 地下 4 階)、屋外(1 階)	約 126 台 (業務車両分含む)	無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間 = 8:00～22:00	普通車両は地下駐車場、バスなど大型 車両は屋外(1 階)に駐車 × 普通車両 30 分 300 円 マイクロ車 1 時間 840 円 大型車 1 時間 1,260 円
飲食関係	レストラン 「アンファン」	1階	客席数 140	無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間 = 7:30～19:00	ファミリーレストラン、すし、弁当仕 出し、パーティー、宿泊施設利用者の 食事など
	劇場内 「スナック」	青山劇場内地下お よび 2 階ロビー	立食	公演に合わせて営業 営業時間 = 開演前・幕間	喫茶、軽食

平成 21 年度活動一覧表

1. 来館児・者数

	一般来館児・者		劇場			その他	計
	日	時	総数	青山劇場	青山円形劇場		
4月	大人 子ども 団体 受講生など	(人) 7,203 6,702 263 11,143	(人) 25,311 推計 (28,919)	(人) 18,509	(人) 7,100	(人) 25,609 8,515	(人) 59,435 推計 (63,043)
5月	大人 子ども 団体 受講生など	9,949 6,012 1,953 8,647	26,561 推計 (31,539)	35,704	4,481	40,185 9,220	75,966 推計 (80,944)
6月	大人 子ども 団体 受講生など	6,376 4,414 1,143 8,681	20,614 推計 (23,808)	22,577	7,407	29,984 9,685	60,283 推計 (63,477)
7月	大人 子ども 団体 受講生など	11,494 9,908 4,377 8,032	33,811 推計 (39,566)	29,234	7,620	36,854 10,283	80,948 推計 (86,703)
8月	大人 子ども 団体 受講生など	18,252 18,585 3,947 7,370	48,154 推計 (57,289)	23,080	5,702	28,782 8,233	85,169 推計 (94,304)
9月	大人 子ども 団体 受講生など	6,089 4,607 319 6,924	17,939 推計 (20,988)	34,358	3,947	38,305 8,260	64,504 推計 (67,553)
10月	大人 子ども 団体 受講生など	4,845 3,645 886 8,376	17,752 推計 (20,180)	29,107	7,702	36,809 9,698	64,259 推計 (66,687)
11月	大人 子ども 団体 受講生など	5,197 3,254 1,195 7,865	17,515 推計 (20,119)	28,813	8,157	36,970 10,189	64,674 推計 (67,278)
12月	大人 子ども 団体 受講生など	5,155 4,090 695 6,499	16,439 推計 (19,023)	24,282	6,581	30,863 7,533	54,835 推計 (57,419)
平成22年 1月	大人 子ども 団体 受講生など	7,877 6,446 3,732 7,549	25,604 推計 (29,548)	16,261	6,202	22,463 564	48,631 推計 (52,575)
2月	大人 子ども 団体 受講生など	7,276 5,182 1,711 8,824	22,993 推計 (26,636)	0	6,146	6,146 9,071	38,210 推計 (41,853)
3月	大人 子ども 団体 受講生など	9,048 8,352 2,254 12,531	32,185 推計 (36,717)	15,524	4,934	20,458 8,962	61,605 推計 (66,137)
計	大人 子ども 団体 受講生など	98,761 81,197 22,475 102,445	304,878 推計 (354,332)	277,449	75,979	353,428 100,213	758,519 推計 (807,973)

注)「一般来館児・者」の「推計」は、3歳未満児の推定来館児数を含めたもの。

「受講生など」は、招待と講座 クラブ受講生を合算したもの。

「その他」は、宿泊施設 研修室等の利用者。

2. グループ活動実施状況

		保育所	幼稚園	小学校	中・高校	養護学校	ろうあ学校	盲学校	小学校特殊学級	中学校特殊学級	障害児施設	自主保育グループ	計
件数		38	60	25	1	16	1	4	9	0	0	2	(件) 156
月別内訳	4月		1										1
	5月	4	6	1		1							12
	6月	4	11	7		3		1					26
	7月	6											6
	8月												
	9月	2	1	1		1							5
	10月	2	1	3	1	3		1	5				16
	11月	1	13	4		3							21
	12月	5	4	2		1			1			1	14
	平成 22 年 1 月	4	6	1								1	12
	2月	7	11	2		2	1	1	3				27
	3月	3	6	4		2		1					16
地域別内訳	東京都区	37	55	25		11	1	3	8			2	142
	東京都市					3			1				4
	他府県	1	5		1	2		1					10
参加児童数別内訳	10人未満		2			2		1	6				11
	10～19	19	36	18		8	1	2	2				86
	20～29	16	11	6		3			1			2	39
	30～39	2	2	1	1	3		1					10
	40～49		2										2
	50～59		2										2
	60～79	1	4										5
	80～99												
	100～149		1										1
	150人以上												
参加児童数	延べ人数	819	1,457	468	36	278	13	61	91			44	3,267
	1件当たり人数	216	243	187	360	174	130	153	101			220	209
引率者数		142	225	66	2	210	4	49	59			1	758
付添者数		14	51	13		32		25	2			2	139
活動部門	体育	12	14	6		3						1	36
	プレイ	18	21	2		4			5				50
	造形	3	19	10		1			1				34
	音楽	7	17			8		4	1				37
	AV	2	5	8	1	1	1		2			1	21
	プレイ自由利用	14	18	9		3		1					45
	AV自由利用												
	その他自由利用												

注) 「活動部門」は、1つの団体が複数の部門を利用することがあるので、重複して計上してある。

3. 講座・クラブなど

〈講座〉

部 門	プロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	親子水泳	幼児・親	1 年 2 コース	60 (組)
	幼児水泳	幼児	〃 5 〃	270 (人)
	幼児体育	〃	〃 3 〃	120
	小学生水泳	小学生	〃 5 〃	300
	小中学生水泳	小・中学生	〃 2 〃	80
	小学生体育	小学生	〃 2 〃	60
	シニア・スイミング	小・中・高校生	〃 1 〃	30
	シニア・スイミングフレッシュ	〃	〃 1 〃	30
	ジュニア新体操	小学生の女子	〃 1 〃	35
	シニア新体操	小・中・高校生の女子	〃 1 〃	35
	手足の不自由な子の水泳	小・中学生	〃 1 〃	15
ブ レ イ	キッズクラブ	小学生	〃 1 〃	30
	ユースクラブ	小・中学生	〃 1 〃	40
造 形	こともクリエイティフルクラフ～クレイワーク	〃	〃 1 〃	16
	〃 ～ゆかいな造形	〃	〃 2 〃	32
	〃 ～親子でアート	幼児・親	〃 1 〃	10 (組)
	〃 ～絵本の世界へ	小・中学生	〃 1 〃	16 (人)
	〃 ～ハンスワーク	小・中・高校生	〃 1 〃	16
	大人のための造形表現教室	一般	〃 1 〃	25
音 楽	みんなで楽しいリトミック	幼児・親	〃 3 〃	60 (組)
	リズム・ムービング	幼児	〃 1 〃	20 (人)
	リズム・ムービング＆パーカション	小学生	〃 1 〃	15
	おんかく大好きミュージック・パーク	タウン症の幼児・小学生と親	〃 2 〃	20 (組)
	合唱講座	小学生	〃 1 〃	30 (人)
	児童合唱団	合唱講座修了の小・中学生	〃 2 〃	120
	カムラン講座	小・中・高校生	〃 1 〃	15
	三味線	〃	〃 2 〃	24
	混声合唱	高校生以上	〃 1 〃	40
	和太鼓グループ	小・中・高校生	〃 1 〃	12
	レッツ・プレイ・サンバ	小・中・高校生	〃 2 〃	20
小児保健	健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	太りすぎの小学生	〃 1 〃	20
計	31 種		51 コース	1,616

〈クラブ〉

部 門	プロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	タイナミック・ヘルス・クラブ	一般	通 年 1 コース	—
	レディース・コース	一般女性	〃 1 〃	150 (人)
小児保健	マタニティ・スイミング	妊婦	〃 1 〃	420
保 育	幼児グループ	幼児	1 年 1 〃	22
	保育クラブ	〃	〃 1 〃	450
企画研修	L I T (高校生ホランティア)	高校生	〃 1 〃	30
計	6 種		6 コース	—

〈講習会（1か月以上のもの）〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体 育	幼児・母親体育 I・II・III (1・2歳)	幼児・母親	3か月 3コース	90(組)
	幼児・母親体育 I・II・III (2・3歳)	"	" 3 "	90
	母と子のすくすくラント I・II・III	5か月～・母親	" 3 "	90
	ぱちやばちやファミリースイム I・II・III	幼児・親・祖父母	" 3 "	90
音 楽	おんかく星みつけた I・II・III	幼児・親	3か月 3 "	90
保 育	親子教室	幼児・親	" 3 "	48
企画研修	じょいんクラブ	小・中学生	6か月 1 "	20(人)
計	7種		19コース	518

〈短期講習会（1か月未満のもの）〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体 育	夏休みことも集中水泳講習会 (A・C)	小・中学生	5日間 2コース	100(人)
	" (B・D)	幼児	" 2 "	80
	夏休み体操教室 カンハ	小学生	" 1 "	30
	春休みことも集中水泳講習会 A	小・中学生	" 1 "	50
	" B	幼児	" 1 "	40
	成人水泳集中講習会	一般	7日間 12 "	240
造 形	夏休み造形教室	小・中・高校生	1日 30 "	450
音 楽	夏休み手作り楽器のワークショップ	小・中・高校生(親子)	1日 11 "	263
	夏休み音楽体験ワークショップ	"	1・2日 3 "	55
	三味線ワークショップ	小・中・高校生	1日 4 "	64
A V	夏休み映像・科学ワークショップ	小・中・高校生	" 42 "	496
小児保健	夏休みことも1日トック	小・中学生	1日 1 "	10
	季節の離乳食	乳児・親	" 9 "	90
	親子のほっこりタイム	"	" 6 "	60
	夏・冬休み子育て学習会	"	" 2 "	60
企画研修	小中学生のためのエンジョイ手話	小・中学生	1日 1 "	20
劇 場	青山・パフォーミング・アーツ・セミナー 2009 (APAS)	小学生～一般	1～5日 24 "	680
計	17種		148コース	2,788

〈専門指導者向け講習会など〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
音 楽	大人のための『三味線』体験ワークショップ	小学校教員・児童厚生員など	2コース	20(人)
保 育	保育セミナー	保育関係者	1 "	80
	子育て研修会～家庭支援の理論と実践～	"	3 "	150
小児保健	小児保健セミナー	保育者・保健師など	1 "	100
	子育て支援講習会「最新の小児保健の基礎と実際」	"	2 "	120
	食育講習会	保育者・栄養士など	1 "	50
企画研修	おりかみにつよくなる講習会	児童厚生員など	2 "	100
	つくって演じる人形劇	"	2 "	60
	こともの城児童厚生員等実技指導講習会	"	3 "	150
	ホランティア講習会	18歳以上	2 "	60
	女性ホランティア講習会	一般女性	1 "	20
	ホランティア・クレートアップ講習会	ホランティア登録者	2 "	60
計	11種		20コース	970

4. 観察・見学実績

年 度	都道府県・市区町村の本庁その他の行政部局、公共団体	児童館、保育所、幼稚園、学校、施設、サークルなどの団体	海外からの観察・見学	そ の 他	計	
昭和 60 年度	(100) 1,122	(100) 1,578	(22) 169	(18) 410	(240) 3,279	
61 年度	(121) 714	(192) 4,085	(52) 359	(31) 513	(396) 5,671	
62 年度	(107) 439	(123) 2,437	(36) 347	(20) 477	(286) 3,700	
63 年度	(91) 598	(69) 770	(30) 211	(32) 296	(222) 1,875	
平成元年度	(72) 541	(71) 931	(10) 86	(25) 195	(178) 1,753	
2 年度	(65) 605	(27) 292	(8) 156	(17) 212	(117) 1,265	
3 年度	(63) 417	(47) 705	(11) 77	(6) 274	(127) 1,473	
4 年度	(78) 585	(62) 1,038	(9) 122	(6) 35	(155) 1,780	
5 年度	(69) 698	(75) 1,182	(14) 119	(9) 41	(167) 2,040	
6 年度	(96) 782	(73) 1,251	(13) 144	(13) 116	(195) 2,293	
7 年度	(136) 956	(101) 1,542	(19) 273	(16) 94	(272) 2,865	
8 年度	(63) 402	(188) 1,691	(19) 139	(8) 48	(278) 2,280	
9 年度	(89) 723	(134) 1,335	(14) 229	(24) 43	(261) 2,330	
10 年度	(63) 474	(150) 1,470	(26) 204	(24) 145	(263) 2,293	
11 年度	(83) 863	(171) 975	(18) 177	(17) 68	(289) 2,083	
12 年度	(85) 616	(154) 596	(14) 128	(27) 37	(280) 1,377	
13 年度	(29) 254	(216) 1,029	(15) 109	(26) 68	(286) 1,460	
14 年度	(13) 40	(189) 1,212	(16) 211	(8) 38	(226) 1,501	
15 年度	(8) 14	(152) 965	(19) 149	(8) 14	(187) 1,142	
16 年度	(5) 53	(156) 1,084	(14) 135	(6) 13	(181) 1,285	
17 年度	(5) 41	(198) 924	(15) 300	(13) 35	(231) 1,300	
18 年度	(3) 31	(184) 1,267	(15) 229	(2) 7	(204) 1,534	
19 年度	(1) 2	(175) 903	(19) 192	(6) 21	(201) 1,118	
20 年度	(11) 29	(145) 604	(17) 136	(2) 29	(175) 798	
平成 21 年度	4月	(0) 0	(2) 9	(0) 0	(1) 30	(3) 39
	5月	(0) 0	(7) 31	(1) 32	(1) 10	(9) 73
	6月	(1) 2	(12) 32	(2) 11	(0) 0	(15) 45
	7月	(3) 6	(12) 68	(3) 23	(1) 3	(19) 100
	8月	(0) 0	(9) 28	(0) 0	(0) 0	(9) 28
	9月	(2) 10	(7) 21	(2) 12	(0) 0	(11) 43
	10月	(1) 3	(11) 25	(0) 0	(0) 0	(12) 28
	11月	(2) 4	(22) 80	(3) 78	(0) 0	(27) 162
	12月	(0) 0	(7) 30	(2) 42	(0) 0	(9) 72
	H22 1月	(1) 1	(9) 55	(2) 9	(0) 0	(12) 65
	2月	(1) 1	(13) 41	(0) 0	(0) 0	(14) 42
	3月	(1) 5	(10) 21	(2) 3	(0) 0	(13) 29
	合 計	(12) 32	(121) 441	(17) 210	(3) 43	(153) 726
累 計		(1,468) 11,031	(3,273) 30,307	(462) 4,611	(367) 3,272	(5,570) 49,221

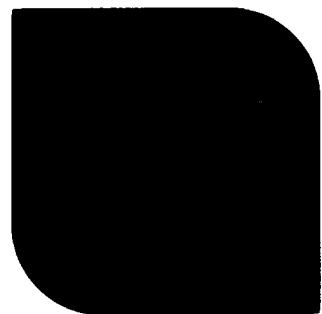
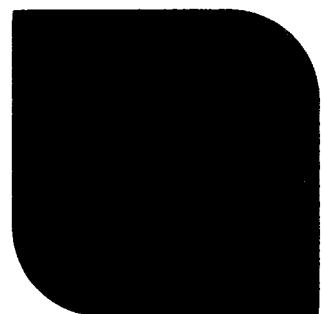
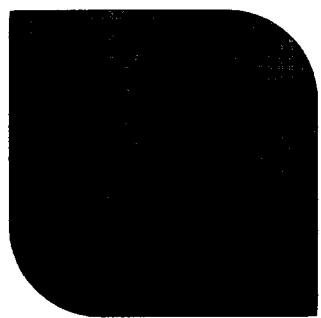
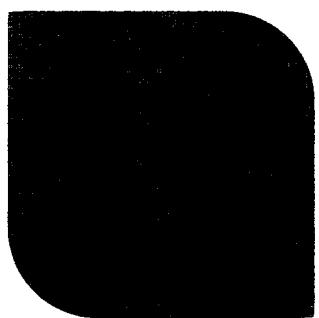
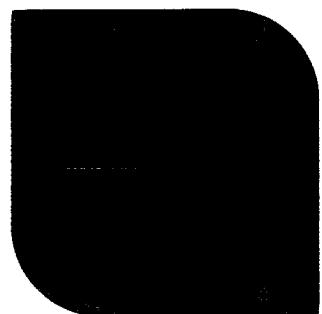
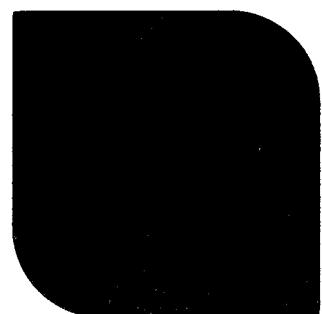
注) () 内は、団体数。
「その他」は、中央官庁、中央団体、会社など。

1年の歩み

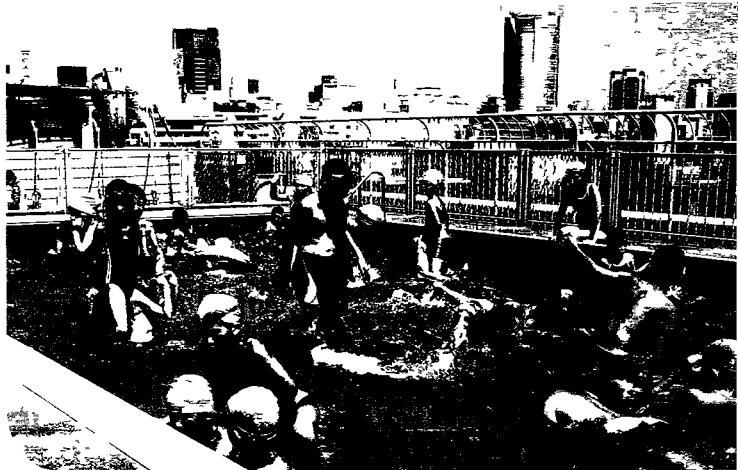
月日	事 項	月日	事 項
4 13	「ぽかぽか広場」を年間 7 回から 9 回に（音楽口ヒーほか）		
4 29～ 5 6	児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間 「元気はしける@ゴールデンウイーク」 キャッスルクエスト 2009 「受け継かれし紋章」／みんなで春の運動会！／こども歳時記「端午の節句」／みんなでダンス！ノッチャって！おとっちゃって！／妖怪ライブラリー第二章妖怪博士になろう！——ほか ×5月5日は、こともの入館料は無料	10 31～ 11 23	タ 2009／みんなで踊ろう！爆裂祭 ——ほか ×秋まつり～みんなで縁日をたのしもう！(21・22日ふしきか丘)
5 30	第 13 回こともの城子育て支援講習会「最新の小児保健の基礎と実際～心とからだの健康 012 歳児」（研修室） ×第 14 回は、平成 22 年 2 月 26・27 日（2 日間）に開催（研修室）	10 31～ 11 29	第 10 回全国児童館おりかみ作品展「私たちの街Ⅱ」（ギャラリー）
6 10・11	平成 21 年度第 1 回こともの城児童厚生員等実技指導講習会「遊びの専門技術～手技を楽しむ～」（研修室） ×第 2 回（平成 22 年 1 月 20～22 日）「今の子どもを徹底研究！～これからの活動を考えるために～」	11 28	こともの城ファミリー一月間 ×11月3日は、こともの入館料は無料 Enjoy ! ファミリースポーツ DAY(期間中の日曜日と祝日)／第 16 回親子体験ワークショップ「アニマルマペット」(31・1・3 日)／遊びでつくる家族の WA (7・8 日)／あそぶ◎まなぶハンソンオン広場(21～29日)／あそひか山もり！トントン村！！～ファミリーフェスティバル～(21～23日)／いきいき家族写真展(期間中毎日) ——ほか
6 13	平成 21 年度第 1 回家庭支援の理論と実際「気になる子ともとその保護者をとう支えるか」（研修室） ×第 2 回（10月24日）「保護者の声に耳を傾ける”全ての保護者に寄り添うには・実践例を通して”／第 3 回（平成 22 年 1 月 16 日）「家族を支えるということは～保育士の立場で支えるために～」	12 6	第 24 回小児保健セミナー「気になる親へのかかわりかた～上手な話の聴き方・伝え方～」（研修室）
6 20・21	とり+かえっこ with スポーツゲームス（体育室） ×平成 22 年 2 月 21・22 日「とり+かえっこ in こともの城」（ギャラリー）	12 8～25	青山円形劇場プロデュース「おしゃへりなレストラン」～ア・ラ・カルトリニューアル準備中～（青山円形劇場）
7 5	第 24 回こともの城マタニティコンサート「今野尚美・里中トヨコ～ピアノと歌でリラックス」（青山円形劇場）	12 26～ H22 17 +19～11	冬休み特別期間「冬休みはしけて GO ! GO ! こともの城」 こども歳時記「お正月」／パソコンでデザイン！わくわく☆カレンダー 2010／スポーツ人間すころく／クルッとまわしてめてタイマー／うたってファミリー／妖怪ライブラリーお正月スペシャル 2010 年！鬼太郎ちゃんちゃんこ年！——ほか
7 10	こともの城食育講習会「乳幼児期からの健康つくり」（会議室）	13～10	第 21 回こともの城・キリン・ファミリーオペレッタ「タントさんのふしきなレストラン～タントさんといしわるいもむし～」（青山円形劇場）
7 18～ 8 31	夏休み特別期間「こともの城 あそぼ～けんらんと@夏休み」 スポーツライセンススクール／オープンスタジオ「造形菜園」／みんなであそぼう夏本番！どれみふあプレミアム／妖怪ライブラリー第三章夏た！お化けた！妖怪フェスタ／ウォーターアートヘンチャー 2009／パスルアント／つくって遊ぼう親子工房～すこっ！スコッ！すころく！／フォト・ペタ・コラーシュ——ほか ×第 26 回渋谷スタンブラー（こともの城、NHK スタジオパーク、たばこと塩の博物館、電力館、東京都児童会館）	12 23・24	みんなでつくろう！新世界チキチキトルッチャワールト（音楽口ヒー・プレイホール・体育室ほか）
7 23～26	月猫えほん音楽会 2009（青山円形劇場）	2 11、 13・14	発見！集まれ！小学生 サタデーラホラトリースペシャル／ポコ・ア・ポコ土曜音楽俱楽部スペシャル／ヒックサタデースペシャル／クリエイティブコーナースペシャル（プレイホール、体育室ほか）
8 1・2	第 23 回こともの城保育セミナー「子どもを取り巻く人の環境～保育士と保護者のコミュニケーションの大切さ～」（研修室）	2 28～ 3 22	トキトキッス オン・ステージ（音楽講座の発表会をかねる、ミニコンサート） 「ひらけリスマ・ムーピングのとひら」（28 日）、「三味線三昧」（7 日）、「シャワ島のカムランと踊り」（14 日）、「サンハ・フェスティバル！」（21 日）、「花のお江戸の助六太鼓」（22 日）
8 26～30	TAIKO JAPAN 2009 ×第 8 回東京国際和太鼓コンテスト（29・30 日／青山劇場）、青山太鼓見聞録〈太鼓進化論〉（28 日／青山劇場）、青山太鼓見聞録外伝〈和心～女か打つ、歌う～〉（26 日／青山円形劇場）、和太鼓カレッジ・ワークショップ（28～30 日／青山円形劇場、ビロティほか）	3 13・14	こともの城児童合唱団コンサート「こともたちからのサウントメッセージ」（青山円形劇場）
9 18～ 10 8	タンストリエンナーレ トーキョー 2009（青山劇場、青山円形劇場ほか）	3 21	2010 新体操発表会「Feel the Natural 」（体育室）
9 19～23	こともの城秋のフェスティバル（秋の 5 連休） 実りの秋た！カモン!! みんなであそんしゃ王国／スポーツフェス	3 20～ 4 5	春休み特別期間「春休みあそんて GO ! つないで GO ! こともの城」 スポーツあそひミステリーツアー／やってみよう！つくってみよう！～造形アニマルピクニック～／つなげよう！友たちいっぱい春いっぱい！／時空図書館～春た！あそぼう！戦国時代！～／あんたかた“はる”さ／ニッサンゆかいな絵本と童話展～ボッケに発見！たからもの～——ほか

2

各部の事業



体育事業部



平成 21 年度の活動

1. はじめに

講座・クラブの運営と一般来館児・者向けの活動に大きく分けられる。平日は講座・クラブを中心に、そして土・日曜日、祝日および学校の季節休みなどの特別期間は一般来館児・者向けに、体育室でスポーツ遊びのプログラムとプールの開放を行っている。

子どもたちの体力低下が騒がれて久しいが、〔子どもの城〕を利用する子どもたちにいかに運動を体験させ、体を動かす楽しさを伝えるかが、体育部門の使命と考えている。

25m × 5コースの温水プール、小さめのバスケットボールコート1面分の体育室と健康開発室がある。夏休み特別期間には、屋上に仮設のプールを設営。乳児も親と一緒にプール遊びが楽しめるように設定してある。

(ア) 一般利用

講座・講習会などが中心となっている体育事業部の活動のなかで、一般来館児・者向けのプログラムは、土・日曜日と祝日、学校の季節休みなどの特別期間に行っていている。

日曜日(および、その前日の土曜日の午後)は、フライングディスクを使ったゲーム、ドッジボール、サッカー、プラスチックのスティックを使うユニホック(ホッケー)、そして家族で楽しめる卓球を行った。

土曜日は14時に1種目のスポーツ、日曜日は14時と16時に異なる種目のスポーツを体験できるように設定してある(活動一覧表参照)。2種目を行うことで子どもたちの苦手意識の緩和や新たなスポーツに興味、関心

を持つ機会に役立っていると感じる。祝日は14時と16時に、道具を必要とせず、運動量も期待できる鬼ごっこを行った。最近は、鬼ごっこを行う機会が少ないということから、これからも継続していきたい。

平日は講座・講習会などに使用しているプールも、土曜日(13時30分～16時)、日曜日・祝日(10時30分～17時)は、一般来館児・者に開放している。寒い冬の時期の利用者は少ないが、芽吹きの時期あたりから利用者が増えはじめ、夏の時期は連日、大盛況である。

さらに、夏休み特別期間には屋上遊園に“ちひっこプール”を開設して、その運営を担当している。乳幼児が安心して利用できるため、夏の風物詩として人気を集めている。

健康開発室は、体力測定を有料で行っている。年齢・性別に応じて全国平均と比較し、簡単なコメントをつけて測定用紙を渡し、健康・体力作りに役立てられるようになっている。子どもから大人まで測定できるので、家族



HOT! ホット!! ストリートダンス ヒップホップ de 遊ぼう

で互いにとのくらいの体力があるのか比べあう姿が見られる。大人にとっては、体力維持のよい指標となっている。

(イ) 講座・クラブなど

親子、幼児、小・中学生（「シニアスイミング」「シニア新体操」は高校生も可）を対象に、水泳・体育の講座を開講している。ほとんどの講座は週1回であるが、「シニア新体操」「シニア新体操」は週2回、「シニアスイミング」は週3回ある講座枠のなかから選択して受講できるようにしている。

幼児の講座（水泳・体操）は、ここ数年、定員いっぱいまで運営しているが、小学生クラスは学校の終了時間が遅くなつたためか、早い時間帯のクラスは空きが目立ってきた。時間を後ろに変更することが利用者増に結びつくのであるが、18時からの「ダイナミックヘルスクラブ」（18歳以上のスポーツクラブ）にかかるてしまうため難しいところである。

成人向けコースとして、「レディースコース（スイミング／リズム＆ストレッチ）」があり、平日の午前中に開講している。初心者から上級者まで、幅広く楽しめるように配慮している。

年度の後半には、水泳講座受講生の「水泳記録会」、新体操講座受講生による「新体操発表会」を行い、活動の成果を保護者に見てもらう機会としている。

「シニアスイミング」「シニア新体操」受講生は年に数回、対外試合に参加して種目別で上位の成績を修めている。

2. スポーツ遊びプログラム

(ア) 特別期間のスポーツプログラム

特別期間（児童福祉週間＝ゴールデンウイーク、夏休み、冬休み、春休み）の体育室の活動は、年度ごとに利用者のニーズや季節に添ったテーマを決めてプログラ



スポーツフェスティバル 2009 「武道編～空手」

ム作りをしている。

一般来館児・者を対象にするプログラムは、参加年齢もさまざまあり、特に幼児にも分かりやすいように、遊びを取り入れたルールにアレンジして行った。また、子どもだけではなく親子でも楽しめるように工夫し、スポーツを身近に感じてもらうように配慮した。

児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間は、運動会をテーマにした「みんなで春の運動会」。午前中は、幼児を持つ親子を対象に、親子向けのプログラム「親子で春の運動会！」を行った。

夏休み特別期間は「スポーツライセンススクール～この夏、楽しい思い出、新しい仲間 君だけのライセンスをゲットしよう～」を行った。なじみのあるスポーツから、あまり知られていないスポーツまで、幅広い種目に挑戦。1種目参加することに1個のスタンプを押し、たくさん集めて“ライセンスカード”をもらうというプログラム。

夏休みに入る前には、水の事故対策として「It's ライフセービング～たのしい夏にするために～」の講習会を前年度と同様に、日本ライフセービング協会の協力で開催。着衣泳やアクシデントにあったときの対処法をレクチャーしてもらった。

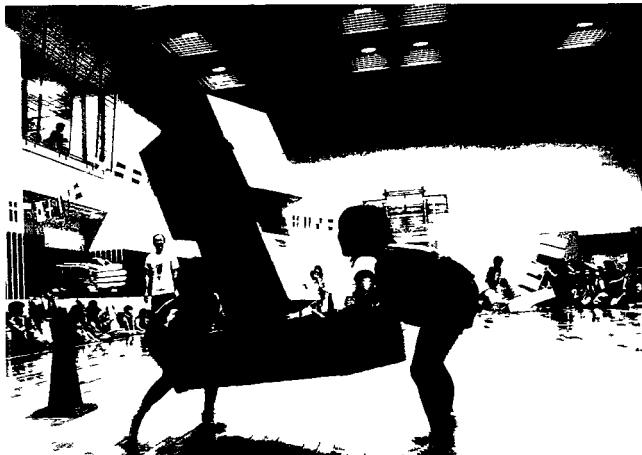
冬休み特別期間は「年末！投げきりスポーツ（Throw Threw Snow）」。ハンドホール、ドッジビー、雪合戦を日替わりで行った。また、年明けには、プレイ事業部、ボランティアリーダーのプログラムと連携して、人間がすくろくのこまになって進む「スポーツ人間すごろく」を体育室で行った。冬休み特別期間に連なる3連休（1月9～11日）には、「新春スポーツ大会」を開催。ドッジボール、ユニホック、鬼ごっこを日替わりで行った。

春休み特別期間は「スポーツあそひミステリーツアー」。今までの体育室のプログラムは、あらかじめスポーツの種目を決めて行っていたが、今回はどのスポーツを取り上げるかを事前に告知しないで、秘密にしておいた。練習を重ねていくうちに、どのようなスポーツをす



サッカーフェスティバル 2009 「キックターケット & PK 大会」

親子で春の運動会



るための練習なのかか、少しずつ解明されていくプログラム。苦手意識を持つスポーツを敬遠することができないため、参加者が体育室の前で躊躇する姿が見られなかった。

(イ) その他のプログラム

本年度は、暦の関係で秋に大型連休が出現した(9月19～23日)。[こどもの城]では、「秋のフェスティバル」として、プログラムの充実をはかった。体育室では、「スポーツフェスタ2009」のタイトルで「ゴール編」「武道編」「体操編」「ニュースポーツ編」を行った。

11月1日の[こどもの城]開館記念日を中心開催してきた「ファミリーウィーク」が、1か月にわたる「ファミリー月間」に変わった。家族で楽しめるスポーツをチョイスして、「Enjoy ファミリースポーツDAY」として、11月の1か月間、講座がない土・日曜日に、家族で楽しめるスポーツを取り上げた。

体育の日には、「サッカーフェスティバル2009」を開催。キックターゲット大会、PK合戦、試合を2日間

年末！投げ切りスポーツ Throw Threw Snow



にわたって行った。

3. まとめ

[こどもの城]は、平成22年で開館25周年を迎える。体育事業部では、子どもたちに、“体を動かす楽しさ”“スポーツのおもしろさ”“汗をながす爽快感”を伝えようと、いろいろな試みをしてきた。これからも引き続き取り組んでいきたい。

子どもたちの体力が低迷していると騒がれている今日、いかにすれば子どもたちの体力が向上するかにしほって、プログラム開発を考えていく必要性がててきた。やみくもに、運動一辺倒におちいることのないように、スポーツ遊びを軸に、子どもたちが興味をもつて参加できるようなプログラムを開発し、“スポーツ遊びからスポーツへ”移行できることを願っている。

運動・スポーツに苦手意識をもつ子どもか、一人でも多く“スポーツ愛好家”になり、スポーツを余暇の一つとして楽しんでくれるようになることを望んでいる。

平成 21 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
プール一般利用	土曜日 13:30～16:00 日曜日・祝日 10:30～17:00	土・日曜日、祝日にそれぞれの時間帯で一般利用。18歳以上300円、小1～17歳200円、幼児100円。レンタル(タオル・水着)各200円。幼児は保護者か1対1で付き添って利用。 (プール)
体育室一般利用	土曜日 14:00～15:00 日曜日・祝日 14:00～15:00 16:00～17:00	日曜日14時と16時の2回、土曜日14時に練習とゲームを行い、それ以外の時間帯はフライングティスクのフリースローイング。第1日曜日 フライングティスク(14時)、サッカー(16時)／第2日曜日 トッシホール(14時)、ユニホック(16時)／第3日曜日 卓球／第4日曜日 サッカー(14時)、トッシホール(16時)／第5日曜日 ユニホック(14時)、フライングティスク(16時)。土曜日は、日曜日の14時の種目。卓球は終日卓球の自由利用(混み合う場合は各クループ20分交代で利用)。利用時間は土曜日が13時30分～16時、日曜日が10時～17時。土・日曜日と重ならない祝日は、鬼っこ。 (体育室)
体力測定	土曜日 14:00/15:00 日曜日・祝日 11:00/13:00 /14:00/15:00/16:00	8種目の体力測定を行っている。4歳児くらいから大人までが利用でき、小学生以上は男女別に全国平均値と比べることができる。利用料は1回100円。 (健康開発室)
ヒックサタデー	土曜日 10:30～11:45	小学4年生以上を対象としたプロクラム。クリケット、タカラクビー、ハレーホール、バスケットボール、ハトミントンなどの種目をほぼ2か月交代で取り上げ、技術や戦法、ルールなどを指導。ゲーム(試合)の楽しさ、おもしろさを体験できるようにした。 (体育室)
ファミリー アトヘンチャー	6/7 8/2 10/25 H 22/3/14	身の回りにあるいろいろな“冒険”を家族で楽しむ野外プロクラム。参加家族がふれあいながら、自然のなかの不思議を発見、新鮮な出会いなど、ちょっとした‘冒険’にチャレンジ。参加費=500～2,000円(1人)。 <input type="checkbox"/> 6月7日=パークアトヘンチャー～なつかしのサリカニ釣りに挑戦!! (水元公園=東京都) <input type="checkbox"/> 8月2日=川遊びアトヘンチャー～思いっきり川遊び (伊奈キャンプ場=東京都) <input type="checkbox"/> 10月25日=江ノ島アトヘンチャー ～クイスハイキングに挑戦!島の龍神伝説を解き明かせ!(江ノ島=神奈川県) <input type="checkbox"/> 平成22年3月14日=パークアトヘンチャー～ネイチャーゲームに挑戦 (木場公園=東京都)
親子DE ぱちゃぱちゃ	7/5 10:30～11:30	体育講座「親子水泳」「ぱちゃぱちゃスイム」が人気を集めている。受講希望者が多く、キャンセル待ちしている人もいる。そうした家族を対象に、一日体験コースを開催した。対象は1・2歳親子。40組参加。参加費1000円(1組)。 (プール)
It's ライフセーフィング	7/5 13:30～15:30	海の安全についての学習や着衣泳を実践。小学生以上の子どもとその親37人が参加。先着予約制。参加費500円。協力 日本ライフセーフィング協会。 (プール)
〈秋のフェスティバル〉 スポーツフェスタ 2009	9/20～23 11:00～12:00 14:00～15:00 16:00～16:00	9月20日は「コール編」(コールで得点するスポーツ)、21日は「武道編」(空手や相撲など日本の武道)、22日「体操編」(器械体操、新体操など)、23日「ニュースポーツ編」(チューリップホールなど)を行った。 (体育室)
サッカーフェスティバル 2009	10/11・12 11:00～11:45 13:30～17:00	11時～11時45分「親子でサッカー」、15時～17時「チームをつくりゲーム大会」。11日は13時30分～14時「リフティング大会」、14時～15時「サッカートレーニング」、12日は13時30分～14時30分「キックターケット&PK大会」。おもいっきりサッカーを楽しむ2日間。 (体育室)
〈ファミリー月間〉 Enjoy ファミリー スポーツ Day	11/1、3、23 14:00～15:00 16:00～16:00 11/8、15、22、29 11:00～11:45	1日は「大運動会スペシャル」、3日は「おにっこ」、23日は「親子で球技大会」。8、15、22、29日は「親子であそぼー」。家族で楽しめるスポーツを実施。親には、スポーツを子どもに教えることを伝授。 (体育室)

名 称	日 時	内 容
第 22 回水泳記録会	12 6 13 00 ~ 17 00	水泳講座生の記録会。25m 完泳できる講座生が対象たか、完泳できない講座生も参加できる「チャレンジ 25」も設けた。エントリー（1 人 2 種目 = 1 000 円）を行い、年齢別、男女別で記録に挑戦。幼児 29 人、小・中学生 110 人参加。（プール）
第 22 回新体操発表会	H22 3 21 13 30 ~ 16 00	「ジュニア新体操」「シニア新体操」の受講生による発表会。1 年間の成果を発揮し、家族の前で演技を発表した。今年のテーマは「Feel the Natural」——春夏秋冬の自然や「自然体」をイメージして演技を構成し、披露した。11 時から、新小学 1 年生以上を対象とした体験プログラム「みんなか主役～新体操チチ発表会」で新体操にチャレンジ。講座のメンバーと一緒にになって保護者の前で演技を披露しました。（体育室）

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 親子で鬼っこ	4 29 11 00 ~ 12 00	親子で楽しめる鬼っこを実施した。（体育室）
〈 〃 〉 鬼っこ	4 29 14 00 ~ 15 00 16 00 ~ 17 00	さまざまな鬼っこにチャレンジ。（体育室）
〈 〃 〉 親子で春の運動会	5 2 ~ 6 11 00 ~ 12 00	親子で組体操をしたり、他の親子とチームを作り運動会の種目を行った。（体育室）
〈 〃 〉 みんなで春の運動会！	5 2 ~ 6 14 00 ~ 15 00 15 30 ~ 17 00	運動会の種目で人気があるものをピックアップ。たるま運び、台風の目、綱引きなどを行った。（体育室）
〈夏休み〉 スポーツライセンス スクール～この夏、楽しい思い出、新しい仲間、君だけのライセンスをゲットしよう～	7 18 ~ 8 31 14 00 ~ 15 00 16 00 ~ 17 00	なしみのあるスポーツから、あまり知られていないスポーツまで日替わりで実施。スポーツを体験しスタンプをもらい、たくさん集めライセンスカードを手に入れる。（体育室）
〈 〃 〉 ちひっこプール	7 18 ~ 8 31 10 30 ~ 16 30	屋上に仮設プール（13.6 × 5m、水深 60cm）を設置、一般利用。利用料 200 円、レンタル（タオル・水着）各 200 円。（屋上遊園）
〈冬休み〉 年末！投げ切りスポーツ Throw Throw Snow	12 26 ~ 28 14 00 ~ 15 30	投げる スポーツに焦点をあてた。26 日「ハントホール」、27 日「トッシヒー」、28 日「雪合戦」。（体育室）
〈 〃 〉 スポーツ人間すくろく	H22 1 3 ~ 7 10 00 ~ 17 00	ホランティアとの協力事業。体育室全面をすくろくの 盤面 とし、人間が こま になって進むすくろくを実施。11 時、14 時、16 時 30 分に「チャンピオン決定戦」。（体育室）
〈 〃 〉 新春！スポーツ大会	1 9 ~ 11 14 00 ~ 15 00 16 00 ~ 17 00	ゲーム中心の大会形式で楽しめた。9・10 日は「トッシホール」（14 時）、「ユニホック」（16 時）、9 日のみ 10 時 30 分から「バスケットボール」（小 4 ～）。11 日は「おにっこ」。（体育室）
〈春休み〉 スポーツあそび ミステリーツアー	3 22、24 ~ 4 5 14 00 ~ 15 00 16 00 ~ 17 00	体を動かしているうちに、たんたんと秘密が解き明かされ、どんな種目にチャレンジするかか分かる“ミステリーツアー”。
〈全期間〉 体力測定	11 00 / 14 00 / 15 00 / 16 00 (日・月曜日・祝日は 13 00 の回あり)	身長、体重、握力、垂直跳び、肺活量、立位体前屈、反復横跳び、閉眼片足立ちの 8 種目を測定。1 回 100 円。（健康開発室）
〈 〃 〉 プール一般利用	10 30 ~ 17 00	18 歳以上 300 円、小 1 ~ 17 歳 200 円、幼児 100 円。レンタル（タオル・水着）各 200 円。幼児は保護者が 1 対 1 で付き添って利用。日によって利用時間が異なる。（プール）

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

×講座回数= 1・2期 13回、3期 9回

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子水泳 A	(組) 1・2歳児 と親 (30)	(組) ① 28 ② 30 ③ 28	水曜日 10:00～11:00 (全35回)	親と子を対象とした水泳コース。土曜日のコースは父親の参加が多い。父親が参加することで、よりタイナミックな動きができる。 受講料= 1・2期各 29,000円、3期 20,000円。
" B	" (〃)	① 31 ② 32 ③ 35	土曜日 10:00～11:00 (全35回)	
幼児水泳 A	(人) 3・4歳児 (50)	(人) ① 34 ② 28 ③ 24	木曜日 14:00～15:00 (全35回)	単に泳法の修得たてなく、水中でも楽しく活動できるように指導。プールでの活動をおして、水に慣れることやバランスよく水に浮く感覚など、水泳に必要な運動の基礎を身につける。クラスの人数も少ないので、ゆったりとした雰囲気で行われている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料= 1・2期各 22,500円、3期 15,500円。
" B	4・5歳児 (60)	① 46 ② 48 ③ 48	木曜日 15:00～16:00 (全35回)	
" C	" (〃)	① 36 ② 33 ③ 39	金曜日 14:30～15:30 (全35回)	
" D	3～5歳児 (50)	① 49 ② 49 ③ 49	火曜日 14:30～15:30 (全35回)	水慣れから泳ぎへと個人差に応じた班分けを行っている。クロールなどの練習のみならず、幼児期に必要な水中感覚を得られるように指導を行っている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料= 1・2期各 22,500円、3期 15,500円。
" E	" (〃)	① 50 ② 49 ③ 50	水曜日 13:30～14:30 (全35回)	
幼児体育 A	3・4歳児 (40)	① 28 ② 31 ③ 31	水曜日 14:30～15:30 (全35回)	たくさんの友たちと一緒に思いきり体を動かし、運動遊び、リズム遊びなど樂しみながら健康な体や運動の基礎を作る。 受講料= 1・2期各 20,500円、3期 14,000円。
" B	4・5歳児 (40)	① 27 ② 20 ③ 28	火曜日 15:00～16:00 (全35回)	「幼児体育 A」を土台にして、それを発展させながらさまざまな運動を体験し体の使い方を学んでいく。 受講料= 1・2期各 20,500円、3期 14,000円。
" C	" (〃)	① 23 ② 15 ③ 9	木曜日 15:00～16:00 (全35回)	



第 22 回新体操発表会



第 22 回水泳記録会

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
小学生水泳 A	(人) 小1～6 (60)	(人) ① 31 ② 24 ③ 18	水曜日 15:00～16:00 (全35回)	生涯楽しめるスポーツ「水泳」を基礎から学び、4泳法をマスター。「シニア・スイミング」へのステップアップが目標。各期の後半に進級テストを実施(10級～1級)。次への目標としている。 受講料=1・2期各22,500円、3期15,500円。
" B	" (〃)	① 37 ② 29 ③ 27	火曜日 16:00～17:00 (全35回)	10級 顔つけ もくり 息こらえ ホビング 水なれ 9級 伏し浮き 背浮き 板キック ホティーイーメーン1 8級 伏し浮きキック 背浮きキック ホティーイーメーン2 7級 ノーブレクロール ハックキック ホティーイーメーン3 6級 クロール・ハック(125) プレスト・ハタフライ(キック) 5級 クロール・ハック(25) プレスト・ハタフライ(リズム) 4級 クロール・ハック(50) プレスト・ハタフライ(呼吸) 3級 クロール・プレスト(タイム) 個人メトレー 2級 個人メトレー(100)(タイム) 1級 個人メトレー(200)(タイム) ×ハラスメントなく発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」「中学生水泳(小学生のみ)」の2講座の受講ができる。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円(2コース合計)。
" C	" (〃)	① 47 ② 56 ③ 46	水曜日 " (全35回)	
" D	" (〃)	① 34 ② 36 ③ 27	金曜日 15:30～16:30 (全35回)	
" E	" (〃)	① 36 ② 31 ③ 35	木曜日 16:00～17:00 (全35回)	
中学生水泳 A	小2～中3 (30)	① 11 ② 11 ③ 16	火曜日 17:00～18:00 (全35回)	×「中学生水泳A」は、クロールで25m以上泳げる人限定。
" B	" (50)	① 49 ② 50 ③ 45	木曜日 " (全35回)	
シニアスイミング	小1～高3 (30)	① 34 ② 31 ③ 33	火・水曜日 16:30～18:00 (全70回)	「小学生水泳」からのステップアップ講座。4泳法とも、自己記録の向上をめざす。指導者の推薦が必要。受講料=1・2期各22,500円、3期15,500円。 ×「シニアスイミングフレッシュ」の時間帯にも練習することができる。
シニアスイミング フレッシュ	小3～高3 (30)	① 32 ② 27 ③ 22	金曜日 16:30～18:00 (全35回)	小学3年生以上で泳ぎが不得意な子どものクラス。クロールで25m以上泳くことを第一目標に練習を進める。90分の集中的な練習で上達の度合いが大きい。受講料=1・2期各22,500円、3期15,500円。
小学生体育 A	小1～6 (30)	① 29 ② 26 ③ 24	火曜日 16:00～17:00 (全35回)	器械体操、珠技を中心に多種多様な運動経験をとおして苦手な種目を克服する。さらに、鬼ごっこなどを取り入れ、持久力も身につける。 受講料=1・2期各17,000円、3期11,000円。 ×ハラスメントなく発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」「中学生水泳(小学生のみ)」の2講座の受講ができる。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円(2コース合計)。
" B	" (〃)	① 30 ② 25 ③ 26	木曜日 " (全35回)	
ジュニア新体操	小1～3の 女子 (35)	① 19 ② 17 ③ 16	水・金曜日 15:30～17:00 (全70回)	跳ねたり、跳んだり、回ったり、リボンやホールを使って楽しく体を動かす。基礎的な運動も含めた新体操の初步を指導。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円。
シニア新体操	小4～高3 の女子 (35)	① 22 ② 21 ③ 21	水・金曜日 16:30～18:00 (全70回)	「ジュニア新体操」から一步進んで新体操独特の美しい表現ができるように練習。創作活動や発表会も開催。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円。
手足の不自由な子 の水泳	小1～中3 (15)	① 9 ② 11 ③ 10	土曜日 17:00～18:00 (全35回)	身体に障害があり、水泳の機会に恵まれない小・中学生が対象。スタッフ、ボランティアの個人指導を中心に楽しく活動。 受講料=1・2期各17,500円、3期12,000円。

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ダイナミック・ヘルス・クラブ (DHC)	(人) 成人 メンバー ヒシター 法人	(人) 年齢別 5,692 662 25 合計 6,379	火～土曜日 12:00～13:30 18:00～21:00 日曜日・祝日 18:00～20:00	18歳以上の大人のためのクラブ。プール、体育室、シムを利用して体力作り、健康管理のために最適な環境で楽しく活動。個人会員は、入会全100%オフ、会費20%オフキャンペーンを実施して、新規会員の募集に努めた。入会金0円、年会費50,000円、4か月会費20,000円、月会費5,500円、利用料(利用の都度)300円。利用パス券(月3,000円、4か月11,000円)、ヒシター1,500円。
レディースコース スイミング リズム &ストレッチ	18歳以上 の女性 (122)	① 43 ② 36 ③ 43	火・木曜日 10:00～11:00 水曜日 10:00～11:00 土曜日 11:00～12:00	スイミング3コース、リズム&ストレッチ1コースを併せてレディースコースとし、チケット制でのコースでも参加できるようにした。チケット終了後は6回分の追加利用券を発行。生活習慣の中に定期的な運動を取り入れることと健康作りの第一歩。各クラスとも4班編成。それぞれのレベルにあった班を選択し、「スイミング」ではクロールの練習から4泳法を身につけることを目標に健康作り。「リズム&ストレッチ」では、ゆったりと気持ちのよいストレッチと軽快なリズム運動で、楽しく動きながら明日への活力を生みたす。受講料=1・2期各22,500円(13回分)、3期15,500円(9回分)。利用券(6回)5,000円。

〈講習会〉

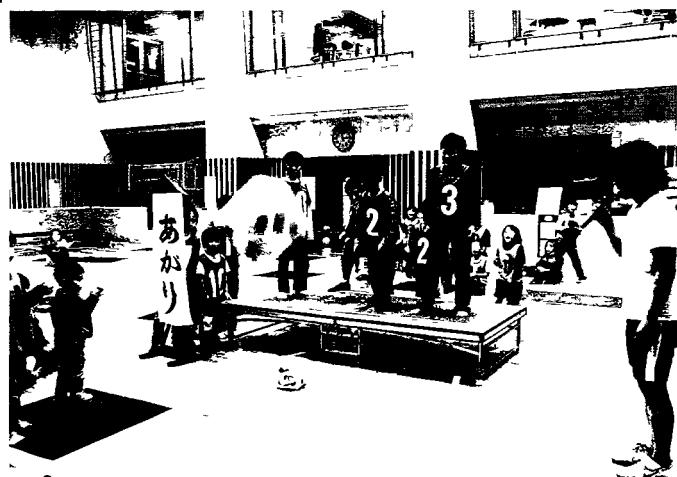
名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
母と子のすくすく ラント	(組) おわりの てる乳児 (5～8か月 前後)と母親 (20)	(組) ① 27 ② 24 ③ 29	金曜日 10:00～11:00 (全29回)	はいはいから歩行へと成長していく時期の赤ちゃんを対象に、楽しい体操や親子での遊び。お母さんのシェイプアップも。 受講料=1・2期各24,500円、3期22,000円。
幼児・母親体育 A	1・2歳の子 ともと母親 (30)	① 27 ② 30 ③ 31	火曜日 13:30～14:30 (全29回)	親子か体育室でリズムに合わせて跳ね、跳び、走るうちに運動神経を養い、体を動かすことの楽しさを身につける。 受講料=1・2期各20,500円、3期18,000円。
" B	2・3歳の子 ともと母親 (30)	① 30 ② 30 ③ 27	水曜日 11:00～12:00 (全29回)	
ぱちやぱちや ファミリースイム	1・2歳の子 ともと父 母、祖父母 (30)	① 20 ② 28 ③ 13	金曜日 10:00～11:00 (全29回)	1歳から始まる水泳のヒキナークラス。父母、祖父母のうち2人と幼児の組み合わせて参加できる。水慣れから、楽しい水泳活動をとおしてコミュニケーションも深めていく。 受講料=1・2期各26,500円、3期23,500円。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休みことも集中水泳講習会 A	(組) 小1～中3 (50)	(組) 50	7月21～25 9時30～10時30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法を体験。受講料=8,000円。
" B	4・5歳児 (40)	40	7月21～25 10時30～11時30	
" C	小1～中3 (50)	50	8月12～16 9時30～10時30	
" D	4・5歳児 (40)	40	8月12～16 10時30～11時30	
カンハ 2009	小1～3 (30)	30	8月5～9 9時30～10時30	器械体操や球技などの基本動作を身につける、体操の苦手な子とものための5日間連続の体操教室。受講料=9,000円。
春休みことも集中水泳講習会 A	小1～中3 (50)	50	H22年4月1～5 9時30～10時30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。受講料=8,000円。
" B	4・5歳児 (40)	40	H22年4月1～5 10時30～11時30	
成人水泳 集中講習会	18歳以上 (月20)	延べ 80	水・金曜日 18時00～19時00	18歳以上の初心者やレベルアップを考えている人の集中水泳講習会。月ごとに募集を行い、各月の講習種目に合わせて指導を行う。 受講料=10,000円(各月7回)。



チキチキトルッチャワールト～わくわく∞スポーツ

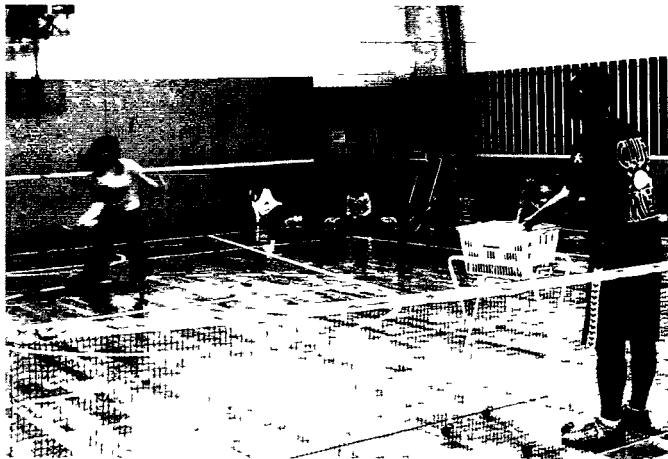


スポーツ人間すころく

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
スポーツキャンプ	7 28 ~ 31	大自然に囲まれたニュー・クリーンピア津南でテニスや球技などのスポーツやトレーニングをとおして、全力を出した爽快感、充実感を味わえるキャンプ。自分の体の感覚やハラジンスをしっかり感じ、体力的にも、精神的にも成長することを目的とした。参加費=小学生 50,000 円、中学生 54,000 円。 (新潟県 ニュー・クリーンピア津南)
新体操夏合宿	8 3 ~ 6	緑深い矢祭町の自然に囲まれた環境のなかで、地域の人たちの協力も得て、伸び伸びと楽しく、充実したプログラムを行うことかってきた。今回は初めて、滝を見ながらの山登りにも挑戦した。講座生 32 人、OG2 人、スタッフ 5 人の計 39 人が参加。 (福島県 東白河郡ユーパル矢祭)
水泳合宿	8 10 ~ 12	年々着実に泳力をつけている「シニアスイミング」受講生を対象とした水泳合宿。前年度まで、[こともの城] で“通い合宿”を行っていたが、本年度は 2 泊 3 日の合宿を新潟県で実施。1 回 2 時間の練習 2 こまのほか、筋力トレーニングや海水浴も行った。参加 14 人。 (新潟県 ウェルサンピア新潟)
チャレンジキャンプ	8 25 ~ 28	チャレンジの言葉とおり、何にでも挑戦していく、低学年の体験キャンプ。かんはった子どもたちには、大きな満足感と達成感。生活面は、ホランティアリーターを中心に、仲間と協力して過ごす。小学 1 ~ 3 年生 44 人が参加。参加費 48,000 円。 (山梨県 県立八ヶ岳少年自然の家)
スキースクール パート 1 1 期 〃 2 期	12 26 ~ 29 H22 14 ~ 7	1 期はスキーレッスンに最適な北志賀高原よませスキー場（長野県）。2 期はファミリー向けケレンテで安心して楽しめるニュー・クリーンピア津南（新潟県）。2 期は新学期が始まる前なので、往復の疲労の軽減をはかるため新幹線を利用。2 期は中学生のみスノーホートのレッスンあり。小学 2 年生～中学 3 年生が対象。1 期は 46 人、2 期は 49 人参加。参加費=1 期 58,000 円。2 期小学生 58,000 円、中学生 62,000 円。
スキースクール パート 2	3 26 ~ 29	小学 1 ~ 3 年生の低学年が対象のスキースクール。パート 1 と異なり、スキーのみならず「班対抗雪合戦」「雪上運動会」となとレクリエーション的なプログラムが多く含まれている。低学年対象のキャンプなので、時間に余裕をもって行動。レッスン時間も考慮した。今回は、エコロジーについて話をしたり、実践をしてみた。44 人が参加。参加費 59,000 円。 (新潟県 ニュー・クリーンピア津南)

ヒックサタニー「テニス」



It's ライフセーフィング

プレイ事業部



平成 21 年度の活動

1. はじめに

屋内の広い遊び空間であるプレイホールを中心に、屋上遊園やパソコンルーム、コンピュータプレイルームなどの活動スペースの運営を担当し、年間をとおしまさまなプログラムを実施した。夏休みや冬休みの特別期間には、自然に親しみ、仲間との共同生活を体験するキャンプも実施した。

実施されるプログラムは、〈あそび〉をとおして子どもたちの成長・発達を促すことを目的に、①子どもの発達年齢や遊びの種類を考慮した遊び環境の整備とプログラムの提供 ②児童文化や子どもの遊び文化をテーマにした活動 ③仲間遊びや子ども同士の交流を促進し、社会的な適応能力をはぐくむプログラムの提供——の3つの方向性を基本にして計画・運営した。

【こどもの城】に多く来館する幼児期から児童期の子どもたちにとって、その成長発達には〈あそび〉や〈仲間関係〉が与える影響は小さくない。少子化が進み、人間関係が希薄化するなかで、子どもたちが豊かな遊びと人間関係を体験できるような環境を整えることが大切であると考えている。本年度も子どもたちが、遊びや人と人とのかかわりを楽しみ、さまざまな学びや気づきができるように活動をすすめた。

2. プログラム活動

(ア) 一般来館児・者向けプログラム

平常期間の定例プログラムとして、人形劇、影絵、紙芝居などを週替わりに行う「みんなのにこにこ広場」、

週替わりに作品を変えて楽しむ「おりがみあそび広場」、毎週異なった遊具で遊ぶ「金曜開店！あそひやさん」の“週間プログラム”活動と、定期的に実施するプロの人形劇団による「おはなし人形広場」など児童文化財を素材にした活動がある。

「サタデーラボラトリー」は、小学生以上を対象とした科学遊びを中心としたプログラムで、毎回テーマを変え実施した。

「季節プログラム」は、日本の“歳時記”にあわせて七夕・正月・節分・ひな祭りの行事を実施した。ボランティアの協力を得て、行事の由来や伝統文化を、それぞれの行事に合わせた遊びのプログラムを体験することで、参加する親子に伝承した。遊び自体がもつ楽しさと、遊びをとおして人と人がかかわることの楽しさを伝えることを大切にした。

夏休みや春休み特別期間に行うプログラムは、子どもの生活体験や社会体験をひろげ、〈あそび〉かより〈まなび〉につながることを主なねらいにし、毎回テーマを変えて実施した。

夏休み特別期間のテーマは“パズル”。知恵の輪やシグソーパズル、組合わせパズルで遊んだり、グループ対抗で大型タングラムなどの組み立て競争をした。オリジナルパズル作りなど、試行錯誤を繰り返してパズルにじっくり取り組み、完成させる喜びを感じてもらった。春休み特別期間は“集団あそび”をテーマにした。簡単なルールで体を動かし、互いの体がふれあって遊ぶなかで、出会った子ども同士が集団で遊ぶことを楽しんでいた。

これらのプログラムは、実施後内容を整理し、その後

のプレイホールの活動プログラムとして提供できるようとした。

(イ) 講座・グループ活動・野外活動など

【講座 キッズクラブ・ユースクラブ】

活動内容をスタッフが企画し、子どもたちに提示するだけではない。子どもたちが“したいこと”的意見を吸い上げたり、子どもたち自身で意見を煮詰めていったものを具体的なプログラムにして実施している。

本年度は両クラブともに、外部講師によるプログラムを取り入れた。この試みは、子どもたちに新たな気づきと、遊び方の広かりをもたらすとともに、新たなプログラム展開への可能性を示した。

【グループ活動】

“森”“忍者”“オリンピック”の世界観を、こっこ遊び・劇遊びのなかで展開し、集団のなかでの自己表現や仲間作りをすすめている。例年、保育所・幼稚園・小学校（低学年）、特別支援学校の小学部が利用している。

子どもたちが“広い”と感じる空間（大型アスレチックもあるプレイホール）を、森や忍者修行道場などに見立てることで、体全体でプログラムの流れを感じ、こっこ遊び・劇遊びの世界に入り込めるのである。スタッフは、照明や音響、装飾などを利用しながら、感情を言葉や体で表現するきっかけを与える。ワクワク、ドキドキする感情の体験や達成感は、その後の保育・教育現場で活用されている、と活動後のアンケートに記載されていることが多い。

本年度は、「劇遊び 森へいこう」（7件）、「劇遊び 忍者修行道場」（20件）、「みんなであそぼうパペットランド」（8件）、「こともの城オリンピック」（8件）、「みんないっしょに」（4件）の47件（前年度48件）。

【野外活動】

夏休みと冬休みの特別期間に、小学生を対象とした3つのキャンプを実施している。豊かな自然のなかでさまざまなプログラム活動を実施し、参加者の満足度が高いキャンプとなった。

本年度は、新型のインフルエンザの流行があり、その対応にせまられた。保護者からは、新型のインフルエンザへの対応などの質問が多数寄せられ、キャンプ開催地の施設との相談、保護者への説明、消毒液やマスクの準備、流行を抑えるための部屋割りの工夫などを実施した。参加者やスタッフ間に流行した時の運営体制の確認など、さまざまなシミュレーションを行って本番にのぞんだが、実際には新型のインフルエンザの影響はなく、すべてのキャンプを無事終了させることができた。

一方、子どもたちを取り巻く生活や学校環境の変化が

影響し、参加者数の伸び悩みが見られた。冬のキャンプでは、学校の2期制にともない、出発日が登校日で5時限目まで授業がある学校が増えた。出発時間をぎりぎりまで遅らせて対応したか、参加しにくいという子どもがいたようだ。夏の高学年キャンプでは、中学受験などで夏季講習に参加する子どもが増え、6年生の参加が少なかった。今後、日程などの見直しを検討していかなければならない。

今、子どもたちの学び、育ちには、単なる科目学習に偏らない総合的な力（生きる力）を伸ばすことが求められ、豊かな実体験にその効果が期待されている。【こともの城】にとっても、キャンプは重要な活動である。さらに魅力あるキャンプをめざすと同時に、キャンプ活動の意味や必要性を周知し、たくさんの子どもたちに参加してもらえるよう努力する必要がある。

3. 遊びのなかで育ちあう

遊びのなかでの人とのかかわりをとおし、学びあい・育ちあうことを活動の基軸に置き、さまざまな事業を開催している。

児童福祉週間（コールデンウイーク）特別期間に実施しているプログラムは、「ごっこ遊びをとおして来館児・者の交流をはぐくむこと」を大きなねらいの一つに掲げている。本年度の「キャッスルクエスト 2009～受け継がれし紋章」も、“勇者になり、【こともの城】にあらわれた悪者を倒そう”というストーリーのもと、子どもたちがさまざまな遊びを行い、そのなかから自然と人との交流をはぐくむことを大切にした。

参加した子どもたちは、勇者になるためにさまざまな修行と呼ばれるゲームを行い、ゲームに参加してカードを集めることで、勇者に認定されるというルールである。カードは数種類用意しており、ゲームに参加することに、1～3枚のカードがランダムにもらえるようになっている。当然、同じ図柄のカードを手にすることもあり、ゲームの待ち時間などをを利用して、子どもたちの間で自然とカード交換が始まるのである。

【こともの城】は、初めて来館する子どもたちが多い。このプログラムに参加している子どもたちの多くは互いに初対面だが、カードの交換をとおして知り合いになることができる。自然に交流をはぐくむことができる機会を設定してある。

春休み特別期間に実施した「あんたがた“はる”さ」では、群れ遊び、集団遊びをとおして、人と人がふれあえるように設定した。

スタッフが進行役となり、1日3回、集団遊びの集いを実施。どの集団遊びも、参加した子ども同士をつなぐ

遊びである。プレイホールの床に作ったコースを使った「とんじょんけん」や「じんとりゲーム」では、初めて出会った子ども同士がチームを作り、力を合わせてチームの勝利をめざすのである。遊びが進行するなかで、おのずと年齢の大きい子が小さい子にルールを説明したり、勝負に勝つための作戦をたてたり、子どもたちのなかで役割分担かなされたりと、一つの遊びのなかから自然に人ととの交流が生まれ、はぐくまれる。遊びのなかで、少しずつ自分の存在価値を見出すこともできるようになるのである。

プレイホールにある常設の遊具も、人と人とのかかわりがきるように配慮されている。大型総合遊具「わくわくらんど」には、数人の子どもが一緒に隠れができる空間を意図的に作り、遊具での遊びが一人遊びにならないように配慮している。

「小中学生コーナー」には、かならず2人以上でないと実施できない対戦型のゲームを用意し、子ども同士と一緒に遊べるように配慮している。幼児向けのままごと遊びのコーナーも、その場所にいる子ども、親子が、ままごとの道具や場所を共有することで「かして」「いれて」の関係が自然にできるようにしている。

「ユースクラブ」「キッズクラブ」では、さまざまな遊びや集団活動をとおして、仲間作りを行うことを大きな目的に掲げている。実施回数こそ月に2回程度だが、年間をとおして同じメンバーで行っているため、互いのことをよく理解し合って関係が深まっていく。学校とは違った人間関係のなかで、いつもとは違う自分自身の姿を見せることがけたり、普通ならばおそらく友だちにならないような人と接することで見えてくる価値観があつたりするのである。

あるメンバーは、1年間の活動最後の日、他のメンバーに次のような言葉を残した。「このクラブのメンバーはみな変わっている。“変わっている”というのは“変”ではなく、特別という意味だ。特別な人たちがたくさんいたからこそ、普段の学校ではまわりに見せない自分でいた」と。子どもたちは活動をとおして、社会性をはぐくむだけでなく、自己の可能性をも発見している。

人は、自分自身を認めてもらいたいという欲求を持つだけでなく、人に対して影響を与える力をもっており、誰かにとってかけがえのない存在たということに気づいた時、大きく成長すると言われている。このような相互に育ち会える関係か、場面や立場を変えながら遊びのなかでは多数ある。遊びをとおした人と人とのつながり

あんたかた“はる”さ～あそんしゃ広場

ゆかであそぼう



を大切にし、今後もさまざまな場面で、遊びをとおして子どもたちが学び合い・育ち合える機会を多く提供していきたいと考えている。

4.まとめ

プレイ事業部の活動も24年目を迎えた。乳幼児から中高生までが利用する活動スペースの運営、季節の行事や体験ワークショップなどのプログラム活動、夏休み・冬休みのキャンプ、また活動内容を外部に伝える〈動くことの城〉や講師派遣など、さまざまな事業を実施した。

活動プログラムについては、「みんなで遊ぶ楽しさを体験すること」を本年度の重点ポイントにした。子どもたちの遊びの形態が「群れ型」から「孤立型」へ変化していると言われて久しいか、さまざまなプログラムをとおして、[ことの城]に遊びに来た知らない子ども同士が、一緒に遊び、関係を深めたりする様子を見ていると、人と人とのかかわりのなかで学ぶことの大切さを、改めて確認することとなった。また、活動スペースである屋上に設置してあったプレイポートを老朽化のため2月末で閉鎖した。

本年度は新型のインフルエンザの流行により、プレイ事業部の活動のなかでもとくに、キャンプへの参加希望者の減少や、体調不良の子どもが出ることなどへの影響が懸念された。結果的には夏・冬のキャンプとも大きな影響はなく、予定通り実施、終了することができた。

来年度以降もさらに、子どもたちにとって、より良い体験となるようにプログラム活動を充実させ、実施していきたい。

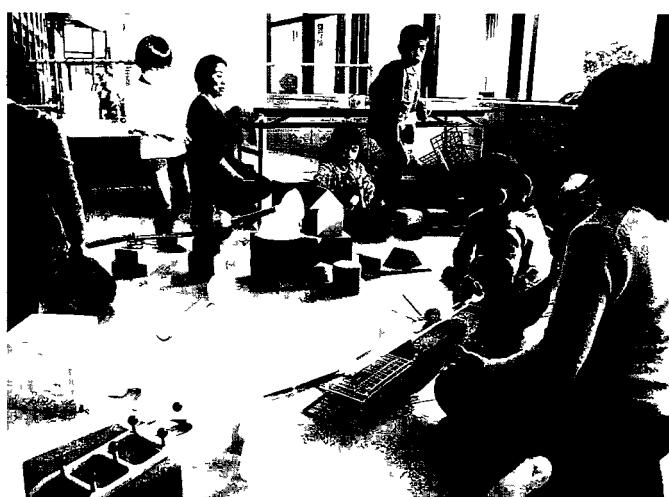
平成 21 年度活動一覧表

1. 一般利用

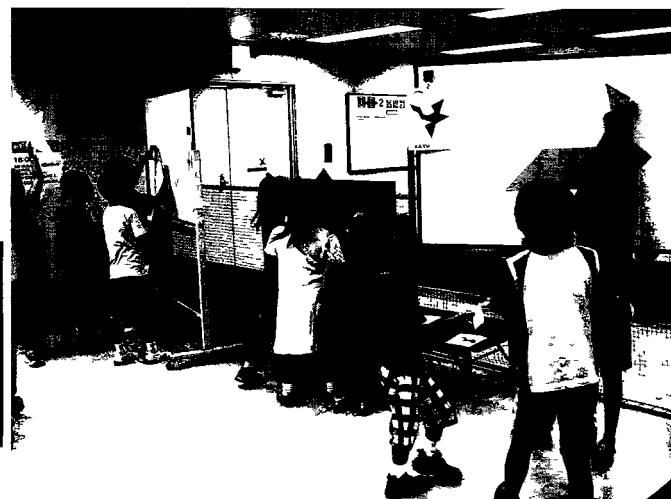
〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
みんなのにこにこ広場	水曜日 15:00～15:30	ホランティアによる、人形劇・紙芝居・影絵の公演を週替りで行う。おはなしを演じるだけでなく、童謡やあてっこクイスなどをおりこみ、参加性を高める工夫をしている。お母さんの膝の上で 1・2 歳の子どもたちが見ている姿が、ここ数年多い。6か月の子どもがしつとみている姿を見て、「こんなに小さい子でも見ているんですね」とわが子の発見の機会にもなったようだ。人形劇 10 回、影絵 11 回、紙芝居 16 回の計 37 回。(プレイホール)
おりかみあそひ広場	木曜日 14:30～15:30	ホランティアとともに運営。児童文化の継承が主な目的。参加は、4・5 歳児を中心に、2・3 歳児を連れた親子や小学校低学年。年間をとおして参加する子どもも多かった。折り紙を作る過程をとおして、スタッフと参加者、参加者と参加者のコミュニケーションも深まり、おたやかなひとときになっている。食べ物、動物、乗り物、遊べるなど、1 回につき 1 つの作品。全 38 回、参加延べ約 1100 人。(プレイホール)
金曜開店！ あそひやさん	金曜日 開館時間中	つみき、フロック、ハラ NS ケムなど、期ごとに 3～4 種類のおもちゃを週替わりで体験してもらった。 1 期=絵合わせ(動物トミノ、Me Too)／汽車／ワミー 2 期=トミノ／ネシフロノク／かえるさんシャンプ 3 期=テュプロプロック／手ひねりこま／無限つみき (プレイホール)
おはなし人形広場	日曜日 15:00～15:40	月 1～2 回、プロやアマチュアの劇団による人形劇やパネルシアターの公演。幼児～小学校低学年を中心に、毎回 100 人近くの親子がおはなしの世界を楽しんでいる。会場は、遊び場と直結するオープンスペース。いつでも出入りできるからか、乳幼児も親子で気軽に見ていけるようだ。終演後に、演者が見送りに来ると「ありがとう」「たのしかったよ」と声をかけにくる子どもたちもいて、人形劇を身近に感じてもらうことができた。劇団公演回数は 17 回。(プレイホール)
サタデーラホラトリー	土曜日 13:00～16:00 (受け付け時間)	小学生以上を対象に、科学遊び・映像遊びを中心とした直接体験を重視したプログラム。AV 事業部と共同で毎週異なったプログラムを実施。38 ページ参照。(プレイホールほか)
〈七夕〉 天までととけ ねかいこと	7 月 7 日 7 月 4 日 (受け付け時間) 13:00～16:00 11:00～16:00	伝統行事の七夕を伝えるプログラム。本年度は「おはなし会」(1 日 1 回 14 時) を実施。由来を伝えるペーパーサート「たなはたものかたり」、星空をイメージさせるフラックパネルシアター「そらにてんてんおほしさま」、そして「たなはた」の歌を楽しめた。その他、短冊に願い事を書いて笹竹に飾ったり、由来などを紹介するパネルも展示。5 日(16 時)には、ホランティアによる「七夕博士クイズ大会」も実施。参加者は 4 日間で延べ 780 人。(プレイホール)
発見！体験！プレイホール「あそぶ○まなぶ ハンズオン広場」	11 月 20～29 開館時間中	“遊ふことをとおして何かを発見する”遊びながら学ぶをねらいに、過去にプレイホールで行った 3 つのプログラムを同時に実施。「おしろマーケット」は、お店やさんと買い物をする人に分かれ、ままごとのたぬものや菓子の空き箱などを使って〈買い物っこ〉。「コロリン大作戦」は、積木(クーケルハーン)とラップのじん、ハンマー、定規などの身近な道具を利用して、コースを作って遊ぶ〈ヒー玉ころかし〉。聴診器で心臓の音を聞く、メジャーなどを使って身体のいろいろな場所を測る・比へるなど、遊びをとおして自分の身体への理解を深める「発見！からたてあそ BODY」。とのプログラムも、親子での参加が多く見られた。(プレイホール)
〈節分〉 節分会 大まめまき大会	H22 1 月 30・31 15:00～16:00	恒例の、参加劇仕立てになった豆まき大会を実施。スタッフがふんする福の神が節分の由来を紹介したり、スタッフ・ホランティアがふんする鬼軍団を相手に豆まきをした。怖さを克服して鬼に一生懸命豆を投げたり、降参した鬼を達成感あふれる様子で見たりする姿は、この季節行事の大切さを感じさせる。その場で募った年男年女の子どもから、参加者に福豆を手渡した。参加延べ 600 人(2 日間)。(プレイホール)

名 称	日 時	内 容
集まれ小学生！ サターラホラトリー スペシャル	211・13・14 12:30～16:30 (受け付け時間)	土曜日の「サターラホラトリー」を、全館事業「集まれ小学生！」のなかの一つのプログラムとしてAV事業部と共同で、視覚をテーマに「発見！光のフシキ・見るフシキ」を実施。ワークショップは日替わりで、「水レンズをつくろう」(11日)、「レインホースコープをつくろう」(11・14日)、「体験！モアレ現象」(13・14日)、「立体視にチャレンジ」(14日)。また、錯視をテーマにしたパネル展示も行った。 (プレイホール)
〈ひなまつり〉 みんなでひなまつり ～プレイホールでひな めくり～	227・28 11:30～17:00 (受け付け時間)	ひな壇に飾られている遊び道具（貝合わせ、百人一首、碁など）を中心とした遊びをとおして、親子、子ども同士のコミュニケーションをはかることをねらいとした。1日に2回、約30分の“つといの時間”(11時と14時30分)を設け、ひなまつりの由来の話を交えながら、遊びをとおしてつながれるように工夫した。また、お手玉、おはしき、あやとりなどの伝承遊びを自由にできる遊び場では、遊び方を知っている親か子どもに伝えながら楽しんでいる姿がみられた。 (プレイホール)



発見！体験！プレイホール「あそぶ◎まなぶハンスオン広場」コロリン大作戦



パスルント「みんなであそぼうタイム」



フォトペタコラーシュ（パソコンルーム）



みんなでひなまつり～プレイホールでひなめくり～

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 キャッスルクエスト 2009 ～受け継かれし紋章～	5.2～5 11:00～16:00 × 5.2は 13:00～	勇者になって【こともの城】に現れた魔物を倒そう——と設定された物語の世界で遊ぶゲーム大会。勇者になるための“修業ゲーム”と、技に磨きをかけるための“こともの城館内武者修行の旅”、そして映像によって演出された“魔物との対決”の3部で構成されている。ホランティア・企画研修部・A V事業部と共同で実施。 (ふしきか丘、Bスタジオ)
〈〃〉 ゴールデンウイーク 人形劇フェア ～つくってあそぼう&わくわくパペットショー～	5.3～5 ワークショップ 11:00～16:00 (受け付け時間) 人形劇+キッズ劇団上演 ① 11:30 ② 13:30 ③ 15:00	大学にある児童文化研究会などのサークルのネットワーク「しゃんくるしむ」の学生と、そのOB・OGなどて構成されている人形劇ネットワーク「パペットマーケノト」と共同の企画・運営。人形を‘つくる’、作った人形で‘あそぶ’、人形劇を‘みる’、子どもたちが人形劇を演じる〈キノス人形劇団〉を実施。ワークショップでは、靴下の棒付き人形(有料)と手つきのヒニール袋を利用した人形(無料)を制作。作った人形で遊ぶ子どもは、「しゃんくるしむ」の学生とコミュニケーションを深めながら、自然とおはなしの世界を作り出していた。人形劇の公演では、子どもが作ったものと同じ形の人形が登場。より身近に感じ、おはなしの世界に入り込んでいた。〈キノス人形劇団〉は、当日受け付けをした小学生を対象に実施。配役を決め、人形劇の練習をして、たくさんの人の前で発表。約1時間30分の内容。 (研修室)
〈夏休み〉 パズルラント	8.18～27 いろいろパズルコーナー 10:00～17:00 つくろうタイム 13:00～15:00 みんなてあそぼうタイム 16:00～17:00	しつくり遊ぶ、考えて遊ぶ、てきたときの達成感——パズル遊びの楽しさを、さまざまなパズルをとおして感してもらおうと実施。子どもたけなく、大人もパズルを完成しようと夢中になって遊んでいた。市販のパズル(知恵の輪、キューブパズル、タンクラン、キャストパズル、箱詰めパズルなど)のほか、手作りのパズル(アリの巣、線路図、絵合わせ)や対戦で遊べるもの(市販のハティーク、カタミノなど)、何人も組み立てたシケソーパズルなどは常設で利用できるようにした。「つくろうタイム」では、紙にかいた3種類の絵をつなぎあわせ、折りたたみ方で絵をもとに戻るパズルを作った。10日間で443人が参加。「みんなてあそぼうタイム」では、キューブパズルタイムアタック大会と大型タンクラン(8月18～25日)を実施。チームで力をあわせてタンクランの問題をといたり、もとの絵にもとす速さを競って遊んだ。 (プレイホール)
〈〃〉 第44回ハンパー大会	8.29 小学生の部 10:00～13:15 中・高生の部 14:00～15:30	プレイホールの中学生コーナーにある遊具「ハンパー」の大会。小中学生コーナーに集う子どもたちのさらなる交流促進をめざして実施した。小学生の部12人、中高生の部3人が参加。夏休みということもあり、大会前に練習に通う姿も見られ、大会以外のところでも交流している姿も見られた。 (プレイホール)
〈冬休み〉 新春あそひのお年玉 ～クルっとまわして めてタイカー～	H22.1.3 13:00～17:00 1.4～7、9～11 11:00～17:00 (受け付け時間)	世代を超えて家族や友たちと交流しながら、のんびりお正月を楽しめるイベントをめざした。ホランティアとの共同プロクラム。室内では、あやとり、かるた、すくろく、おはしき、へいこま、手ひねりこまなど、室外では、缶こまを実施。1月9～11日はふしきか丘で三つ馬も実施。各コーナーにスタッフ・ホランティアリーターを配置し、来館児・者の交流の促進、遊びを伝承する役割りを担った。プレイホールには展示コーナー「駄菓子屋寅吉」を設置し、昭和30年代の駄菓子屋を再現・紹介し、見学する大人から懐かしむ声が聞かれた。本年度は、体育事業部・企画研修部も“昔遊び”がテーマ。タイトルを共通にして一体感をもたせ、各エリアを利用するとスタンプをもらえ、おみくじをひける楽しみを作った。1日1回14時45分から「こま大会」を開催。缶こままわしに自信がある小学生がエントリーをし、「数まわし」や「得点床まわし」の競技で腕を披露。見学者も応援。「全員なかまわし」では、会場全員でこまを楽しめた。参加約1,900人(8日間)。 (プレイホール、屋上游園、ふしきか丘)
〈春休み〉 第45回ハンパー大会	3.22 小学生の部 10:00～12:30 中・高生の部 14:00～15:00	プレイホールの中学生コーナーにある遊具「ハンパー」の大会。小中学生コーナーに集う子どもたちのさらなる交流促進をめざして実施した。小学生の部10人、中高生の部4人が参加。ハンパーをとおして、楽しいひとときを過ごした。 (プレイホール)
〈〃〉 あんたかた“はる”さ ～あそんしゃ広場～	3.25～4.5 開館時間中 みんなてあそぼう ① 11:00 ② 14:30 ③ 15:30	初めて出会った子ども同士の仲間作り、集団で遊ぶ楽しさを伝えること目的。かかしけんば、あんたかたとこさ、はないいちもんめ、たるまさんかころんたなどの伝承遊び、しゃんけんゲーム、クリコなどのレクリエーションゲームなどを実施。「みんなてあそぼう」の時間は、スタッフのリートで約30分間、その他の時間は、子ども同士が夢中になって遊べるように、スタッフはきっかけ作りに徹した。期間中の土・日曜日は、ホランティアが担当。参加者は、8日間で、延べ480人。 (プレイホール)

〈パソコンルーム〉 ×平常期間は、3階コンピュータプレイルームの一部で実施。

名 称	日 時	内 容
魔法のクラフィックス	4/22～6/2	丸や三角、四角、うすまきなどの図形や色を自由に選び、組み合わせて幾何学的な模様作り楽しむクラフィックス遊び。名前からはどんな図形になるか分からぬるものもあり、想像し、試しながら、てきあかる図形を楽しんでいた。完成作品はどれも個性的で、子どもの自由な感性が表現されていた。
パソコンことはあそひのA☆B☆C	6/3～7/7	「しりとり」「アナクラム」「ませこせ作文」「暗号解読」「聞き分けゲーム」などの“言葉遊び”。キー・ホートの文字をたどりながら、親子や仲間と一緒に答えを考えていた。平日はコンピュータプレイルームの一部、土・日曜日と7月1日（川崎市制記念日）はパソコンルームで実施。
フォトペタコラーシュ	7/8～8/7	台紙の写真に、さなさまな写真をコラージュするように重ねてはりつけて作品を作る。はりつける写真の大きさ、向きを変えたり、“写真の効果”を利用してゆかませたり、うすまきにしたりするなど、アートな感覚の作品が多くてきあかった。パソコンルーム。
キリ・ペタ・クラフト	8/8～9/13	用意した展開図に、色やイラストをつけて、ケント紙にプリント。切り抜いて組み立てた。展開図は10種類。正20面体、うちわ、宝箱、六角貯金箱、ペン立て、そうし用具3点セレクト、絵合わせパズル、しおり5本セット、ピラミッド型貯金箱。パソコンルーム。
さかなのぬりえ	9/15～10/18	用意されたさかなのイラストを、ペイントソフトを使用して塗り絵。プリントアウトしたものを持ち込み、海に見立てた壁面へはりつける。参加した子どもたちによる共同作品となつた。平日はコンピュータプレイルームの一部、土・日曜日、祝日はパソコンルームで実施。
似顔絵ペインター	10/20～11/29	パソコンに接続したカメラで自分の写真を撮って取り込み、顔の輪郭をなぞることから始めて、似顔絵を作った。ペンの種類、太さ、色を変えて、好みのイメージにするなど、樂しみながら工夫。親子や友たち同士で、写真を撮るなどコミュニケーションを楽しんでいた。平日はコンピュータプレイルームの一部、土・日曜日、祝日はパソコンルームで実施。
クリスマスペンダントをつくろう	12/1～25	円や長方形、六角形などから好きな形を選び、マークやイラストを選んでデザインするアクセサリー作り。小さなペンタントの表と裏に、とのイラストを入れようか迷う子も多く、選ひきれずに多くのイラストを小さくして入れる子もいた。短い時間で作ることができたため2、3歳の子どもを連れた親子も一緒に楽しんでいた。てきあかったペンタントを身につけると、とてもうれしそうな笑みかこぼれていた。
わくわくカレンダー2010	12/26～H22/1/31	マークやイラスト、文字情報を自分で選び、デザインしながら作るオリジナルカレンダー。卓上タイプと壁掛けタイプに加え、本年度は1年分か1枚で一度に見られるタイプも用意し、クラフトを楽しむ要素をさらに加えた。パソコンを使う、カレンダーを作ることに加え、親子の会話もはすむプロクラムとなっている。「今年も作りにきました」との来館児者の声も多く、スタッフと親子との交流も生まれていた。
サウントエフェクターOTOPITA-55	2/2～3/9	写真やイラストに、効果音やBGMをつけるプロクラム。効果音は、車のエンジン音や金属がぶつかる音などの人工的な音、動物の鳴き声や風や雨などの自然音、町のなかの雑踏の音など。画像のストーリーを想像しながら組み合わせられるようになっている。組み合わせた効果音に、楽しいメロディーや暗いメロディーのBGMを選択して、画像を見ながら構成した〈音〉の世界を楽しむ。1つのストーリーを作り上げると「てきた！」と周りに聞かせる子とも多く、他の子の作品を参考にして楽しむ姿も見られた。単純に効果音を弄したり、学年が上になると、効果音は同してもBGMによって雰囲気が変わることを楽しむなど、年齢によって違う楽しみ方があったようだ。平日はコンピュータプレイルームの一部、土・日曜日、祝日はパソコンルーム。
フレントシップカード	3/10～4/21	名刺作りソフトを利用し、基本デザインのなかから1枚選び、名前・住所・趣味・特技・メッセージなどを入力。さらに、イラストを選んでレイアウトし、オリジナルの名刺を完成。パソコンに取り付けられたカメラを使って、自分の顔写真を入れた名刺作りに挑戦する子どもが多く、名刺かてきあかると友たちや親子で名刺交換している姿も見られた。

〈サタデーラボラトリー〉

名 称	日 時	内 容
4コマまんか道場	4/11	4つの場面で構成する「4コマまんか」。セリフを考えて、ふきたしに記入するプロクラムも開催。作品はりたしてみんなで読めるようにした。参加 19人。(担当 AV事業部)
不思議な動きのやしろへえ	4/25	針金とおもりで自由自在に形かかえられる「やしろへえ」を作った。参加 63人。(担当 プレイ事業部)
ニットに挑戦!	5/16 / 12/19	身近な材料で作った編み機を使い、鈴入りマスクを作った。参加 5月 16 日 = 48人、12月 19 日 = 51人。(担当 AV事業部)
ラムネを作ろう	5/30	クエン酸と重曹、片栗粉を使ってラムネ菓子を制作。参加 83人。(担当 プレイ事業部)
ぱらぱらマンカをつくろう!	6/6	絵かアニメのように動いて見えるぱらぱらまんかを作る。絵が苦手な参加者用に塗り絵も用意した。参加 51人。(担当 AV事業部)
スチームパワーた!進めポンポン船	6/20	アルミ管と木の板を材料に、ロウソクの炎を動力源とする科学おもちゃ「ポンポン船」を作った。参加 51人。(担当 プレイ事業部)
飛行機か飛ぶ秘密	6/27	厚紙と割りはして飛行機を作り、飛ぶ秘密にせまった。参加 51人。(担当 プレイ事業部)
混虫(ませむし)工場	7/4 / 10/10 / H22/1/15	こともの城オリジナルペーパークラフト「混虫(ませむし)工場」をサタラホ用に簡略化。かふとむし、くわかたむし、さそりなどを制作。参加 7月 4 日 = 26人、10月 10 日 = 26人、1月 15 日 = 40人。(担当 AV事業部)
ソートロープを作ろう	7/11	スリットからのそくと絵が動いて見える視覚かん具。参加 45人。(担当 AV事業部)
音をかこう	9/12	透明なフィルムに線や丸など图形を描いて、それをソーラー電池で作った機械にとおし、どんな音が出るかを実験。参加 32人。(担当 AV事業部)
効果音をつけよう	9/19	海の音やカエルの鳴き声などを別の物で表現する技術〈擬音〉にチャレンジ。参加 12人。(担当 プレイ事業部)
砂糖大変身	9/26	砂糖を熱し、変化を観察しながら「カルメ焼き」作り。参加 46人。(担当 プレイ事業部)
縄をなう	10/17	カラフルな平テープや本物のわらで「縄ない」をした。参加 25人。(担当 プレイ事業部)
「浮沈し」をつくろう	10/24	水のなかでふしきな動きをする、「浮沈し」作り。参加 30人。(担当 プレイ事業部)
振動のふしき	11/7	キサキサのところをこすると、その振動でプロペラが回るおもちゃを作成。参加 31人。(担当 プレイ事業部)
紙パベット・アニメを作ろう	11/14	紙人形を作つてみんなで撮影し、アニメ作り。参加 26人。(担当 AV事業部)
モアレにチャレンジ!	12/5	モアレ現象を利用した、動きのあるはり絵を作成。クリスマスにちなんでクリスマスツリーのモアレ絵を作成した。参加 54人。(担当 AV事業部)
あつたかいぞ!カイロをつくろう	H22/2/6	鉄粉と塩水を主材料にしてカイロを制作。どのように温度変化するかを実験して楽しめた。参加 76人。(担当 プレイ事業部)
おとろきマシックの秘密~てしなの“て”~	2/20	身近な“もの”でできる手品を練習し、保護者やほかの子どもたちの前で披露した。参加 20人。(担当 プレイ事業部)
ふしきな「タイラタンシー」	3/6	力を入れていると固く、力がなくなるとやわらかくなる、不思議なタイラタンシ流体を片栗粉を使って体験した。参加 84人。(担当 プレイ事業部)
色のふしき	3/13	光の三原色(赤・青・緑)が印刷された紙でこまを作り、黒く塗りつぶした丸いOHPシートのマスクをかけて、色の変わる仕組みを体験した。参加 29人。(担当 AV事業部)
かさくるま	3/20	厚紙に設計図を描いて良く回る〈かさくるま〉を制作。参加 29人。(担当 プレイ事業部)

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
キッズクラブ	(人) 小1～4 (30)	(人) ① 30 ② 30 ③ 30	隔週土曜日 15:00～17:00 (原則) (全17回)	①家庭や学校では体験できない活動を行う ②地域や学校とは違う新しい人間関係作りをめざす ③子どもたち自身がプログラムを考え作り上げることで、創造性・自発性・協調性を養うこと、を目的とした「あそひ」のクラブ。本年度は、メンバーの中心となる4年生が6人たったが、学業など忙しく、活動に参加できないことが多かった。そういった状況でも、比較的の参加頻度が高いメンバーがまとまりをみせるようになり、3期にはそのメンバーが結束し、下級生をひっぱって活動した。また、大掛かりな工作や、科学遊びにもチャレンジし、ハラエティに富んだプログラムが展開できた。1・2期は6回、3期は5回。受講料=1・2期10,000円、3期8,500円。
ユースクラブ	小5～中3 (40)	① 35 ② 35 ③ 34	隔週日曜日 13:30～15:30 (原則) (全17回)	小学5年生～中3年生の「あそひ」のクラブ。10代前半の心の成長期に集団活動をとおし、豊かな人間形成をはかるのかねらい。①いろいろな活動をとおし、さまざまな直接体験をする ②仲間をとおし人間関係を学ぶ ③計画から実施をとおし夢を実現する、の3つを目的とする。継続して参加するメンバーが多く、活動の前後の時間までも使って交流をはかるなど、自然な形で仲間同士がつながる姿が見られた。例年、さまざまなシャンルの遊びを取りあけているか、本年度は外部講師を招くなど、新たな形のプログラムにも取り組み、活動内容の幅が広かつた1年となった。1・2期は6回、3期は5回。受講料=1・2期10,000円、3期8,500円。

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
ちひっこ冒険団 2009	7月31～8月3日 (3泊4日)	小学1～3年生のための合宿キャンプ。豊かな自然に恵まれた那須高原を舞台に、班ごとに考えたさまざまなグループ活動を楽しむ。班の仲間と「何をして遊ぼうか」「どうやって遊ぼうか」などを相談したり、協力しあうなかて、他者との関係性を学んでいたり、協調性や社会性を習得していくことを大きなねらいとしている。本年度は「自然をたくさん感じる」をテーマに、笛の生い茂る森を歩く冒険ハイキングと施設周辺での自然遊びをメインの活動とした。参加 70人、LIT 2人、ホランティア 21人、職員 3人。参加費 39,000円。 (福島県国立那須甲子青少年自然の家)
フェローシップ キャンプ 2009	8月6～10日 (4泊5日)	小学4～6年生のためのキャンプ。基本は合宿とし、1泊は自分たちの作り上げた基地にヒハーカーする。小グループごとによる活動を基本として、仲間との連携や思いやりなどの社会性を豊かにすることを目的として実施している。本年度は、「茶臼岳トレッキング」がメインの活動。雄大な景色を楽しんたり、噴煙かかる様子にタイナミックな自然の息つかいを感じたり、下山時には豪雨に見舞われたりと、たっぷりと自然を満喫した。参加 38人、ホランティア 12人、職員 3人。参加費 46,000円。 (福島県国立那須甲子青少年自然の家)
ゆきんこ冒険団 2009	12月25～28日 (3泊4日)	小学1～3年生のための合宿キャンプ。冬の自然を感じ、そのなかで遊ふことをとおして、仲間との交流を広げる活動を行う。本年度はキャンプ前から雪に恵まれ、期間中にはほとんど雪が降ることなかったか、雪遊びは存分に楽しむことができた。また、さまざまな遊びに挑戦しようと働きかけたので、例年より幅広い、雪での遊び体験をすることことができた。参加 58人、ホランティア 17人、職員 4人。参加費 39,000円。 (福島県国立那須甲子青少年自然の家)

□キッズクラブの活動プログラム一覧□

日 時	プロ グラム 名	内 容
4.18	ようこそキッズへ はじめましてのゲーム大会	新メンバー（入会者）を加え、シャンケン・数集まりなどのゲームやクイズ大会などて親睦をはかった。
5.9	キッズ＆こともの城を知ろうラリー！	【こともの城】のなかをまわり、課題をグループごとにいて、ポイントを競い合った。
5.23	わんぱく遊びたよ！全員集合	王様シャンケン、しっぽとり、玉入れ合戦などのゆかいなゲーム大会を屋上で実施。
6.6	おかしなお菓子つくり！	ワインナーやチーズ、チョコレートなどを入れた“たこ焼きふう お菓子を作った。
6.20	やってみよう！「紙すき」	牛乳パックから作る「はかき」作りにチャレンジ。ちょっと苦労をしながらも一生懸命に取り組んだ。
7.4	ウォーターゲーム 2009	2チームに分かれて、水鉄砲を使ったゲームを実施。梅雨の晴れ間におもいっきり発散した。
9.12	キッズ探偵団！	街のなかの「動物(本物でなくとも、絵や置物でも良い)」を探し、写真に撮って、グループごとに発表。
10.10	行こうあそぼう代々木公園！	代々木公園に行って陣取りゲーム。子ども同士でルールについて話し合う場面も見られた。
10.24	トッシホールゲーム！	屋上遊園で、トッシホール。途中で雨になったので、その後は部屋でのゲームを楽しめた。
11.7	キッズ、秋の遠足 2009！	電車に乗って葛西の臨海水族館へ、水生生物を見学した後は、広い公園で鬼っこなどで遊んだ。
11.28	ダンホール大作戦！	たくさんのタンホール箱を使って、長い迷路を作成。完成後はみんなで何度もくって遊んでいた。
12.12	冬たねホットにクッキンク！	フライパンで焼けるピサ作りにチャレンジ！生地もソースも手作り。グループごとに協力して完成。
H22.1.9	新春、キッズであそヒンゴ！	いろいろな課題をヒンコカードに記入。グループごとに【こともの城】のなかをめぐり、課題をクリア。
1.23	新春、東西対抗ゲーム大会！	東西2チームに分かれ、「ぴょんぴょんカエル大レース」などユニークなゲームで競い合った。
2.6	静電気なんてこわくない「ハッチリ遊ぼう」	すずらんテープのクラゲを浮かしたり、電気コップを作ったりと、さまざまな静電気の実験で遊んだ。
2.20	もうすぐひな祭りクッキンク！	少し難しい料理に挑戦。牛乳パックを型にした押しし作りを行った。
3.13・14	最後までたくさんたくさん遊ぼうよ！	13日は、代々木公園で「陣取り」、閉館後の館内で「暗闇なんたーコール」や「鬼っこ」を行い、プレイホールに宿泊。14日は屋上で「トッシホール」をして遊び、最後は4年生を送るパーティーを開き、1年間の活動をしめくくった。

□ユースクラブの活動プログラム一覧□

日 時	プロ グラム 名	内 容
4.12	新年度スタート！よろしくゲーム大会	初めて出会ったメンバーが、互いに知りあえることをねらいにした、さまざまなゲームを行う。
4.25	代々木公園であそぼう	代々木公園で野外ゲーム。協力しあうことて、遊びかよりおもしろくなることを知るきっかけに。
5.17	城のまわりで日本中を旅しよう！	街のなかから都道府県の名前を見つけ、テシタルカメラで撮るというプログラム。街の新たな姿を発見。
5.31	逗子ハイキング＆簡単野外炊事	班ごとに決められた予算の中で、昼食の食材を買い、海岸でキャンプ用のカスコンロで野外炊事。
6.21	チャレンジ！ プルレンおやつ	プリンアラモードを作る。プリンに合いそうな食材を調達。できあがったプリンと合わせて完成させる。
7.12	CLASSBOOK ワークショップ	造形作家の駒形克己さんと CAMP (CSK グループの社会貢献事業) が開発した CLASSBOOK ワークショップを体験。CAMP からファシリテーターをまねき、スタッフリーターもいっしょに全員で一つの作品を作り上げた。× CLASSBOOK ワークショップについて⇒ http://www.classbookws.jp/
9.6	2期作戦会議＆水鉄砲大作戦	2期の活動の企画会議。後半は、屋外で水鉄砲を使ったしんとりを行う。
9.27	2期もハッチリ代々木へGo! & 遠足の作戦会議	全員で大縄とひや、4月に行ったクマ狩りをする。その後車座になり、11月の遠足について話し合う。
10.18	今度はしっかり料理だ！『ハロウィンパーティー』	渋谷区上原社会教育館の料理室で活動。班ごとに材料を買い出し、調理。ハロウィンパーティー。
11.8	川越小江戸街探険	「小江戸」とよばれる川越の街を探検。川越の街のカイトックを作るというテーマで班ごとに散策。
11.29	2期最終回の作戦会議	2期最終回の企画会議。ユースクラブらしい遊びを実現するため、宿泊してとことん遊び込むことに。
12.2	24時間ユース	「24時間ユースクラブのメンバーでとことんあそびこもう！」というテーマで、宿泊プログラムを行う。
H22.1.17	新年あけまして代々木へいこう！	前回、十分遊びきれなかった代々木公園での活動。実力伯仲、緊迫した状況での試合展開となった。
2.7	たこ焼きパーティー&3期とうする？	たこ焼きを作る。具材を班ごとに相談し、買い出し。後半は最終回に向けた活動方針について話し合う。
2.21	ヒックリトッキリムービー&最終回作戦会議	昔話を題材に、近くのものか大きく映るというカメラの性質を利用したトリックムービーを作る。
3.7	ユースのPVをつくろう～その1～	ユースクラブのPV（プロモーションビデオ）を作るため、代表的なプログラムを実際にいい撮影。
3.20・21	ユースのPVをつくろう～その2～&ユースクラブPV上映会	1日目は代々木公園での活動、プレイホールでの活動を撮影。その後、撮影した映像素材を編集して、一つのニュース番組風 PV に仕上げた。2日目はできあがった PV を【こともの城】の来館児・者に見てももらえるよう、上映会を開く。

造形事業部



平成 21 年度の活動

1. はじめに

開館以来、造形スタジオでは、子どもたちが造形体験を豊かにしながら、感性を健やかにはぐくんでいくよう、①新しい視点で素材を探求して、子どもたちに素材への広い関心を抱かせるワークショップ『素材との出会い展』②そのままでは素材になりにくい、音や光などを制作の媒体としてとらえ、子どもたちの造形感覚を新しくするワークショップ『造形発見展』③造形活動の基本となる“素材と道具と技法”的関係を、分かりやすく理解できるように視覚化したワークショップ『オープンスタジオ』——この3つを軸に活動を展開している。それぞれのワークショップを1～3年間継続し、それらを順次くりかえしながらスタジオを運営している。

ワークショップの構成要素である〈展示・体験・制作〉という基本コンセプトを効果的に実施するため、ワークショップのテーマに応じて環境設定を行い、子どもたちが自主的に活動にかかるようにした。

本年度は、夏休み特別期間まで「オープンスタジオ～造形菜園」、10月からは新しいテーマ「やってみよう！つくってみよう！——アニマル・ピクニック」を実施した。

(ア) 一般来館児・者へのワークショップ

平常期間は「やってみよう！つくってみよう！」。夏休み特別期間までのプログラムステップとして、野菜や果物など“自然食材と造形”をテーマにプログラムを実施した。10月からは、“動物”をテーマに3週間ずつでプログラムを実施、平成22年(2010年)夏休み特別期

間プログラムへ向けてのステップとした。また、季節のなかにある共通のイメージをテーマにした「こども歳時記」も開催した。

(イ) 講座

講座活動では、「こどもクリエイティブクラブ～ゆかいな造形」「同～親子でアート」「同～ハンズワーク」のコースなど、全体的に受講者数が増えてきた。一方、小学校1年生以上を対象にした、火曜日と金曜日のコースは、受講者が減少しつつある。小学校のカリキュラムの再編成などの影響か、受講することが難しくなってきているのかもしれない。

(ウ) グループ活動

「かげをうつそう」「木をつくろう」「粘土でジャングル旅行」「竹体験」を実施した。実施回数は、前年度より3件多い34件だった。なかでも「かげをうつそう」「木をつくろう」の利用が多かった。前年度に引き続き、同じ



グループ活動「竹体験」～竹割の実演

小学校や、特別支援学校からの申し込みがあり「竹体験」の実施回数が多かった。本年度は、前年度の活動を振り返り、子どもたちが竹を割る体験にポイントを置くように、プログラムを構成した。特別支援学校や仲良し学級は、前年度より4件少ない2件の受け入れだった。

予算や人員などの削減が迫られるなか、今後を視野に入れ、プログラム実施のスタッフ数を最小限におさえて試行した。さらに少ない人数でできるよう、内容のアレンジや、新規プログラムの考案を引き続き検討していくことが課題である。

2. オープンスタジオ～造形菜園～

夏休み特別期間の「オープンスタジオ～造形菜園～」に向けて、前年度の秋から“食材（野菜や果物）”をテーマにプログラム活動を実施した。

“食事”は、私たちの毎日の生活のなかでだれもが行う、生きてく上で必要不可欠な行為である。しかし、最近では、賞味期限や産地の偽装など、これまで安心して食べていた物が、「本当に安全なのか？」と不安に思うことも多くなってきている。

“食”にかんするいろいろな問題を取り上げられるなかで、“食”を見直す動きも社会的に活発化してきている。造形スタジオでは、生活の基礎となる“食(食生活)”を造形活動をとおして、楽しく見つめ直すことができないだろうかと考え、“食材（野菜や果物）”をテーマに取り上げる企画を立案した。

【やってみよう！つくってみよう！】

夏休み特別期間までの平常期間は「やってみよう！つくってみよう！」というタイトルで、自然物としての“食材（野菜や果物）”に着目して、それぞれの“食材（野菜や果物）”がもっている色、形、手触りなどの造形的な要素を、紙や布などのさまざまな素材と、その素材に合った技法で制作してきた。

親子一般コーナーでは、紙やビニールなどを手やはさみを使って変形させ、自分の好きな野菜や果物を制作。また、写真をはりあわせて絵を作るコラージュの技法、いろいろな形のスタンプを組み合わせて野菜や果物を表現したりと、幼児でも扱いやすい素材や技法でプログラムを実施してきた。

参加対象学年の決まっている、子どもだけで作るクリエイティブコーナーでは、木や金属、発泡スチロールなど、手ごたえのある素材を、のこぎりや金づち、ヒートカッターなどの道具を使い、その素材に適した技法で形を変え、造形をした。2～3週を1つのステップとし、プログラムを実施した。テーマを生かした造形活動ができるように、より表現しやすい素材や技法は何か、また

参加年齢にあった道具だけはどんなものか、検証しながら夏休み特別期間までのステップを重ねていった。

【春休み特別期間】

夏休み特別期間までの、前半のくぎりである春休み特別期間には、「やってみよう！つくってみよう！～造形野菜畠～」を実施した。3月までのプログラムのなかから、対象的な2つの素材—柔らかい〈紙〉と、硬い〈金属〉を取り上げ、スタジオ活動を実施した。展示コーナーでは、張り子で作った大きなかぼちゃ、紙を何層にも重ねて作ったたまねぎなど、紙のさまざまな技法で作った野菜畠を設けた。体験コーナーでは、紙で作った野菜を紙の畠に植えて遊べるコーナー、紙や金属で作ったお面で野菜に変身できるコーナーを設定した。

プログラムは、紙で好きな野菜や果物を作る「あれこれおやさい」（親子一般）と、鍛金技法で金属の野菜や果物を作る「たんきんおやさい」（新小4～）を実施。プログラム活動での制作、展示物を見る、体験コーナーでの遊びをとおし、紙と金属の特性を体験しながら、野菜や果物に興味を持つようなスタジオ構成をした。

【夏休み特別期間】

夏休み特別期間は、1年の活動の集大成として「オープンスタジオ～造形菜園～」を実施した。春休み特別期間や、ステップ期間の活動を整理し〈展示〉〈体験〉〈制作〉で構成した。引き続き野菜や果物を表現のモチーフとすることで、“素材と道具、技法と出会うこと”“ふだん見なれている野菜や果物が持つ自然物としての色・形や線・触感などの造形要素を再発見すること”“食生活がおいしく楽しく過ごせるきっかけ作りになること”を目的とした。

スタジオ展示のイメージは、さまざまな造形素材でできた野菜や果物が、たわわに実っている“菜園”的風景を作ることをめざした。制作コーナーや体験コーナーを畠に見立て、それぞれのコーナーにゲートや柵、看板などをしつらえ、雰囲気を作った。子どもたちが「自分たちも造形素材を使って野菜や果物を制作してみたい」という気持ちにゆるやかになるように空間構成をした。“食材（野菜や果物）”という大きなテーマを、さまざまな素材を使って、その素材にあった技法や道具で野菜や果物を表現することで、素材の違いによる“表現の変化（素材の特性）”が体験できるような構成を心がけた。

3階スロープ壁面には、1年の間に実施した紙、布、木、金属などの素材で制作した全22のプログラムをパネル化し、展示した。スタジオ入り口には、野菜や果物をテーマにしたがん具やオブジェを、「農夫の小屋」のなかに飾った。これらの展示物は、さまざまな“表現”を見て楽しめ、また、子どもたちをスタジオ活動へ楽しく誘

オープンスタジオ～造形菜園「かぶり一菜」



うための誘導役となった。

造形スタジオの入り口には、「造形菜園の入り口」として、紙でできたツタをからませたゲートを設置し、なかの活動への期待感を高める効果をねらった。ゲートをくぐると、さまざまな素材で作られた野菜や果物が子どもたちを出迎えた。

スタジオ内には、野菜や果物の色や模様が印刷されたカードを組み合わせて遊べるコーナー。紙でできた畑のうねに、紙、木、布、ビニールなどでできた野菜を植えたり、収穫したりして遊べる造形野菜畠。布でできたいちごや、ビニールでできたパインアップルなどを身につけて、野菜に変身できるコーナー——3か所の体験コーナーを設けた。いずれも春休み特別期間で試行したプログラム。経験を生かして設定したため、子どもたちが遊びやすく、楽しみながらテーマを体験できるコーナーとなった。また、子どもだけでなく大人も一緒に楽しむ姿も見受けられた。

制作コーナーでは、期間中にさまざまな素材体験ができるように、夏休み特別期間を3クールに分け、この1年間で実施したプログラムのなかから、「ビニール」「布」「紙」「木」「金属」「ロウ」を素材にした6プログラム（親子コーナー、クリエイティブコーナーで各3プログラム）を実施した。さらに、5歳以上を対象に、イベント「ねんど DE 野菜畠を作ろう！」を2日間全6回実施した。粘土の可塑性を体験するとともに、粘土でできた畠に野菜を植える疑似体験も楽しんだ。各回満員の人気のイベントとなった。

この1年の活動を振り返ると、「わたしの作ったトマトはおいしそう」「私は○○○の野菜が好き」など、制作をしながら楽しそうにやりとりをする親子の会話を聞く場面が多くあった。子どもたちにとって“食”は身近な生活の要素であり、造形テーマとしても興味をひきつけるモチーフであった。と同時に、人間にとって共通の行為である“食”は、性別や年齢などに関係なく、互い

オープンスタジオ～造形菜園「体験コーナー」



のコミュニケーションを深める題材でもあると感じた。

“食材(野菜や果物)”をテーマに制作することで、食にかんしてつちかわれた五感が呼び起こされ、造形活動をとおしてより感覚が刺激されるきっかけとなること、また、自然界に生息する食材へのイメージをふくらませ、想像力を豊かにすることで、未来の食を楽しく作りあげていく感覚が生まれることも期待したい。

3.まとめ

平成19年秋から新たに取り組んだ「オープンスタジオ」では、造形活動の基本となる素材と道具、そして、それぞれにかかる技法の関係性をわかりやすく提示したワークショップを開催した。最近の10年間は、夏休み特別期間の「素材との出会い展」「造形発見展」へのステップとして、春休み特別期間に小規模な形で「オープンスタジオ」を開催してきた。しかし、前年度から3年間は、年度ごとにテーマを変えて秋からプログラムを試行し、夏休みに集約して「オープンスタジオ」を実施することにした。

これは「オープンスタジオ」が造形スタジオの活動の基本となるワークショップであり、また、[こどもの城]が開館して20数年が経って、あらためてスタジオの活動を検証しながら、新たなテーマを模索していく方法を考えたからである。2年目で少しづつではあるが、テーマが変わることで、素材と道具のかかわりから生まれてくるプログラムにも変化が見て取れるようになった。

10月からは、来年度の夏休み特別期間「オープンスタジオ～造形アニマル・パラダイス」に向けて、プログラムのステップを開始し、さらに、素材、道具、技法の関係性を検証していきたい。

また、本年度も外部との協力活動を積極的に行なった。相手先の要望にあわせ規模を変えながらも、今後も継続した普及活動を実施して行きたい。

平成21年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
やってみよう！つくってみよう！「造形菜園」	4.8～26、5.6～7.17、9.4～27 開館時間中	夏休み特別期間プログラム「オープンスタジオ～造形菜園」に向け、さまざまな素材と道具の組み合わせによって生まれる表現の違いを分かりやすく提示できるよう、プログラム開発と実践を行った。夏休み特別期間までの期間をステップという考え方で、3週間ずつプログラムを組んでワークショップ活動を実施、展開した。
やってみよう！つくってみよう！「アニマル・ピクニック」	9.28～12.6、H22.2.4～21、3.4～19 開館時間中	平成22年春休み特別期間「やってみよう！つくってみよう！～アニマル・ピクニック」、同夏休み特別期間「オープンスタジオ～アニマル・パラダイス」に向けて、動物の色、形、手触りなど、造形的な要素を素材、道具、技法の関係から考えるワークショップ活動を実施、展開した。

こども歳時記

端午の節句	4.28～5.5 開館時間中	「やってみよう！つくってみよう！～造形菜園」と連動し、野菜や果物をテーマにしたかぶとを制作。入口やスタジオに野菜の形をしたこいのぼりを展示して制作の助けとした。野菜型の装飾を付け替えできるかぶと、模様カードを引っ掛けたり、野菜型のマグネットをはつたりしてこいのぼりのうろこを飾る、体験型の展示コーナーも設置。金属で制作したかぶとのレリーフ、全国各地の民芸品、民芸品を図案化したタペストリーも展示した。
七夕	7.5 開館時間中	“野菜”をテーマに七夕のたんざくを制作するイベントプログラム。壁面にいろいろな野菜や果物のコピー、七夕の飾り物を展示して制作へつなげた。
クリスマス	12.8～25 開館時間中	スタジオ入口に、プログラム「ウツリースマス」を拡大したツリーを設置し、誘導役とした。スタジオ壁面には、大きなサンタクロースやトナカイ、親子プログラムを図案化した装飾物を展示。また、天井からクリスマスをイメージさせる飾りをつるし、制作の見本とした。「ゆびマペクリスマス」で劇遊びができる体験コーナーも設置した。
お正月	12.26～H22.1.11 開館時間中	“動物”をテーマに、干支の〈寅〉を取り上げたプログラムを実施。スタジオ入口には、プログラム「竹虎のお正月」の拡大版の巨大な虎を展示して誘導役とした。親子コーナーの「お正月マスク DE タイガー」に合わせて、衣装を着たり鏡に顔を映したりして虎に変身できるコーナーを設置。前年度と同様に、正月や干支にちなんだ民芸品を展示した。3階ロビー天井には、全国各地のたこを飾り、スロープにはその習わしの説明パネルを展示した。
節分	1.14～2.3 開館時間中	スタジオ入口には張り子で作った大小さまざまな鬼を展示した。スタジオ壁面には大きな鬼と福の神を設置し、全体は紙や布で作った豆や升、金棒などを飾りにぎやかな雰囲気を演出した。節分にちなんだ習わしの説明も掲示した。
桃の節句	2.23～3.3 開館時間中	スタジオ入口に紙で制作したひな壇を展示、桃の節句の雰囲気の導入とした。スタジオには布で作ったはまぐり型のおひな様やプログラム「かぶりひな」で作ったものをかぶって映すことができるミラーのひな壇を設置した。桃の節句にちなんだ「ひしもち」「ひなあられ」などの由来を説明した文章を掲示した。例年どおり全国各地の民芸品と民芸品を図案化したタペストリーを展示した。また、プレイ事業部、音楽事業部との3事業部合同で桃の節句の行事を行った。
〈ファミリー月間〉 第24回 造形スタジオ展	10.31～11.23 開館時間中	開館記念事業にあわせて、毎年実施している展示の24回目。1年間の活動を報告する展示。平成20年10月～平成21年10月までに実施したプログラム活動を見ることができる。「造形菜園」「こども歳時記」「アニマルパラダイス」で実施したプログラムと、「夏休み造形教室」「こどもクリエイティブクラブ」の各コースを、作品と活動風景写真で紹介した。
〈 〃 〉 第16回親子体験 ワークショップ	10.31、11.1、11.3 開館時間中	親と子がそれぞれに制作し、積極的にプログラムにかかわることができるワークショップ。プログラムは「アニマルマペット」。親子で紙をもんで柔らかくしてから、封筒状にのり付けて、手にはめて遊べる動物のマペット。親子でお話を作ったりして楽しんでいた。

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 オープンスタジオ 「造形菜園」	7.18～8.31 開館時間中	私たちの生活の身近にある自然物としての“食材”を見つめ直すために、“野菜や果物”をテーマにした造形活動を実施した。さまざまな造形素材と、その素材に合う技法や道具で野菜や果物を表現することで、素材の違いによる表現の変化(素材の特性)を「展示・体験・制作」のコーナーに参加することで体験できるワークショップ。造形体験をおおして、樂しみながら野菜や果物が持つ色、形、模様などの造形要素を再発見すること、また、食生活を楽しくするきっかけ作りになるような活動を展開した。
〈春休み〉 やってみよう！ つくってみよう！ 「造形 アニマル・ピクニック」	H22.3.20～4.6 開館時間中	次年度の夏休み特別期間「オープンスタジオ～造形 アニマル・パラダイス」に向けた活動の第一ステップ。紙やフェイクファーといった素材で、動物の模様や形、触感などを楽しむプログラムを実施。凸凹の板から模様をこすりりだした紙で、新聞紙を包んで動物にしたり、新聞紙の体をカラペとフェイクファーで飾り、不思議な触り心地の動物にしたり、遊びながら素材の特性を体験できるようにした。プログラムは「ごしごしアニマル」(親子)と「ファーモ」(新小4～)。

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもクリエイティブクラブ クレイワーキング ～土の冒険～	(人) 小1～中3 (16)	(人) ① 8 ② 8 ③ 5	火曜日 16:15～17:30	「まるめる」「のばす」「たたく」などの技法や道具を使いながら、粘土をさまざまな形態へと変化させていく。粘土の可塑性を体験すること、子どもたちの表現力を養うことを目的としたクラブである。 1期は「かたまりからの形の変化～球からひもへ」をテーマに、手に収まらないくらいの大きなかたまりや、小さなかたまりの粘土で、大小の球作りを体験した。大きい球の表面を「押す」「つまむ」技法で形を変え、惑星を作成。また、小さな球の表面に象がんべ模様をつけ、仕上げに磨きも体験。その後、球からひもへ形を変える技法も体験。ひもをつないで「木」、リングをつなぎ合わせたオブジェなどを制作した。2期は「板からの変化」。こねて立方体にした粘土を、たたら板と切り糸を使って板状に切った〈たたら〉で、手型を何枚かとり、組み合わせてオブジェ作り、筒状に丸めた花瓶、板をお椀状に変形させた皿など、板からの形の変化を楽しんだ。3期は、「ひもからの変化」をテーマに「動物園を作ろう」。ひも状にした粘土を渦巻き状にして動物園の土台を作り、そこにいろいろな太さのひもを組み合わせて作った動物を飾った。ひもだけで作品作りを体験した。1年をとおし、子どもたちは手や体で感じながら、粘土を目的の形へと変化させていくのを乐しいんでいた様子。 受講料＝1期(10回) 26,000円、2期(10回) 26,000円、3期(8回) 21,000円。各期ごとに焼成費8,000円。



オープンスタジオ～造形菜園「イベント～粘土 DE 野菜畑を作ろう！」



オープンスタジオ～造形菜園「ウッド菜」

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもクリエイティブクラブ ゆかいな造形 ～素材の楽しみ～	(人) 小1～2 (16)	(人) ① 11 ② 9 ③ 10	水曜日 14:45～16:00 〃 16:15～17:30	布や木、金属、紙などのさまざまな素材を用い、素材にあった道具を使い分け、遊びを通じてより深い造形体験をすることを基本としている。本年度は前年度に引き続き、日本の季節行事や風物などと造形を結びつけた「造形四季めぐり2」を実施。1期は、溶かしたろうをこねて、初夏から夏にかけてとれる野菜や果物を制作。完成後、段ボール箱に詰め、自分の顔写真をはった生産者カードとともに持ち帰った。わらで作る七夕馬、光るかえるのこまなどを制作。2期は、秋の虫をテーマにしたカリンバや、冬前の森の動物たちをイメージしたジオラマ、紙粘土と光ファイバーを組み合わせたクリスマスツリーなどを制作。3期は、子どもたちのシルエットから形を起こした等身大の鬼や、〈啓蟄〉をテーマに、羊毛を縮毛させて作ったフェルトで制作するもぐら型の帽子など、さまざま表現活動を行った。子どもたちは、さまざまな素材や道具、そして技法に接し、個人の造形表現の幅を広げながら、それぞれに楽しみを見出していた。 受講料＝1期(11回) 28,500円、2期(13回) 33,500円、3期(8回) 21,000円。
〃 親子でアート ～わくわくワーク～	(組) 4・5歳児 と親 (10)	(組) ① 10 ② 7 ③ 4	木曜日 15:30～16:30	親子で協力しての制作、親と子それぞれの制作といった方法を取り入れ、造形活動をとおした新しい親子のかかわり方、大人と子どもの関係を見つめ直すコース。身近にある材料、素材にふれながら、新しい触感や視覚を発見・体験する。色紙をミキサーにかけて作る紙粘土、自分の指を石こう型取りしたオブジェ、羊の原毛からのフェルト作り、アルミ板を打ち出して作る皿、野菜をそのままスタンプとして布にデザインするなど、さまざまな材料と技法を体験。日常見慣れたものの変化、特殊な素材の触感や質感、工具の使い方などを親子ともども楽しんだ。「クリスマス」「節分」「桃の節句」など、季節行事にあわせたプログラムも実施し、季節感を満喫した。ゆったりとまわりの親子とふれあい、互いに刺激しあいながら制作に励み、さまざまな場面で親と子、大人と子どもの温かい関係が自然に出現した。 受講料＝1期(11回) 34,000円、2期(13回) 40,000円、3期(8回) 25,000円。
〃 絵本の世界へ～イメージする楽しみ～	(人) 小1～中3 (16)	(人) ① 10 ② 9 ③ 6	金曜日 16:10～17:30	製本された本だけでなく、さまざまな素材や技法、描画材の体験をとおし、“おはなし”を表現する造形力を養うことが目的。子どものなかにある想像力をさらに広げるきっかけ作りをめざした。“動物”をテーマにプログラムを展開。1期は紙、木、羊毛、粘土などいろいろな素材の特徴を生かした動物作りを実施。できあがった動物は、素材動物園として1つの世界にまとめた。2期は、動物の形、模様などをきっかけとし、マグネットで体の形や模様を変えることができるコーラージュ動物、順番を入れ替えて形を変化させる石こう動物タイル、スクリーンに投影した影絵を使った4コマ物語の発表会、風景の中をオリジナルキャラクターが動く照明器具など、2つ以上の場面で構成された造形物を制作。3期は、自らの手に直接ペイントして作った動物と、動物に変身した自分を撮影。それらをコーラージュして蛇腹型の絵本を制作。1年の集大成として世界に1つしかない絵本となった。 受講料＝1期(11回) 28,500円、2期(13回) 33,500円、3期(8回) 21,000円。
〃 ハンズワーク～創造探検～	小3～高3 (16)	① 17 ② 11 ③ 7	土曜日 15:30～17:30	素材、技法、道具などについて、より良い知識を蓄積し、造形表現の力を養うための、小学3年生以上の高学年向けコース。より充実した制作ができるよう、開始時間を前年度より30分早い15時30分とした。パラフィンをこねて動物にしたり、ダンボールの強度を生かしたいす、銅板の四角い皿などを制作。プログラムの内容と素材にあわせ、電動工具なども積極的に使用。適切な工具を選択し、使用することで、子どもたちは素材の持つ性質や特徴にふれると同時に、工具の仕組みや利便性などを体感する。さまざまな素材と技法にふれ、制作を楽しんだ。危険の伴う工具や制作過程を、各自が個々に、または周囲と協力して、慎重に作業することで、他者への気配りやかかわり方を自然に身につけていったようだ。 受講料＝1期(11回) 28,500円、2期(13回) 33,500円、3期(8回) 21,000円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
大人のための造形表現教室	(人)児童の福祉、文化教育活動にかかわっている人、児童の造形教育、表現教育に興味のある人(25)	(人) ① 17 ② 15 ③ 12	木曜日 19:00 ~ 20:30	児童の造形教育の新しい方法論を開拓した、ブルーノ・ムナーリの造形思考を柱に、造形スタジオで行った子どものためのワークショップ「アートとあそぼう」をはじめとしたさまざまなプログラムをとおして、造形表現とは何かを体験していく講座。造形スタジオのプログラム「かげをうつそう」「コラージュ」やブルーノ・ムナーリのワークショップなど幅広い活動を行った。継続者が多い講座である。 受講料=1期(9回) 19,000円、2期(12回) 25,000円、3期(8回) 17,000円。講師は、岩崎清・元こどもの城造形事業部長(ギャラリーTOM副館長/武蔵野美術大学講師)。

<短期講習会>

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休み造形教室 A 探検! ベジワールド	(人)小3~高3 (1日コース / 5日間 計 75)	(人)延べ 36	7.20 ~ 24 10:10 ~ 16:40	木材で箱を作り、そのなかに地下から地上に広がる野菜の世界を紙や木を素材に制作。野菜や背景の飾りには、マグネットがついているので、野菜を収穫したり、風景を変化させて遊べる。写真撮影をした自分の姿も登場させ、野菜の世界を“疑似探検”ができる。受講料= 5,000円。
〃 B ひかる クレイフルーツ	小3~高3 (半日コース / 5日間 計 150)	延べ 103	7.27 ~ 31 10:10 ~ 12:40 14:00 ~ 16:30	レリーフ状に作った野菜や果物の型の上に、板状の粘土をかぶせて形を作る。表面に開けた穴に、ビー玉をうめこみ、粘土で茎やへたの飾りをする。完成して電球を仕込むと、ビー玉が光る果物型の照明の完成。受講料= 3,000円。
〃 C いろいろ菜集 (さいしゅう) 箱	小3~高3 (1日コース / 5日間 計 75)	延べ 9	8.3 ~ 7 10:10 ~ 16:40	野菜を型どりしたレリーフ状の石こう、機械のパーツなどを組み合わせて作った近未来的な野菜、野菜を使ったスタンピングなど、さまざまな素材や技法で野菜や果物を表現するプログラム。完成了作品を特製ボックスに入れれば、いろいろなイメージに変化した野菜を採集することができる。受講料= 5,000円。
〃 D わくわく冒険グッズ ~伝説のマスクを探しに行こう!~	〃	延べ 52	8.10 ~ 14 10:10 ~ 16:40	金属の板をたたいて(鍛金技法)マスク作り、のぞいた景色が逆さまに映る不思議な望遠鏡作り、電球をとりつけたオリジナルヘッドライト作りなど冒險に行くためのグッズをさまざまな素材や技法で制作。布でバッグも作り、完成了グッズをつめることができる。受講料= 5,000円。
〃 E 造形野菜畑	〃	延べ 57	8.17 ~ 21 10:10 ~ 16:40	羊の毛を縮毛(せっけん水に羊毛ひたし、手で摩擦をかけるとフェルト化する技法)させ、野菜や果物を制作。収穫した野菜が収納できる箱形の家、野菜を植えられる畑のうね、果物をはやす木の枝を制作し、それぞれを庭先に飾る。野菜や果物を収穫したり植えたりして遊べる造形野菜畑が完成。受講料= 5,000円。



こどもクリエイティブクラブ「ハンズワーク～創造探検～」



夏休み造形教室「探検! ベジワールド」

3. その他

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
韓国デザインスクール	7.20～24	2002年から交流のある韓国デザイン文化財団との協力事業。子どものための造形セミナーを開催。7月20日「おたがいをうつそう」、21日「コラージュ1～絵の具であそぼう」、22日「コラージュ2～切ってはってあそぼう」、23日「ひかりのチューブ」、24日「新聞紙のオブジェ」。各日とも、午前・午後の2回、各グループ20人の児童を対象に実施。このときサポートした、韓国デザイン文化財団のスタッフが、7月27～31日に同じプログラムを指導・実施。 （韓国デザイン文化財団／ソウル韓国デザイン文化財団ギャラリー）
ブルーノ・ムナーリの絵本 世界展～きりのなか	9.12～11.3	「ブルーノ・ムナーリ・コレクション」から、大型作品「きりのなかのミラノ」のみの貸出展示。展示にあわせてワークショップを実施。10月10日「木をつくろう」、11日「さまざまなかたち」「直接の映写」を児童に実施。 （金沢21世紀美術館）
ブルーノ・ムナーリ展 ～ブルーノ・ムナーリ がやってきた	11.21～12.14	展示会場のスペースが小さいため「ブルーノ・ムナーリ・コレクション」から絵本、グラフィックス、プロダクト、立体作品をセレクトして展示。あわせてワークショップを実施。11月21日「さまざまなかたち」「テクスチャー」、22日「木をつくろう」「直接の映写」を児童に実施。 （宮城県大和町ふれあい文化創造センター・まほろばホール）



韓国デザインスクール「コラージュ」



第24回造形スタジオ展

平成 21 年度プログラム一覧表

1. 親子コーナー

名 称	内 容
造形 菜園	あれこれおやさい 切る “丸める” “ちきる” “もむ”などの紙を変化させる技法を使って、自分の好きな野菜や果物を作る。
	なんの根 色紙で植物の実を作り、紙ハントの中央に飾り、上下を裂いて根や芽を作る。裂く本数や長さ、飾りつけてさまざまな植物を作ることでできる。
	ヘシ帽 色紙を三角に折って紙の帽子を作り、野菜や果物の写真をコピーしたもののはって飾り付け。野菜で飾り付けをした、かぶれる帽子の完成。
	かぶりー菜 色ラシャ紙をよくもんて柔らかくしたら、好きな野菜や果物の形を作る。そこに茎や葉、模様の飾り付けをすると、かぶれる野菜型の帽子のできあかり。
	ぬのみな 紙をまるめて野菜や果物の実を作り、そのまわりに布で作った皮や葉っぱをとりつけて、飾りつけをすれば、布と紙で作る植物の完成。
	フシギな実 長細い、丸いなど、自分の好きな形の実を紙で作る。実からのひた麻ひもの枝に、葉っぱや花などの飾りつけをして、不思議な実になる植物を作る。
	ビニール菜 カラーヒニール、梱包材などを使って、好きな野菜や果物を作る。
	〈イヘント〉ねんと DE 野菜畑をつくろう！ 畑にはどんな野菜があるのか想像しながら、粘土でいろいろな野菜を作る。できあかった野菜を、粘土で作った畑のうねに植えれば、粘土の野菜畑の完成。(各回定員 10組 20人)
アニマル パラダイス	ヘシコラアニマル 野菜や果物の写真をコピーしたもののは紙にはり合わせて、オリジナルの動物を作る。
	こしこしアニマル テコホコの板にカラペをのせて、クーピーでこすって形を写し取り、丸めた新聞紙を包んで動物の形にする。手足やしっぽをつけて飾れば、こすりとった形が体の模様になる不思議な動物の完成。
	クニヤッとアニマル アルミ線で動物の輪郭をつくり、2枚の布で挟み込んでのりつけする。目、鼻、模様を布で飾れば、クニヤッと体の形が変わる動物の完成。
	〈イヘント〉ねんとて シャンクル旅行 シャンクルで使うテントやシャンクルの木、動物などをたくさん粘土で作りながら、ストーリー仕掛けでシャンクルへ冒険旅行にてかける。(各回定員 10組 20人)
	ライン DE アニマル モールで輪を作り、動物の輪郭線の形に折り曲げる。飾りのモールを付けて台紙にとめると完成。
	にぎにぎ動物園 紙で筒を作り、片端に数か所切り込みを入れたら、それぞれに胴体、顔、手足のパーツを付ける。筒をやさしく握り動かせば、不思議な動きをみせる動物ができあかる。
ことも歳時記	こしこしアニマル 新聞紙を丸めて動物の形を作ったら、凸凹素材で模様をこすりたしたカラペで包む。目や耳、手足や尾などの飾りを紙で作ってはれは、オリジナル模様の動物が完成。
	端午の節句／ヘシ兜 色紙を三角に折って紙のかふとを作り、野菜や果物の写真をコピーしたもののはって飾り付けをする。野菜で飾り付けをした、かぶれるかふとの完成。
	七夕〈イヘント〉 七夕野菜たんさく 同じ形に切った2枚の色紙を交互に差しこみ、立体の野菜や果物を作ったら、その下に願いことを書いたたんさくをつるすとできあかり。
	クリスマス／ゆひマペクリスマス フェルトの帯にポンチで穴を開け、筒状にして毛糸で結び、サンタクロースやトナカイなど、クリスマスにちなんだ飾りをつけた指人形を作る。
	お正月／お正月マスク DE タイマー 2010年の干支「虎」のお面を作る。紙で虎の顔を作ったら、さまざま形のスタンプで模様をつける。
その他	節分／ピヨコ竹鬼 竹をのこぎりで切って、鬼の飾りつけをする。頭を指で押すとぴょこぴょこと飛び跳ねる。
	桃の節句／かぶりひな 紙を三角に折って着物を作り、顔を飾っておひな様の帽子を作る。裏面にお内裏様の飾りをすると、リハーシブルで楽しめる。
	秋祭り〈イヘント〉ひかる実菜(みな) 丸めた新聞紙と紙で好きな形の実や野菜を作る。重光紙で飾り付ける。できあかったら、フラックライトの前の畑に植えたり木につるしたりすると、間に光る実や野菜になる。
その他	ファミリー月間 アニマルマベット もみ紙をして柔らかくした紙を袋状にはり合わせ、顔や手足の飾りをつけて動物に仕上げる。なかに入れた手を動かすと、まるで生きているように動き出す。

2. クリエイティブコーナー

名 称	内 容
造形菜園	たんきんおやさい 金属の板を“切る”“たたく”“模様をつける”などの技法を使って形を変え、自分の好きな野菜や果物を作る。 (新小4以上、1時間30分)
	キノキノコ 木を素材に“切る”“けする”“やする”などの技法で、オリジナルのきのこを作る。 (小3以上、1時間30分)
	パオパオヘシタフル アルミの板を〈鍛金〉技法で、トーム状にする。そこに、銅やしんちゅうなどの金属板を組み合わせて、野菜型の家を作る。土台の板に、家のなかや外の風景を飾り付けすれば完成。 (小3以上、1時間30分)
	ウット菜 木を素材にのこぎりや糸のこ、棒やすりなどの道具を使って、自分たちの好きな野菜や果物を作る。 (小3以上、1時間30分)
	ヘシハンター 大さの違う銅の針金を曲げて、線で野菜や果物の形を作る。〈はんた付け〉という方法で、銅線とうしを固定して、土台の板に取り付けて完成。 (小3以上、1時間30分)
	おきあかりー菜 発砲スチロールのかたまりを、〈ヒートカッター〉という道具で野菜や果物の形に削る。底の部分におもりをつけて、紙で飾り付けをすれば、野菜型の おきあかりこほし の完成。 (小3以上、1時間30分)
	こねロウ！お野菜 湯せんをして溶かしたろうをこねて、好きな野菜や果物を作る。 (小3以上、1時間30分)
アニマルパラダイス	野菜動物 野菜や果物の形に切った発砲スチロールのかたまりに、紙で野菜の飾り付けをする。さらに、動物の手や足の飾り付けをしたら、野菜型の動物の完成。
	ウッティアニマル 木の棒を切ってつないで動物を作ったら、アルミ線で足を作り、飾りひょうやく、フェイクファーで飾り付ける。木、金属、毛と異なる素材を組み合わせた美しい動物がてきる。 (小3以上、1時間30分)
	ファーモ アルミ線で動物の骨組を作り、新聞紙を巻いて肉付けをする。カラペとフェイクファーを使って飾り付け、ヒースの目玉などを付けければ、さわり心地を楽しめる動物の完成。 (小3以上、1時間)
	ゆきんこアニマル 溶かしたろうをラップてくるみ、冷ましながら動物の形を作る。枝で手足などの飾りをつけるとてきあかり。 (小3以上、1時間)
	フェルウット 木に羊毛を巻きつけ、縮毛してフェルトにし、枝で作った手足や顔のパーツをつけると、さわり心地を楽しめる動物の完成。 (小3以上、1時間30分)
こども歳時記	フェルウット 小学生スペシャル 「フェルウット」の小学生スペシャルハーション。地面と背景を作ってシオラマ風にする。 (小3以上、1時間30分)
	端午の節句／鏡金兜 アルミの板を〈鍛金〉技法で、おわん状にし、銅や真鍮などで作ったかぶとのパーツを組み合わせる。金属を素材に、オリジナルミニかぶとを制作するプロクラム。 (小3以上、1時間30分)
	クリスマス／ウツリースマス 鏡面状の紙に絵を描き、円錐にしたトレーシングペーパーをかぶせて光をあてると、絵が反射して映る幻想的なツリーがてきる。
	お正月／竹虎のお正月 のこぎりで切った竹を組み合わせて、とらのマリオネットを作る。表面を〈ハーニングペン〉でこかして、とらの模様で飾る。 (小3以上、1時間30分)
	節分／節分型とり鬼 粘土に石や金属部品を押し当ててへこませ、鬼の形のめ型を作ったら、石こうを流し込む。固まったら、レリーフ状の鬼のタイルがてきあかる。
その他	桃の節句／木目ひな 丸太をのこぎりで切って、薄い紙やくきて飾り付けをする。美しい木目が透けて見えるひな人形の完成。 (小3以上、1時間30分)
	〈ファミリー月間〉たんたんアニマル 3層の段ホールを電動糸のこて、同じ形に切り抜いてはり合わせたら、別に顔や尾などのパーツなど作り、全体を組み立てる。オリジナルスタンプで体の模様をつければ、不思議な動物がてきあかる。

音楽事業部



平成 21 年度の活動

1. はじめに

音楽事業部の活動は、音楽ロビーを一般活動の拠点とし、スタジオは特別な催しと講座・クラブの活動の場とするという形を基本としている。音楽ロビーは、長年の実験的プログラム実施の積み重ねで、ユニークな音楽遊びが展開されるオープンスペースとして、[子どもの城]のなかでも、なくてはならない遊びの場となっている。手作りの楽器や民族楽器などをそろえ、いかに音楽の楽しさと共に感する喜びを、子どもたちに伝えることができるかをコンセプトにプログラム開発を行い、環境整備に工夫をしてきた。

一般利用の平常期間については、平日は 1 日 1 回の音楽遊びのメインイベントを核として、ストリートオルガンの体験と童謡コンサート「うたってハッピー！」を数回実施している。音楽遊びのプログラムは、特に親子のスキンシップがはかれる、オリジナルの歌遊びやダンス、そしてパネルシアターなど、1 回 30 分のプログラムの流れで、“動”と“静”的めりはりをつけたプログラム構成としている。

日曜日・祝日は、11 時 30 分から 17 時まで、プログラムが 9 本組まれている。ストリートオルガンの体験、童謡コンサート「うたってハッピー！」、音楽遊びプログラム「みんなであそぼう！音楽広場」、そして世界の民族楽器が体験できる「めずらし楽器にチャレンジ」、管楽器や打楽器などによる編成でリズミカルな楽曲を演奏する「Oshiro Band ミニライブ」——自然に体が動き出すような楽しい選曲で、子どもたちも自由に楽器を鳴らし、親子で音楽を遊べるスペースとなっている。

スタジオの一般来館事業の核となるのが、B スタジオで行っている「わいわいスタジオ」である。世界各地の民族音楽などを定期的に取り上げたり、手作り楽器のワークショップを開催するなど、来館する親子にさまざまな音楽体験の場を提供している。

特別期間の催しは、特に来館児・者が多いことと、学童の来館も増えることを念頭においたプログラムを実施し、多人数異年齢の来館児・者に幅広い音楽体験を提供している。夏休み特別期間には、インドネシアやアフリカの楽器をベースにした「親子で作ろう！手作り楽器のワークショップ」を実施した。

講座・クラブについては、ほかでは体験できない音楽活動をめざして、邦楽・民族音楽系なども含むユニークなラインアップで運営している。

グループ活動は、個々の参加団体の要望にフレキシブルに対応できる、柔軟で積極的な姿勢と応用力のあるプログラムを用意している。

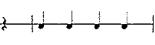


子どものための『三味線』体験ワークショップ

2. 音楽ロビーの活動から

(ア)みんなでダンス！ノッちゃって！おどっちゃって！

児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間に行なったダンスプログラム。ここ数年、さまざまなダンスプログラムを展開し、子どもたちにダンスを気軽に楽しんでもらえるよう、工夫を重ねてきた。今回のテーマは、〈踊る〉ことを強く意識して“振り”を教えるのではなく、遊びのなかで体を動かすうちに、いつのまにか自然と踊りだせるようになっていることであり、特に過程を工夫した。

導入には《合言葉》を使った。合言葉＝みんなで言うと元気に楽しく遊べる言葉——と子どもたちに説明。「1・2・3 4 5月」の言葉を、のリズムに乗せて指で数えながら唱え、「5月」で5にした手のひらを上にあげジャンプ。この動きを伴う《合言葉》がイベントのなかで、さまざまな“きっかけ”になる。《合言葉》を“きっかけ”に大きな布のこいのぼりが、子どもたちにおおいかぶさるように登場。自分たちの《合言葉》で思いもよらないことが起こり、一気にプログラムの世界へ引き込まれていく。子どもたちが主体となって進める場面を持つことで、積極的に参加する気持ちを高めることをねらった。

こいのぼりには、“かしわもち”“かぶと”“ひれ(こいのぼり)”の絵がはってあり、それぞれがじょんけんのグー・チョキ・パーをモチーフにしている。「子どもの日」にまつわるものと、身近なグー・チョキ・パーと組み合わせ、イメージしやすくして子どもたちと動きを考えた。“かしわもち”=グーにした片手を天井に突き上げて「かしわもち、かしわもち」と繰り返す。“かぶと”=チョキにした両手をクロスして、額の前で前後する。“ひれ”=パーにした手と腕全体を、腰の前あたりで左右に伸び縮みして動かす。ここでさらに、言葉にリズム



みんなでダンス！ノッちゃって！おどっちゃって！

をつけて、動きと結び付けることを大切にした。

次に、一瞬だけ絵を見せグー・チョキ・パーの何かを当てる、簡単なゲームに発展させる。《合言葉》をきっかけに、大きな布のこいのぼりの口が開き、走り抜けて、同じ絵を持つスタッフのもとに進み、それぞれ言葉のリズムに合わせて動く。広い部屋を生かして、大きなこいのぼりのしたを走り抜けることで「子どもの日の世界へ行く」という演出をした。《合言葉》の他に、「考えて」「わかったよ」「5月5日は子どもの日」という、ゲームに使われる全ての言葉に動作をつけた。

ゲームは、ドラムのリズムに乗せて進行し、子どもたちは〈歌う〉〈踊る〉ことを特に意識しなくとも、自然とリズムに乗って言葉をしゃべり、体を動かすことを楽しんでいた。みずからの“きっかけ”で、子ども自身の気持ちがみるみる高まり、ゲームの答をアドバイスする大人も含めて、ロビー全体が熱気に包まれとても盛り上がっていた。

最後は、年齢順に音楽ロビー正面のステージにあがって、ダンスを披露。幕で音楽ロビー（客席）側と仕切って、ステージで踊ることの特別感や雰囲気を強調した。ここで初めてオリジナルソングが登場。ゲームで使っていた「考えて わかったよ 合言葉」や「こいのぼり かしわもち かぶと」「5月5日は子どもの日」が、そのまま歌詞になっているので、すんなり入っていける。

ステージにあがることで多少の緊張はあるが、いざ始まると、ゲームで何度も繰り返した言葉や動きが次々と出てくるので、自信を持って楽しそうに踊っていた。ダンスのフォローのために、ステージ対面の位置でガイド役のスタッフが踊る。保護者が観客として応援しながら、自分の子どもに向かって歌や踊りのガイド役になる姿も多数見られた。

言葉とリズムに合わせて動くことで、子どもたちはいつの間にかダンスを踊っていた。楽曲に合わせて踊ることだけがダンスではない。言葉をリズムに乗せてしゃべりながら体を動かすことが、すでにダンスなのである。これが、子どもたちに体験して欲しかったことであり、私たちが一貫して大切にしたことである。遊びのなかで言葉とリズムを生かして楽しく動ける工夫をし、ダンスに苦手意識や抵抗感を持つ子どもにも気軽に参加できるようにした。

ステージでのダンスの披露は、「端午の節句」という子どもの成長を祝う日本の伝統に親しみつつ、居合わせた子ども同士が楽しい時間を共有すること、また保護者には、たくさんの子どもたちとふれることで、我が子の成長を振り返りながら、ここまで成長したことを楽しんでもらうことをねらいとした。

子どもたちは、互いに意識し刺激し合うことで、楽しさやエネルギーを何倍にもてる。「知っている」「できる」という自信をもって踊る子どもたちは、どこか得意げで、見ている人にも魅力的なエネルギーを与える。子どもたちの誇らしく輝いた表情を見守る、大人たちにも笑顔があふれていた。

今回、ダンスイベントにまた新たな可能性を感じた。今後もますます子どもたちが輝き、大人も一緒に楽しめるアプローチを工夫していきたい。

(イ) みんなであそぼう夏本番！どれみふぁプレミアム ～大型紙芝居「わがままお姫様の冒険」～

夏休み特別期間には、歌をメインとした音楽おはなしプログラム「わがままお姫様の冒険」を実施した。お姫様役1人と、その他の役（鬼、くま、王様、女神さまなど）1人の計2人で演じるプログラム。お話のイメージがわきやすいよう、主要場面をB1サイズのスチレンボード10枚に描き、大型の紙芝居を制作した。

主人公は、歌うことが大好きなお姫様。自分の歌声が美しく、いちばん大事だと思っている。しかし、とてもわがままなため、罰として女神がお姫様のいちばん大事なもの、つまり美しい歌声を取り上げる。大事なものを取り戻すためには秘密の呪文を集めなければならず、お姫様は旅に出る。

呪文を手に入れるためのクイズに挑戦するが、クイズには歌って答えるなければならない。歌声を取り上げられているので、子どもたちに歌ってもらうしかない。人にお願い事をしたことがないお姫様は、子どもたちにまで命令口調。「ありがとう」という感謝の言葉も知らない。「手伝ってください」「ありがとう」となかなか言えないお姫様に、子どもたちから「そんな言い方じゃダメ！」「もっとていねいに！」など、厳しい声が返ってくる。

歌って答えるクイズでは、最初は恥ずかしがっていた子どもたちが、だんだんと声が大きくなり、元気に、そして真剣に歌う姿から、話に引き込まれていく様子を見て取れた。「みなさんのおかげで声を取り戻し、大切なことに気づくことができました。本当にありがとうございます。みなさんも、わがままばかり言っていると、女神さまからいちばん大切なものを取られてしまうかもしれません。どうぞ気をつけて下さいね」というお姫様のメッセージで幕を閉じる。

物語の最後には、呪文を全て集めて声を取り戻したお姫様が、子どもたちとともに、オリジナル曲を歌う。“トレミファソファミレド”的ように、短いフレーズをいくつか準備し、それを何度もくり返し、コール＆レスポンスで歌う所を取り入れたため、初めて聞くオリジナル曲

大型紙芝居「わがままお姫様の冒険」



も全員で大合唱できる曲に仕上がった。

物語には、3つのメッセージを込めた。1つ目は子どもたちに向けたメッセージ。「ありがとうございます」や「お願ひします」を、きちんと人に言えていますか？ わがままばかり言っていないですか？ というものの。お姫様の台詞に心からの「ありがとう」の気持ちを込めたのは、「ありがとう」と他者から言われるの気持ちがよいということを知って欲しかったからである。

2つ目は、昔話や童話を読んであげていますか？ 童謡とよばれる子どもの歌を聞かせていますか？ という保護者へのメッセージである。昔話を知らない子どもたちが増えているというニュースから、「森のくまさん」「浦島太郎」「桃太郎」の歌詞をクイズとして用いた。

そして3つ目のメッセージが「あなたの本当に大切なものは何ですか？」という問い合わせである。お姫様がわがままばかり言えたのは、王様や女王様をはじめ、城にいるみんなが親切してくれたから。それに気づいて、最終的にはいちばん大切なものは、家族をはじめ周りのみんなだと気が付くこと。子どもたちに「宝物は何ですか？」と問いかければ、思い浮かぶものはおもちゃや物など、目に見えるものが多いだろうと考えた。しかし、本当に大切なものはお金では買えないことを伝えたかった。

今回のプログラムは、お話と音楽をとおして、これらのことを考えるきっかけ作りになつたら、という思いで実施した。家庭に帰っても話題にされるような作品を作つて、上演できるように努力していきたい。

(ウ) みんなでつくろう！新世界チキチキドルッチャワールド ～ミュージック・ドルッチャ・スマイリー～

「みんなでつくろう！新世界チキチキトルッチャワールド」は、〈子ども参画型事業〉として行われた。参加した子どもたちは自分の意思で活動したい部署を選ぶ。4人が音楽事業部を希望。約2か月間で計7回活動。特



に印象的な事柄を振り返りながら、音楽事業部における〈子ども参画型事業〉への取り組みを考える。

【11月22日】活動初日。MちゃんとKちゃんは小学5年生の女の子。学校では吹奏楽クラブに所属している。6年生のY君は「ドラムをやりたい」、Sちゃんは「何か楽器をしているわけではないけれど、音楽も歌も好き」という高校3年生。まずは4人の興味のあること、やってみたいことを聞いて活動の方向性を考えていく。

【11月28日】「それぞれの希望をチームとしてどうまとめていくか」「遊びに来る子どもたちに楽しく参加してもらうためにはどんな形かよいのか」を考えながらじっくりと話し合う。“楽器”“演奏”“ライブ”“歌”という要素が浮かび上がり「オリジナル曲を作り演奏する」活動に決定。ビジョンが具体的になってくると、全員が目を輝かせている様子が印象的であった。編成はキーボード（Kちゃん）、ギター＆シロフォン（Mちゃん）、ドラム（Y君）、マリンバ（Sちゃん）。チーム名は『MDS（ミュージック・ドルッチャ・スマイリー）』に決まった。

【12月13日】オリジナル曲の歌詞とメロディーについて話し合う。歌詞に入れたい言葉をランダムにあげていく。“夢”“絆”“力をあわせる”“笑顔”“ひとりひとりが宝物”“勇気をもって”など30語ほどの言葉が出てきた。次に「作曲はどうするの?」となった。最初に既成曲のなかから、好きな曲や学校で人気のある曲をあげる。「あの曲人気だよね」「この曲のサビのところかっこいいよね」という話から、やがて「私たちの曲もみんなが覚えやすいメロディーがいいなあ」「小さい子でも楽しく参加できる曲がいいよね」と発展し、曲の骨組みが決定した。

「〈皆で曲をつくる〉活動をすることはできるよ。ただ作曲も時間のかかるから、〈楽器を練習して本番で演奏する〉こととの両方は無理だと思う。どちらにするかは皆で決めてね」とアドバイス。子どもたち自身で結論を出し、〈楽器演奏〉を優先した活動をすることに

なり、作曲は音楽スタッフが担当することにした。

【12月20日】楽器練習を始める。いちばん難しいと思われるのはMちゃんのギター。音楽スタッフは「少し触れば指が痛くなり、他の楽器に替えるって言い出すかもしれない」と考えていた。ギターを触らせてみたところ、「どうやって弾くの?」「トレミはどこ?」と興味津々、音階やコードのポジションを説明すると、彼女の眼が真剣になってきた。ギターにシールで音の目印をつけ、練習を続けた。

【平成22年1月16日】Mちゃん、Kちゃんの2人で練習。Mちゃんは、楽譜かスラスラと読めるわけではないので「楽譜を見ながら練習する」ことが難しい。とにかく何度も繰り返し弾き、音もリズムも耳で覚えていくことになった。Kちゃんは練習の合間に、当日の衣装作りをしてくれた。衣装は無地のTシャツに、アイロンプリントシートで、『MDS』のロゴやスマイルマークを入れて仕上げた。

【1月17日】子どもたちは、ライブのなかで一般来館の子どもたちに、ダンスを踊って参加してもらう場面を考えていた。子どもたちの前でダンスを踊ることを、いちばん希望していたのはMちゃん。しかし今の彼女は楽器で手一杯。話をすると「ギターを頑張りたい」という返事。ダンスは、KちゃんとSちゃんが踊ることになった。

来週はいよいよ本番!という意気込みで、全員が時間を惜しんで練習。休憩時間には、Kちゃんが作ってくれたロゴ入りのTシャツを試着。女の子たちは、髪型やアクセサリーについても真剣に相談。その様子がとてもかわいらしかった。

【1月23・24日】本番初日。『MDS』の演奏を支えるために、音楽スタッフもバントを編成し一緒に演奏する。大人の迫力ある演奏に、子どもたちも気合いが入る。華やかになるように、高さのあるステーショナリーや幕をつけた。開演時間が近づくと、一般来館の子どもたち、他部で活動しているメンバーやスタッフも、大勢集まってきた。幕が開くと同時に演奏がスタート。客席から「わあ!」「すごい!」という歓声があがる。4人とも緊張した面立ちながら、観客の子どもたちの歓声や拍手に後押しされて、存分に演奏した。

2日目。司会はSちゃん。小さな子どもたちにダンスの振りを説明したり、メンバー紹介をしたりと大活躍。ギターのMちゃん。本番で弾くのは時間にすれば2~3分であるが、何度も繰り返して練習したメロディーを、渾身の力を込めて弾いている様子が、ひしひしと伝わってきた。

Mちゃんの代わりにダンスも踊ることになったKちゃん。最初は「恥ずかしい」と言っていたが、本番では

立派なダンスリーダーになっていた。最初からキーボードはスラスラと弾けていた彼女だが、「私、器用貧乏って言われるの。なんでもそんなに練習しなくてもできるの。それよりも、Mちゃんのようにたくさん努力するほうが上手になるんじゃないかなあ」と言っていたことが印象的。「苦手」と言っていたダンスにあえて挑戦することは、彼女にとっても心に残る体験になっただろう。

ドラムのY君。最初は一定のテンポを保つことができないために、「他のパートと合わせて演奏する」ことが難しかった。デモテープに合わせて練習したり、ダンスを練習するSちゃん・Kちゃんに合わせてリズムを刻む練習を繰り返して「一緒に演奏する」ということをつかんでいった。

『MDS』のライブは大成功。遊びにきた子どもたちが彼らの演奏に合わせて、手拍子をしたり歌を歌ったり、そしてダンスにも参加してくれた。終了後メンバーは感激まってポロポロと涙を流していた。

今回も、音楽事業部での活動を希望した子どもたちの大半は楽器の経験が無かった。初心者の練習にできる限り時間をあてつつ、一方ではプログラムの全体像を引き出し、形にしてまとめあげることをした。その過程で多くのことを学び、気づかされた。子どもたちはさまざまな場面で、大人の予想を上回る姿を見せる。作業の合間に自主練習をしたり、発想も豊かで大人では考えないようなアイデアを出す。本番では、演奏で力を発揮するだけではなく「小さな子どもたちの前で演奏している。司会をしている。ダンスをしている」という“見られている”ことを意識して立振舞い、その成長ぶりに驚かされた。

〈子ども参画型事業〉は“子どものエネルギー”がその源であり、担当するスタッフにもそれなりの力量が求められる。子どもと同じ目線で悩むことも必要だが、押したり引いたり、導いたり導かれたりのバランスをとりながら互いに成長していくことができる。4人の子どもたちを担当した職員は主に2人であったが、全てのスタッフがそれぞれの役割を持って、一丸となって子どもたちの発信したプログラムを支えた。“子どものエネルギー”とこれを受け止める“大人の判断力と実行力”。その相乗効果が、思いがけない大きなエネルギーを生み出した。

音楽事業部の〈子ども参画型事業〉への取り組みは、まだ始まったばかりで、そのノウハウや知識を蓄積しつつ試行錯誤している段階である。私たちが大切にしていることは「子どもたちが発信するものに柔軟な心で耳を

夏休み 親子で作ろう！手作り楽器のワークショップ
リピーターのための もっとやりたい“シェンヘ”



傾け、それらを全力で支える」という姿勢である。今後もよりよい活動をめざして〈子ども参画型事業〉へ取り組んでいきたいと考えている。

3.まとめ

本年度もいくつかの新しいプログラムが生まれ、成果が得られた。ダンスイベント「みんなでダンス！ノッちゃって！おどっちゃって！」は、音楽事業部のここ10数年のさまざまなノウハウを集約した、音楽ロビーならではの活動であり、このスタイルは一般来館の幼児・小学校低学年向けオリジナルプログラムの代表作の一つとなるであろう。「ひなまつり」「七夕」「ハロウィーン」「クリスマス」などの季節行事への新展開が期待できる。

音楽ロビーでの活動は、乳幼児向けプログラムが大半を占めるため、講座・クラフを担当していないスタッフは、小学校高学年や中・高校生と接する機会は少ない。「チキチキドルッチャワールド」での活動は、スキルアップにも良い機会となった。幅広い年齢の児童とのさまざまな活動をとおして、さらに資質の向上ができるよう、今後もこのような事業には積極的に取り組んでいきたい。

さまざまなオリジナルプログラムの新作は、マンネリを防ぐためにもかかることはできない。新「大型紙芝居」も、子どもたちが歌うことで物語を進行させる参加劇のスタイルとしてユニークなものとなった。今後も、工夫を加え、より良いものを創作していきたい。

夏休みの短期講座「手作り楽器ワークショップ」は、数年間同じメニューが続き、年々充足率も低下しつつあるので、抜本的な改革を考える時期に来ている。準備作業の効率化や材料費などの点からも再考し、来年度から新プログラムに取り組んでいきたい。

平成 21 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
みんなでライブ！	火曜日 15:00～15:30	子どもたちがよく知っている手遊び、季節に合わせたパネルシアター、童謡、体を動かす遊びのプログラム。音楽を楽しむなかで、親子のふれあいを感じるものを取り入れている。幅広い年齢層に対応するプログラム作りに取り組んだ。 (音楽口ヒー)
赤ちゃん特等席 はぶりんパラダイス	火～金曜日 開館時間中 (催し開催時を除く)	0～1歳児と保護者のコーナー。赤ちゃんを囲んで初対面の母親同士が自然と交流をもてる場になっている。 (音楽口ヒー)
うたってハッピー！	火曜日 14:30～15:00 16:30～17:00 水・金曜日 14:00～14:30 16:00～16:30 木曜日 14:00～14:30 土曜日 11:30～12:00 13:00～13:30 日曜日・祝日 11:30～12:00 13:00～13:30 15:00～15:30	ハント形式による弾き語り。レパートリーは童謡のほか、アニメのヒットソングなど。リクエストも多く、子どもたちが積極的に口ヒーの楽器を楽しめる。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することてきた。土・日曜日・祝日の午前中の回はすっかり定着し、早い時間帯に来館する幼児と保護者には特に好評であった。 (音楽口ヒー)
ストリートオルカン やってみよう！	火曜日 13:30～14:00 16:00～16:30 水曜日 13:30～14:00 15:30～16:00 木曜日 16:00～16:30 全曜日 13:30～14:00 16:30～17:00 土曜日 12:30～13:00 日曜日 12:15～13:00 16:30～17:00	ロヒー常設のオランタ式手回しオルカン。親子、兄弟、友たち同士などでペアになり、演奏を楽しんだ。 (音楽口ヒー)
すいよう パチパチパーク	水曜日 14:30～15:00	歌遊び、手遊びを中心とした参加型プログラムと、アフリカ、インドネシア、フラシルなどの音楽を聴かせる鑑賞型プログラムを実施。鑑賞型プログラムにも、使用した楽器にふれたり、スタッフと演奏する参加部分も設け、子どもと一緒に音楽を感じ合えるイヘントを行っている。 (音楽口ヒー)
なにかてるかな？ うきうきタイム	木曜日 13:45～14:00	15分間のショートプログラムとして実施して、およそ5年かたった。この時間帯は来館児・者も少なく、サブ的な催してあった。主となる催しは、来館児・者数のピーク(14～16時)にあわせた、14時30分からの「なかよし広場」であった。しかし、就園前の乳幼児親子の利用が増えている影響からか、木曜日の利用者のピークが13時30分～15時30分へと変化。プログラム構成を見直し、次年度からは13時45分から「なかよし広場」、16時から「うきうきタイム」に変更する予定。この時間帯は、ゆったりとくつろぐ親子が多く、これまでの手遊び、歌遊びを積極的に促すプログラムから、マリンハやピアノなどで昔から歌い継がれてきた童謡を演奏したり、絵描き歌、子どもたちにマイクを持って歌ってもらうなど、ゆったりと過ごせるプログラム構成にしていきたい。 (音楽口ヒー)
木曜なかよし広場	木曜日 14:30～15:00	スタッフの個性を生かしながら、乳幼児から親子で気軽に楽しめるプログラム構成に努めている。内容は、遊び歌、パネルシアター、絵本、簡単なタンスなど中心。 (音楽口ヒー)
みんなの楽器屋さん	木曜日 15:30～16:00	世界各地の楽器を紹介する、鑑賞と体験のプログラム。スタッフが「楽器屋」の店長・店員にふんするという〈あそび〉の演出をしている。活動には女性ホランティアも参加。演奏のみならず、楽器体験時のサポート役としても活躍。レパートリーも増え、アンクルン、トーンチャイム、ミュージックヘルを中心に季節の童謡を演奏。最近は、「こともの城」内の催し(「赤ちゃん大集合」「開館イヘント」)にも、演奏で参加している。 (音楽口ヒー)

名 称	日 時	内 容
みかんちゃんズの オバオバサンハ!	金曜日 15:00～15:30	女性ホランティア中心の活動。サンハのリスムに合わせて体を動かす「サンハ新聞」と手作りシェイカーを使って言葉とリスムで遊ぶ2つのプログラムを取り組んだ。ホランティアの一人ひとりが、プログラムリーターとしてスキルアップをはかり、活動を支えてくれている。 (音楽ロビー)
音楽あそひマーケット	土曜日 13:30～14:00	パネルシアターや絵本に音楽を組み合わせて楽しんでもらう鑑賞型の活動と、手遊び、音楽遊びという参加型の活動を組み合わせた。土曜日であることから、幅広い年齢層に楽しんでもらえる内容を心かけた。 (音楽ロビー)
宅配!ミュージック ホックス	土曜日 14:00～14:30	演奏を聞く・楽器にふれて演奏してみるという体験をとおして、さまざまな音楽を楽しむ鑑賞・体験合体型のコンサート。時間になると宅配ホックスが届き、その中に紹介する楽器や音楽のヒントが入っている——という設定。国・地域や楽器の素材、奏法など、さまざまな角度から楽器を紹介した。 (音楽ロビー)
ポコ・ア・ポコ 土曜音楽倶楽部	土曜日 14:30～15:20	高学年向けの楽器体験コーナー。1期は「シェンヘ」、2期は「三味線」、3期は「箏」を取り上げた。どの楽器も、参加した子とも同士あるいはスタッフと合奏することで、みんなで演奏する楽しさを伝えられるようにした。2月11・13・14日には、体育・AV・プレイ事業部と企画研修部の共同で、小学生プログラムのスペシャル企画を実施。音楽事業部は、日本の箏と三味線、アフリカの太鼓で参加した。 (音楽ロビー)
みんなてあそぼう! 音楽広場	日曜日・祝日 13:30～14:00	担当職員一人ひとりの個性とレパートリーを生かした手遊び、歌遊び、リスム遊びを中心とした豊富な内容に、パネルシアターやタンスなども加えたハラエティー豊かなプログラム(「わいわいスタジオ」のある日は実施しない)。 (音楽ロビー)
Oshiro Band ミニライヴ	日曜日・祝日 14:45～15:00 16:00～16:30 ×「みんなてあそぼう!音楽広場」がないとき 13:55～14:15	ポルカ・テキーラ・トルコ行進曲など、リスミカルな楽曲をマリンハ、キター、トランペット、ハイオリンなどの楽器で演奏。子どもたちはそれらの楽曲に合わせて手作り楽器や木琴などを自由に演奏する。オリジナルアレンジの新曲に挑戦してレパートリーを増やしている。 (音楽ロビー)
めずらし楽器に チャレンジ	日曜日・祝日 14:00～14:30 ×「みんなてあそぼう!音楽広場」がないとき 14:15～14:45	世界各地の楽器を演奏し、紹介・体験する参加型のプログラム。世界のさまざまな楽器を演奏し、楽器の特長をわかりやすく紹介。コンサート終了後は使用した本物の楽器をゆっくり体験してもらう。 (音楽ロビー)
わいわいスタジオ	日曜日・祝日(ほぼ隔週) 13:30～14:00 15:30～16:00	演奏者を招いたコンサートの企画と、身近な材料を使って手作りで楽器を作るワークショップの2種がある。ワークショップは、フィルムケースやペットボトルのキャップを利用した鳥笛作り。小学生対象のプログラムと幼児も参加できるプログラムがある。コンサートは「フラメンコ」「草笛」「ラテンヒックハント」などとか出演。子ども参加コーナーや楽器紹介などをプログラムに盛り込み、多くの親子に楽しんでもらった。 (Bスタジオ)
うたってハッピー! 七タスペシャル	7.4・5 11:30～12:00 13:00～13:30 15:00～15:30 ×15:00は75のみ	星の飾りを身につけ、子どもたちがステージに上かって歌い、踊る場面を設けた「うたってハッピー！」のスペシャル版。 (音楽ロビー)
〈ファミリー月間〉 あそひでつくる 家族の WA !	11.7・8 13:30～14:10 15:10～15:50	家族のふれあいをテーマに、親子いっしょになって遊ぶ音楽遊びプログラム。輪(WA)にちなんだオリジナルの遊びをいくつか考案し、コム紐などのアイテムも活用した。7日のみ13時30分の回も実施。 (音楽ロビー)
トキトキッス オンステーシ	H22.2.28、3.7、14、21、22	音楽事業部講座・クラフ発表会をかねる、一般未館児・者向けのコンサート。 □ひらけリスム・ムービングのとひら(リスム・ムービング、リスム・ムービング&パークッション)=2月28日/14:00/Bスタジオ □三味線三昧(三味線)=3月7日/13:30/Bスタジオ □シャワワ島のカムランと踊り(カムラン講座)=3月14日/13:50/音楽ロビー □サンハ・フェスティバル!(レッツ・プレイ サンハ初級、レッツ・プレイ・サンハ)=3月21日/13:30/音楽ロビー □花のお江戸の助六大鼓(和太鼓グループ)=3月22日/13:30/音楽ロビー

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉めずらし楽器にチャレンジ	4月29、5月2～6 14:10～14:50	平常期間と同じ。4月29日、5月5・6日は、14時から。 (音楽ロビー)
〈　〉うたってハッピー！	〃 11:30～12:00 13:00～13:30	平常期間と同じ。4月29日は、15時の回も実施。 (音楽ロビー)
〈　〉ストリートオルカンやってみよう！	〃 12:15～13:00 16:30～17:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈　〉Oshiro Band ミニライフ	〃 14:55～15:10 16:10～16:30	平常期間と同じ。4月29日は14時45分と16時。5月5・6日は、16時10分の回のみ。 (音楽ロビー)
〈　〉みんなであそぼう！音楽広場	4月29 13:00～14:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈　〉ゆったり親子のおんかく園	5月2～6 13:00～17:00 ×5月6日は16:00まで	3か月～2歳11ヶ月の幼児と親がゆっくりと音のてるおもちゃ〔音具〕で遊ぶことのできる部屋。親子のふれあいを楽しむためのスペース。大勢の親子に利用された。(Aスタジオ)
〈　〉みんなでダンス！ノッちゃって！おとっちゃって！	5月2～4 13:30～14:10 15:10～15:50	「こともの日」にちなんで、子どもたちによりスポットか当たるように工夫したプロクラム。身体全体を使ったまねっこ遊びのウォーミングアップから始め、次第にそれらが組み合わさり、知らず知らずのうちにダンスになっているという進行。最後は年齢ごとにステージにあかり、「こともの城」オリジナルソングにあわせて披露する。 (音楽ロビー)
〈　〉おんかくてあそぼう！カトカトコンサート	5月5・6 13:00～13:50 15:00～15:50	【こともの城】から生まれた、6人編成のハントの公演。劇場公演と違い、子どもたちそれぞれが音楽ロビーにある楽器を持って参加。リズム遊び、手遊び、タンス、民族楽器紹介、シャクリングなど多彩な内容を展開。 (音楽ロビー)
〈夏休み〉ゆったり親子のおんかく園	7月18～8月4 14:00～17:00	児童福祉週間(コールテンウェーク)特別期間と同じ。 (Aスタジオ)
〈　〉ストリートオルカンやってみよう！	7月18～8月31 12:15～13:00 16:30～17:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈　〉みんなであそぼう夏本番！どれみふぁプレミアム	7月18～8月13 13:15～13:50	歌遊び、リズム遊び、パネルシアター、タンスとハラエティに富んだ内容で実施。スタッフによる日替わりプロクラム。 (音楽ロビー)
〈　〉夏のこいっしょライフ！	7月18～8月13 11:30～12:00 15:00～15:30 8月14～31 11:30～12:00 14:05～14:35	ハント形式による弾き語り。歌の演奏は子どもたち、親子にとって、大変人気のあるプロクラムであることから、夏休み特別期間をとおして実施した。 (音楽ロビー)
〈　〉めずらし楽器にチャレンジ！	7月18～8月13 13:50～14:30 8月14～31 13:00～13:40 14:35～15:15	世界の民族楽器を紹介するコンサート。定番の楽器紹介に加え、「親子で作ろう手作り楽器のワークショップ」受講生による演奏も行った。8月14日からは「めずらし楽器にチャレンジ！スペシャル」。1日に2回、内容を変えて実施。宿題に役立ててもらおうと、期間前から演目の予定表を配布したり、参加者には楽器のイラストと解説を書いた「オリジナル楽器カイト」をプレゼントした。 (音楽ロビー)
〈夏休み〉Oshiro Band ミニライフ	7月18～8月13 13:00～13:15 14:45～15:00 16:00～16:30 8月14～31 13:50～14:05 15:20～15:50	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
〈 〃 〉 からくた楽器屋台	8月14～31 16時00～16時30	フライパンや空きひん、茶わん、スプーンなど身の回りにあるもので音楽を演奏する。屋台風のワコンにたくさんのかくた（楽器！？）を乗せて、スタッフかお店屋さん風におもしろおかしく紹介。演奏の後は子どもたちも実際に体験した。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 夏のエレキッズ コーナー	8月21～31 開館時間中	子ども用のエレキトラムセット、エレキキター、エレキベースやシンセサイザーの体験コーナー。好きなように演奏しても、ステージで演奏するスタッフの演奏に合わせてもよし。自由に楽器にさわってもらう場を提供。対象は小学生以上。 (音楽ロビー)
〈冬休み〉 わいわいスタジオ クリスマススペシャル	12月20・23 13時30～14時00 15時30～16時00	20日は、ピアノとパーカッションを中心とした〈フォノクスタイルクラス〉による「たのしムーチョ！ラテン音楽でクリスマス」。子どもたちが知っている曲をラテン音楽風にアレンジして演奏。23日は「アカペラ クリスマスコンサート」。アニメソングやクリスマスソングをアカペラで静かに、時にはリスミカルに聞かせるコンサート。出演は、5人組の〈アイランス〉。 (Bスタジオ)
〈 〃 〉 うたってハッピー	12月26～28、 H22年1月3～7、9～11 11時30～12時00 13時00～13時30 14時40～15時00	平常期間と同じ。1月3日は11時30分の回はなし。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ストリートオルガンやってみよう！	〃 12時15～13時00 16時30～17時00	平常期間と同じ。1月3日は12時30分から。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 Oshiro Band ミニライブ	〃 13時00～13時15 14時45～15時00 16時00～16時30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 うたってファミリー	〃 13時15～14時00 15時00～15時45	家族でエントリーしてもらい、生ハントの演奏にあわせてステージで歌を披露。1回に8組の家族がエントリー。家族そろって出かけることの多い年末年始のプロクラムとして、大好評だった。AV事業部の協力で、館内テレビで生放送した。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 めずらし楽器にチャレンジ	〃 14時00～14時40	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ゆったり親子のおんかく園	H22年1月3～7、9～11 12時30～17時00	児童福祉週間（コールテンウイーク）特別期間と同じ。 (Aスタジオ)
〈春休み〉 うたってハッピー！	3月24～45 11時30～12時00 15時00～15時30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ストリートオルガンやってみよう！	〃 12時15～13時00 16時30～17時00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 Oshiro Band ミニライブ	〃 13時00～13時15 14時45～15時00 16時00～16時30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 つなげよう！友たち いっぱい春いっぱい！	〃 13時15～13時50	ブラジルのサンバ、和太鼓、インドネシアのカムラン、アフリカの太鼓など、いろいろなシャンブルの音楽を用いた音楽遊びで、「つなかり」を広げた。家族で楽しめる大型紙芝居、親子遊びなども実施。家族の「つなかり」、音楽ロビーに集まってきた人の「つなかり」と、「つなかり」を意識したプロクラム。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 めずらし楽器にチャレンジ	〃 13時50～14時30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ゆったり親子のおんかく園	3月20～45 12時30～17時00	児童福祉週間（コールテンウイーク）特別期間と同じ。 (Aスタジオ)

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
リズム・ムービング （人） 3～5歳児 (20)	（人） ① 10 ② 8 ③ 7	火曜日 15:30～16:20 (全 31 回)	身の回りのことからリズムを感じさせ、感覚を振り動かし、創造性をはぐくむ。コンカ、ホンコなどの打楽器、リズムやメロディー、ハーモニーを演奏できるオルフル楽器を使用。受講料= 1期 20,500円、2期 17,500円、3期 15,500円。	
リズム・ムービング ＆パーカッション （人） 小1～6 (15)	① 14 ② 10 ③ 7	火曜日 16:30～17:20 (全 31 回)	リズムによる自己表現を行う。さらに読譜力など、音楽的基礎力の理解、打楽器演奏法の導入、オルフル楽器を使った即興演奏をするなど一步踏み込んだ指導を行う。受講料= 1期 20,500円、2期 17,500円、3期 15,500円。	
みんなで楽しい リトミック I （組） 3歳児と親 (20)	（組） ① 20 ② 22 ③ 19	水曜日 14:00～15:00 (全 32 回)	子どもの発達段階に即したリズム遊び、歌遊び、簡単な造形活動をとおして親子のコミュニケーションをはかり、音楽を楽しむ心と豊かな感受性を養うことを目指している。受講料= 1期 19,000円、2期 20,500円、3期 15,500円。	
〃 II 4歳児と親 (20)	① 19 ② 19 ③ 19	水曜日 15:00～16:00 (全 32 回)	I(初級)でつちかってきた、感性や音に対する感受性を引き続き伸ばすよう心かけ、それぞれの成長の実際に合わせながら、個性豊かな発達をうながす。受講料= 1期 19,000円、2期 20,500円、3期 15,500円。	
〃 III 5歳児と親 (20)	① 20 ② 20 ③ 19	水曜日 16:00～17:00 (全 32 回)	就学を控えるころになると子どもの感受性も親離れが始まり、子どもたち同士の接触の機会が多くなる時期。ここでは音楽を楽しみながら、次のステップアップをめざす。受講料= 1期 19,000円、2期 20,500円、3期 15,500円。	
おんかく大好き ミュージック・パーク ～ダウン症児のための 楽しいリトミック I （人） タウン症の 2歳6ヶ月 ～6歳児と 親 (10)	① 10 ② 11 ③ 11	木曜日 15:00～16:15 (全 29 回)	タウン症児とその保護者を対象としたクラス。音楽を使って、無理なく楽しみながら療育の手助けをすることをめざす。また音楽での保護者の心身開放も目的の一つとして活動を行っている。 受講料= 1期 20,000円、2期 20,000円、3期 18,000円。	
〃 II I修了の 小1～6 (10)	① 10 ② 10 ③ 9	木曜日 16:30～17:45 (全 29 回)	Iのステップを修了した小学生を対象としたクラス。活動をとおし、親からの自立、表現能力、運動能力の発達をうながす。 受講料= 1期 20,000円、2期 20,000円、3期 18,000円。	
和太鼓グループ （人） 小3～高3 (12)	（人） ① 11 ② 11 ③ 11	土曜日 14:30～15:30 (全 32 回)	湯島に伝わる「助六太鼓」のコース。大太鼓、中太鼓、締め太鼓の3種の大鼓を使って演奏する組み太鼓。口唱歌で指導している。 受講料= 1期 19,000円、2期 20,500円、3期 15,500円。	
レッツ・プレイ・ サンハ I ～演奏とステップ～ （人） 小1～3 (10)	① 7 ② 9 ③ 9	土曜日 13:00～14:00 (全 15 回)	低学年向け初級講座は、サンハ楽器を使った演奏と踊り(ステップ)を指導。“サンハ”をとおして、音楽の楽しさや仲間と演奏する楽しさ、音楽に合わせて身体を動かす楽しさを感じてもらう。受講料=各期 7,000円。	
レッツ・プレイ・ サンハ II （人） 小4～高3 (10)	① 16 ② 15 ③ 15	土曜日 15:30～17:00 (全 15 回)	ブラジルの独特的な打楽器を使い、サンハのリズムを楽しくアンサンブルするコース。対象年齢を引き上げたため、より高度で力強い演奏を展開している。 受講料=各期 7,000円。	
合唱講座 （人） 小1～4 (30)	① 36 ② 35 ③ 35	土曜日 14:00～15:30 (全 32 回)	遊ぶことをとおして、無理なく体を動かしたり、声を出したりすることを体験する。体全体で音楽を表現するユニークな合唱活動プログラム。 受講料= 1期 19,000円、2期 20,500円、3期 15,500円。	
こともの城 児童合唱団 I （人） 小2～3 (合唱講座 修了者・40)	① 50 ② 49 ③ 46	土曜日 15:30～17:30 (全 32 回)	音楽をとおし、協調性・創造性・幅広い知的好奇心を養い、豊かな音楽性を育てることを目的としている。合唱活動だけでなく野外活動、シンセサイザーやリズム楽器による合奏なども体験し、総合プログラムを開催。 受講料= 1期 19,000円、2期 20,500円、3期 15,500円。	
〃 II 小4～中3 (合唱講座 修了者・80)	① 131 ② 124 ③ 119	土曜日 17:00～19:00 (全 32 回)		

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
混声合唱 ～こどもに聞かせる おとなのコーラス～	(人) 高校生以上 (40)	(人) ① 78 ② 75 ③ 74	土曜日 19:30～21:00 (全32回)	子どもたちに、豊かな音楽や表現のすばらしさを伝えることをめざし、合唱を楽しんでいる。メンバーは高校生から社会人と幅広く、コンサートや合宿などのときは、「こどもの城児童合唱団」と活動をともにしている。 受講料=1期 19,000円、2期 20,500円、3期 15,500円。
三味線A（初心者）	小2～高3 (12)	① 8 ② 9 ③ 6	日曜日 10:00～11:30 (全32回)	初心者にも取り組みやすく工夫したカリキュラムで実施している。年度末にはBスタジオで一般来館児・者に向けてコンサートを行った。受講生による来館児・者への体験コーナーも好評。 受講料=1期 19,000円、2期 20,500円、3期 15,500円。
〃 B（経験者）	小2～高3 (12)	① 8 ② 8 ③ 8	日曜日 11:30～12:45 (全32回)	
カムラン講座	小1～高3 (15)	① 9 ② 6 ③ 5	日曜日 13:30～15:00 (全32回)	インドネシアの青銅の打楽器アンサンブル「カムラン」の初心者と継続者のクラス。打楽器の合奏音楽なので、初心者とヘテランかすぐに合奏を楽しむことができる。受講料=1期 19,000円、2期 20,500円、3期 15,500円。

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
おんかく星みつけ た～就園前のリト ミック～	(組) 2歳児と親 (30)	(組) ① 32 ② 35 ③ 28	木曜日 10:30～11:30 (1・2期10回、3期9回)	就園前の幼児と保護者が対象で、リズム遊びを中心に、造形活動や身体表現なども取り入れた活動を行っている。親子でスキンシップをしながら楽しく音楽と遊べることをめざす。受講料=1・2期 17,000円、3期 15,500円。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏 休 み アフリカ・セネ カルの太鼓 “シェンヘ”	(人) 小1～高3 ×小4以上は 子どもたけて の参加も可 (計 120)	(人) 計 106	8/11、16、23、29 13:00～16:00	「講義」+「製作」+「合奏」のワークショップ。子どもが演奏しやすい小型のシェンヘを作った。セネカル出身のパーカッショニスト、ワカン・ンシャエロースさんによる合奏指導も前年度以上の白熱ぶりであった。9年目を迎えた大人気プログラム。受講料=親子ペア 9,800円、子どものみ 4,900円。(Bスタジオ)
親 子 て 作 ろ う！ 手 作 り 楽 器 の ワ ー ク シ ョ ッ プ 竹のリコーダー “スリン”	〃 (計 50)	計 50	8/13、21 13:00～16:00	インドネシアの6穴のたて笛・スリンは、インドネシアの多くの地域で演奏され、シャワ島のカムラン音楽にも使われている。細い棒を竹筒の中でスライドさせて鳥の鳴き声をまねできる、スライドホイノスルも製作。8年目のプログラム。受講料=親子ペア 5,800円、子どものみ 2,900円。(Bスタジオ)
竹の木琴？ “カンハン”	〃 (計 48)	計 48	8/15、25 13:00～16:00	シャワ島のカンハンは、木琴に似た竹製の楽器。トレミファの聞きなれた音階と独特な民族音階の両方が楽しめる。 受講料=親子ペア 9,800円、子どものみ 4,900円。(Bスタジオ)
竹のハントヘル “アンクルン”	〃 (30)	7	8/22 13:00～16:00	‘竹のハントヘル’ともいわれ、多人数で演奏するほど魅力を發揮する楽器。完成したアンクルンを持って、スタジオ内で演奏(発表会)を行い、保護者に披露。受講料=親子ペア 5,800円、子どものみ 2,900円。(Bスタジオ)
BIG アンクルン	(組) 小1～高3 の親子ペア (6)	(組) 1	8/22 11:00～16:00	8台1オクターフを親子2人で作るコース。作りなれて楽しそうに作業する親子は、職人顔負けであった。本年度は、「アンクルン」と「BIG アンクルン」の講座を同日に実施した。受講料=親子ペア 15,000円。(Bスタジオ)
リピーターのた めの もっとやりた い“シェンヘ”	(人) 小1～高3 ×小4以上は 子どもたけて の参加も可 (20)	(人) 20	8/30 13:00～16:00	[こどもの城] のワークショップでシェンヘを作った人を対象としたコース。「マイ・シェンヘ」を持参し、ワカン・ンシャエロースさんのパワフルな指導で、演奏技術を高める。質問コーナーを設けるなど、講師と親睦をはかりながら進めた。受講料=親子ペア 5,000円、子どものみ 2,500円。(Bスタジオ)

名 称		対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏 休 み 音 楽 体 験 ワ ー ク シ ョ ッ プ	Dance カ [E] プロジェクト Vol 3	(人) 小2～6 (15)	(人) 15	8 6 8 7 10 30～16 00 10 30～15 30	本年度も 2 日間コース。オリジナルの曲にヒノブホノブを基調とした振り付けて、子どもたちが考えた振りも取り入れた。7 日には、音楽ロビーのステージで、生ハントをハックに来館児・者に向けて練習の成果を披露。受講料=2 500 円。 (A スタジオほか)
ふれよう世界の音楽 サンハ・フルシリル	小1～高3 ×小4以上は子どもたけでの参加も可 (20)	7	8 18	13 00～15 00	世界の音楽を親子で気軽に楽しんでもらう半日講座。打楽器の合奏音楽なので、初心者も楽しむことができる。楽器ごとに、3つのリズムパターンを練習して、合奏を楽しめた。受講料=親子ペア 4 000 円、子ども 2,000 円。 (B スタジオ)
〃 ハリ島のカムラン	〃 (20)	13	8 19	13 00～15 00	世界の音楽を親子で気軽に楽しんでもらう半日講座。指導は、インドネシア・ハリ島出身のプトウ・クテ・スティアワンさん。ハリ島の手作りお菓子を試食する場面も。受講料=親子ペア 4,000 円、子ども 2 000 円。 (B スタジオ)
子どものための『三味線』体験ワークショップ Vol 1	小2～高3 (計 30)	40	6 21	13 30～14 45 15 30～16 45	初めて三味線にふれる児童 生徒を対象。楽器の持ち方、音の鳴らし方からはじめ、三味線の仕組みの説明、講師の模範演奏なども取り入れた。事前予約はすぐに満員になり、定員枠を拡大して実施。75 分という長時間にもかかわらず、熱心に三味線の練習を行っていた。講師は、秀島いつみさん(こともの城三味線講座講師・長唄東音会)。受講料=無料。 (B スタジオ)
子どものための『三味線』体験ワークショップ Vol.2	小2・3 小4～高3 (各 12)	14 6	10 12 13 30～14 45	10 30～11 45 13 30～14 45	三味線体験ワークショップの第 2 弾。大好評につき 2 回目を実施。内容は前回と同じ。年齢による進度の差を考慮して「小2・3」「小4～」の年齢別で実施した。「小4～」の回では曲数も多く体験でき、講師の説明も高度な内容となった。年齢を分けたことは大変良い結果を生んだ。講師は、秀島いつみさん(こともの城三味線講座講師・長唄東音会)。受講料=無料。 (B スタジオ)
大人のための『三味線』体験ワークショップ	小学校教員・児童厚生員など (各 10)	6 6	8 24	10 00～13 00 14 00～17 00	小学校の音楽教育の指導内容に「和楽器」を取り入れられているか、現場ではまた敷居の高い楽器であり、指導は手探りの状態が続いている。なかても三味線は「興味はあるが指導までは」という声が多い。そこで、小学校教員、児童厚生員など、児童福祉・教育関係に携わる人を対象に、現場で生かせる内容—「三味線の基礎知識・演奏方法」「子どもたちへの指導方法」「授業への導入方法」のワークショップを開催した。各回とも受講者座談会・講師への質疑応答を実施。楽器の購入方法から指導方法、曲の選び方まで活発な意見交換が行われた。講師は、秀島いつみさん(こともの城三味線講座講師・長唄東音会)。受講料=3,500 円。 (B スタジオ)

3. その他

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
こともの城児童合唱団 夏季合宿 (北海道)	8 3～8	25 回目の合宿公演地に選んだのは、北海道。帯広からスタートし、中標津、津別と道東 3 地域で 3 公演を行った。帯広では、作曲家のクニ河内さんとのショイント。中標津と津別では、地元の児童館の子どもたちとの交流公演や親睦会を行い、新たな出会いの場を広げた。
こともたちからのサウントメッセージ～合唱団、みんなで楽しいリトミック、おんかく大好きミュージックパーク合同コンサート	H22 3 13・14	合唱講座、合唱団 I・II、混声合唱の 270 人が出演する「心からありがとう」(3 月 13 日 14 時と 17 時、14 日の 17 時 30 分)、合唱講座、合唱団 I・II、混声合唱、おかあさんもいっしょリトミック I・II・III、おんかく大好きミュージックパークの 320 人が出演する「みんな音楽家」(14 日 13 時と 15 時)のコンサートを行った。 (青山円形劇場)

AV (オーディオ・ ビジュアル) 事業部



平成 21 年度の活動

1. はじめに

昨今、映像は技術の進歩とともに、我々の身近になくてはならないメディアとして定着してきた。

AV（オーディオビジュアル）事業部では、映像を〈みる〉〈しる〉〈つくる〉という直接的に活用するプログラムとともに、〈あそぶ〉という間接的に活用するプログラム開発にも力を入れてきた。

〈みる〉活動としては「ビデオライブラリー」の視聴活動や「子どもの城映画劇場」「おもしろビデオ館」といった上映プログラムがある。「ビデオライブラリー」には常時 22,000 タイトルの映像作品があり、各々が見たい作品をベース（小部屋）で鑑賞することができる。「子どもの城映画劇場」「おもしろビデオ館」では、スタッフが厳選した作品を上映している。〈しる〉〈つくる〉活動としては、「不思議な映像実験室」「アニメフェスタ」といったワークショップや体験プログラムがある。「不思議な映像実験室」では、映像が動いて見える仕組みを視覚がん具を使って分かりやすく体験できる。「アニメフェスタ」では、もう一歩踏み込んで、実際にアニメーション作りを体験できる。

〈あそぶ〉活動として何があげられるかというと、まずは「なかよし映像広場」がある。基本的には進行役のスタッフが、子どもたちに遊びを提供するものだが、映像を補完的に使用することによってイメージの共有・分りやすさを得ることができる。もう 1 つは「キャッスルクエスト」である。ロールプレイの要素を取り入れた参加型のゲームの最終場面で、強敵との一騎打ちの際に、悪役の映像をスクリーンに投影することによって、臨場

感や世界観の演出といった効果を得ることができる。

映像そのものをプログラムの柱に使えるのではなく、遊びのなかに、いかに映像を取り入れて行くかという方向性も、これからますます重要になってくると考えている。

2. ビデオライブラリ一年間特集 「妖怪ライブラリー」

（ア）事業構想と水木プロダクションとのタイアップ

ビデオライブラリーは、22,000 タイトル以上の映像作品を所蔵する“ビデオの図書館”である。ここでは視聴促進の一環として、春休みや夏休みなどの特別期間ごとにさまざまな特集を組んでいる。

本年度は、多くのリピーターの獲得を目的に、年間をおとしたテーマを設定し、大特集「妖怪ライブラリー」を実施した。



妖怪ライブラリー

“目に見えない不思議な世界との出会い”を目的に、子どもたちに人気のある“お化け”や“妖怪”をテーマとした。実施にあたっては、『ゲゲゲの鬼太郎』『悪魔くん』などで著名な、漫画家の水木しげる氏(水木プロ)とタイアップした。水木氏の代表作『ゲゲゲの鬼太郎』は、1960年代から何度も映像化され、幅広い年齢層(三世代)に、そして男女を問わずに人気がある。また自他共に認める「妖怪」の第一人者であり、氏の描く妖怪の世界観には、えもいわれぬ存在感がある。

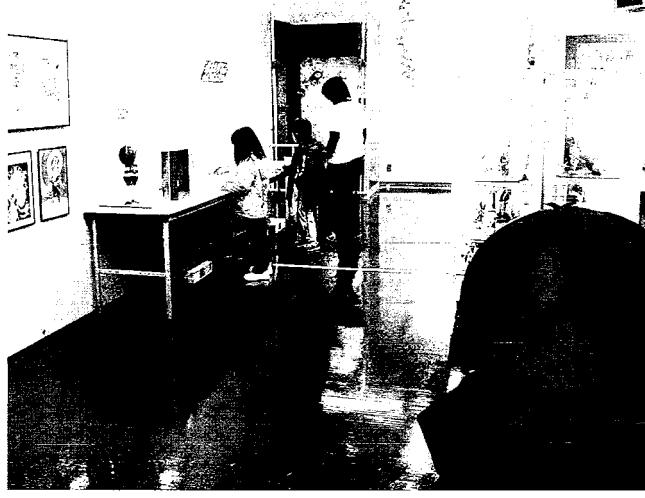
(イ) 事業内容と特別期間ごとのプログラム特色

本特集では、以下の3点に着目してプログラムを組んだ。**〈見る〉〈触れる〉〈遊ぶ〉**である。

まずは**〈見る〉**。目で見て楽しむことである。視聴促進が目的なので、所蔵の水木作品をカタログ化し、新たに特集に合った作品をそろえた。また、水木氏の描く妖怪を集め「妖怪絵巻」として、パネル展示した。併せて複製原画や解剖図、フィギュアなども展示了。

次に**〈触れる〉**。目に見えない妖怪にいかに触れさせ、感じさせるかということである。例えば、妖怪の等身大パネルを作成し、実際に触れたり、背比べができるようになるなど、より身近に感じられる形にした。「ぬりかべ」の立像は、「本物?」と感じられるよう、質感にこだわり、精巧なものにした。子どもたちは、目を輝かせてのぞきこんだり、親のうしろに隠れて見たり、怖くて泣いてしまったりと、さまざまな反応をしていた。また、試着できる鬼太郎の衣装(ちゃんちゃんこや下駄)も用意した。

最後に**〈遊ぶ〉**。子どもたちが実際に頭で考え、体を動かし、積極的に楽しむことである。AV事業部の特性を生かしたプログラムを組んだ。各種の自主開発パソコンゲームや、映像を使って遊ぶプログラムなどである。個々に遊べるものだけではなく、スタッフがかかわり、



妖怪ライブラリー

集団で遊べるプログラム開発にもこだわった。

特集の第1章「妖怪にお会い！」は、前年度末の春休み特別期間(平成21年3月25日～4月5日)に開催。日本の妖怪を都道府県ごとに紹介した。妖怪に興味を持つきっかけ作りと、身近に感じてもらうことを大切にした。

ゴールデンウイーク(児童福祉週間)特別期間には、『ゲゲゲの鬼太郎』の「ねずみ男」をメインキャラクターに、「ねずみ男から学ぶ妖怪学」をテーマにして、妖怪をより深く知ることができる特集—第2章「妖怪博士になろう！」を組んだ。この段階で、多くのリピーターを獲得することができた。

夏休み特別期間は、リピーターも、初めて来た子どもたちも、同様に楽しめる内容の展開が課題となつた。メインキャラクターは、いちばん人気のある「鬼太郎」にして、第3章「夏だ！お化けだ！妖怪フェスタ」を開催。常設の展示コーナーに「ぬりかべ」を追加し、雰囲気もより良いものとなつた。

夏は“お化け”や“妖怪”的季節であると同時に、夏休み特別期間が長期間になるため、期間中は内容をひんぱんにリニューアルした。お盆時期には、「盆っ！」と登場！『ゲゲゲの鬼太郎』。2つの特別プログラムを実施した。1つは、スクリーンに映し出された映像を見ながら遊ぶ体験型プログラム「恐怖！妖怪の館！」。通常の映像遊びは乳幼児が中心だが、親子で楽しめる内容にし、対象年齢を小学校低学年程度まで引き上げた。実際、幅広い年齢層の子どもや親子が参加してくれた。

もう1つは、「鬼太郎」の着ぐるみと記念写真が撮れる「妖怪カメラでゲゲゲのゲ」。着ぐるみは、水木しげる記念館のある鳥取県と提携し、借用した。専用スタジオによる臨場感の演出や、写真の仕様にも趣向を凝らした。終盤には、「変身！妖怪メイクをやってみよう！」を行い、映画などで使用される血糊などを用意し、妖怪に変身した。

秋のフェスティバルでは、“秋まつり”的要素をおりこんで、第4章「復活！妖怪祭！」を実施した。

11月のファミリー月間では、場所をビデオライブラリーからフリーホールに移し、集大成の特集展示—第5章「ゲゲゲの鬼太郎と仲間たち」を実施。新たなパネルやパソコンゲームなども加えた。また、水木プロの協力により、水木しげる氏ご本人から子どもたちへ向けたメッセージも頂き、会場のパンフレットで紹介した。あわせて、鳥取県および境港市とのタイアップ事業も実施した。

冬休み特別期間の「お正月スペシャル2010年！鬼太郎ちゃんちゃんこ年！」は、ファミリー月間と同様に大

なかよし映像広場



特集を実施。最大規模の展示を行った。ギャラリーの広いスペースを有効活用し、すみすみまで楽しめる仕様にした。子どもたちとの遊びにも、新たに「妖怪カルタ大会」などを加えた。

(ウ) 「妖怪ライブラリー」から今後の事業展開へ

ビデオライブラリーの“特集”における、通年のテーマ設定は久しぶりであった。新鮮な内容を心がけると同時に、リピーターをも獲得するという両面からの展開であったので、困難も多く感じた。試行錯誤の連続であつたか、テーマをいかなる形で子どもたちに提供するかを考え続けたことによって、多くのことを得ることができた。

季節や実施場所の特徴を生かすこと、現場での創意工夫は当然として、1年という長丁場を乗り切る上で、早期から特集の年間計画をしっかり立てることが、より重要なと感じた。今回は、従来のパターンにとらわれないことで、これまでに無い“特集”的展開ができた。今後も、この実績を生かしたいと思う。

最後に、特定のキャラクターを中心に、年間特集を組んだのは初めてのことであり、水木プロの全面協力が得られたことは幸いだった。三世代か知る“お化け”や“妖怪”的第一人者・水木しげる氏にかかわって頂けたことで、より説得力のあるイベントか実施できたと思う。関係諸氏には感謝を申し上げたい。

3. その他の活動

(ア) アニメフェスタ 2009 vol.2

近年、〈つくる〉活動として視覚かん具を紹介するプログラム「不思議な映像実験室」を行ってきたが、よりアニメーションの制作体験に特化したプログラムとして「アニメフェスタ」を企画。これは、[こどもの城]開

こどもの城映画劇場



館直後の昭和61年(86年)～平成3年(91年)に実施していたプログラムをリニューアルしたものである。

撮影体験の題材として、[こどもの城] フィルム・コレクション「武藤行雄記念文庫」に収蔵しているカナダのアニメーションで使われている技法をとりあげた。手芸用のビーズを使ったアニメ撮影や、マトリオスカ人形を使ったアニメ撮影、切り紙アニメの撮影などを体験するコーナーをつくった。

また、パソコンでの撮影体験が難しい年齢の子とも向けて、円盤にアニメーションを描くコーナーを併設。円盤アニメーションというのは、動く絵を見る視覚かん具の「驚き盤」—動画(少しづつ変化していく絵)を描いた円盤と、円周上にスリットを開けた円盤を組み合わせて、動画を動かして見る視覚かん具をアレンシしたものである。円盤にスリットをあける工程は、小さい子どもには難しいため、この工程を省略し、ビデオカメラと一定速度で回転する撮影台を組み合わせて動画を動かす装置を制作。また、自分でアニメーションを描くのが難しい年齢の子ども向けて、ぬり絵の用紙も多数用意した。

今後、撮影体験のバリエーションを増やしたり、アニメーションについて理解を深める展示を追加して、内容を充実させていきたい。

(イ) サタデーラボラトリーまつり

夏休み特別期間の小学生プログラムスペシャルとして実施。日替りのプログラムに加え、ピンホールカメラ作りを毎日行った。

本年度は、7月22日に日食があるということで、前日の7月21日に、太陽をテーマにしたプログラムを実施した。21日実施の「分光器」は、CDやDVDの表面で光が虹色に反射することを利用したもので、太陽光などのスペクトル成分を観察することができる。

ピンホールカメラもこの日は特別版とし、太陽を見ることができるよう改良を加えた。望遠型への変更のため、映像の映るスクリーンとピンホールの部分の距離を延長する約36cmのチューブを作成。これによって、写る像が大きくなり、太陽を見る的程度に暗くなる。また、針穴も通常よりも小さめにすることで、明るさをおさえた。延長チューブは取り外しができ、通常のピンホールカメラにもなる。

(ウ) 映像教材「不思議な映像実験室」などのDVD化

こともの城オリジナル教材として『みる・しる・つくるアニメーション・キット』と『不思議な映像実験室』という2つのビデオソフトを販売している。

『みる・しる・つくる アニメーション・キット』は、短編アニメーション作品を収録したもので、視覚がん具の工作集「つくるキット」と、アニメーション制作を解説した本「しるキット」とのセットになった、子ども向けのアニメーション体験キットとして販売している。

『不思議な映像実験室』は教員・指導者向けの映像教材で、[こともの城]で行ってきた視覚がん具のワークショップの記録映画。

これまで2つのソフトはVHSで販売してきたが、近年、DVDが主流となってきたため、両タイトルのDVD化をはかった。DVD化にあたって、両ソフトの内容をより充実させるため、特典映像を追加することとした。

『みる・しる・つくるアニメーション・キット』には、収録したアニメーション作品のメイキング映像、アニメーション撮影スタンドについて解説した映像、キットの完成記念イベント風景の3作品を収録。また、「しるキット」を本の形から、DVDディスクのなかに、パソコンなどで閲覧できるPDFファイルと、テレビで見ることのできるスライドショーに変換して収録した。

『不思議な映像実験室』の特典映像には、[こともの城]でワークショップを実施する時に上映している、各種視覚がん具の作り方を説明する映像のほか、平成7年(95年)に映画発明100年を記念して製作した『ハルーンヘッド』とそのメイキング映像も併せて収録した。この作品は、ジョルシュ・メリエスの『ゴム頭の男』をヒントに、映画の発達を簡単に紹介した短編映画。映画の歴史を紹介した内容なので、本編の内容を補足する意味で収録した。

両タイトルとも、本来であれば業者にプレスを依頼するDVDとして販売したいところだが、年間の出荷数もそれほど多くないため、パソコンで焼き込むDVD-Rでの提供となっている。

春休み特別期間には、『みる・しる・つくるアニメーション・キット』のDVD化をPRする目的もあって、「アニメーションキット」の構想・制作を手掛けた、アニメーション作家・山村浩二さんの作品を特集上映した。

4.まとめ

本年度は、従来のプログラムに改良を加えて、内容を向上させるマイナー・チェンジに努めた年であったか、新規の活動も積極的に展開した。特に「妖怪ライブラリー」は、外部との提携による展示やイベントを行うことによって、来館児・者にビデオ・ライブラリーの視聴を促し、その存在をより認知させる効果をもたらした。

前年度から始めた、乳児・幼児とその保護者を対象とした新しいプログラムも「なかよし映像広場」と改題し、毎月1回定期的に実施することで軌道に乗ってきた。この活動は、親子の参加者がイメージを共有し、遊びをふくらませていく目的で映像を使うというアプローチであり、今後の展開次第によっては新しい遊びの広がりをもたらすと考えられる。

小学校では、改訂された学習指導要領にそって、視覚がん具や映像を作る活動に取り組む例が増加している。また、子どもを対象としたイベントで、アニメ作りのワークショップが実施される傾向も高まっている。このような取り組みが一般的になっていくと、これらといいかに差別化をはかるかが、AV事業部の映像やアニメ作りのプログラムの要になる。

[こともの城]の遊びのプログラムは、企画・立案したスタッフが実行までの準備を行い、実際の活動では子どもたちと対面してプログラムを実施している。子どもたちの反応を直接に体感でき、進行の不備や内容の問題点をその場で発見できる。そして直ちに問題点の改善に取り組むことができるので、常に継続して質を高めていくことが可能である。

子どもを対象としたプログラムの開発と実施が、じっくりとできる[こともの城]のような場は、ほかにはないのではないか。これこそが来館児・者に対する[こともの城]の魅力になると思う。

平成21年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
ヒテオライブラリー 自由利用	開館時間中	趣味、教養、娯楽、スポーツ、アニメなど、幅広いジャンルにわたるヒテオソフトを22000タイトル以上所蔵するヒテオの図書館。利用者は、ヒテオライブラリー内に設置された35のブース(小部屋)で好みのソフトを視聴できる。 (ヒテオライブラリー)
親子のZOOっと広場	火～金曜日 12:30～17:00	ヒテオライブラリーの一角に設置してある、乳幼児のコーナー。木のおもちゃやぬいぐるみ、絵本などで親子が自由に遊べる広場。 (ヒテオライブラリー)
おもしろヒテオ館	金曜日 15:30～16:00	ヒテオライブラリーにある上映可能なヒテオソフトから、テーマを決めて選び、上映。作品に興味を持ってもらうため、上映のあとに手作りの絵本を作っている。 (Bスタジオ)
なかよし映像広場	金曜日 13:30～14:00 (月1回)	乳幼児親子を対象とした映像遊びのプログラム。色や光の照明を使った遊び、スクリーンに写し出される映像を見ながらまねっこする遊び、手遊びなどを実施。 (Bスタジオ)
サタデーラホラトリー	土曜日 13:00～16:00 (受付時間)	小学生～高校生を対象とした、身近な不思議を体験するプログラム。クラフト、科学遊び、映像遊びなどを週替わりで実施。同一プログラムでも改良を加え、内容の向上をはかっている。プレイ事業部と共に催す。 (プレイホールほか)
不思議な映像実験室	土曜日 15:30～17:30	2枚の絵を描いて作るアニメおもちゃ「くるくるアニメ」と、表と裏の絵が重なって見える「ソーマトロープ」を実施。ホランティアスタッフによる簡単な視覚かん具の展示コーナーも併設。 (音楽ロビー)
不思議な映像実験室	日曜日・祝日(月1・2回) 11:00～17:30	映画説明以前からあった、絵が動いて見えるおもちゃ(視覚かん具)の展示とワークショップを行った。展示と幼児向けの「くるくるアニメ」コーナーは、随時参加できるようになっている。ワークショップは、時間枠を決めて実施。「ソーマトロープ」(11時30分～12時30分)、「フィルムに絵を描こう」(13時30分～14時30分)、「ばたばたアニメをつくろう」(15時30分～16時30分)を実施した。 (Bスタジオ)
こともの城映画劇場 カナダのアニメーション	日曜日・祝日(月1・2回) 11:35、13:35、14:35、15:35	フィルム・コレクション「武藤行雄記念文庫」収蔵のNFBCのアニメーション作品を上映。 (Bスタジオ)
館内放送テレビ中継録画	日曜日・祝日、特別期間 開館時間中	Bスタジオで実施される音楽事業部担当「わいわいスタジオ」などを館内のテレビへ中継および録画。特別期間には、「ことも活動エリア」の催し物案内を中心とした映像情報の作成・送出も行った。 (Bスタジオ・映像調整室)
GO! GO! ウィークル (第38～42回)	4.11・12(第38回) 6.6・7(第39回) 9.12・13(第40回) 12.5・6(第41回) H22.1.9～11(第42回)	電車や車のおもちゃで遊べるコーナー。本年度は、ヒテオライブラリーの年間特集「妖怪ライブラリー」にあわせて、鬼太郎電車などを走らせたり、妖怪ペーパークラフトを作ることでできる「妖怪ハーシヨン」として実施。第39回は「ことも鉄道模型運転会」で、Nゲージの鉄道模型の運転もできる拡大ハーシヨン。その他の回は、主にプラレールで遊べるミニハーシヨン。 (フリーホール)
〈秋のフェスティバル〉 お城TVスタジオ	9.19～23 開館時間中	「お天気コーナー」「ニュースキャスター体験コーナー」を実施。ニュースキャスターは、常時体験できるコーナーに加えて、11時、13時30分、15時30分の3回(各30分)、「私のニュース」を録画する時間を設けた。録画した映像は、館内テレビ網で放送。録画には、これまでハートディスクレコーダーを使用していたか、今回はパソコンを使用。しゃへり間違いなどを、その場で編集できるようにした。 (Bスタジオ)
〈〃〉 ヒテオライブラリー特集 妖怪ライブラリー第4章 復活! 妖怪祭!	9.19～23 開館時間中	「妖怪」(おはけや怖い話など)にちなんだヒテオの視聴促進のための年間特集「妖怪ライブラリー」第4弾。「ケケケの鬼太郎」「悪魔くん」と水木しげる作品を中心に特集。パネルやシオラマの展示、映像を使った「妖怪ゲーム」などを設置。(株)水木プロから原画(複製)を借用して展示した。 (ヒテオライブラリー)

名 称	日 時	内 容
〈秋のフェスティバル〉 こともの城の秋まつり 「屋上映画上映会」	9 21・22	秋まつりのイヘントの一つとして、屋上ふしきが丘からヒテオライブラリー・造形スタジオの壁面につるした白いシートに 16mm 映画の上映を行った。 (屋上ふしきが丘)
〈ファミリー月間〉 おもしろヒテオ館&なかよし映像広場スペシャル	11 1・3 開館時間中	金曜日の定例プロクラムのスペシャル版。親子で楽しめるアニメーション作品の上映(11時 30 分と 14 時 30 分)と映像遊び(13 時 30 分と 15 時 30 分)を行った。手作り絵本のコーナーは常設。 (B スタジオ)
〈 〃 〉 こともの城映画劇場 カナダのアニメーション	11 8 11 35、13 35、14 35、15 35	「こともの城ファミリー月間」に合わせて、家族をテーマにした作品と特集。ロシアの民芸品・マトリオスカ人形で家族を表現した『マトリオスカ』、義理の父親の暴力から逃れるために家出をしてしまう少年を描いた『ショナスとリサ』、ホームレスの少女が温かい家庭に迎えられる『マリアに家族を』の 3 作品を上映。 (B スタジオ)
〈 〃 〉 ヒテオライブラリー特集 妖怪ライブラリー第 5 章 ケケケの鬼太郎と仲間たち	11 19～23 開館時間中	年間特集の第 5 弾。春休み特別期間から実施してきた特集の総決算として実施。『ケケケの鬼太郎』『悪魔くん』など水木しげる作品を中心に特集。パネルやシオラマの展示、映像を使った「妖怪ゲーム」などを設置。(株)水木プロから原画(複製)やフィキュアを借用して展示した。 (ヒテオライブラリー)
〈トルッチャワールト〉 トルッチャニュース	H22 1 23・24	全館プロクラム「トルッチャワールト」のなかで、子どもたちかニュース番組を制作した。準備期間から他のチームの活動を取材し、当日の遊びのコーナーを取材した映像とともに、ニュース番組として館内テレビ網をとおして放送。 (プレイホール)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 ヒテオライブラリー特集 妖怪ライブラリー第 2 章 妖怪博士になろう！	4 29～5 6 開館時間中	前年度の春休み特別期間から始めた、「妖怪（おはけや怖い話など）にちなんだ視聴促進のための年間特集「妖怪ライブラリー」」の第 2 弾。『ケケケの鬼太郎』『悪魔くん』など水木しげる作品を中心に特集。パネルやシオラマの展示、映像を使った「妖怪ゲーム」などを設置。(株)水木プロから原画(複製)を借用して展示した。 (ヒテオライブラリー)
〈 〃 〉 不思議な映像実験室	4 29 11 00～17 30	平常期間と同じ。 (B スタジオ)
〈 〃 〉 キヤッスルクエスト 2009 受けつかれし紋章	5 3～6	企画研修部とプレイ事業部のプロクラム。B スタジオが最終決戦会場となったため音響・照明などを担当した。 (B スタジオ)
〈夏休み〉 「アイスエイシ3 ティラノ のおとしもの」発見ゲーム	6 27～7 31 10 30～16 30	映画『アイスエイシ3』公開にともなうタイアップ事業。館内に設置したパソコンゲームを解きながら、隠されたカートを探し出すラリー形式のゲーム。(ヒテオライブラリーほか)
〈 〃 〉 ヒテオライブラリー特集 妖怪ライブラリー第 3 章 夏た！お化けた！ 妖怪フェスタ	7 18～8 31 開館時間中	年間特集「妖怪ライブラリー」の第 3 弾。『ケケケの鬼太郎』『悪魔くん』など水木しげる作品を中心に特集。パネルやシオラマの展示、映像を使った「妖怪ゲーム」などを設置。(株)水木プロから原画(複製)を借用して展示した。 (ヒテオライブラリーほか)
盆つ！と登場！ ケケケの鬼太郎	8 8～16	8 月 8・9 日はスクリーンを使った映像探検プロクラム「恐怖！妖怪の館！」(13 時 30 分、14 時 30 分、15 時 30 分／A スタジオ)。8 月 13～16 日は着くるみの鬼太郎と記念撮影ができる「妖怪メーラでケケケのケ」(13 時 30 分、15 時／ヒテオライブラリー)。期間中は、着くるみの鬼太郎のクリーティングを開催。
変身！妖怪メイクを やってみよう！	8 29～31	「変身！妖怪メイクをやってみよう！」を実施。 (ヒテオライブラリー)
〈 〃 〉 サタデーラホラトリーまつり	7 18～22	「驚き盤を作ろう」(18 日)、「進め！ポンポン船」(19 日)、「ニットに挑戦！ 金魚リン」(20 日)、「大陽をみよう！」(21 日)、「海の生き物 ちりめんモンスター」(22 日)に加え、「ピンホールカメラを作ろう」(18～22 日)を行った。また幼児コーナーとして、夏向けの絵柄の用紙を加えた「ソーマトロープ」を実施。 (B スタジオ)

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 アニメフェスタ 2009 vol 2	7月25～8月2、8月4～9月 11:00～17:30	円盤に描いた動画をヒテオカメラの特殊撮影モードでアニメにする「円盤アニメにチャレンジ」、パソコンを使ったアニメーション撮影体験コーナー、映画フィルムやアニメーションのセル画の展示などを行った。スタシオ奥では「夏休み映像・科学ワークショップ」を実施。 (Bスタシオ)
〈 〃 〉 不思議な映像実験室	8月11～23、25～31 11:00～17:30	映画発明以前からあった、絵が動いて見えるおもちゃ(視覚かん具)の展示と、「くるくるアニメ」コーナーを実施した。スタシオの奥では夏休み短期講習会を実施。(Aスタシオ)
〈冬休み〉 親子のZOOっと広場	12月26～28 11:30～16:00	平常期間に実施している「なかよし映像広場」の特別版。通常よりも広いスペースに広場を設置。映像を使った親子遊び「映像で遊ぼう」(14時30分)も実施。おもちゃを提供してもらっているプラントトイ社の新作おもちゃの展示も行った。(Aスタシオ)
〈 〃 〉 ヒテオライブラリー特集 妖怪ライブラリー お正月 スペシャル 2010年! 鬼 太郎ちゃんちゃんこ年!	H22年1月～7、1月9～11 開館時間中	年間特集の第6弾。お正月スペシャルとして大規模に実施。『ケケケの鬼太郎』『悪魔くん』など水木しげる作品を中心に特集。パネルやシオラマの展示、映像を使った「妖怪ゲーム」などを設置。お正月にちなんで、「妖怪カルタ大会」「妖怪スマートホール」なども実施。(水木プロから原画(複製)やフィギュアを借用して展示した。(ヒテオライブラリー)
〈 〃 〉 ひっくりヒテオ広場	H22年1月～7、1月9～11 11:00～17:30	ヒテオ機器を使った展示イヘント。動物の顔を自分の顔に合成した映像を楽しむ「動物変身ルーレット」、干支にちなんで『ちひくろサンボ』の最後の場面を再現した「ひっくりハター」など、ヒテオによる映像効果を楽しむ展示を行った。制作コーナーとして、赤と青のペンで描く「ひっくり赤青アニメ」を実施。(Bスタシオ)
〈春休み〉 時空図書館 春た!あ そぼう!戦国時代!	3月20～4月5日 開館時間中	“歴史”にちなんだヒテオの視聴促進のために特集「時空図書館」を実施。その第1弾。“戦国時代”をテーマに、戦国武将のパネル、家紋、年表や甲冑などを展示。映像を使った「戦国ゲーム」や、「戦国クイズ」なども実施した。(ヒテオライブラリー)
〈 〃 〉 こともの城映画劇場 山村浩二作品集	4月1～5日 11:30、13:30、14:30、15:30	[こともの城]のオリジナル教材「みる・しる・つくるアニメーション・キット」の映像作品のDVD化に合わせて、キットの総合的なデザインや収録作品制作を手かけたアニメーション作家の山村浩二さんの作品を特集上映。照明／音響をスタシオ内の映写台から遠隔操作できるようにして、省力化をはかった。(Bスタシオ)

2. 講座・クラブなど

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏 休 み 映 像 ・ 科 学	君もパパett アニメーター	(人) 小1～高3 (2日間、2回／日、計40)	(人) 計 40 ① 7月25・26 ② 10:30～12:30 ③ 14:00～16:00	紙コップをベースとした人形を作り、撮影ステーシに立てて、パソコンで撮影してアニメ作品を作る。資料集のDVDと冊子付き。受講料=2000円。 (Bスタシオ)
ワ ー ク シ ョ ッ プ	天体望遠鏡工 作教室	小3～高3 (3日間、2回／日、計72)	計 73 ① 7月28～30 ② 13:00～14:45 ③ 15:30～17:15	塩化ビニールパイプやホール紙など、身近な材料を使って天体観察用望遠鏡“マックロースコープ”を作る。受講料=2300円。 (Bスタシオ)
	ステレオ スコープ	小3～高3 (2日間、2回／日、計48)	計 28 ① 8月1・2 ② 13:00～15:00 ③ 15:30～17:30	立体写真を見るための器機 ステレオスコープ を作る。参加者本人の立体写真も作成。受講料=2300円。 (Aスタシオ)
	手作り映像おもちゃ 「映画のしくみを体験!」 キノーラ	小1～高3 (4日間、2回／日、計96)	計 24 ① 8月5～8 ② 13:00～14:30 ③ 15:30～17:00	ばらばらマンガを、アニメのように連続して見ることができる装置、キノーラを制作。装置を組み立て、15～30枚の動く絵を描いてセットする。受講料=2100円。 (Bスタシオ)

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休み映像・科学ワークショプ	手作り映像おもちゃ 「映画のしくみを体験!」 ヘルオシネクラフ	(人) 小1～高3 (2日間、2回／日、計48)	(人) 計 39 8月11・12 ① 12:30～14:00 ② 15:00～16:30	スリットのあいた円盤こしに、動画の描かれた円盤をのそくと、絵が動いて見える視覚かん具を制作。円盤はネジで固定してあるので、交換できる。受講料=2100円。 (Aスタジオ)
	いきもの図鑑	小1～高3 (3日間、2回／日、計72)	計 53 8月14～16 ① 12:30～14:30 ② 15:00～17:00	オリジナルペーパークラフトで いきもの を再現する。「ヘラクレスオオカブトムシ」を制作。「ノコキリクワカタ」「トノサマハッタ」「フルーモルフオチヨウ」などの、おまけ型紙付き。受講料=1800円。 (Aスタジオ)
	手作り映像おもちゃ 「映画のしくみを体験!」 プラクシノスコープ	小1～高3 (3日間、2回／日、計72)	計 75 8月21～23 ① 13:00～14:30 ② 15:30～17:00	映画が発明される前にあった視覚かん具、プラクシノスコープを制作。帯状の紙にアニメのように絵を描き、その絵を多面体の鏡に映して絵かアニメのように動いて見える映像おもちゃ作りを体験。材料費の高騰にともない、受講料を変更。受講料=2,500円。 (Aスタジオ)
ツブ	アニメーションキットを作ろう	小1～高3 (2日間、2回／日、計48)	計 20 8月29・30 ① 13:00～14:30 ② 15:30～17:00	売店で販売している「つくるキット」を組み立てる講座。工作か苦手な子どもも「つくるキット」を楽しめるよう、組み立ての難易度が高い「ゾートロープ」を中心に工作指導。受講料=2100円。 (Aスタジオ)

3. その他

〈映像記録〉

名 称	日 時	内 容
館内活動の記録	通年	講座などをヒテオ取材し、ソフト化して参加者に販売。体育事業部「母と子のすぐくらント」(Part 1～3)の3本。同作品はオリジナルソフトとしてヒデオライブラリーに登録。
館外活動の記録	夏休み、冬休み、春休みの各特別期間	【こともの城】の館外活動に同行してヒテオ取材、ソフト化して参加者に販売した。体育事業部「チャレンシキャンプ 2009」「スキースクール」(Part 1～1期、同一2期および Part 2)／プレイ事業部「ちひっこ冒険団 2009」「フェローシップキャンプ 2009」「ゆきんこ冒険団 2009」／企画研修部「シュニア・アウトドア・スクール 2009」「シュニアスプリングキャンプ 2010」。上記作品はオリジナルソフトとしてヒテオライブラリーに登録。視聴できる。
劇場公演の記録	通年	青山劇場・青山円形劇場の公演・講座発表会をヒテオ収録し、編集してヒテオライブラリーで公開。さらに一部を出演者などに販売。本年度は、青山劇場での収録は行わなかった。◎青山円形劇場=「こともの城マタニティ・コンサート」「こともの城・キリン ファミリーオペレッタ タントさんのふしきなレストラン」など6本。



君もパペットアニメーター

保育研究 開発部



平成 21 年度の活動

1. はじめに

本年度も“子ども家庭支援プログラム”を3つの事業に分けて行った。保育事業（「親子教室」「保育クラブ」「幼児グループ」）、一般来館児・者事業（「親子工房」「よちよちクラブ」「1・2歳の遊び場」）および研修事業（「保育セミナー」「家庭支援の理論と実践」「子育て支援のニュースレターの発行」）である。

さらに、前年度から全館事業の一つである乳幼児プログラム「ぽかぽか広場」にも携わった。

本年度は、「親子教室」で行った、親子が共に楽しめるプログラム〈片栗粉遊び〉、「保育クラブ」の2歳児、「保育クラブ」「幼児グループ」の3～5歳児と「幼児グループ」の〈絵本を題材にした集団遊び〉から、子どもや親の姿を紹介をする。

2. 保育事業の活動から

（ア）親子教室 〈片栗粉遊び〉

「親子教室」は、講座形式で行っている1歳児の親子を対象にした、子育て支援プログラム。親子遊びを中心に、小児科医師や臨床心理士などの専門家を交えて、ディスカッションを行ったり、親同士の交流・情報交換・意見交換などを含め、10回のプログラムで構成されている。うち4回は、父親も参加する家族プログラムとなっている。

1歳児がさまざまな感触（粉、どろどろ、粘土など。変化していく感触も含めて）を五感で感じ取れることから、身近な素材を使い家庭でも行えるもので、家族

が全員で楽しめるプログラムの一つとして、小麦粉粘土遊びを行っていた。しかし、本年度は受講者のなかに小麦粉アレルギーを持つ子どもがいたため、小麦粉の代わりとなる素材を探した結果、“片栗粉”を使ったプログラムを行うことにした。

万が一口に入れても安全で、加える水の量によって感触に変化があり、手に入れやすい素材ということで“片栗粉”を選んだ。その性質は、小麦粉とはまるで異なるため、従来とは全く違ったプログラムを試みることになった。小麦粉は、最終的に粘土という形になり、そこからまた新しい遊びが展開されていくが、片栗粉は粘土にはならない。しかし、粉の状態の感触や、水を入れた時の独特の手触りは、大人でもなかなか経験することのないものであったため、感触そのものをたっぷりと味わうことをプログラムの中心においた。

【片栗粉に触ってみる】

2家族で1組になり、約1kgの片栗粉を机の上に出し、特有のキュッキュッという手触りを楽しんだ。参加して



親子教室 〈片栗粉遊び〉

いる父親に、その感触を一言で表現してもらった。「キシキシ」「キュッキュッ」など、さまざまな言葉が出た。「気持ちが良いね」「ひんやりしているね」と、父母が言葉にして伝えることにより、子どもと体験を共有することができた。

料理に使うことがあっても、このように大量の片栗粉を扱うのは初めてという母親も多く、また父親も片栗粉そのものを触ったことがないと言い、大人自身も新鮮な気持ちで、サラサラの片栗粉を握っては子どもに手渡すなど、親子の交流も見られた。また、同じテーブルに着いた他の家族の子どもが、ダイナミックに粉を巻き上げると、ビックリしつつもその姿に思わず笑ったり、話がはずむなど、家族同士の会話を弾んでいた。

【片栗粉でおもちゃを作る】

小麦粉粘土のプログラムでは、作った粘土はお土産に持ち帰ることができた。しかし、片栗粉は粘土にはならないので、別な形で記念となり、おもちゃとして持ち帰って遊べるものを作った。ゴム風船のなかに片栗粉をつめて風船の口をしばり、目玉シールをつけたものを作った。押すとへこみ、しばらくその形のままになっている、不思議な感触の物体となる。簡単な作りのものではあるが、主に父親が苦戦しながらも一生懸命に風船に片栗粉を詰める姿がほほえましかった。

【片栗粉に水を入れた感触を楽しむ】

各家族に一枚のトレイを渡し、そのなかに片栗粉を入れてから水を加えていった。にぎると締まり、手を緩めるとトロリと流れていく不思議な現象に、子どもよりも大人がビックリして、じっくりとその手触りを味わっていた。

手が汚れるのが苦手な子どもも多い時期だが、父母につられて片栗粉を触る子どももあり、また透明カップに詰めたものを流して遊ぶ姿も見られた。片栗粉に水を加えた後は、大きな展開を敢えて設定せずに、ひたすらに感触を味わうだけではあったが、なかなか活動を切り上げることができないほど楽しんでいた。

【活動をとおして】

「親子教室」は“子育ての楽しさを再発見することをねらいにしている。家族そろって体験できるプログラムをとおして、親は我が子の笑顔を見ることができたり、父母も楽しかったという気持ちになる。「子どもと一緒にいると楽しい！」と親が思えば、子どももそれを敏感に感じ取り、互いの笑顔が増えていくのではないだろうか。

〈片栗粉遊び〉のプログラムは、小麦粉アレルギーの子どもにもできる活動として用意したが、実施してみると1歳児の子どもと親が、一緒に楽しく体験できるプロ

グラムであった。今後も、より良いプログラムとして改良していきたい。

(イ) 保育クラブ 〈絵本を題材にした集団遊び〉

「保育クラブ」は、会員制保育の形態をとっている。年齢によって保育時間の違いがあり、2歳児は3時間保育と4時間保育、3~5歳児は4時間保育と6時間保育を行っている。表現活動や運動活動、年間行事など、子どもが成長する上で経験してほしいものを、年齢に合わせて1年間かけて行っている。

1日の保育内容は、遊びの時間（自由遊び、テーマ活動）、給食、集まり。フリー利用保育などで利用する子どもたちも、安定して保育に参加できるように、ほぼ同じ時間の流れで保育を進めている。

本年度は、テーマ活動のなかから、「保育クラブ」2歳児と3~5歳児の〈絵本を題材にした集団遊び〉のプログラムを紹介する。

■ 2歳児の保育 ■

1日の定員が14人（定期利用保育児12人、フリー利用保育児2人）、月~金曜日の5日間保育を実施。曜日ごとに顔ぶれの違う子ども70人が、集団遊びの経験と身辺の自立を目的に保育を実施している。

家庭から離れて初めてさまざまな集団遊びと出会い、楽しさを知り始める時期なので、家庭では体験できないダイナミックな集団遊びを取り入れた。

【劇ごっこ】

〔こどもの城〕での生活が少し落ち着いた9月。子どもたちは互いの名前を呼び合ったり、遊びのなかで友だちとのかかわりを持てるようになってきた。そこで、集団遊びを楽しんでほしいと願い、共通のイメージを持って、遊びのなかでかかわりを持てないか、と“劇ごっこ”を考えた。作品は、ぽかぽかと温かみがあり、日常生活にも密着している絵本『もりのおふろ』（こどものとも：年少版／作・西村敏雄）を選んだ。

森の奥でお風呂がわいていて、そこにライオンを初めとして、ぞうやワニ、ぶたなどさまざまな動物がやってきて、車座になって背中を流し合い、最後に大きなお風呂に一緒に入り、「あーごくらく ごくらく いいきもち」と気持ちよさそうに温まるという話。

①お風呂ごっこ

初め、絵本に出てくるフレーズ「ごしごし しゅっしゅ ごしごし しゅっしゅ」という部分を、腕を動かしながら互いに顔を見合わせて遊んだ。次に役（動物）になって、互いの身体を洗って遊んだ。

恥ずかしくて参加しない子どももいた。はりきって出てきても、いざ前に来ると動けない子どもや、動物役は

苦手だがお姫様なら喜んで参加できる子どももいた。

②お風呂作り

運動用マットをお風呂に見立てた。保育者が絵本を見ながら「こんなお風呂がほしいなあ」と言い、「いいねえ」と子どもたちも賛同し、お風呂作りにかかった。

お風呂は、紙の筒に色を塗り、みんなが塗った筒をつなげて作った。4～7月に、砂場遊びや粘土などで手の感触をたくさん楽しんできたので、手のひらを使い自分たちで絵の具を混ぜることから始めた。緑・黄緑・橙のなかから好きな色を選び、抵抗もなく筒に色を塗ることができた。想像していたよりも大きなお風呂ができあがると、歓声よりもしっと見つめている子どもが多くかった。

③動物変身帽子作り（親子制作プログラム）

いよいよ変身のための帽子作り。土台は、身近なダンホール。三層になっているダンボールのすき間に、水を注ぎふやかすと、ペリペリと子どもたちでも簡単にはがすことができる。真ん中の波の部分は弱いので、上下のダンボールを、少し湿っている状態でくしゃくしゃに丸めると、柔らか味のある素材ができた。

帽子作りは、親子プログラムで行った。2歳児の活動では、親子で楽しんてほしいとのねらいのもとに、親子制作プログラムを年2・3回実施している。本年度はその一つに、帽子作りをあてた。

ダンホールの土台は、帽子のように上を結んでもいいし、お面のように切り取って使ってもいい。親子で話し合いながら自由に作ってもらった。子どもたちが変身したい動物やキャラクターをイメージして作る、ということは、実際にはかなり大変なようで、いろいろと試行錯誤している姿が見られた。

父親の参加は少なかったが、子どもの要求をきちんと聞いて作ってあげたい、という姿勢があった。母親は、他の母親たちと交流もしながら、子どもの要求にこたえたり、上手に母の思いを組み込んだり、子どもの作りたいように補助したりとさまざまだった。

土台以外の素材は、毛糸・綿・カラーチューブ・カラーペーパーである。ホンド・はさみ・両面テープを使って制作する。毛糸をくるくる丸めて目や口にしたり、動物の毛にしたり、カラーチューブをはさみで細かく切って牙や模様にしたり、波のダンホールを手で細長く切って頭につけたり、丸めて鼻にしたり——一つの素材いろいろな方法を考え出していた。時には、「待って!」「やだ!」。親子の意見が合わずに、互いに抵抗する場面もあったか、最終的には互いにとってより良い方法で作れたようだった。

見本がなく自由に作るという制作方法は、作ることに

2歳児の保育～劇ごっこ



苦手意識のある親には、少し苦痛に感じられたようだ。何度か親子制作プログラムを経験していくなかで、親子で制作をする力をつけてきたようだ。

仕上がりが近づいてくると、ウキウキしながら、子どもたちはさらにやる気を見せて、張り切っていた。てきあがり!と同時に、てきた帽子をかぶり、皆に見せて歩く姿はとてもうれしそうだ。

④劇ごっこ

帽子がてきあかると、「おふろごっこしよーよ！」。自慢の帽子をかぶって、みんなで作った“おふろ”を準備して、“もりのおふろ”的始まりである。始めてすぐのころは、参加できない子どもが何人もいたが、自分の思いで役を表現できることか分かると、遊びに入り込むようになってきた。いつも同じセリフ、動作ではなく、発想豊かに“お風呂ごっこ”に取り組んでいた。

【活動をとおして】

一つの“劇ごっこ”たが、何度も何度も繰り返していると、役になりきる子どもの姿は大人には想像できないほど柔軟で豊かだった。ピョンピョン跳んでさっそうと登場するうさぎ、消防車が体を洗うときにはワイパー、桃太郎は剣を持ちながらなど、遊びをとおして、さらに周りの友たちにも関心が向き、背中を洗う姿は自信にあふれていた。家のお風呂でも、「あーごくらく こくらく いいきもち」と言っていたそうだ。

集団遊びの経験をとおして、家庭から離れ友たちと遊ぶ時間を楽しむプログラムの一つとなった。

■3～5歳児の保育■

絵本をテーマに、自然を感じる活動をさまざまな視点から試みた。絵本をテーマにすることで、子どもたちは好奇心をかきたて、よりイメージを豊かにする。身近な生き物を観察し、触れ、表現することを、「保育クラブ」「幼児グループ」の異年齢混合保育で展開した。題材にしたのは、絵本『おたまじゅくしの101ちゃん』。

①おたまじやくしの飼育開始

5月初旬、おたまじやくしを子どもが持ってきたことをきっかけに、飼育を開始。広々とした飼育ケースを用意し「おたまじやくしのお家を作ろう」と子どもたちと一緒に、大・中・小の石のなかから小石を選んで敷きつめ、さらに、かえるになっても大丈夫なように大きな石も置いて、一緒にかえるの家を作った。

毎日様子を見ては、「先生！手がでてきたよ！」「かえるになっちゃってるよ！」。手や足が出てきて、かえるに変わっていく姿を皆で見ながら、身近な生き物をとおして交わす子どもたちとの会話を楽しんだ。

おたまじやくしの飼育をきっかけに、『おたまじやくしの 101 ちゃん』の絵本を読み始める。長いストーリーであるにもかかわらず、夢中になって聞き入る子どもたち。内容が子どもたちにとってとても身近で、3~5歳児まで楽しめるストーリーなので、この絵本をきっかけにさまざまな活動を展開した。

②ざりがにの飼育も開始

飼育を開始した当初は、ざりがにを捕まえられる子どもはほとんどおらず、初めはたった一人だった。特に水換え時は一苦労。「ざりがに、つかまえられない！」「そんな時は、S 君をよぼう！」「とうやって捕まえるの？教えて！」他の子どもはざりがにをつかまえることに毎日挑戦し、いつのまにか「幼児グループ」の4・5歳児は全員できるようになり、子どもたちの自信につながっていった。

「保育クラブ」の3歳児も、つかめるようになりたいな！と憧れ、じっと見ている姿は、年下の子が年上の子に影響される、異年齢保育の良さとなつた。

③『おたまじやくしの 101 ちゃん劇場』の始まり

「幼児グループ」の4・5歳児は、『おたまじやくしの 101 ちゃん』の世界を楽しみ、自由遊びのなかでも絵本に出てくる役やセリフを楽しむようになっていた。「保育クラブ」の3歳児も、自由遊びのなかで楽しそうに遊ぶ「幼児グループ」に影響を受けていった。

子どもたちの様子を見て、“劇遊び（表現遊び）”をしてみることにした。まず、わかりやすい“101 ちゃん（おたまじやくし）”から始めた。初めは、「幼児グループ」が自由遊びのなかで、子ども同士で相談しあいながら遊んでいたが、「保育クラブ」の3歳児も保育者と一緒に参加し、ストーリーが流れていった。

3~5歳児と一緒に遊んだ“おたまじやくしの 101 ちゃん劇場”では、お母さん役などになりきっている4・5歳児に、3歳児は引き込まれていた。絵本のなかのお母さんを困らせるシーンや泣くシーンは、子どもたちが身近に感じるシーンで、いちばん声が大きく、日々にい

ろいろいろなことを言いながら、楽しんでいた。

この“劇遊び（表現遊び）”では、「子どもの表現したい」と思う瞬間を待つことに重点を置いた。子どもたちにも「何をやってもいい」「自分たちの体はいろいろな動きをすることができる」「友だちが一生懸命言つたことをばかにしない」ということを約束した。

保育者は、子どもの小さな声や動きを感じることを大切にし、見逃さないことの大切さを改めて感じた。

「保育クラブ」の3歳児は、「幼児グループ」の4・5歳児が一生懸命に表現する姿を見て、“お兄さん・お姉さん”が表現を楽しんでいる雰囲気を楽しんでいた。

(ウ) 幼児グループ〈絵本を題材にした集団遊び〉

本年度の試みとして、冒険絵本『エルマーのはうけん』(福音館書店)をテーマに、友だちとイメージを共有してファンタジーの世界を楽しんだ。

「幼児グループ」は、4・5歳児の異年齢混合グループ。それぞれの年齢にわかつて、『エルマーのはうけん』を読んでイメージを膨らませ、ファンタジーの世界を楽しめた。5歳児は、『エルマーのはうけん』をテーマに、お泊り保育を行った。宿泊地の森のなかを“動物島”に見立てて、子どもとともに話し合い、乗り越えていく経験をすることで、仲間意識が高まった。

この経験を4歳児にも伝え、「幼児グループ」全員で多摩動物公園へ出かけることで、お泊り保育に行かなくても共通イメージを持つことができた。

そこで、“動物島の動物”作りに取り組むことにした。絵を描いたり、個人制作では自分の好きな動物を考え、家から動物を作る材料を持ってきて動物を作った。“動物島の動物”はとても身近な存在になったようだ。

【エルマーのはうけん・動物島の地図（共同制作）】

「幼児グループ」全員で大きな共同制作を行った。

①“動物島”的設計図

自分たちの動物島を考えようと、「動物島には、何がある？」「何がいたら楽しい？」と聞くと、みかん島、みかん、かえる、へび、飲み物（ぶどうジュースの池）、ばった、こおろぎ、恐竜など——子どもたちは思いつくままに、いろいろな言葉を口にした。“動物”は一言も出てこなかったか、導入として設計図の共同画を作ることにした。代表の子どもに“動物島”を描いてもらうと、みんな「いいね、いいね～」と大賛成だった。

みかん島、ぴょんぴょこ岩も代表の子どもに描いてもらおうと、「くじらも描こう」「ワニは？」など、勢いがついていろいろと思いつき、クレヨンだけとは思えないほど、集中して塗りこみ、生き生きとした力強い共同画になった。

子どもたちには、「幼児グループみんなの力を合わせて、この大きな紙(タイベックという布のような紙)に“動物島”的地図を作ろう！一人では大変だけど、皆の力を合わせると、大きな力になるんだよ」と話し、共同制作の意味を伝えていった。

②動物島とみかん島の形を決める

大きな島をいちばん最初に描くのは緊張していたが、友だちと力を合わせ、協力して大きな島を描いていった。「僕も描きたい！」「私も！」と、描きたいという気持ちが伝わり、「この形でいい？」「もうちょっと大きくする？」と、ほかの子どもの意見を聞き、相談しながら下書きをしていった。

③島に色を塗る

動物島とみかん島の大きさが大体決まるとき、今度は、絵具で色をつけていく。刷毛とスポンジを使って色を塗っていき「私がスポンジで、○○ちゃんが筆ね」というように、役割を決めて、協力しながら楽しむ姿もみられた。

④海を描く

絵具が大好きな子どもたちは、砂場横でブルー系2色を、まずは大きな刷毛でダイナミックに絵具を使い、思い切り塗りこんだ。その後、スポンジでスタンプのようにポンポンと色を重ねていき、茶や紫などいろいろな色が混ざり合って、何とも言えない大海原になった。

⑤位置を決めてはる

動物島、みかん島、ぴょんぴょこ岩の位置をどこにするか、話し合いながら決めていった。まわり(端)がはがれないように、ていねいに塗るように伝えると、一生懸命、端を意識して塗っていた。ぴょんぴょこ岩は、子どもたちのこだわりもあり、2本の道を作つて「こっちからこっちへ、行けるようにしよう」とアイデアを出し、皆で考えながら、はつていた。

⑥動物を描く

「島ができてきたけど、動物がいないから、描きたい動物を決めておいてね」と、前日に話しておくと、朝からどんどん子どもの方からやってきて、「私、とら」「きりん描こうっと」と、自分が好きな動物を一つ決めてきて、どの子も集中して描きこんでいた。

⑦動物島やみかん島の仲間

どうやって動物を置こうか、動物の向きや位置をどうしようか話し合った。動物は仲間で群れるから、同じ動物は近くに置こう、ということになった。はつてみると、足りないものに気づき、ワニ、りゅう、みかんの木、エルマーと、二つ目に描くものもどんどん出てきて、動物以外の仲間も作つてはり、さらににぎやかになっていつ

3～5歳児の保育～『おたましゃくしの101ちゃん劇場』



た。

⑧子どもたちと最後の相談

にぎやかになってきた地図を眺めて、「あつたらいいな！」と思うものを話し合った。絵本に出てくる“動物島の地図”をよく見ているようで、みかんの木、クランベリー港の家、くじら、たこ、たつのおとしご、おっせい、エルマー——もうちょっといたらいいかななど、たくさん意見が出てきた。

子どもたち全員が前向きな姿勢で、しっかりと色をつけて、ていねいに描き「先生、見てー！」「できたよー！」とうれしい声がどんどんあがつていった。全部はり終えると「僕のライオン、ここだよ！」「きりんさん、びっくりするかな～」と満足気に眺めて「バンザイ！」。「先生、幼児グループの力ってすごい？」と聞いてくる子どもたちだった。

長い期間かけた初めての共同制作、子どもの力は、本当に大きな力だったと保育者が実感した。今後も、友だちと一つの目的に向かって協力しながら、“がんばる”“乗り越える”気持ちを育てていきたい。

3.まとめ

本年度は、遊びのなかでいきいきと活動した子どもや保護者の姿をまとめた。

「親子教室」では、保護者も童心にかえり、ただひたすら感触遊びを楽しむ時間となった。「保育クラブ」「幼児グループ」は絵本をテーマ活動の題材にし、演じるというより、絵本のなかに引き込まれ、共感し、自然とほかの友だちと表現し、遊んだ結果として“劇こっこ”となつた。その過程で、表現することにまだ躊躇する子どもも引き込まれていく姿が見られ、集団遊びの良さがうかがわれる遊びの一つとなつた。

平成 21 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
親子遠足	5 16 11 14 (雨天のため中止)	「保育クラブ」の 2 ~ 5 歳児の家族プログラム。家族同士の交流をはかるのがねらい。秋は雨天のため中止。春のみ実施した。代々木公園(渋谷区)でコミュニケーションゲームやネイチャーゲームを実施。「なへなへ底ぬけ!」「○×ゲーム」「パチパチマン体操」「ポイント集めゲーム」で楽しめた。会員の多くはさまざまな幼稚園に通園しているので、会員同士の交流の場になっていた。子ども 76 人、大人 118 人参加。
保育活動展	H22 2 2 ~ 14	テーマは「ことももようパートVII」。「幼児グループ」を中心に「保育クラブ」の 2 ~ 5 歳児の保育活動をさまざまな絵や協同制作、作り物、写真などで紹介している。本年度の「幼児グループ」と「保育クラブ」3 歳児の保育活動は、「絵本」をテーマに、さまざまな視点から自然を身近に感じる活動を試みた。「おたましゃくしの 101 ちゃん」を題材にした「表現遊び活動」や『エルマーのほうけん』をテーマに「制作活動」や「探険遊び」を行った。個性あふれる「等身大のしふん」の制作にも取り組んだ。3 ~ 5 歳児の延長保育では、夏にヘランタいっぱいにてきたへちまを思い出して制作した「へちまのクリーン・カーテン」(へちま棚)を展示。2 歳児保育では、劇こっこ「おふろ」の様子を、制作したものや写真などで展示した。また、毎年親子で制作した作品の展示を行っているか、本年度も親子で制作した「動物のお面」を展示了。 (キャラリー)
よちよちクラブ	6 6、7 11、9 12、10 3、12 19、 H22 19、2 13 (土曜日) 11 00 ~ 12 00 13 30 ~ 14 30	一般来館の 1 ~ 2 歳の親子のための子育て支援プログラム。年間 7 回。親 169 人、子ども 141 人が参加。家族(父・母・子)で参加する姿が増えてきた。本年度も、おもちゃ作りを毎回取り入れた。参加した母親のなかには日常、就労している人も多く、親子で遊ぶ時間として利用している家族もいた。予約制だが、当日参加可。 (保育室 1)
保育室の一般開放	土・日曜日、祝日 10 00 ~ 17 00	1 ~ 2 歳のためのおもちゃや絵本を用意して、[こともの城]に来館する親子に遊べる場を提供した。こともの城ホランティアが定期的に絵本の読み語りを行っている。 (保育室 2)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 つくって遊ぼう親子工房 「すごっ! スコッ! すごろく!」	8 22・23 10 30 ~ 12 00 13 30 ~ 15 00 15 30 ~ 17 00	親子ですころくのコースを考え、すころく盤とサイコロを手作りした。すころくやサイコロを知らない参加者もいたが、小学生は生活に密着したものをテーマにし、凝ったものを作っていく子が多く、内容もおもしろいものになった。2 日間で 91 人が参加。 (保育室 1)
〈 〃 〉 小中高生保育体験プログラム	7 22 ~ 8 29、12 21 ~ 28、 H22 3 23 ~ 31 10 00 ~ 14 00 14 00 ~ 16 00	「幼児グループ」修了児の小学 5 年生～中学 3 年生を中心に特別期間(夏・冬・春)に幼児と触れ合う機会を提供した。前年度のアンケートの要望も踏まえて、本プログラムに参加経験のある高校 1 年生 4 人も対象に加えて参加希望者を募った。参加者は 25 人、延べ 50 人が参加(冬・春の参加者は、合わせて 2 人、延べ 5 人。うち高校生 2 人)。幼児と過ごしたこと、ふたんの学校生活では気づきにくい、思いやりや譲歩の気持ちを味わったり、より良い子ともとのかかわりをしようと努力する姿や、前年度より成長した自分に気づく様子があった。幼児から必要とされることで、参加者自身が自分の個性や良さを再発見する機会になり、自己肯定感が増すことをねらいとしている。 (保育室 1・2 ほか)
保育室の一般開放	特別期間中の土・日曜日 10 00 ~ 17 00	[こともの城]に来館する 1 ~ 2 歳の親子かおもちゃなどで自由に遊べる場の提供。 (保育室 2)

2. 講座・クラブなど

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
幼児グループ	(人) 4歳児(11) 5歳児(11)	(人) 11 7	火～金曜日 10:00～14:00	[こともの城]を保育の場とする週4日、2年間にわたる継続的な保育活動。「保育クラブ」の主に3歳児が曜日別に加わり、異年齢児保育となる。多様な人間関係を体験するため、チームで保育を行い活動を深める。プール活動など、体育事業部との連携プログラムも行う。本年度は、絵本をテーマにした活動を開催してきた。保育活動展かその発表の場になった。「保育クラブ」に連動している。保育料41,000円、給食費4,800円(いずれも月額)。延長保育を希望する家庭が多い(別途保育料)。
保育クラブ	2～5歳児	14 12 13 11 (1日あたり)	月～金曜日(2歳児) 10:00～13:00 10:00～14:00 火～金曜日(3～5歳児) 10:00～14:00 10:00～16:00	登録をして使う会員制の保育。登録数は413人。会員サービスには次の3つがある。保育プログラムは、①異年齢児混合保育(2歳児・3～5歳児) 2歳児保育は定期保育(週1回利用)とフリー予約保育。3～5歳児保育は定期保育(週1または2回利用)とフリー予約保育、その他から延長保育を実施。②チーム保育(各保育者の持ち味を生かす) ③保育ホランティア(小5～社会人)の参加——などの特徴がある。家族プログラムは「親子遠足(春・秋)」「親子工房」など。情報提供プログラムでは「保育クラブ通信(おやとこ)」年4回発行、小児保健部と連携しての「健康診断(春・秋)」など。ほかに、登録期間中は会員証で[こともの城]の入館もできることを伝えた。 入会全15,000円、年会費5,000円。保育料、2歳児1,350円(1時間)、3歳児以上1,000円(1時間)。給食代600円、おやつ代200円(1回)。

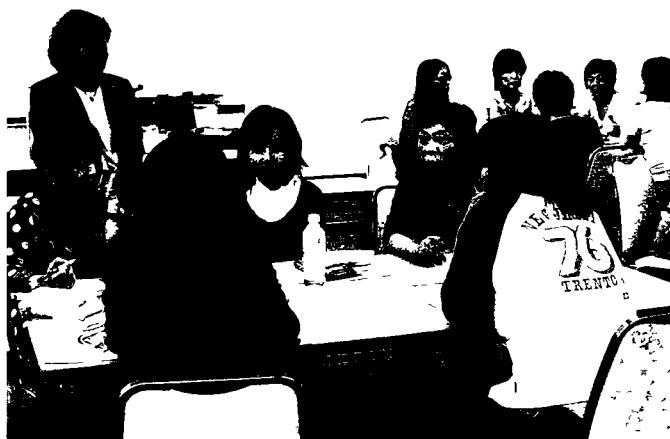
〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子教室	(組) 46期 47期 48期	(組) 1歳児親子 (各期16)	16 16 12 (全10回。月曜日6回、土曜日4回)	親子遊びを中心に、子育ての楽しさを両親で体験するプログラム。医学、心理発達にかんする講義、栄養士などからのアドバイス。父親(家族)の参加4回を含む。本年度は、家族プログラムの充実に努めた。受講料40,500円。

家庭支援の理論と実践



つくって遊ぼう親子工房



〈専門指導者向け講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
家庭支援の理論と実践～家族を支えるということは～ 第1回 〃 第2回 〃 第3回	(人) 子育て相談担当者など (各回50)	(人) 29 6月13日 10:00～16:30 41 10月24日〃 41 H22年1月16日〃		1日コース。テーマを変え年3回開催。受講料各7,000円。各回のテーマと講師は以下のとおり(敬称略)。 第1回「気になる子どもとその保護者をどう支えるか」 (倭文真智子 東京都墨田児童相談所) 第2回「保護者の声に耳を傾ける 全ての保護者に寄り添うには・ 実践例を通して」(鈴木恵子 社会福祉法人太陽会太陽保育園園長) 第3回「家族を支えるということは～保育士の立場で支えるために」 (山崎美貴子 神奈川県立保健福祉大学) ×監修は、山崎美貴子、倭文真智子
第23回こともの城 保育セミナー 「子どもを取り巻く 人的環境～保育士 と保護者のコミュ ニケーションの大 切さ～」	保育関係者など (80)	48 8月1日 8月2日	10:00～17:00 10:00～15:00	全国の保育所、児童館、行政の児童福祉担当者など対象。今回は、保育士と保護者、保護者同士が良い関係を保てるようなコミュニケーションの方法を学んだ。受講料は13,000円。各日のテーマと講師は以下のとおり(敬称略)。 1日目=基調講演「保育士のためのアサーション 基礎理論・実践練習を中心として」(園田雅代 創価大学) 2日目=実践研修1「むすかしい親との対応～対個別保護者とのコミュニケーション～」(高橋保子 社会福祉法人高原福祉会理事長) 実践研修2「なんとかうれしい!つながるあそひ～愛知県児童総合センターの活動から～」(田嶋茂典・高橋祐樹・伊藤麻子 愛知県児童総合センター)

3. その他

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
子育て支援のニュースレターの発行	第34(通巻50)号=7月15日 第35(通巻51)号=11月 第36(通巻52)号 =H22年2月15日	行政、経済界、利用者にかんする情報および子育てをめくる情報、「家庭支援の理論と実践」講習会の概要を紹介。行政・現場などの動きをはじめ、各地の実践などを中心に取り上げた。児童福祉施設の果たす役割の大きさを実感させられるとの読者の声。他に本年度から「こともの城」で行っている各事業部の活動の紹介や、活動をとおして見られる最近の親子の様子なども紹介している。主な配布先は、子育て支援にかかわる実践者、研究者、大学など。年間購読を希望する個人および団体。その他見学者、関係所管課に無料配布。年間購読料2,000円(郵送費、印刷代一部負担金)。

小児保健部



平成 21 年度の活動

1. はじめに

小児保健部の活動は、子どもの心身の健康の問題に取り組むことが目的であり、予約制診療を行っている小児科の「小児保健クリニック」が中心である。身体面では、とくに生活習慣に関係する肥満ややせ、発達や心理の面では、発達障害の疑いや社会適応の面での気がかり、親子関係の悩みなどを扱っている。初診時から親子ともに、ていねいにじっくりと相談できることを大切にしている。その他にも、乳幼児の子育て支援に重点をおいてさまざまな活動をしている。

活動の内容は以下のように整理できる。

- ①「小児保健クリニック」での診療・相談
- ②グループで行う講座や催し（“子どもの肥満改善” や “保護者の子育て支援”など）
- ③“子育て支援”の現場にかかる支援者への啓発活動
- ④活動の報告や研究

スタッフは、医療や心理の分野の専門職であり、①と②で得られた経験を③と④に生かし、関連させながら活動している。とくに現在の子どもの育ち・保護者の子育ての状況をキャッチしながら、児童館や子育て支援の現場にもそうした経験を役立てることができるよう、絶えず努力することが求められている。

本年度は、5月の連休前後から新型のインフルエンザの流行が始まり、夏から秋にかけて最盛期を迎えた。特に乳幼児や妊娠中の女性は重症化しやすい、ということが一般に知られたため、乳幼児の子育て支援活動や妊婦向けの講座・イベントの参加者数が減少した。

一般来館児・者向けの「赤ちゃんサロン」は前年度の67%、講座「マタニティ・スイミング」の受講生は60%にとどまった。こうした状況から、毎年秋に全館行事として行っている「赤ちゃん大集合」は、中止を余儀なくされた。

一方、「赤ちゃんサロン」と同じ乳幼児（3か月～1歳6か月）とその保護者対象に、夏休み・春休みの特別期間に行った「赤ちゃんほっとタイム 子育て学習会」は盛況であった。有料であるにもかかわらず、募集後まもなく申し込みが定員（30組）に達した。「ゆったりしたい」と望む一方で、「子育てにかんする専門的な講義が聞きたい」「子育てのいろいろな知識を得たい」という母親の要望に合ったためと思われる。今後の子育て支援活動のあり方を示唆するものといえよう。

「赤ちゃんほっとタイム 子育て学習会」については、後に詳述する。

もうひとつの新しい活動は、保育所・子育て支援センター・児童館等の職員を対象に、「食育講習会」を始めたことである。子どもの健康な育ちを守るために、生活のリズムや食事・運動などのあり方を見直し、乳幼児期から意識して生活習慣の形成をはかっていくことが大切である。子育て支援の現場にいる専門職も、〈食育〉の観点から子どもや保護者に対し、日常生活のなかでの働きかけを工夫していく必要がある。今回は、7月10日に、「乳幼児期からの健康つくり～医学・栄養・運動の3点から～」と題して開催した。医学や栄養の講義のほか、運動遊びの実習なども行った。定員を大幅に超える参加者があり、関心の高さをうかがわせた。

インフルエンザの流行や不況など、状況としてはかな

らすしも順調ではない 1 年であったが、新しい動きが感じられつつある。乳幼児期からの子どもの健康な育ちを守り、親子のきずなを形成していくために、何をどのように大切にしていくことが明るい未来につながるのか、毎年の傾向をとらえつつ、柔軟に考えながら活動していきたい。

2. 診療・相談活動

本年度の診療・相談件数については、表 1 に示した。総件数は、平成 19 年度から 20 年度へと減少傾向にあり、21 年度も、20 年度の 2,192 件から 2,161 件へとさらに 31 件減少した。来所件数の内訳をみると、新規が、273 件から 252 件へと 21 件の減少、再診の総件数が、1,919 件から 1,909 件へと 10 件の減少となっている。

新規来所件数の減少については、乳幼児健康診査（公費）が 86 件から 66 件へと 20 件減ったことが大きく、診療件数は 161 件が 160 件とほぼ横ばいだった。乳幼児健診は、新型のインフルエンザ流行の影響で乳幼児のプログラムへの参加者が、全体に減ったことによるもののが大きかった。一方、健康診断（自費）は、保育研究開発部に通っている子どもたちの集団健診などを受け入れるようにしたため増加した。

心理相談は、20 年度は 798 件に減っていたが、927 件へと 129 件増加し、回復した。ダウン症療育相談も、81 件から 83 件へと 2 件の増加で横ばいだった。再診件数の低下は、21 年度の前半に、肥満の子どもの受診が減り、栄養相談などの件数が低下していたためもあるう。

【小児保健クリニック月別診療・相談件数（初診・再診内訳）】（表 1）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H221月	2月	3月	合計
診 療	91	72	81	83	64	74	94	69	90	112	67	100	997
健 康 診 査（公費）	11	11	8	4	10	5	2	7	12	3	11	7	91
健 康 診 査（自費）	1	20	6	7	2	2	3	18	0	0	0	1	60
育 児・健 康 相 談	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
心 理・発 達 相 談	69	79	84	91	76	77	87	64	76	75	69	80	927
ダ ウ ナ 症 療 育 相 談	3	7	10	13	4	3	9	4	4	8	8	10	83
合 计	175	189	190	198	157	161	195	162	182	198	156	198	2,161
内 初 診（新規）	25	27	28	26	24	20	22	18	19	13	13	17	252
内 再 診	150	162	162	172	133	141	173	144	163	185	143	181	1,909

【小児保健クリニック新規来所者の居住地域内訳】（表 2）

居住地域	渋谷区	世田谷区	港 区	葛飾区	新宿区	その他の区	市都部	小 計	神奈川県	埼玉県	千葉県	その他	小 計	合 計
人 (%)	(25.8)	(8.7)	(6.7)	(3.2)	(2.8)	(28.9)	(5.2)	205 (81.3)	24 (9.5)	11 (4.4)	5 (2.0)	7 (2.8)	47 (18.7)	252 (100)

【小児保健クリニック新規来所者の年齢内訳】（表 3）

年 齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12～17歳	18歳以上	合計
人 (%)	41 (16.2)	33 (13.0)	26 (10.2)	15 (6.0)	21 (8.3)	12 (4.8)	15 (6.0)	14 (5.6)	13 (5.2)	15 (6.0)	16 (6.3)	12 (4.8)	18 (7.2)	1 (0.4)	252 (100)

ある。新宿区の5位は変わらない。近隣では、川崎市・横浜市を含む神奈川県が多い傾向は変わらず、件数は2件増えた。交通機関との関係では、便利だから来やすいという理由もあるが、あえて居住地域よりやや距離のあるところを選ぶという傾向もあると思われる。

年齢の内訳(表3)では、乳幼児健診(公費)の減少に伴い、0・1歳が20年度より22件減った。しかし、2歳は、18件から26件に増加した。その他、3・4歳と小学校の低学年6・7・8歳は若干減っているが、9歳が11件から15件に、11歳が8件から12件に、12～17歳が15件から18件に増加し、5歳と10歳は横ばいであった。全体としては、2歳と9歳以降の相談が増えたのが目立っている。

新規来所者の診療・相談内容内訳(表4)では、「発達についての相談」は、全体で73件から75件に2件増えているが、ほぼ横ばいであるといえる。しかし内訳をみると、20年度にかなり減少していた自閉症・自閉的傾向(広汎性発達障害)が15件から28件へと増加し、精神遅滞は19件から13件へ、言語発達遅滞は17件から14件へと減少し、学習障害・注意欠陥多動性障害は1件の増加でほぼ横ばいであった。

発達障害の認識が広まり、子どものコミュニケーションの困難さを「自閉症ではないか」と疑問を持って受診する例が再び増えているように思われる。

「情緒・行動面の相談」は13件減少しており、特に情緒障害・情緒不安が30件から21件へ、神経症が10件から6件へと減少している。実際には、初診で発達障害を疑われたものの、心理相談・小児精神科に紹介された後、背景の理解が深まるにつれて、実は情緒的・環境的な要因が強いと思われる例も見られた。

「身体的・心身症的な相談」は38件から48件へと増えている。特に20年度後半から減少していた肥満が、15件から29件へと倍増した。その他に、チック・抜毛症などの習癖(くせ)や脱毛症の受診が、21年度はやや目立っていた。

全体的にみると、乳幼児健康診査の件数は減ったものの、新規の受診件数は横ばいであり、2歳と9歳以降の受診がやや増加した。身体的な診療・相談では肥満が増え、発達面では、自閉症・自閉的傾向などの增加が目立っている。

2歳では、まだ発達の個人差が大きいが、3歳の幼稚園入園前の不安もあって、こだわり・かんしゃく・偏食・コミュニケーション能力などを心配することが多かった。保護者がこの時期の子どもへのかかわり方に自信がないことも一因であろう。そして、幼稚園の入園・受験準備や早くからの習い事で、子どもが年齢相応以上の発

達課題や緊張を強いられており、気持ちの上でゆとりのある生活が持てない状況がうかがわれる。

9歳以降では、発達障害を心配して来所する例も多く見受けられた。広汎性発達障害のように、このころから学校での不適応が目立ってくる例もある。心理相談や小児精神科の診断、特別支援教育への橋渡しなどの、ていねいな対応が必要である。一方、家庭環境がかなり不安定で、子どもが自分を大切にされている実感が持てずに、これから思春期を迎えるという時期に混乱をおこしているという例もある。これまで保護者の意向に従っていたのが、次第に自己意識が目覚めてくる時期である。子どもは自己肯定感が持てず、不安も強くなり、いろいろ心配な行動に出てしまいやすいのであろう。

これからも、一人ひとりの子どもたちの心身両面の健康な発達を援助しつつ、それについて不安感を抱いている保護者に対し、しっかりと相談にのれるクリニックをめざしていきたい。

3. 赤ちゃんほっとタイム 子育て学習会 ～2年間の活動をふりかえって～

平成20年度から、「赤ちゃんほっとタイム 子育て学習会」を開催している。3か月～1歳6か月の乳幼児と親を対象に、定員30組(冬休み特別期間のみ10組)、参加費2,000円で、11階会議室(冬休み特別期間のみ5階プレイルーム)で行った。20年度は夏休みと冬休みに、2年目は夏休みと春休みの各特別期間に実施した。平常期間は「赤ちゃんサロン」などの子育て支援の活動を行っているが、この学習会は夏休みなどの特別期間に行っている。

この学習会の目的は、のんひり過ごしながら、講義や質疑応答の時間を中心に、子育てについて学んでもらうことである。本年度も参加申し込みが多く、親の関心の高さがうかがえた。この2年間の活動をふりかえって、今後の展開を考えてみたい。

【参加者について】

平成20年度の夏休み子育て学習会は、参加31組(申し込み41組、出席率75.6%)、冬休み子育て学習会8組(10組、80.0%)、21年度の夏休み子育て学習会は、34組(46組、73.9%)、春休み子育て学習会35組(50組、70.0%)であった。申し込みは定員以上あるものの、出席率は75%前後と低めであった。これは、赤ちゃんの体調不良などの理由によるものが多くかった。平日の金曜日の開催のため、ほとんどが赤ちゃんと母親の参加。父親が同伴したのは2件であった。

合計108組の親子が参加した。3か月児～1歳3か月児のなかで、9か月児15組(13.9%)が最多で、6

か月児、7か月児、5か月児、11か月児と続く。渋谷区からの参加が 22 組 (20.4%) と多く、世田谷区、港区、目黒区、杉並区と続き、近郊が多い。

【プログラム】

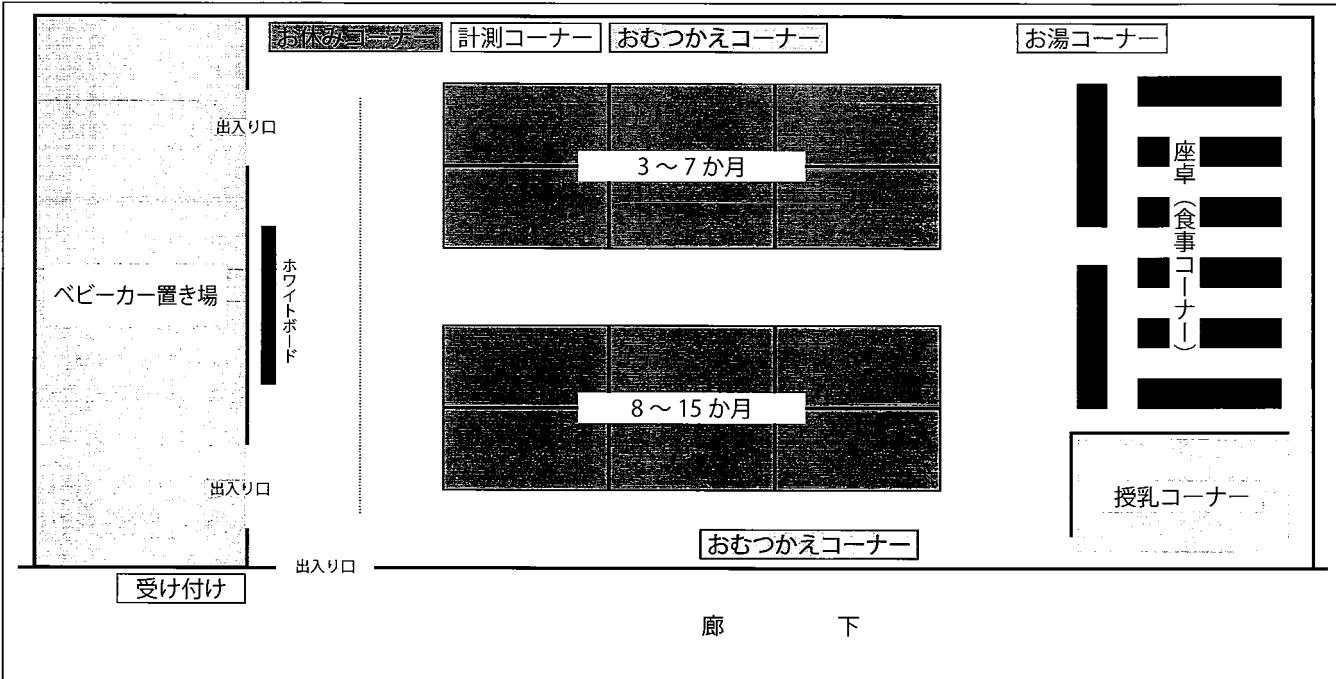
平成 20 年度の冬休み子育て学習会は、開催日が年末だったため、定員を 10 組の少人数にして実施した。時間も午後の 2 時間にし、小児科医師の話と小児保健部のスタッフによる「子育て Q & A」を実施した。小児科医師の話の間、初めての試みとして、スタッフが隣の部屋で託児を行った。よい経験になったが、少人数だからこそできることであった。

他の 3 回は、11 時～15 時に開催し、食事コーナーを会場内につくった。ほとんどの人が昼食を持参して利用していた。午前中はスタッフの話、午後は小児科医師の話と「子育て Q & A」を行った(表 5)。内容については、よかったです・まあまあよかったですを合わせると、ほとんどの人が満足していた。もっと専門的な掘り下げた話を聞きたいという意見もみられ、親の向学心の高さには驚かされた。

【子育て学習会プログラム】(表 5)

	10:30～	11:10～11:50	11:50～ 13:00	13:00～14:00	14:00～15:00
H20 年度夏休み	受け付け	赤ちゃんの飲むこと・食べる こと(管理栄養士)	昼 食	赤ちゃんのからだあれこれ (小児科医師)	子育て Q&A (スタッフ)
〃 冬休み			受け付け 12:30～	赤ちゃんの健康あれこれ (小児科医師)	子育て Q&A (スタッフ)
H21 年度夏休み	受け付け	赤ちゃんの飲むこと・食べる こと(管理栄養士)	昼 食	赤ちゃんは思ったよりも知 っている(小児科医師)	子育て Q&A (スタッフ)
〃 春休み	受け付け	赤ちゃんの発達と遊び (臨床心理士)	昼 食	大きく変わった赤ちゃんの病気 (小児科医師)	子育て Q&A (スタッフ)

【子育て学習会の会場図例（春休み子育て学習会から）】(図 1)



氾濫している医学・育児情報のなかから、問題解決を試みようとしている親の姿にたくましささえ感じた。しかし、目の前の子どものようすよりも情報を優先させる子育てには、育児不安に陥りやすい危うさがあることも忘れてはならないだろう。

【会場作り】

乳児と親の集まりでは、特に環境作りが大切である。[こどもの城] には常設の乳児のための場所がないため、このような講座のたびごとに会場作りを行っている。赤ちゃん連れの場合、抱っこやベビーカーの利用や荷物が多くいため、移動は大変である。そこを考慮しながら、できるだけ快適な会場づくりをめざした。(図 1)

基本は「赤ちゃんサロン」の会場作りと同じで、ビニールマットの上にこたつ敷きを敷き、親子が座ってのんびり過ごせるようにした。つかまり立ちから歩ける赤ちゃんのコーナーと、まだ歩けないがお座りができるくらいまでの赤ちゃんのコーナーの 2 つに分けた。

おもちゃをマットの中心に置き、それを囲むように赤ちゃんと親に座ってもらった。食事コーナーは座卓を設置し、昼食時に利用してもらった。会議室のすぐ横にベビーカーが置けるスペースを確保した。これは親たちに好評であった。ほかに、赤ちゃんによい環境だった、のびのび遊ばせられた、思いきり遊べたので時間がたつのを忘れたなど、満足した感想が聞かれた。

【今後の課題】

友だち同士の親子が参加することが多いが、親子 1 組での参加もみられる。平成 20 年度に参加した人のなかに、孤立感を感じたという感想があった。受け付けまわ

りやベビーカー置き場の対応などに追われ、親子の輪のなかに入るスタッフが少なくなるために、配慮が足りなかったことが原因であった。その後も気をつけていはるが、スタッフの数には限りがあるため、来年度からは女性ボランティアの参加を検討している。

子育てのヒントを得たり、ちょっとした子育ての気がかりを解消できたりする有意義な方法は、テレビ、インターネットなどではなく、“親同士のおしゃへり”だと考えている。しかし、親と専門家かゆとりをもって話ができる、子育て学習会のような機会を親から求められているとも感じていた。自分の子育ての裏付けや手応えが欲しいと思っている親が少なくないからである。講義を聞く真剣な姿や、質問の多さからもそれはうかがえた。

今後も親のニーズをとらえながら、その親にとっての子育てを考えてもらう機会と、よりよい情報を提供して、楽しい子育てを応援していきたい。

4.まとめ

本年度は、新型のインフルエンザの影響などにより、子育て支援活動や講座の参加者、乳幼児健康診査の来所者が減少した。全体としては、決して順調な活動の結果ではなかった。しかし、診療で2歳の受診が増えるなど、早くから習い事や集団生活に参加するという最近の傾向も手伝って、子育ての不安が増している現象もみられる。なかでも、ゆったり過ごしながらも専門的な講義を聞くことのできる「赤ちゃんほっとタイム 子育て学習会」は盛況であり、子育ての自信のなさを、知識を学ぶことで乗り越えていこうとする、保護者の意欲や熱心さ

赤ちゃんほっとタイム 子育て学習会



が感じ取れた。知的な学習や、情報を取りいれることができ優先されている面もうかかえる。こうした保護者の要望を満たしつつも、ゆったりと人と人とのふれあいや遊びを楽しみながら、親も子とも成長していく機会をどのように提供していくか、今後の課題とも思われた。

初めて開催した「食育講習会」も、日々の食事や運動の大切さを、子育て支援の現場にいる支援者にもっと認識してもらうためのものであり、地道な生活を大切にすることに重点をおいている。

診療や相談では、9歳以降の子どもたちの発達障害や心理的な成長にともなう相談も増えている。思春期を迎えるという時期であり、子どもが不適応や新たな行動を起こしやすい、年齢的な一つの節目ともいえる。家庭環境が多様化している現在、相談機関や地域での援助の必要性も増しているのであろう。

新たな時代の流れを認識しつつも、今後も子どもたちの成長や保護者の子育て支援に努力していきたい。

平成 21 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
小児保健クリニック (診療・相談) 小児科診療 育児・健康相談 乳幼児健康診査 健康診断 栄養相談 心理・発達相談 タウン症療育相談	休館日を除く毎日 9:30 ~ 17:00 木曜日・全曜日(各月1回)	診療・相談は予約制。小児科医師・保健師・看護師・管理栄養士・臨床心理士が診療・相談にあたる(週2回小児精神科・月1回小児耳鼻科を含む)。 小児科医師の診療には、原則として健康保険が適用される。乳幼児健康診査は、東京都乳幼児健診委託機関のため受診票で受けられる。 育児・健康相談は、相談料1回5,000円。心理・発達相談は、担当者1人の場合1回50分5,000円。医師の診察を受けずに直接相談に入る場合、初回のみ7,000円、専門相談のタウン症療育相談は、相談料8,000円。 専門医師が担当。 (小児保健クリニック)
赤ちゃんサロン	火曜日(年18回) 11:00 ~ 14:00	対象は3~18か月の乳幼児とその保護者、妊娠。親たちが自由に交流(井戸端会議)し、赤ちゃんたちがふれあう場。小児科医師・保健師・管理栄養士・臨床心理士が加わり子育ての相談も行う。本年度は延べ2505人参加。入館券対応。 (音楽ロビー)
第24回マタニティ・コンサート「今野尚美・里中トヨコ～ピアノと歌でリラックス～」	75 15:00 ~ 17:00	妊娠中に、楽しくリラックスできるひとときを過ごしてもらい、出産を迎えるという主旨のコンサート。ピアノの今野尚美さんとソプラノの里中トヨコさんのアンサンブル、絵本のスライド上映と朗読とのコラボレーションを行った。野末源一元日本赤十字社医療センター副院長産婦人科医師と巷野悟郎ことの城小児保健クリニック小児科医師の話、体育事業部スタッフによるリラックス体操なども行った。公募、無料招待。196人参加。劇場事業本部との共同事業。 (青山円形劇場)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 ハプハプヘータウン	52 10:00 ~ 17:00	児童福祉週間(コールテンウイーク)特別期間中に、企画研修部、小児保健部、保育研究開発部が共同で実施(5月2~6日)。小児保健部は、5月2日を担当。相談というより、一緒に遊びながら、アトハイスしたりのんひり過ごす場の提供。0~2歳児親子対象(兄弟の入室可)。64人参加。入館券対応。 (研修室)
〈開館記念〉 第16回赤ちゃん大集合	—	11月4日に予定していたか、新型のインフルエンザの流行により中止。

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
健康スポーツ教室 (太りすぎクラス) 第26期	(組) 太りすぎの小学生とそ の親(20)	(組) ① 14 ② 18 ③ 20	土曜日 14:00 ~ 17:00	太りすぎの改善のために医学指導(東京女子医科大学東医療センター医師)・栄養指導(和洋女子大学ほか)・体育指導(体育事業部。水泳と体育を交互に実施)を行う。食事と心理の保護者向けレクチャーと親子合同の体育プログラムを実施。親子で屋外活動(年3回を予定していたが、平和島アスレチックは雨天中止。神宮スケートリンク、都内ウォーキング 経堂~渋谷10kmを実施)、外出は、長生村・九十九里浜(千葉県)へ。体育事業部との共同事業。受講料=1・2期(各12回)各24,000円、3期(9回)18,000円。 (小児保健クリニック/体育室/プールほか)

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
マタニティ・スマシンク	(人)妊娠16週以降の妊婦(25)	(人)4月 15 5月 18 6月 22 7月 22 8月 18 9月 14 10月 12 11月 11 12月 8 H22 1月 9 2月 9 3月 8 (計166)	火・木曜日（月7回） 11:00～12:00 ×夏休み特別期間（7月18～8月31）は10:30～11:30 ×H21年9月は月6回。	妊娠中、心身ともに健康に過ごすことを目的として水泳を行っている。母親になる人たちの友作りにも役立ち、妊娠期からの子育て支援の意味も大きい。水泳前後の検診は、日本赤十字社医療センター産科医師、助産師と小児保健スタッフが担当、年4回レクチャーも実施。体育事業部との共同事業。 入会全10,000円、受講料13,000円(月額)。(プール)

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
季節の離乳食	(人)5か月～1歳6か月の乳幼児と親(各回10)	(人)計 73	金曜日（年9回） 13:30～14:30 ×4/24=7/5/22=4/6/26=17/9/11=9/10/23=10/11/27=9/H22/1/22=4/2/12=10/35=3	離乳食の作り方・与え方に悩む母親たちに、実際に調理した食材などを見せながら、ちょっとした工夫でできる調理法などを紹介。互いに疑問点を質問し合うなど、話し合う母親同士の交流も大切な要素になっている。 受講料2,000円(1回)。(小児保健部プレイルーム)
親子のほっとタイム～話して聞いて、子育ての悩み解消！～	3か月～1歳6か月の乳幼児と親(各回10)	計 26	金曜日（年6回） 13:30～14:30 ×6/5=中止/6/12=5/10/2=5/10/9=5/H22/1/29=3/2/5=8	「からたの健康」「心の発達」の2つのテーマを各3回。親たちのなかに小児保健部のスタッフが加わり、子育ての疑問や悩みなどを話し合う。話をしながら正しい情報を知って、不安を解消し子育ての自信をつけてもらうことが目的。 受講料2,000円(1回)。(小児保健部プレイルーム)
夏休みことも1日トック	(組)小・中学生親子(10)	7	7/22 12:30～17:00	対象は小・中学生。医学と体育の両面からの総合健康診断。小児保健クリニックで診察、尿検査、血圧測定、身体計測、保健相談、栄養相談、性格テストを、体育事業部で体力測定を実施。これらの結果に基づいて診断・指導を行う。受講料10,000円。(小児保健クリニック／健康開発室)
赤ちゃんほっとタイム 夏休み子育て学習会 〃 春休み子育て学習会	(人)3か月～1歳6か月の乳幼児と親(各回30)	34 35	7/31 11:00～15:00 H22/3/26 11:00～15:00	赤ちゃんの健康、栄養、発達、子育てのあれこれを学ぶ、親向けの学習会。夏休み子育て学習会は、「赤ちゃんは思ったよりも知っている」(小児科医師)、「赤ちゃんの飲むこと・食べること」(管理栄養士)と「子育てQ&A」。春休み子育て学習会は、「大きく変わった赤ちゃんの病気」(小児科医師)、「赤ちゃんの発達と遊び」(臨床心理士)と「子育てQ&A」。食事コーナーも設け、ハイキューも預かった。受講料2,000円。(会議室)

〈専門指導者向け講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第24回小児保健セミナー「気になる親へのかかわり方 PART3～上手な話の聞き方・伝え方～」	(人)児童厚生員・保育士・保健師・栄養士など (100)	(人)97	11月28日 10:00～17:00	親(家族)の心の問題をどうとらえればいいのか、また現場での実際の対応にはどのように気をつけたらよいのかを学び、さらに私たち自身の言葉の話し方をみかくという内容だった。「親子心の問題への対応」(全井剛 横浜市中央児童相談所・児童精神科医師)、「親との人間関係を円滑にするコミュニケーションマナー」(松橋真理子 JALアカデミー㈱・接遇インストラクター)、「わかりやすい伝えかた・聞き方」(菅野純 早稲田大学人間科学学術院教授・臨床心理士)の3氏の講演を行った。受講料7,000円。(研修室)
子育て支援講習会(第13回／第14回) 「最新の小児保健の基礎と実際～心とからだの健康0～12歳児～」	保育士 栄養士 保健師・看護師など (第13回70)〃 (第14回50)	75 67	5月30日(第13回) 10:00～17:00 H22年2月26・27日(第14回) 10:00～17:00	子育て支援の活動にたずさわる現場の職員の研修会。「0～12歳児の保健の基礎と子育ての考え方」「健康管理や応急処置」「離乳食や食生活一般」「気になる子どもの理解とその対応」などの講義、「子育て支援の方法と実際」の説明や情報交換の時間を持った。講師は小児保健部スタッフ。保育所、児童館、保健センターなど全国各地から多数参加。どちらのコースも定員を上回る申し込みがあった。第13回(1日)は受講料7,000円、第14回(2日間)は受講料13,000円。(会議室)
第1回こともの城食育講習会「乳幼児期からの健康づくり～生活習慣病予防に向けて～」	栄養士・保育士・児童厚生員など (50)	64	7月10日 10:00～16:30	乳児期においての「食育」の考え方、幼児期における「食育」の具体的な取り組みを中心とした講習会。「食をめぐる諸問題」(村田光範小児科医師)、「わかりやすい食事アトハイスのポイント」(太田百合子管理栄養士)、「運動遊びの実践から」(島田綾子体育事業部主任指導員)。受講料7,000円。(研修室)

第24回小児保健セミナー「気になる親へのかかわり方」



第1回こともの城食育講習会



赤ちゃんサロン

企画 研修部



平成 21 年度の活動

1. はじめに

[子どもの城] の事業部全体にかかる企画調整を中心として、事業終了後の総括のほか、全館事業や共有スペースを使った催しの実施、グループ活動、野外活動などの企画調整、業務部総合案内課とともに「子どもの城友の会」の運営、外部関連団体との協力事業を行った。

ボランティアの活動については、その養成から活動のコーディネートまでを担当しており、夏休み・春休み特別期間の野外活動への参加の調整、高校生の社会参加を目的としたグループ活動「L.I.T.」(Leader In Training)を実施した。前年度まで実施していた中学生を対象とした講座「じょいんクラブ」は、本年度は実施せず、かわって春休み特別期間に 1 日講座「小中学生のためのエンジョイ手話」を実施した。

また、「子どもの城児童厚生員等実技指導講習会」など指導者向け研修会の企画運営にあたるほか、子育て支援基金からの助成を受けて子育て支援にかんするモデル事業（「子どもの城から全国へ」の項参照= 121 ページ）、(財)こども未来財団に協力して子育て支援にかんする研修会を実施した。

2. 事業全体のとりまとめ

理事会の開催にあわせ、「事業計画書」および「事業報告書」の資料の作成、事業内容をまとめた小冊子「子どもの城 事業と運営」の年次改訂、特別期間ごとの事業計画のとりまとめ、日常的なものでは週間事業予定表や週末や特別期間の館内掲示用事業予定“デイリー版”などを作成した。

前年度から、特別期間の事業のとりまとめと調整方法を変え、各部から出た企画を単にとりまとめるだけでなく、そのなかにひとつの方向性を見出せるように、各部との意思疎通をはかるとともに、事業終了後の振り返りにも時間を割いている。

今後、こうした基本的な事柄が、計画的で正確、なつかつ迅速に行えるよう留意するとともに、もう少し長期的な視野に立った事業展開についても検討をしていきたい。

(ア) 来館児・者増をめざして

来館児・者を増やすために、各種優待パスの販売やキャンペーン、招待などを実施した。夏休み特別期間に行った、繰り返し入館を促進するための「夏休みフリーパス」「夏休み団体割引キャンペーン」「渋谷・港区小学校等へのアプローチ」などである。プログラムの充実とは異なるアプローチではあるが、施設を知ってもらい、使いやすさを提案できるという点で、不可欠であり、利用者の反応を分析しながら、より良い方法を追求していくたい。

【平常期間への対応】

平常期間火曜日の午前中から実施する、乳幼児と母親を対象とした子育て支援の催しにも、積極的に取り組んだ。小児保健部が中心になって行ってきた「赤ちゃんサロン」と、事業本部と保育研究開発部を中心としたプロジェクトチームで対応した「ぽかぽか広場」である。

開催時間や方法などは、ほぼ前年度のスタイルを踏襲したが、女性ボランティアの積極的なかかわり、ベビーカー預かりや休憩スペースの確保などを全館でサポー

トし、より円滑に実施された。

「ぽかぽか広場」は開催回数を増やし、年 9 回とした。毎年 11 月に実施してきた「赤ちゃんサロン」の拡大版「赤ちゃん大集合」は、新型のインフルエンザの影響により開催を取りやめた。

【平常期間の土・日曜日プログラムの強化】

平成 23 年度から実施される学習指導要領改定を先取りするかたちで、小学校での学習の負担が増大し、ウイークデーは学童期の子どもが、ますます来館しにくくなる現状がある。各部の季節イベントや催し物を調整するなど、ここ数年継続している平常期間の週末事業の充実をめざす取り組みを進め、広範囲から幅広い年齢層の子どもたちの、繰り返し来館を促進するきっかけづくりとした。

【特別期間等への対応】

特別期間や祝日など、来館児・者の増加する時期にあわせて、ギャラリーや体育室などのスペースを使ってイベントを実施した。イベントを実施するにあたり、外部の団体・企業などから申し入れを受けたものの中から、[こどもの城] の事業と方向性の合致するものがあれば、協力したり協賛をもらうなどの方法により、イベントの質を高める努力もした。

(イ) 全館協力事業

定着してきた年 4 回の全館的な特別イベントを継続して実施した。

「とり+かえっこ」は、子どもたちから実行委員を募集し、全体の準備や進行についても、子どもたちが積極的にかかわるような催しとした。

「秋まつり」は、縁日スタイルのお祭り。[こどもの城] のスタッフだけでなく、近隣の協力をあおいで実施。開催時間は 15 時～19 時。17 時以降は入館無料。

「ドルッチャワールド」は、全館のスタッフからの志願制で企画チームメンバーを募り、子どもの参画について考えた。企画・運営を担当する子どもを事前に募集し、話し合いを重ねながら準備を進めた。

「小学生プログラムスペシャル」は、学童期の子どもたちの来館促進をねらいに実施した。イベント参加後の継続利用につながる各部共通の参加カードは、本年度も継続して発行。今回は特に、友だちを誘うキャンペーンを同時に行い、来館促進をはかった。しかし、「来館促進をはかる仕掛け」が、まだ十分に機能しているとは言い難い。

3. ボランティアの活動と養成

[こどもの城] には、施設内で専門スタッフとともに

子どもの健全育成活動を行う、登録制の「こどもの城ボランティア」(青年ボランティアと女性ボランティア)のシステムがある。本年度は延べ 4,973 人(前年度 4,691 人)のボランティアが活動した。

前年度まで活動人数が減少傾向にあったので、本年度は学生を中心に、ボランティア講習会の受講生を増やすこと、学生が主体的に取り組める環境設定に力を入れた。活動人数が増えたのは、その成果ではないかと考える。

平成 22 年 3 月末までの登録人数は、青年ボランティア 257 人、女性ボランティア 90 人、合計 347 人。

(ア) ボランティアの活動

ボランティアの活動は、日常活動、特別期間活動、野外活動、代表者会の 4 つに区分することができる。

日常活動は〔こどもの城〕の平常期間に、各事業部で行われている事業に協力する活動。本年度は、すべての事業部で活動を行った。平日は女性ボランティア、土・日曜日と祝日は青年ボランティアが中心になって活動した。本年度は、乳幼児向けのプログラムに、女性ボランティアへの援助要請が増えた。

特別期間活動は、児童福祉週間(ゴールデンウイーク)、夏休みなど、学校の長期休み期間の活動。〔こどもの城〕のスタッフとともに、プロジェクトチームを編成し、企画・準備・実践までのすべてのプロセスにかかわった。学生を中心とした 18～22 歳世代のボランティアの活性化のために、春と秋にこの世代が企画チームを組織し、イベントに取り組んだ。既成概念にとらわれない自由な発想を生かすとともに、この世代のネットワークを形成できるよう働きかけた。

野外活動は、夏・冬・春休みに体育、プレイ、企画研修部が実施するキャンプを支援する活動。キャンプは、24 時間子どもたちと生活をともにするため、ふだんの活動ではうかがえない子どもの一面を見ることができる。子どもたちは当面の目標(親=大人とは異なる、年齢の近い大人)であるボランティアと、長時間触れあうことができるかけがえのない機会となっている。

「ジュニア・アウトドア・スクール」「ジュニア・スプリング・キャンプ」(企画研修部)、「チャレンジキャンプ」(体育事業部)、「ちびっこ冒険団」「フェローシップキャンプ」「ゆきんこ冒険団」(プレイ事業部)に、多くのボランティアが参加した。

代表者会は、こどもの城ボランティア全体の活性化をめざして、ボランティア同士の交流会、学習会、機関紙の発行など、ボランティアのセルフヘルプ活動を行う青年ボランティアの活動である。前年度まで各期の代表者

みんなてあそんしゃ王国



1～3人で構成されていたが、本年度から各グループの代表者と有志で組織する形に変更した。代表者会は有志は15人で構成され、月1回、第2土曜日に各グループの代表者とミーティングを行った。各グループの代表者は活動に対する意識の違いが、この取り組みによって顕在化し、ボランティア組織全体を横断する活動の難しさを改めて痛感させられた。

(イ) ボランティアの養成

【こともの城】での研修や活動経験をもとに、広く全国の児童健全育成の現場で活動するボランティアを養成する講習会を実施している。本年度は、大学生以上(社会人を含む)の青年層を対象とした「ボランティア講習会」を2回実施した。2回目からは、「ボランティアセミナー」に名称を変更。

特に、平成22年2月に実施した2回目の講習会では、学生ボランティアの応募を増やすために「オープンキャンパス」を実施した。ボランティア講習会への申し込み前に、【こともの城】の見学、ボランティアの概要説明を行うもので、ボランティア活動のアウトラインを把握した上で、受講の可否を決定できるようにした。36人が参加し、うち9割が講習会を受講した。

また、社会人が仕事帰りに受講でき、学生にも参加しやすいよう、講習会の時間を、18時～20時30分から、19時～21時に変更した。これまで18時～18時30分に実施していた、各部スタッフによる事業説明は廃止した。

ボランティア募集は、従来はちらしの配布を中心であったが、インターネットを活用するようにした。特に学校、企業などが提供する、ネット上のボランティアコーナーでの露出は効果があった。同時に「ボランティア講習会」の名称を「ボランティアセミナー」と変えるなど、若い世代に受け入れられやすいよう、楽しく、明るいムードを強調するようにした。こうした取り組みにより、61期は定員30人のところ43人の応募があった。

また、本年度から、継続登録を希望したボランティアを対象に、「登録ボランティア研修」を実施した。新

規登録にあたって改めて行う研修会で、ボランティア一人ひとりの子どもへの対応の質的向上をはかることと、登録ボランティアの意欲を向上させて活動率をあげることを目的とした。4回同じ内容で実施し、受講日を選択できるようにした。時間帯、曜日、内容等に課題が残るもの、「意欲がわいた」「こともの城の現状がわかった」「積極的にボランティア活動を行いたい」など、事後アンケートの結果はおおむね好評だった。

4. 講座・クラブ

「じよいんクラブ」は、20人の募集に対し3人の申し込み。講座の目的でもある「グループによる活動」と「手話の学習をとおして、来館児・者に向けての福祉活動をする参加型プログラムの計画・実施」が実施困難と判断して、講座を中止した。代替として、LIT活動のなかで、1日手話講座を行った。また、春休み特別期間に短期講習会「小中学生のためのエンジョイ手話」を実施した。

「LIT」(Leader In Training)は、高校生の社会参加活動プログラム。従来は高校生を対象にしていたが、本年度から対象を「高校生世代」とし、学校に通っていないなくても参加可能とした。割合としては少ないものの、高校に何らかの理由で通っていない子ども、学校や家庭に課題を抱えている子どももいる。こうした子どもの居場所、自己発見、自己実現の場所としてもLITが存在する社会的意味は大きいと考える。

ボランティア活動をめざせるような自己肯定感、自己確立が熟成したメンバーだけでなく、あいまいな不安を抱き、課題を抱えている高校生世代も受け入れられる健全育成事業をめざしていきたい。

5. まとめ

社会情勢や来館児・者の要望の変化にあわせ、本年も少しづつだが対応をはかった。

乳幼児を連れた来館者への対応では、3歳未満児を対象としたプログラム「ぱかぽか広場」を本格的にスタートさせた。「赤ちゃんサロン」と同様に、午前中から開催している。また、前年度に引き続き、全館でプロジェクトチームを作り事業を行う試み、中高生の職場体験の積極的な受け入れやボランティアの育成にも力を入れた。

いずれも全館をあげての対応となった。企画研修部に求められるのは、部単独でプログラムを実行する能力よりも、優れた調整能力とコンセンサス作りである。各部の特性を生かしつつも、全体としてうまく機能していくよう、優れた調整能力を發揮し、各部が力を發揮できる環境作りに努めていきたい。

平成 21 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈展示・ワークショップなど〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 こともの城探偵団「水のヒミツをさかせ」	4月29、5月2～6 10:00～16:30	森の中にかくされたヒントを集め、水のヒミツを解き明かし、探偵団の認定証をもらう。 三ツ矢サイダーの協賛。 (キャラリー)
〈 〃 〉 こともの城 ファミリー劇場	5月2 5月3～5 13:00、15:00	家族で、劇場で気軽に楽しめる催し。若手劇団「キャプテンチンパンジー」による公演「ネロとパトラッシュと貧乏神～フランタースの大より～」。1,500円。入館券対応。7回公演、総入場者数1,293人。 (青山円形劇場)
〈 〃 〉 ハブハブヘビータウン	5月2～6 開館時間中(6日は16:00まで)	乳幼児の居場所。ホランティアが在室し、親子にゆったりかかわることでてきた。ホランティアによる手作りおもちゃが好評。遊び場や休憩室からの動線が悪く、ハキーでの移動が困難などの課題はあるが、「居場所」として大切に考え、継続していきたい。前年度より時間を延長して実施。5月2日は小児保健部、3～5日は保育研究開発部、6日は企画研修部(ホランティア)担当。 (研修室)
〈 〃 〉 三ツ矢サイダー環境プロモーション アスリートトークショー	5月3 13:00、15:00	アスリートの荻原次晴さんをむかえ、小学生以上の親子を対象としたトークショー。三ツ矢サイダーの協賛。13時の回13組(48人)、15時の回10組31人。 (会議室)
〈 〃 〉 あそひのおもちゃ箱	5月5・6 10:00～16:00	人形劇・パネルシアター・紙芝居の公演、「はっぱ」作りのワークショップ、子どもたちがその場で練習し観客の前で演じて見せる「キッズ人形劇団」——複合的な催し。青年ホランティアの人形劇グループや女性ホランティアの読み聞かせ、パネルシアター、紙芝居のグループなどの日常活動がベースになっている。 (会議室・研修室)
〈 〃 〉 アイスクリームのプレゼント	5月6 11:00～12:00 13:00～15:00	5月9日の「アイスクリームの日」にちなんで、来館児・者にアイスクリーム1,200個をプレゼント。協力(株)日本アイスクリーム協会。 (フリーホール)
〈児童福祉週間ほか〉 マックロー・クリーティング	5月5、11月3、H22.1.3 開館時間中(数回)	「こともの日」を記念して、子どもたちと握手をしたり記念撮影をし、「こともの城」をアピール。開館記念、冬休み特別期間にも実施。(ピロティ、アトリウム、屋上、研修室など)
〈夏休み〉 三ツ矢サイダー環境プロモーション みすまもるんの世界	7月18～8月31 開館時間中	みすま森”にいるといわれている精霊”みすまもるん”を探す。水で遊ぶコーナー、間伐材で虫や動物を作るワークショップと森を守る取り組みを紹介したパネルの展示。三ツ矢サイダーの協賛。 (キャラリー)
〈 〃 〉 こともの城 あそひ day キャンプ 親子 DE ピザづくり	7月25、8月1 10:30～14:00	野外活動や一日講座とは違い、しっかり遊びに取り組み、仲間と触れ合ったり、互いを高めあうことを目的とした、小学生以上の親子のための日帰りキャンプ。本年度で3年目。ピザを作るだけでなく、火おこしや専用のオーブンも作った。親子で協力する楽しさを感じてもらうとともに、他の家族と触れ合う良い機会となった。7月25日13家族(31人)、8月1日15家族(31人)。 (会議室ほか)
〈 〃 〉 キンター・フィルム・フェスティバル	8月9～12	本年度で17回目となった子どものための映画祭。子どもをテーマにした映画、子ども向きのアニメーションを上映するだけでなく、声優吹き替え、審査員、司会進行、受付といった映画祭進行のすべてに子どもたちが参加した。キンター・フィルム・フェスティバル実行委員会が主催、「こともの城」は共催者として催しを支えた。 (青山円形劇場)
〈夏休み〉 スパイキッズ大作戦2	8月30・31 11:00～16:00	妖怪をあやつる悪の組織から「こともの城」守るというゲーム。総務・管理部門を含めた全スタッフの協力のもと実施。ハーチャルリアリティーの世界で遊ぶことに馴れている子どもたちに、想像することの楽しさ、体を動かして直接体験することの楽しさを感じてもらうことと、子どもとスタッフが一体となって“ここ遊び”を展開することで、互いに共感し、「こともの城」がより身近で親しみのある遊び場たと認知してもらうことをめざした。 協力 ヤマタ電機 LABI 渋谷。 (4階ロビー、館内)

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 集まれ！ちひっこ海賊団 ～リット海への大冒険	8.29・30 11:00～16:00	[こともの城] の高校生ホランティア LIT による“遊びのお祭り”。リット海にやって来た一般来館の子どもたちがゲームにチャレンジし、海賊団をめざす。事前募集で集まった小学1～4年生の「ちひっこ海賊団」が、チャレンジするゲームを考えた。(フリーホール)
〈秋のフェスティバル〉 実りの秋た！カモン!! みんなてあそんしゃ王国	9.19・20 11:00、13:30、16:30	秋の5連休プログラムとして「秋のフェスティバル」を実施。その一環として、ホランティアによるスペシャルゲーム大会を開催し、さまざまなゲームを行った。 (プレイホール、ふしきか丘、4階ロビー)
〈 〃 〉 秋まつり～みんなて縁 日たのしもう！～	9.21・22 15:00～19:00	縁日・お祭りを[こともの城] らしくアレンジし、さまざまな世代に楽しんでもらい、今後の来館につなげることが目的。本年度で3回目。地元の人々や友の会、講座・クラブ受講生にも積極的に呼びかけ参加してもらい、日ごろの感謝を表しつつ、[こともの城]への理解をより深めてもらえるよう努力した。各部の協力で運営した飲食模擬店のほか、ゲーム、パネルシアター、星空映画会など[こともの城]の遊びを生かしたプログラム、近隣の中高生による読み聞かせ、古楽器&打楽器の演奏、シャクリングなど、楽しい時間を過ごした。 (屋上ふしきか丘 ネット広場)
〈 〃 〉 友の会フリーマーケット	9.23 13:00～15:30	育児用品、子ども用品専門のフリーマーケット。こともの城の友の会会員8家族が出店し、売り上げの一部を福祉団体に寄付した。 (フリーホール)
〈ファミリー月間〉 第16回おりかみカーニ バル／全国児童館おり かみ作品展	10.31～11.23 開館時間中	子どもからお年寄りまで幅広く気軽に楽しめる折り紙に、多くの人に親しんでもらうための催し。日本折紙協会と共に開催。「全国児童館おりかみ作品展」を同時に開催。私たちの街Ⅱ”をテーマに25館から出品された作品を展示した。関連企画として「おりかみにつくなる講習会」を開催した。 (キャララリー)
〈 〃 〉 いきいき家族写真展	10.31～11.29 開館時間中	11月の第3日曜日「家族の日」を中心に、開館記念日がある11月を「こともの城ファミリー月間」とし、その一環として行った写真展。「私の大好きな〇〇〇」をテーマに、公募。家族のいきいきした姿を収めた写真162点が集まつた。多くの一般来館児 者に見てもらえるよう、4階ロビー、3階プレイホールに展示した。 (4階ロビー、プレイホール)
〈 〃 〉 ぽかぽか広場 お父さんスペシャル	11.15 11:00～16:00	火曜日に行っている「ぽかぽか広場」のファミリー月間スペシャル版。乳幼児が大人と一緒に遊んだり、くつろいたりできるスペースを提供。父親を意識したプログラム構成で、保育スタッフによるスponシ人形作りのワークショップも実施した。 (保育室1)
〈冬休み〉 おそなえ餅つくり ～年末に家族でお餅つき！～	12.26 10:15、13:00、15:00	こともの城友の会会員向けに行っていた催しを、本年度は会員以外も参加できるようにした。43家族130人が参加。日本の風習の一つであるおそなえ餅のできあかるる過程を親子で体験し、おそなえ餅を飾る“おしき”的作り方の紙をプレゼント。 (フリーホール)
〈 〃 〉 ほんぼこ人生ゲーム	12.27・28 11:00～16:00	葉っぱー というお金を増やして、たぬきの国の億万長者をめざす人生ゲーム。複数の事業部の協力のもと実施した。 (4階ロビー、館内)
〈 〃 〉 新春あそひのお年玉 くるっとまわしてめでタイカ 駄菓子屋タイカ	H22.1.3～7、9～11 開館時間中	昭和30～40年代の駄菓子屋の店先にあったおもちゃの展示と、おもちゃで遊べるコーナーを開設。駄菓子屋もオープンし、雰囲気を盛り上げた。 (プレイホール、3階ロビー)
〈春休み〉 ニッサンゆかいな絵本 と童話展～ペーシをめ くる、くるくる、春。～	3.20～4.5 開館時間中	第25回ニッサン童話と絵本のクランプリ受賞作品の原画やパネル展示、そのストーリーから広げたテーマ「おたんじょうひカレンター」を作るワークショップを開催。材料は自動車に使用している内装材や緩衝材や紙など。日産自動車の工場から提供を受けた材料にあわせ、包装紙や雑誌、飲料のプラスチック容器、布の端切れなどを[こともの城]内から調達して使用した。会場装飾の一部は、事前募集した子どもたちによる乗りたい車のイラストと、それをもとに、日産自動車のカーティナーカ描いたテサイン画。今回は、クランプリ受賞者・みやこしあきこさんに内装材を使った看板、絵本がわかるまでを紹介するコーナーを制作してもらった。関連イベントとして、カーティナーと子どもたちの交流プログラム「きみもカーティナーになろう！」を3月20日に開催した。協力、日産自動車(株)。 (キャララリー)
〈 〃 〉 ゆったり親子のおんかく園	3.20～4.5 開館時間中	3ヶ月～3歳11ヶ月の子どもと保護者を対象とした、音楽が置いてあるくつろぎのスペース。今回のみ音楽事業部にかわって、企画研修部が担当して開催した。 (Aスタジオ)

名 称	日 時	内 容
〈春休み〉 あんたかた“はる”さ♪ みんなであそんしゃ王国	3/27・28、4/3・4 11:00、12:00、16:30	ホランティアによるスペシャルゲーム大会。さまざまなゲームを展開した。 (プレイホール。4月3・4日の11時は体育室)

〈全館をあけての取り組み〉

名 称	日 時	内 容
とり+かえっこ	6/20・21 12:00～16:30 H22/2/20・21 13:00～16:30	使わなくなったおもちゃを“ハンク”で売り、引き換えたポイントで別のおもちゃを買える遊び。【こともの城】の特色を出すために、館内のプログラムに参加して遊んだり、「お仕事体験」をするとポイントからえ、おもちゃを買える仕組みにした。子ども参画の可能性を検討するため、〈まち〉の運営やゲームの仕事を担う「子ども実行委員会」を組織。小3以上を対象に事前募集、6月は9人、2月は14人か参加。事前に3回の実行委員会を開催し、ポスターや館内で流すCM作りのほか、ゲームの企画・準備、当日の運営を行った。 (6月は体育室／2月はキャラリー)
みんなでつくろう！新世界 チキチキトルッチャワールト	H22/1/23 13:30～17:00 1/24 11:00～16:30	「子ども参画」のプログラム。事前募集で集まった子どもたちが各部に分かれ、各部スタッフやホランティアとともに数回の事前活動をし、一般来館児・者向けプログラムの準備・運営をした。小学1年生～高校3年生の44人が参加。中高生は全体の運営に関わる準備活動も行った。スタッフの自薦によって結成した「プロジェクトチーム」が全体のコーディネートを行い、各事業部のスタッフが子どもたちの活動をサポートした。 (音楽ロビー、プレイホール、体育室、フリーホール、造形スタジオ、ふしきが丘)
小学生プログラム スペシャル 「あつまれ！小学生」	H22/2/11、13・14	学童期の子どもの来館促進をねらいに実施。イヘント参加後も、毎週土曜日に実施している小中学生対象プログラムへの、継続的な参加につながるように共通の参加カードを作成し、来館促進をはかるようにした。期間中は、「小・中学生土曜日パス」を使用できるよう設定した。 【実施プログラム】サタテラホラトリー・スペシャル「発見！」光のフシキ・見るフシキ／ボコ・ア ポコ土曜音樂俱樂部・スペシャル「シェンヘ」(11日)、「箏」(13日)、「三味線」(14日)／ヒックサター・スペシャル／クリエイティフコーナー・スペシャル「フェルウット不思議な動物を発見！」
〈ファミリー月間〉 「赤ちゃん大集合」	中止(1/4 10:30～17:30)	恒例の乳幼児と親を対象にした催し。本年度は新型インフルエンザの影響により、中止した。この催しがきっかけとなり、【こともの城】を利用するようになる人も多いたけに、今後の影響も大きく、残念な結果となった。 (研修室ほか)
ぽかぽか広場	4/21、5/19、6/16、7/14、 10/27、12/8、H22/1/26、 2/16、3/16 11:00～12:30	3か月～2歳11か月の子どもと保護者のための広場。「赤ちゃんサロン」よりさらに年齢対象をひろげた、自由参加型の広場。火曜日(11時～12時30分)に年9回開催。子どもたちと保護者の交流、子育ての情報交換、幼児の生活や遊びについてのアトハイスなど。各部のショート・プログラムも紹介。入館券対応。延べ337組の親子が利用。(音楽ロビー)
クループ活動	通年	平日の午前中を利用して、保育所、幼稚園および小学校などの団体を対象に、遊びのプログラムを提供。本年度は、156団体3,267人(前年度は155団体3,187人)を受け入れた。全体の三分の二が未就学の児童、残りが小学生と特別支援学級や特別支援学校。中学生の利用はなく、高校生の利用が1件あった。10月から、当日の案内引率を廃止し、自由遊びも午後の開館時間後に変更した。
こともの城友の会	〃	家族単位で入会し、【こともの城】の活動をサポートする。会報「こともの城友の会通信」を年12回発行している。劇場公演や試写会への招待・優待、会員向けの特別プログラムの開催などを行っている。3月末日までの会員数は760家族(前年度884家族)。
来館促進活動	〃	各種優待パスの企画、入館キャンペーンの企画・実施、【こともの城】の地元となる渋谷区・港区内の小学校などへの働きかけなど、【こともの城】への来館を促進するための活動を行っている。

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
おもちゃ図書館 マックロー	[こともの城] の休館日を除く水曜日（延べ 49 回） 11:00～16:00	障かいのある子どもが気軽に利用できる遊び場として、87 年（昭和 62 年）に開設された「こともの城おもちゃ図書館マックロー」。本年度も 4 人のホランティアを中心に運営された。利用者数はその日によってまちまちたか、延べ 50 回開催し、300 人近い利用者があった。「夏休みのお楽しみ会」や「クリスマス会」などの催しを行い、他のおもちゃ図書館との交流もはかった。 (会議室)
渋谷ユネスコ協会「ヒト展」～せかいのかお	5.31～6.7	渋谷区在住または在園・在校の子どもたち、ユネスコ運動に共鳴した大人、それに海外の子どもたちの絵画や立体造形作品を集めた交流作品展。本年のテーマは「せかいのかお」。 (キャラリー)
青山国際村へ出店 (昔あそびコーナー)	10.24・25	[こともの城] に隣接する国連大学、オーハルヒルなどが主催する、地域のイヘントに参加。こま・へいこまの体験コーナーを展開しながら [こともの城] の PR 活動。子どものみならず大人も参加する姿が見られた。また 25 日は天候が思わしくなく時々雨が降る天候だったが、テントの下で活動した。
ハンカリーのクリスマス ～絵本作家マレーク・ ヘロニカさんを迎えて (日本・ハンカリー交流年)	11.28～12.13	ハンカリーで国民的な人気を誇り、日本でも多数の翻訳絵本が出ているマレーク・ヘロニカさんの絵本原画の展示を中心に、ハンカリーのクリスマスを味わう催し。ハンカリー国内 4 つの学校や保育所の子どもたちの手作りのクリスマスカードの展示と、その返事を書くコーナーや、マレークさんたけではなく他の作家の絵本や、ハンカリーのアニメーションを楽しむコーナーを併設。12 月 5・6、11～13 日にはマレークさんのおはなしを聞くワークショップ（定員制）、6 日にはハンカリーのサンタクロース「ミクラーシュ」を迎えたイヘントも開催。 (キャラリー) × 9 月 27 日の「わいわいスタシオ」に出演した“カラーカ”は、ハンカリーを代表する音楽グループ。日本・ハンカリー交流年（日本ハンカリー国交樹立 140 周年・国交回復 50 周年）の関連イヘントとして行われた。
TOKYO ミューシックマラソン音楽祭 2009 少年山賊団	12.12 13.30	東京都内数か所で音楽ライヴを行う「TOKYO ミュージックマラソン音楽祭 2009」のプログラムのひとつとして実施。出演は、3 人組の“少年山賊団”（ハンショート + パーカッション 2 人）。
早ね早起き朝こはん体操 ～おはようスイッチ	H22.1.31 15:10	文部科学省が主唱する「早寝早起き朝こはん」の一環として、早寝早起き朝こはん体操普及のためのイヘントを実施。インストラクターの指導のもと、早寝早起き朝こはん体操を楽しめた。カチャピンヒムックの着ぐるみも登場して催しを盛り上げた。 (体育室)
アートスケープ 2010	2.27～3.7 開館時間中	首都圏のインターナショナルスクール、アメリカンスクール 11 校と日本校 1 校の合同美術作品展。600 点におよぶ生徒が制作した絵画、版画、素描、立体作品、陶芸、写真などさまざまなジャンルの作品を展示。 (キャラリー)
とうふつしうきカップ・ 1day トーナメント	2.28 11:00、11:45、12:30	日本女子プロ将棋協会が将棋普及のために考案した 12 マスの「とうふつしうき」の大会。レベル別の 3 クループに分かれて対戦。最上位のライオンクループの決勝トーナメントの会場には、真剣勝負の緊張感が漂った。一方初心者のひよこクループでは、親子で初めてのゲームに挑戦する参加者も多かった。 (体育室、会議室)
児童憲章愛の会	3.12～14 開館時間中	（財）児童憲章愛の会の主催の、小中学生のコンクール（図画、作文、書写、写真の 4 部門）。[こともの城] も協賛。各部門の優秀作品に「こともの城理事長賞」を授与している。 (キャラリー)
「音楽あそびマーケット」スペシャル 楽しい大型絵本！『森の戦士、ホノロン』	3.13 13:30～14:00	キッズステーション『ホノロン～不思議な森のいいつたえ～』のテーマソングを歌っている、うちやえゆかさんが来館。大型絵本を読んだり、テーマソングを子どもたちと歌ったりするイヘントを開催。[こともの城] の活動に趣旨が沿うことから外部企画を受け入れたもの。 (音楽ロビー)

2. ボランティアの活動

〈定例活動〉

名 称	日 時	内 容
保育活動 (保育研究開発)	月～金曜日 10:00～16:30	保育スタッフとともに、2歳児クラス、または3～5歳児グループに入り、運営補助。 (保育室ほか)
赤ちゃんサロン (小児保健)	月2回火曜日 11:00～14:00	小児保健スタッフとともに、乳児とその親を対象にした広場事業の運営サポート。 (音楽ロビー)
紙芝居 (プレイ)	第1・3水曜日(練習は隔週) 15:00～15:30	親子を対象に紙芝居を行う。「みんなのにこにこ広場」。 (プレイホール)
女性人形劇 (プレイ)	第2水曜日(練習は毎木曜日) 15:00～15:30	手作りの人形を使い、脚本から上演までを行う。昔話や音楽に合わせて人形が踊る人形劇を実施。 (プレイホール)
影絵 (プレイ)	第4水曜日(練習は毎火曜日) 15:00～15:30	人形、背景、脚本など手作りで実施。昔話や童謡・唱歌を独自に演出・構成して実施。 (プレイホール)
おりかみあそひ広場 (プレイ)	木曜日 14:30～15:30	毎回1～2種類の折り紙遊びを子どもやその親を対象に伝える。毎月の折り紙の企画も実施。 (プレイホール)
みんなの楽器屋さん (音楽)	木曜日 15:30～16:00	プロクラム導入の手遊びや、音楽プロクラム「みんなの楽器屋さん」で参加する子どもたちをサポート。年数回、ボランティアが楽器の演奏も実施。 (音楽ロビー)
絵本てあそぼっ (企画研修)	金曜日 14:30～15:00	幼児とその親子を対象に、絵本の読みかたりを実施。 (Aスタジオ)
みかんちゃんズの オバオバサンハ(音楽)	全曜日 15:00～15:30	スタッフとともに‘サンハ’のリスムを中心に子どもたちと一緒に演奏、プロクラム指導を行う。 (音楽ロビー)
布おもちゃ (企画研修)	第2・4金曜日 10:30～15:30	プレイホール幼児コーナーで子どもたちが遊ぶ「抱き人形」を作成。また幼児コーナーの環境作りとして、遊具や装飾の手芸関係の活動を行う。 (ボランティアオフィス)
親子のほっこりタイム (小児保健部)	金曜日(2日×2回 6、10月) 13:30～14:30	小児保健部の講座で、赤ちゃんをサポートする。 (小児保健クリニック)
ヒックサタニー(体育)	土曜日 10:30～11:45	小学校4年生以上の高学年を対象にしたスポーツプロクラム。バスケット、ハーモニカ、サッカーなどを実施。 (体育室)
不思議な映像実験室 (AV)	土曜日 15:30～17:30	来館児・者を対象に行う視覚かん具作りのワークショップ(主にくるくるアニメ)の運営補助。 (音楽ロビー)
手足の不自由な子の水泳 (体育)	土曜日 17:00～18:00	講座に参加する子どもたちにボランティアが一対一でつき、水泳の補助。 (プール)
土曜昔あそひの会 (企画研修)	第2・4土曜日 14:00～17:00	来館した子どもたち、その親を対象に、こまや三つ馬などの伝承遊びを実施。 (ふしきが丘ほか)
キッズクラブ(プレイ)	月2回土曜日 15:00～17:00	小学1～4年生を対象に行う年間をとおしたクラブ活動を運営する。プロクラム企画・準備、グループワーカーとしての役割を担う。 (会議室ほか)
こともの城アトヘンチヤー(企画研修)	月1～2回土曜日 14:00～16:30(受け付け時間)	ことも活動エリア全体を使って、与えられたヒントをもとに進っていく、ウォークラー形式のゲームを実施する。 (全館)
ユースクラブ(プレイ)	月2回日曜日 13:30～15:30	小学5年生～中学3年生を対象に行う年間をとおしたクラブ活動で、プロクラム企画・準備、グループワーカーとしての役割を担う。 (会議室ほか)

名 称	日 時	内 容
L.I.T. =高校生ボランティア (企画研修)	月 2 回日曜日 10:00 ~ 16:00	[こどもの城] を活動基盤に、年間をとおして高校生が行うボランティア活動を支援する。ボランティアはプログラムを企画、準備、運営する際のアドバイス、よりよいグループ活動を行うためのワーカーとして働きを担う。 (会議室ほか)
絵本の読みかたり (企画研修)	第 2 日曜日 14:00 ~ 14:30	保育室の 1 ~ 2 歳の遊び場で実施。お話し会の後、子どもたちに自由に絵本を読んであげる時間も設けている。 (保育室 2)
つくってあそぼう (企画研修)	第 3 日曜日 14:00 ~ 16:30	小学校低学年を対象に、身近な素材でおもちゃを作り、遊ぶ活動。ケーキをデコレーションする工作と遊びの「デコペペケーキ工場」で、ケーキ職人をめざした。 (フリーホール)
日曜クラブ	月 1 回日曜日 14:00 ~ 17:00	縄跳び、フラフープ、ドッジボールなどを実施。七夕、クリスマス、ひなまつりの時期にはクイズ大会も実施。 (ふしげが丘)
青年人形劇 (企画研修)	月 1 回日曜日 11:30 ~ 12:30	パネルシアターのグループと合同公演することが多くなった。[こどもの城] のマスコット“マックロー”的棒を使い人形を使ったオリジナル人形劇。 (プレイホール)
パネルシアター (企画研修)	月 1 回日曜日 13:00 ~ 14:30	パネルシアターの公演と、パネルを使って遊ぶワークショップ。青年人形劇との共同公演が定着し、互いに活動をサポートしながら、内容の充実をはかった。 (プレイホール)
手作り楽器のワークショップ (音楽)	夏休み特別期間 (約 2 週間) 12:00 ~ 16:00	4 種類程度の手作り楽器のワークショップの運営サポート。4 月ごろから事前準備活動。素材の整備を行いつつ、作り方の研修を受けた。 (B スタジオ)
プレイホールの季節行事など (プレイ)	通年	プレイ事業部主催の季節行事 (七夕、ひなまつり、節分) およびバンバー大会などのプログラムで運営のサポートをする。



女性ボランティア～布おもちゃ



おりがみあそび広場

あそびのおもちゃ箱～キッズ人形劇団



〈特別期間中の活動〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 子どもの城 キャッスル クエスト 2009 ～受け継がれし紋章～	5.2～6	ふしぎが丘で騎士になるための修行（ゲーム）を行い経験を積み重ね、最後はボスを倒す、ロールプレ잉ゲーム。プレイ事業部とボランティアの共同企画。（ふしぎが丘）
〈 〃 〉 あそびのおもちゃ箱	5.5・6	人形劇などの公演系のグループが参加。子どもが演じる「キッズ人形劇団」も実施。（研修室、会議室）
〈夏休み〉 ミツツサイダー環境プロモーション みずまもるんの世界	7.18～8.31	企画研修部スタッフと一緒に、木片（森林からの贈り物）を活用して森の生き物を創造して作るワークショップを担当。企業とタイアップした環境プログラム。（ギャラリー）
〈 〃 〉 ウォーターアドベンチャー 2009奪われたパンドラの箱	8.14～16	夏休みらしく、水鉄砲を使ったゲーム大会。ボランティア扮する悪者から、パンドラの箱を奪い返すというロールプレapgollyるゲーム。子どもたちは、水鉄砲を武器に悪者と戦う。（ふしぎが丘）
秋まつり	9.21・22	ボランティアはゲームコーナーの運営、パネルシアターの公演、スタッフの運営する屋台のサポートを行った。（ふしぎが丘）
〈ファミリー月間〉 赤ちゃん大集合	11.4（中止）	女性ボランティアは、「みんなであそぼうにこにこパーク」を担当。親子でゆったり遊ぶ手作りおもちゃのスペースを運営を計画していたが、新型のインフルエンザ流行のため中止。（研修室）
〈 〃 〉 あそびが山もり！ドドン村!! ファミリーフェスティバル	11.21～23	「ドドン村」の村おこしのために、さまざまなゲームを展開。年間をとおして活動を実施している、さまざまなグループが参加。（ふしぎが丘）
〈冬休み〉 新春あそびのお年玉～ 目出田一家のお正月～	H21.1.3～7、9～11	屋上遊園では投げごま、三つ馬、プレイホールでは、べいごま、あやとり、百人一首、カルタなど実施。駄菓子屋風に昔遊びを展示したほか、駄菓子屋をプレイホール内に設置し、こまなどのおもちゃや駄菓子を販売した。プレイ事業との共同企画。（屋上遊園、プレイホール）
チキチキドルッチャ ワールド	1.23・24	全館事業として、スタッフのプロジェクトチームとボランティアが共同で進める。実行委員の小学生、中学生が考えた遊びの企画を運営する。（音楽ロビー、プレイホール、体育室）
〈春休み〉 あんたがた“はる”さ ～みんなであそんじゃ王国～	3.27・28、4.3・4	さまざまなレクリエーションプログラムを実施した。今回はプレイ事業部と共に。平日にも関連の事業を実施、協力した。（体育室、プレイホール）
〈特別期間〉 ゆったり親子の おんがく園	児童福祉週間（ゴールデンウ イーク）、夏休み、冬休み特 別期間	特別期間に設けられる乳幼児とその親子のためのゆったりスペース。音楽事業部担当。主に女性ボランティアを中心に、親子の居場所作りの環境整備を行った。（Aスタジオ）

3. 講座・クラブなど

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
L.I.T. (Leader In Training)	(人) 高校生 (30)	(人) 32	日曜日 13:30～15:30 (原則／月2回)	高校生の社会参加プログラムとして実施。トレーニング中のリーダーという意味で、[子どもの城] のなかで、〈あそび〉をとおして子どもたちとふれあうボランティア活動。9月から翌年度の8月までの1年間を活動単位としている。受講料=10,000円(1年間)。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
小中学生のための 福祉講座「エンシ ヨイ手話」	(人) 小4～中3 (20)	(人) 2	H22.3.21 13:00～15:30	「しょいんクラブ」に替えて、春休み短期講習会として実施。手話の入門編と して、歌遊びや指文字でのカード作りなどを行った。手話の指導は、手話通 訳士の中野佐世子さん。受講料=1,000円。

〈専門指導者向け講習会など〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容	
平成 21 年度 登録ホランティア 研修	(人) 平成 21 年度こ どもの城登録 希望ホランテ ィア (各 50)	(人) 85 51 56 22	4.12 5.9 5.14 9.26	9:00～12:00	座学が中心。4回とも同じ内容にし、ホランティアが都合のよい日を選択できるよう設定した。内容は、「こともの城ホランティア～その現状と課題～」(こともの城・熊澤桂子)、「こともの城ホランティアに期待すること」(こともの城理事長・吉武民樹)、「平成 21 年度こともの城事業運営の指針～子どもを取り巻く現状とこともの城の課題～」(こともの城事業本部長・羽崎泰男)、「こともの城ホランティアを考える～“ホランティア活動は恋愛に似ている”何故?～」(こともの城・佐野真一)

ホランティア講習会

第 60 期	18歳以上 (高校生不可) (30)	15	5.23～6.9 18:00～20:30 (宿泊研修 5.29～31)	学生 8 人、社会人 7 人の計 15 人が修了。座学はオリエンテーションなどを含め 8 回。「遊び心を再チェック」(こともの城・岡野正和)、「施設の風ホランティア活動を考える」(日本ホランティアコーディネート協会・平野幸子さん)、「子どもの育ちを支える児童館」(こともの城・松下浩市)、「野外活動 ココか魅力」(こともの城ホランティア)、「実践！子どもの心をつかむプログラム」(岡野正利)、「こともの城ホランティア 1・2・3」(こともの城・熊澤桂子)。宿泊研修は、足柄ふれあいの村(神奈川県)。
第 61 期	18歳以上 (進路決定の 高校生可) (30)	43	H22.2.6～3.2 19:00～21:00 (宿泊研修 2.26～28)	高校 3 年生 6 人、学生 26 人、社会人 11 人の計 43 人が修了。座学は「子どもの心をつかむ集団あそびにチャレンジ」(こともの城・岡野正和)、「ホランティアの 4 つの原則・4 つの役割」(こともの城・佐野真一)、「実践！子どもが惹きつけられるプログラムつくり」(こともの城・専門スタッフ)、「専門家に聞く！子ども今、児童館の今」(大正大学教授・西郷泰之さん)、「活動オリエンテーション」(こともの城・熊澤桂子)。2月 14・15 日に、ホランティア体験実習。宿泊研修は、三浦ふれあいの村(神奈川県)。 ※事前に概要説明を行う「オープンキャンパス」参加者 36 人。

ホランティアクレートアップ講習会

夏季野外活動	こともの城 ホランティ ア (30)	22	7.11・12	小 4 ～ 中 3 を対象にした「ジュニア・アウトドア・スクール」に参加するホランティアが対象。主な内容は「野外生活の基礎づくり テント・タープの建て方・ランタン、コンロの使い方」「森の仲間の祭典の実際」「野外炊事実習」「個人選択プログラムの開発と実際」を実施。また、1泊 2 日のキャンプの運営を、食事、物品、プログラムとそれぞれの係に分かれ運営。本番のキャンプ本部運営の動きをシミュレートした。船橋県民の森キャンプ場(千葉県)。
冬季野外活動	こともの城 ホランティ ア (30)	11	2.19～21	小 3 ～ 中 3 を対象にした「ジュニア・スプリング・キャンプ」に参加するホランティアが対象。主な内容は「歩くスキーコース徹底把握」「back to nature 理論編・実践編」「巨大な雪の造形物製作」「イクルー作りの基礎学習」「イクルーホームパーティーエクスペリエンス」など。ホランティア同士の相互関係、相互援助の活性化をめざした。講師に桃井泰彦さんを招く。国立妙高青少年自然の家(新潟県)。
第 22 期 女性ホランティア 講習会	おおむね 30 歳以上 の女性 (20)	10	11.10～26 13:30～15:30	内容は「こともの城とこともの城ホランティアの役割」(こともの城・佐野真一)、「こともの城ホランティア活動紹介」(こともの城ホランティア)、「やってみよう！子どもに伝わる話しかた」(こともの城・竹部正人)、「現代子育て事情」(NPO 法人せたかや子育てネット代表理事・松田妙子さん)。参加者の平均年齢は 53 歳。

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
シニア・アウトトア・スクール 2009	8.5～11	<p>小学生 39 人、中学生 31 人、高校生 9 人、ホランティア 28 人、スタッフ 3 人の合計 110 人が参加。6 泊 7 日。幕営。保護者見学会は、5 年前の 30 人を上回り、51 人が参加。保護者の関心が増している。参加者は定員（75 人）を下回る 70 人で、うち 7 割以上が継続参加者。新規メンバーの参加率が低下している。場所は独立行政法人国立花山青少年の家南蔵王野営場（宮城県）。</p> <p>【主なプログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> □熊野岳登山～中学生プログラム～=蔵王連峰最高峰（1,841m）の熊野岳をめざす。「蔵王のお釜」を下りるコースに予定していたが、悪天候のため、市中の熊野岳を歩く全行程 8 時間の歩行となった。 □ふなの森探検～小学生プログラム～=キャンプ場内に広がるふなの森をめざし、ハイキング。大木のなか、2 時間かけて森に到着。豊かな森で、自然と親しみ遊びを行う。夜は小学生だけの野外炊事。翌朝の朝食は、中学生のための食事作り。ベースキャンプを小学生たけて、仲間とともにしっかりと守りながら、有意義な時間を過ごした。 □アウトトリップ=常設テントから離れ、広大な場内の好きな場所に、トーム型テントを張り班ごと宿泊。本年度は、班長同士が話しあい、数班が合同夕食パーティを計画実施したり、班独自の活動を楽しむなど、特色ある活動を展開した。 □森の仲間の祭典=班ごとに屋台を出すお祭り。高校生リーダーと子ども実行委員会「お祭り隊」が中心になって企画、運営を行った。当日は、JOS 25 周年記念として、保護者見学会も実施。51 人の保護者と家族が参加。
シニア・スプリング・キャンプ 2010	H22.3.27～31	<p>小学生 41 人、中学生 31 人、高校生 11 人、ホランティア 24 人、スタッフ 3 人の合計 110 人が参加。4 泊 5 日。宿舎での生活を中心になるので、「自然体験」「生活作り」が希薄になる。今回は、自然体験を豊かにするために「雪上テント泊」を実施。準備段階からの参加で、雪上という厳しい条件にもかかわらず、効果的な体験活動となった。今後は、独自の野外体験プログラムを考えていきたい。場所は独立行政法人国立妙高青少年自然の家（新潟県）。</p> <p>【主なプログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> □守ってさかしてみつけナイト=グループ対抗ゲーム。森のなかに隠れたリーダーを探し、ゲームやクイズに挑戦。班員 2 人につけていたカートを、森のなかにひそむ「スナイパー」に読み取られないように進むのもポイントの 1 つ。 □グループアクティビティ=班ごとにさまざまな雪上活動に取り組む。クロスカントリースキー、そり遊び、チューピング、おやつ作り、クラフトなどを実施。 □イクルーアクティビティ=前年度は雪不足で見送ったが、本年度は積雪も十分。班ごとに協力して、思い思いの場所にイクルーアクティビティ。1 日かかりの充実した活動。人間関係も深まりを見せた。 □雪上テント泊=子どもの「テントで泊まりたい」の声から、有志 7 人による雪上テント泊を 2 日目の夜に実施。春にはめずらしい大雪のなか、テントが埋もれるほどたたかれたテント内は温かくなり、すこしやすいテント泊となった。 □X プログラム～夜の動物園～=高校生リーダーと子ども実行委員が中心になって、企画、準備、運営を行う。本年度は、夜のプログラム。初めて屋内施設を利用した。班ごとに、テーマ「夜の動物園」にそったオリジナル動物を作る、動物園で行うゲームを考える、子どもたち同士で遊ぶ——という企画で、今までにない展開となった。室内を真っ暗にし、懐中電灯のあかりだけで遊ぶ企画に、子どももリーダーも大満足のプログラムとなった。



シニア・アウトトア・スクール 2009



LIT の「アリさんマークの建設社」

〈高校生プログラム=L.I.T.(Leader In Training)〉

名 称	日 時	内 容
クループ学習	4 12	前年度からの活動を継続。自らのスキルアップのため、「児童文化財・歴史」「子どもの接し方」「障害児理解」「子どもの心理」「プログラムの企画と運営」の5つのチームに分かれ発表準備を行う。
クループ学習の発表／今後の活動について	4 26	午前中は1月から取り組んでいたクループ学習の発表。劇仕立て、ワイトショー風、パワーポイントの活用など、発表方法も内容も熱意あふれる、高校生らしい取り組みとなった。
夏休みプログラム話し合い①	5 10	夏のプログラムの検討。海をテーマにすることと、日程が決定。2年生の主体的な取り組みが目立つ。
〃 ②	5 17	タイトル決定。「集まれ！ちひっこ海賊団～リット海への大冒険」。話し合いを中心とした活動が続くなかった、情報共有が課題になってきた。
〃 ③	6 14	プログラムの目的、大まかな流れも決定する。2年生の意欲的な姿勢が目立つようになってきた。
夏休みプログラム準備①	6 21	ポスターの作成、受け付けマニュアル作り、プログラムストーリーを決定。メンバーの主体性を生かした適切なかかわり方とは何かが課題になる。
〃 ②／電話受け付け	7 19	電話受け付けを行う。申し込みの保護者に失礼がないよう、緊張しながら電話を受ける。
〃 ③	7 26、8 2	プログラム実施のための打ち合わせ、ゲーム用品や装飾品の制作を行う。
ちひっこ冒険団	7 31～8 3	特別活動として希望者2人が参加。キャンプ活動をホランティアとともにサポートする。
ニュニア・アウトア・スクール2009	8 5～11	特別活動として希望者9人が参加。キャンプ活動をホランティアとともにサポートする。
夏休みプログラム準備④	8 16、23	直前に迫った夏休みプログラムの準備を実施する。
館内合宿	8 27・28	プログラム準備のための合宿。深夜2時まで、会場のセノティング、シミュレーションなどを必死に行う。食事も手分けをして作る。
『集まれ！ちひっこ海賊団』実施	8 28～29	今期最後の活動。海賊になるためのゲームコーナー、海賊になって海のなかを探検するコーナーの2部構成。3年生も2年生も意欲的な取り組みを見せる。
開校式	9 13	新年度の開校式。一人ひとりに入会の動機や期待感などを聞く面接、親睦のためのレクリエーションを実施。「12月までにやってみたいこと」をカート法のワークショップを行い意見をましわす。
今後の活動についてミーティング	9 27	親睦遠足の日程、目的、内容、および「トン村（ホランティアとの共同プログラム）」について話し合う。2年生が積極的に運営をしている。
プログラム準備①	10 4	11月に実施されるホランティアプログラム「あそひか山もり！トン村！」で、昔遊び、クラフト、紙芝居のプログラムを実施することになる。興味のある種目を選び、それぞれ準備活動を行う。
〃 ②	10 18	「トン村」担当のホランティアから主旨説明を受けて、それぞの準備活動。紙芝居の練習には、女性ホランティアの紙芝居グループのメンバーが付き添い、さまざまなアトハイス。
親睦遠足	11 1	都立舍人公園に親睦遠足。ハーケン、レクリエーション活動で秋の1日を、おおいに楽しむ。
〃 ③	11 15	各チームごとに準備。昔遊び、紙芝居チームは活気あるクループ活動が展開される。クラフトチームは沈滞気味。リーターのサポートか課題になる。
〃 ④	11 22	最終準備。重要な目的の1つ「メンバーの相互関係の活性化」をリーターで確認し、アプローチ。
「あそひか山もり！トン村！」ファミリーフェスティバル実施	11 23	こともの城ホランティアとの初めての合同イベント。互いに良い刺激を受けたプログラムとなった。
「〃」振り返り	12 13	メンバー提案のテーマにそって振り返り。誰もか意欲的な姿勢。内容は8つのポイントに絞られる。
今後の活動についてミーティング①	12 20	4月までのプログラム概要、目的が決まる。目的は、①子どもたけなく、LITも楽しめるプログラム作り②LIT同士の情報交換を心かける③LIT同士の良いところを見つけるの3つ。
冬合宿	H22.1.10～11 (千葉県 船橋市民の森大神保キャンプ場)	野外活動トレーニングを中心とした冬合宿「真冬の森の極寒キャンプ2010」。①パートナーシップを築いていくこう！②野外生活技術のスキルアップ！③「あそひ」の魅力を再発見！の3つが目標。
今後の活動についてミーティング②	1.17	プログラムのタイトルは「アリさんマークの建設社」。クラフトチーム、ゲームチームに分かれ準備を進める。
手話講座	2.7	特別プログラム活動「心のコミュニケーション手話に挑戦！」を実施。手話通訳士の中野佐世子さんを招き 手話の実技と、社会福祉実践について学ぶ。
「アリさんマークの建設社」準備 ①	2.14	午前中は、当日までの作業の流れとプログラムの内容を確認。午後はカートのデザインを行うチームと、全体の装飾を行うチームに分かれて活動する。
〃 ②	3.14、22	大量にタンホールが必要になる。さまざまな業者に電話をして、タンホールをもらう約束をする。
ニュニア・スプリング・キャンプ2010	3.27～31（4泊5日）	特別活動として希望者11人が参加。小学校3年生～中学校3年生の班活動を行う。

平成 21 年度「グループ活動」プログラム一覧表

プロ グ ラ ム 名		対象年齢	内 容
体 育	すてきな新体操	3歳児～中3	ホール・リンク・縄などの手具を使って楽しく体操する。
	たのしい体育・運動	3歳児～中3	身近な道具を使った運動や、マット・跳び箱などを使ってサーキットなどのゲーム。
	レクリエーション	3歳児～中3	おにっこやしつぽとり・フライングティスク・パラハルーンを使って楽しく運動。
	球技で楽しく汗を流そう！	3歳児～中3	ウォールサッカー（室内サッカー）・ユニホック・タクランク等の球技から選択。
ブ レ	劇遊び「森へ行こう」	4歳児～小2	森のお姉さんや木こりと一緒に森のなかを探検する、こっこ遊びのプログラム。
	劇遊び「忍者修行道場」	4歳児～小2	悪者忍者の挑戦を受け、忍者修行に挑む、こっこ遊び。年齢・人数によって内容が変わる。
	みんなであそぼうパペットランド	4歳児～小2	紙コップでねすみの人形を作り、ねすみにちなんだ遊びをしながら、お話の世界で遊ぶ。
	みんなであそぼうパペットランド	3歳児～小2	靴下でおむしの人形を作り、おむしになりきって、お話の世界で遊ぶ。
イ	みんないっしょに	3歳児～小2	歌やレクリエーションタンス、パネルシアターなどを組み合わせた「つといの広場」。
	わくわくオリンピック	4・5歳児	幼児からできるレクリエーションゲームの“オリンピックこっこ”。
	こともの城オリンピック	小1～	オリンピック種目を愉快にアレンジしたレクリエーションゲーム大会。15人以上。
	パソコンであそぼう	小1～	合成写真や紙飛行機の設計制作など、さまざまな機能を使った5種類の活動から選び体験。
造 形	かけをうつそう	4歳児～小6	自分の影をプレイングホークに写し取り、その影の中を絵の具でデザインする。
	木をつくろう	4歳児～小6	グループ全員が協力して、床に大きな紙の木を作る計画の楽しさを知る。
	粘土でシャンクル旅行	5歳児～小2	粘土で飛行機・テント・木・動物などを作りながら、みんなでシャンクル旅行。
	竹体験	小1～	日本の伝統的な植物「竹」の特質、しなる、かたい、筒状などを体験しながら竹の造形。
音 楽	忍者ってほんとうにいたの？	3～5歳児	子どもたちのイマシネーションによる忍者こっこ遊び。
	スカーフであそぼう	3～5歳児	スタジオの照明に映えるスカーフで楽しく遊ぶ。
	まつりはやし	3～5歳児	お祭り広場になった音楽スタジオで、楽しく和太鼓をたたく。
	やってみようカムラン	3歳児～	インドネシアの打楽器オーケストラ、カムランを演奏したり、踊ったりする。
A V	サンハでおとろう	4・5歳児	フラシルのカーニバル気分でサンハに挑戦。自分で作った楽器を持って踊る。
	たたいてみよう日本の太鼓	4・5歳児	いろいろな種類の和太鼓を思いきりたたいてコンサート。リズムは簡単！
	インドネシア・アンクルン	小1～	インドネシアの珍しい竹の楽器を紹介。みんないっしょに合奏体験。
	めずらし楽器大集合	3歳児～	アフリカ 中国 インドネシア・フラシルなどから集めた珍しい楽器のコンサート。
	みんなでつくろう“ぱたぱたアニメ”	4歳児～	みんなで描いた2枚の絵を交互に映し、絵の動くアニメを体験する。
	フィルムに絵を描いてみよう	小2～	透明な映画フィルムに着色して映写すると、スクリーンに楽しい図柄が映し出される。
	ヒテオであそぼう	小3～	突撃インタビュー・ヒテオでしりとり・伝言ゲーム。ここではみんながカメラマン。
	ピンホールカメラをつくろう	小1～	針穴があいたたけのカメラ——ピンホールカメラを作る。
	昆虫（ませむし）工場	小1～	昆虫の“ワンピース・ペーパークラフト”を制作。

劇場事業本部



月猫えほん音楽会～参加コーナー

平成 21 年度の活動

1. はじめに

〔こともの城〕の劇場の目的は、児童・青少年をはじめ、各年代にわたる多くの人々の文化・福祉の向上をめざして、国内外の質の高い舞台芸術に親しめる機会を提供すること。あわせて、演劇・音楽・舞踊などの分野において、すぐれた劇場機能を生かした先駆的な舞台芸術活動を推進し、芸術文化の発展・普及に資することである。

劇場の運営は、自主・提携公演を行うことと劇場を貸すことを両輪として行われているか、特に自主・提携公演の演目の選定基準を以下のように定め、上記目的の達成をめさしている。

- ①児童・ファミリー向け演目
- ②国際交流関係演目
- ③伝統芸能等振興演目
- ④〔こともの城〕が国内外に向けて発信する意欲的な演目

本年度は、自主・提携公演を青山劇場で 5 公演、青山円形劇場で 19 公演実施した。このうち、児童・ファミリー向け演目の『こともの城・キリンファミリーオペレッタ～タントさんのふしぎなレストラン』は、社会保障審議会推薦の〈児童福祉文化賞推薦作品〉に選ばれた。また、伝統芸能などの振興をはかる『青山太鼓見聞録』、青山円形劇場がプロデュースした『Second Lesson』は文化庁芸術創造活動特別推進事業に、11か国・18のアーティスト・カンパニーが参加した国内最大のダンスの祭典『ダンストリエンナーレ トーキョー 2009』は文化庁国際芸術交流支援事業に、完全円形のユニークな青山円形劇場の空間を生かした『TOKYO DANCE TODAY』

は芸術文化振興基金の助成対象作品に選ばれた。

なお、稼動日数は、青山劇場が使用可能日数 324 日中 286 日、青山円形劇場が使用可能日数 357 日中 315 日と、ほぼフル稼働の状態であった。(公演演目一覧表 110～113 ページ参照)

2. 主な自主・提携公演

(ア) 青山劇場

■ TAIKO JAPAN 2009 ■

〈太鼓〉は古来より、祭りや民俗行事、古典芸能などに用いられてきたが、それ自体が音楽として独立するのは戦後のこと。祭りから離れて一人歩きする民俗の太鼓、新しい感性が生んだ創作の太鼓——その歩みのなかに、時を彩り、今なお生きて胸を打つのが〈太鼓〉。

『青山太鼓見聞録』は 2006 年(平成 18 年)から、東京新聞と浅野太鼓文化研究所が主催する『東京国際和太鼓コンテスト』および『和太鼓カレッジ』と開催時期を合わせ、『TAIKO JAPAN』という太鼓フェスティバルとして開催している。鑑賞と体験、そしてチャレンジ——太鼓のさまざまな魅力をそなえ、青山劇場と青山円形劇場、〔こともの城〕全体で展開し、参加者の便宜と宣伝などの相乗効果に成果をあげている。音楽事業部と連携して実施した、来館児・者を対象としたワークショップも好評を得た。

◆青山太鼓見聞録〈太鼓進化論〉

グループの枠を越え、実力ある太鼓打ちを集めて構成する『青山太鼓見聞録』の第 6 回公演。今回のテーマは〈太鼓進化論〉。古来、太鼓のリズムは神々を“栄やし＝

はやし=囃し”、人々の心を浮き立たせてきた。太鼓の音は日本人の心にある民俗性の基層に響き、それゆえ太鼓音楽は深く根強い支持を得てきたと言える。

現代の創作太鼓は、その出自を生かしつつも、新しい打法やリズムの開拓、異種音楽との共演など、さまざまに展開して新たな時代性を獲得しようと進化している。創作太鼓の発祥から現在、そして未来への進化の過程に焦点を当て、伝統ある民俗の太鼓と現代の創作太鼓の演奏家によりプログラムを構成した。

民俗の太鼓から、打ち手の個性が際立つ「八丈太鼓」、伝統から創作へのかけ橋となった「大江戸助六太鼓」、太鼓現代音楽の金字塔・石井眞木作曲の「モノクローム」。創作太鼓からは、あの名作「大太鼓」と、組太鼓の味わい満載の「天地響応」、そしてこの公演のための新しい試み、金子竜太郎と浅野香の共演も行った。

□会場□青山劇場

□日時□8月 28 日 19 時開演

□曲目・演奏□「モノクローム」(石井眞木作曲) 東京打撃団／「八丈太鼓」八丈太鼓の会／「Go Straight Spiral Up」金子竜太郎+浅野香／「助六四段打ち」他 大江戸助六太鼓／「大太鼓」藤本吉利+金子竜太郎／「天地響応」焱太鼓+東京打撃団+緑光+浅野町子

□企画・構成・演出□太鼓見聞録編纂委員会=浅野昭利(財)浅野太鼓文化研究所理事長)、小野晋司(こともの城劇場事業本部)、平沼仁一(アートウィル、東京打撃団主宰)、茂木仁史(平凡社新書「入門日本の太鼓」著者)

□舞台監督□ニケステージワークス

□照明□片田光彦

□音響□武藤一郎(こともの城劇場事業本部)

□主催□(財)児童育成協会(こともの城)、(財)浅野太鼓文化研究所、東京新聞

□助成□平成 21 年度文化芸術振興費補助金(芸術創造活動特別推進事業)

□協力□鼓童

□制作協力□アートウィル

◆太鼓見聞録外伝〈和心～女が打つ、歌う～〉

太鼓は男のもの。そんな固定観念をはねとばす、女性の太鼓の現在を検証。“女でも”“女だてらに”“女らしく”といった偏見を、そっくりそのまま太鼓の魅力として生かす。太鼓と歌、トークで構成した。

□会場□青山円形劇場

□日時□8月 26 日 19 時開演

□出演□焱太鼓／木津茂理・かおり姉妹

□舞台監督□田畠祭(ニケステージワークス)

□照明□元木浩一(こともの城劇場事業本部)

□音響□武藤一郎(こともの城劇場事業本部)

◆第 8 回東京国際和太鼓コンテスト

『東京国際和太鼓コンテスト』は、課題曲と自由曲により、演奏技術ばかりだけでなく、独創性やパフォーマンスとしての表現力などを総合的に競うコンテスト。さまざまな審査員が多角的視点で評価し、各部門の最優秀賞、優秀賞、敢闘賞を決定した。これまでの受賞者からは、プロの演奏家も輩出しており、本年度もレベルの高い舞台となった。

□会場□青山劇場

□日時□8月 29 日 組太鼓部門青少年の部／30 日 大太鼓部門・組太鼓部門一般の部

□審査結果□

大太鼓部門=最優秀賞 該当者なし／優秀賞 南昌哉／敢闘賞 長谷川準／審査員特別賞 塚本鷹

組太鼓部門(青少年の部)=最優秀賞 転輪太鼓風雲児風組／優秀賞 川越ふじ太鼓／敢闘賞 大和太鼓保存会鼓天童子

組太鼓部門(一般の部)=最優秀賞 喜連川公方太鼓／優秀賞 鬼島太鼓／敢闘賞 県立岐阜総合学園太鼓部「風龍」

□本選出場者(演奏順)□

組太鼓部門青少年の部(29 日)

課題曲 細谷一郎作曲「鼓樂響成—組太鼓のための一」創作和太鼓集団打鼓音ジュニア(神奈川県)／とろき結太鼓(高知県)／川越ふじ太鼓(埼玉県)／四季(神奈川県)／山木屋太鼓 鼓狐(福島県)／転輪太鼓 風雲児風組(愛知県)／土佐和太鼓文化研究所「一響館」侍(高知県)／大府太鼓 一会(愛知県)／北っ子太鼓(高知県)／大和太鼓保存会 鼓天童子(佐賀県)

大太鼓部門(30 日)

課題曲 石井眞木作曲「ビーテッセンス I—大太鼓独奏のための一」

久高徹也(長野県)／王慶齡(台湾)／内海いっこう(兵庫県)／塚本鷹(東京都)／長谷川準(大分県)／伊勢龍二(福井県)／渋谷巴人(東京都)／山本将史(岡山県)／南昌哉(大阪府)／西野貴人(京都府)

組太鼓部門一般の部(30 日)

課題曲=石井眞木「ビーテッセンス II—太鼓合奏のための一」

鼓恋者(東京都)／讃岐国分寺太鼓保存会 奏—KANADE—(香川県)／県立岐阜総合学園太鼓部 源～はじめ～(岐阜県)／県立岐阜総合学園太鼓部「風龍」(岐阜県)／善通寺龍神太鼓 韶宇山組“刃”(香川県)／喜連川公方太鼓(栃木県)／のさか太鼓(千葉県)／鬼島太鼓(長野県)／鼓摩の会 和太鼓 和樂(山梨県)／山木屋太鼓山猿(福島県)

□主催□東京新聞・財浅野太鼓文化研究所・財児童育成協会（こともの城）
□後援□文化庁・国際交流基金
□協力□アートウィル
□協賛□J-POWER 電源開発(株)

◆和太鼓カレッジ

多彩なワークショップのほか、親子で参加してミニ太鼓を作る工作教室など、バラエティーに富んだ講座を「こともの城」と青山円形劇場で開催した。また、音楽ロビーでは「こともの城」来館児・者を対象に、東京打撃団によるワークショップも行った。

□日時□8月28～30日

□講師陣□和太鼓＝浅野町子／金子竜太郎／菊池隆・菊池卓（八丈太鼓の会）／田川智文（東京打撃団）／露木一博（東京打撃団）×五十音順

民謡＝木津茂理

チャッパ＝柳理子

笛＝武田朋子／村山二朗（東京打撃団）

レクチャー＝細谷一郎

■ダンストリエンナーレトーキョー2009

—限りなき瞬間— infinite moments ■

2002年（平成14年）に“ビエンナーレ”としてスタートしたこのフェスティバルは、世界の振付家・ダンサーが3年に一度、東京の渋谷・青山を中心に一堂に集う国内最大のダンスの祭典。第3回から“トリエンナーレ”として開催、今回4回目を迎え、イスラエル、オランダ、カナダ・ケベック、韓国、スイス、トイツ、トルコ、日本、フィンランド、フランス、ベルギーの11か国から18のアーティスト、カンパニーが参加した。

青山劇場、青山円形劇場、スパイラルホールなどでの公演やダンス・ワークショップのほか、青山通りに面するスパイラルビル1階でのダンス・ショーケース、シアター・イメージフォーラムでのダンスフィルム上映、青山フックセンター本店でのトーク・イベントなど、ダンスにかんする多彩なプログラムを行った。

第1回は青山劇場・青山円形劇場を舞台に、2回目以降はスパイラルホールが会場の一つとなり、回を重ねることにプログラムが充実し、渋谷・青山エリアでの展開も広がっている。

今回のテーマ〈限りなき瞬間〉は、この時代を取り巻く、ただ過ぎ去ってしまうように思える時間のなかに、無限をかいだみるような幸せの一瞬を、このフェスティバルのなかで感じてほしい、という願いが込められている。特に、生まれた時から情報ツールが発達している時代しか知らない若い世代に、目の前で起きていることを実際に目や耳、心で感じ、限りない可能性を秘めた瞬間

青山太鼓見聞録〈太鼓進化論〉



を獲得してほしい、と。

今回は、新しくシアター・イメージフォーラムでのダンスフィルムのレイトショー上映、青山フックセンター本店でのダンス関連書籍を集めた特設コーナーの設置やトークイベントなど、公演やワークショップ以外のプログラムも充実させた。

さらに、スパイラルビルのエントランスのスペースを使い、参加アーティストたちによるダンス・ショーケースを会期中毎日実施。4つの会場はそれぞれ徒歩5分程度で行き来ができる好立地条件の上、同じエリアでの開催は、“フェスティバル”感をより強く打ち出すことができたようだ。

スパイラルビル1階の会場は、ダンス・ショーケースを行う時間以外は、インフォメーションとチケットセンターの役割を担った。実際にダンス・ショーケースを見た人をはじめ、モニターに流れるプロモーション映像をじっくり見て、また、フェスティバルのボランティアによる案内から、チケット購入につながるケースも多々見受けられた。次回はより充実したインフォメーションスポットとして機能させたいと考えている。

□会場□青山劇場、青山円形劇場、スパイラルホール、シアター・イメージフォーラム、青山フックセンター本店

□日時□9月18日～10月8日

◆パフォーマンス Performance

世界11か国から18のダンサー、カンパニーが参加。前回は振付家本人が来日できなかった、イスラエルのヤスミン・ゴデールは前評判も高く、今回のちらしやポスターのメインビジュアルになったこともあり、多くの媒体に掲載された。また、日本で初めて作品を発表した、ベルギーのカンパニー・ミシェル・ノワレ、トルコのタルダンス・カンパニー、オランダのヌーク・ヴァン・ダイクは、観客の満足度も高く、今後も日本やアジアで発表する機会に恵まれるのではないかと思われる。

日本からは、森下真樹、黒田育世、鈴木ユキオ、中村恩恵、さらに TRIAL × 4 で参加した今津雅晴、木野彩子、浜口彩子といった、力のある振付家がそろい、それぞれが持ち味を生かした作品を発表し、好評を博した。

□パフォーマンス□◇エーヴァ・ムイル(フィンランド)『Sold Out』、森下真樹(日本)『独楽犬イルツキー』=9月21・22日、スパイラルホール
 ◇ヤスミン・ゴデール(イスラエル)『Singular Sensation』=9月23・24日、青山円形劇場
 ◇ミシェル・ノワレ/カンパニー・ミシェル・ノワレ(ベルギー)『Chambre blanche』=9月24・25日、スパイラルホール
 ◇TRIAL × 4 今津雅晴(日本)『still life』、木野彩子(日本)『IchI』、キム・ジェドク(韓国)『Darkness PoomBa』、浜口彩子(日本)『15秒』=9月26日、青山円形劇場
 ◇エステル・サラモン(ドイツ)『Dance#1 / Driftworks』=9月27日、スパイラルホール
 ◇キム・ヒジン/モム・カンパニー(韓国)『Memory Cell』、フランク・ミケレッティ/クビライ・カン・アンヴェスティガシオン(フランス)『Espaço contratempo』=9月28日、青山円形劇場
 ◇黒田育世/BATIK(日本)『矢印と鎖』=9月30日～10月2日、青山円形劇場
 ◇タルダンス・カンパニー/ムスタファ・カプランーフィリズ・シザンリ(トルコ)『DOLAP』、鈴木ユキオ/金魚(日本)『犬の静脈に嫉妬せず』=10月4日、青山円

形劇場

◇ジネット・ローラン／オー・ベルティゴ(カナダ・ケベック)『La Vie qui bat』=10月5日、青山劇場
 ◇ジル・ジョバン/カンパニー・ジル・ジョバン(スイス)『Black Swan』、中村恩恵/Dance Sanga(日本)『ROSE WINDOW』=10月6日、青山円形劇場
 ◇アヌーク・ファン・ダイク/アヌーク・ファン・ダイク・ダンスカンパニー(オランダ)『STAU』=10月8日、青山円形劇場

◆ダンス・ワークショップ Workshop / Meet the Artist

海外からの招聘アーティストたちによる、2日間連続のワークショップを実施。国境を越えて活躍する彼らと直接出会い、多彩なダンスの可能性をじっくり体験できる貴重な機会に、平均10人の若きダンサーたちが各ワークショップに参加した。今回は2日間のワークショップとは別に、特別プログラムとしてハンガリー出身の振付家、エステル・サラモンによる5日間ワークショップも開催した。これは、彼女が世界各地で行っているリサーチプロジェクトで、“振り付けを創り出す”新たな方法にアプローチするためのもので、最終日には公開プレゼンテーションも行った。

□会場□青山劇場Bリハーサル室

□対象□ダンス経験者

□プログラム□◇エーヴァ・ムイル=9月18・19日

◇ヤスミン・ゴデール=9月20・21日

◇ミシェル・ノワレ=9月22・23日

「ダンストリエンナーレトーキョー 2009」開催概要

「ダンストリエンナーレトーキョー 2009 -限りなき瞬間— infinite moments」

平成 21 年度文化庁国際芸術交流支援事業

□会期□9月18日～10月8日

□会場□青山劇場、青山円形劇場、スパイラルホール、シアター・イメージフォーラム、青山フックセンター本店

□主催□財児童育成協会(こともの城)、(株)ワコールアートセンター

□共催□(株)ダケレオ出版、青山フックセンター(株)

□助成□EU・ジャパンフェスト日本委員会

□協賛□オランダ王国大使館、フィンラントセンター、東京急行電鉄(株)、QFRONT、トヨタ自動車(株)、(株)メリーラント

□特別協力□ケベック州政府在日事務所、トイツ文化センター

□後援□イスラエル外務省イスラエル大使館、カナダ大使館、イスラ大使館、駐日韓国大使館 韓国文化院、トルコ共和国大使館、フランス大使館、ヘルギー王国大使館、東京日仏学院、日本ダンスフォーラム(JaDaFo)

□協力□金沢 21 世紀美術館(財)金沢芸術創造財団)、渋谷文化 PROJECT、東急ステイサービス(株)、チャコット(株)、NPO-DAM、NPO 法人 JCDN、青山学院大学総合文化政策

学部、昭和音楽大学音楽芸術運営学科、玉川大学芸術学部

■アドバイザー・コミッティ■

名誉総裁 高円宮妃久子殿下／委員 石井達朗(舞踊評論家・慶應義塾大学教授)、榎本了庵(アタマトテインナショナル代表・京都造形芸術大学教授)、高谷静治(フェスティバルディレクター・NPO-DAM 代表)、貫成人(舞踊評論家・専修大学文学部教授)、乘越たかお(作家・舞踊評論家)／森明子(エル・シャポン編集長)

■スタッフ■

舞台監督 原口佳子、川上大二郎、堀尾由紀／照明コーディネート 片田光彦、大塚之英(スパイラルホール)／音響コーディネート 武藤一郎(こともの城劇場事業本部)、浮岳厚(スパイラルホール)／インターナショナルコンタクト・翻訳・テクニカル通訳 桑原綾子／ワークショップ通訳 キミホ・ハルハート／宣伝デザイン 有北眞也(PAZAPA inc)／スパイラル広報 四元朝子、加藤美穂／プロデューサー 平岡久美(Dance in Deed!)、宮久保真紀(スパイラル)、山下宏洋(イメージフォーラム)、須藤夕香(青山フックセンター)、高輪育子(こともの城劇場事業本部)／チーフプロデューサー 小野晋司(こともの城劇場事業本部)、小林裕幸(スパイラル)／フェスティバルディレクター 高谷静治

◇キム・ヒジン=9月25・26日
 ◇フランク・ミケレッティ=9月29・30日
 ◇タルダンス・カンパニー=10月1・2日
 ◇アヌーク・ファン・ダイク・ダンスカンパニー=10月6・7日
 ◇エステル・サラモン「Transformers (Dance#2)」=9月28・29日(青山劇場Bリハーサル室)、9月30日～10月2日(ドイツ文化センター 東京)

◆ダンス・ショーケース Showcase @ the Showcase

スパイナルビル1階エントランスにあるスペースを利用した、ダンス・ショーケース。青山通りを歩く、ふだんはダンスに触れる機会の少ない人々も、気軽に見ることができると画期的な企画となった。4m四方のガラス張りのショウウインターのようなこの場所は、観客はもちろんのこと、アーティストたちもこのシチュエーションを大いに楽しみ、好評を博した。

□プログラム□森下真樹=9月19日／エーヴァ・缪ル=9月20日／ヤスミン・ゴデール=9月21日／ミシェル・ノワレ=9月22日／鈴木ユキオ=9月23日／BATIK=9月24日／エステル・サラモン=9月25日／フランク・ミケレッティ、キム・ヒジン=9月26日／タルダンス・カンパニー=10月2日／今津雅晴、木野彩子=10月3日／中村恩恵=10月4日

●ダンストリエンナーレ トーキョー 2009 特別企画展示「身体の輝き」

アーティスト、信耕ヒロ子が挑む新たな世界、ダンサーのしなやかで力強い身体を〈籠〉で表現した新作を発表した。

□展示期間と会場□9月19～27日 スパイナル1階ショウケース／10月2～4日 スパイナルホールホワイエ

◆トーク・イベント Talk Event

青山フックセンターのカルチャーサロンで、4つのトーク・イベントを開催した。コントルズ(今回のトリエンナーレには参加していないが、前回2006年に青山劇場で作品を発表)をフューチャーし、店内のさまざまな場所に、コントルズメンバーの等身大パネルを置いたり、子ども向けの読み聞かせや書籍をテーマにしたダンス・ワークショップ、今までの舞台写真展示など、もりだくさんの内容で、書店に訪れた人々を楽しませた。

□会場□青山フックセンター本店・カルチャーサロン青山

□トークイベント□9月19日=ゲスト ヤスミン・ゴデール、聞き手 乗越たかお／9月20日=ゲスト 黒田育世×古川日出男(作家)／10月3日=JaDaFoダンスフォーラム

●コンドルズ×青山フックセンター コラボレーション企画「青春狂時代」

□会場□青山フックセンター本店
 □イベント□トークイベント&アコースティックライブ=出演 勝山康晴、石淵聰(10月2日)／ダンス・ワークショップ「コンドルズのABCテクニック」=出演 藤田善宏、山本光二郎(10月4日)／絵本のよみかせ「けんちゃんと 絵本であそぼう！」=出演 小林顕作(10月4日)／アーティストトーク=ゲスト 近藤良平×池谷裕二(10月4日)／写真で見るコンドルズ「コントルズ舞台写真」作品展示・「体操の友」モニターによる写真展示(10月4日)

◆タンスフィルム DANCE FILM VARIATION～ダンスマ像満載のフェスティバル、魅惑の20夜

フランスのダンスマ像アーカイフである「シネマテーク・ドゥ・ラ・ダンス」の全面協力により、フェスティバル期間中の約3週間、毎日21時からのレイトショーとして開催。モーリス・ベジャール、ウィリアム・フォーサイスといった人気振付家の映像だけでなく、モダンダンスの原型ともいえるイサドラ・ダンカン、その始祖マーサ・グレアム、そしてポストモダンダンスまでの流れを一望するプログラム。1920年代のパリを席巻したジョセphin・ベーカー、伝説的なフラメンコダンサー、カルメン・アマヤなど、20世紀のダンスの歴史をひも解く充実した内容であった。映画史としても評価の高い貴重なフィルムも含まれており、ダンス公演を観終った人々はもちろんのこと、映画ファンも加わり、毎晩ほぼ満席の盛況ぶりであった。

□日時□9月19日～10月8日(21時からレイトショー。全12プログラム)

□会場□シアター・イメージフォーラム

□上映プログラム□×日本語字幕なし／一部サイレント上映。

『コンテンポラリー横断』(69分。9月19日、10月6日)／『モーリス・ベジャール特集』(90分。9月20日、10



タンスマ像満載のフェスティバル、魅惑の20夜

月 5 日) / 『マギー・マラン特集』(80 分。9 月 21 日、10 月 2 日) / 『マーサ・クレアム特集』(79 分。9 月 22 日、10 月 1 日) / 『ダンス・プラスチック』(94 分。9 月 23 日、30 日) / 『アルヴィン・ニコライ、カロリン・カールソン』(102 分。9 月 24 日) / 『ポストモダンダンス』(80 分。9 月 25 日) / 『トイツ表現主義舞踊とダンス・リーブル』(90 分。9 月 26 日、10 月 4 日) / 『伝説のスターダンサーたち』(73 分。9 月 27 日、10 月 3 日) / 『ジャズ・イン・ザ・ボールルーム』(79 分。9 月 28 日、10 月 7 日) / 『アヴァンギャルト・ニューヨーク』(51 分。9 月 29 日) / 『追悼マース・カニングハム』(81 分。10 月 8 日)
□プログラム提供□シネマテーク・トゥ・ラ・ダンス
□プログラム・キュレーター□パトリック・パンサール
□プログラム・アドバイサー□乗越たかお、高谷静治
●トークショー(9 月 19 日)
ケスト=ヴィルジニ・オーブリー(シネマテーク・トゥ・ラ・ダンス文化広報担当)

劇場やスタジオのなかだけで行われてきたこのフェスティバルが、街のなかに繰り出し、まだコンテンポラリーダンスやパフォーミング・アーツに出会えていなかった層に近づくプログラムを増やせたことが、今回の大きな収穫となった。

次回開催は、3 年後の 2012 年秋を予定しているが、今回広がった渋谷・青山エリアの輪をさらに広げ、ダンスで地域を盛り上げるべく、例えば近隣の学校やあまたある店舗を巻き込み、より充実したプログラムを準備していきたい。

(イ) 青山円形劇場

■タカイズミプロジェクト Vol.2 遊機械オフィス×青山円形劇場プロデュース Second Lesson ~カエルの王子が導く超個人的恋愛作法~■

作・演出・出演の高泉淳子と、舞台美術・衣裳プランのイラストレーター、宇野亜喜良がタッグを組み、ワークショップで出会った若い個性的なキャストとともに、芝居を創り上げる企画の第 2 弾。高泉の演劇に対する一貫したテーマは「生きていくことに勇気が湧いてくるような芝居を創る」こと。若い演劇人たちと経験豊かな知識人との、時間をかけてていねいに創り上げた作品は、観客の心にもその気持ちが響いた作品になったと思う。

□日時□5 月 28 日～6 月 7 日(10 回公演)
□作・演出□高泉淳子
□美術・衣裳□宇野亜喜良
□出演□高泉淳子、山本光洋、雨蘭咲木子、遠藤守哉、

湯澤幸一郎、藤原祐規、高島玲、ロイック・ガルニエ
□共催□遊機械オフィス
□助成□平成 21 年度文化振興費補助金(芸術創造活動重点支援事業)

■月猫えほん音楽会 2009 えほん×ジャズ

=めちゃ² 楽しいシアターライブ■

“絵本”と“読み聞かせ”的持つ魅力を新しい側面から取り上げた企画で、親子(小学生)を対象とした招待公演。大きな月(スクリーン)に絵本を映しながらの読み聞かせと、ジャズ・ピアノの即興演奏を組み合わせた、絵本とジャズとのセッションライブ。さらにパントマイムを加え、観客参加で作るシーンなど、他に類を見ない画期的なステージを展開した。

希望する観客には、フェイス・ペインティングで猫に扮し、“猫道”と呼ぶ長いトンネルをくぐり抜けて入場するなど、さまざまな趣向で生の楽しさを演出することに成功している。

近年、“絵本”と“読み聞かせ”的魅力が注目され、いろいろなところで取り上げられている。親子のコミュニケーション不足が指摘されるなか、絵本の読み聞かせがそれを深めるのに役立つと、多くの人が気づいたからではないだろうか。

『月猫えほん音楽会』は 1999 年(平成 11 年)に始まり、今回が 11 回目。毎回たくさんの応募があり、定員 2,240 人のところ、前回を上回る約 2,770 世帯 7,336 人の応募があった。

□日時□7 月 23 ～ 26 日
□出演□佐山雅弘(ピアノ) / 波多雅子(進行) / 本多愛也(パントマイム) / 能祖将夫(朗読)
□スタッフ□演出 吉澤耕一 / 構成 能祖将夫 / 美術 小竹信節 / 協力 東京動物園ボランティアーズ
□主催□財ことも未来財団 / 財児童育成協会(こどもの城)

■青山円劇カウンシル #3~sensitive~

ピチチ 5 プロデュース「サボテンとバントライン」■

新進気鋭、今が旬の劇作家と組んで新しい魅力あふれる“円劇”(青山円形劇場×演劇)をプロデュースする青山円劇カウンシルの第 3 弾。

『サボテンとバントライン』は、筋肉少女帯の大槻ケンヂ作詞による楽曲。少年の孤独と破壊衝動をリリカルに描いた詩で、ファンのなかでも屈指の人気を誇る。これを人気若手劇作家、ピチチ 5 の福原充則により脚本化、演出するという全く新しい試み。主役には、テレビなどで活躍中の要潤。人気コントユニット、キングオブコメディの今野浩喜や人気声優の田中理恵など、多彩なキャストが集結。コミカルななかに、引きこもり青年の

月猫えほん音楽会 2009



暴発という社会性を伴う舞台となり、多方面から傑作として高い評価を受けた。

青山円劇カウンシルは新進劇作家を取り上げて、次世代の才能を確保する当初の目的以上に、そういった新しい才能を発掘したい制作カンパニーから多くの注目を集め、劇場営業面で多くの業績を上げている。また、青山円形劇場という空間で、人気俳優を間近に見ることができる大劇場にはないプレミアム感と、この企画の先進性が多くのマネージメント会社から注目を集めており、今後も、人気俳優出演による収益面での飛躍的アップが見込まれる。

次回は、この流れを大切にしつつ、さらに一步進めた活気のある企画にしていきたい。

□日時□ 10月 30～11月 8日

□脚本・演出□福原充則（ピチチ 5）～大槻ケンヂ作詞『サボテンとバントライン』より～
□出演□要潤、今野浩喜（キングオブコメディ）、田中理恵、富岡晃一郎、小野健太郎（Studio Life）ほか
□主催□（財）児童育成協会（こどもの城）／ネルケプランニング

**■青山円形劇場プロデュース「おしゃべりなレストラン」
～ア・ラ・カルト リニューアルオープン準備中～■**

2008年（平成20年）に20周年記念公演を無事終了した『ア・ラ・カルト』が、リニューアルオープンに向けて奮闘する様を描いた。コンセプトは変わらず、クリスマスの時期を迎えた開店準備中のレストランでの、ショートショートの芝居と、バンドマンの生演奏でつづる音楽劇。役者と音楽家が一体となって創り上げる、幅広い年齢層に楽しんでもらえる、しゃれたエンターテインメントショー。

□日時□ 12月 8～25日（16回公演）

□スタッフ□演出：吉澤耕一／台本：高泉淳子／音楽監督：中西俊博
□出演□高泉淳子、山本光洋、本多愛也

タントさんのふしぎなレストラン



中西俊博（Violin）、クリス・シルバースタイン（Bass）、竹中俊二（Guitar）、林正樹（Piano）

日替わりゲスト：石井一孝、川平慈英、篠井英介、羽場裕一、マギー、山寺宏一、ROLLY

□協賛□富士通（株）、メルシャン（株）

□制作協力□遊機械オフィス

**■第22回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ
「タントさんのふしぎなレストラン」**

～タントさんといじわるいもむし～■

オリジナルの童話を、歌やバレエ、生演奏でつづる正月恒例のファミリーオペレッタ。[こどもの城]のスタッフで創作するこの作品は、本年度で22回目を迎え、大人も子どもも楽しめるファミリー向け公演として、常に高い人気を保っている。

本年度は、「タントさんのふしぎなレストラン」シリーズの第4弾。〈共存〉をキーワードに設定し、互いを認め合うこと、思いやることの大切さを考えた。また、シリーズとおしてのテーマは〈食育〉。親と子が共に過ごす時間、語り合うこと、ふれあうことの大切さを描いた。

なお、この作品は、厚生労働省社会保障審議会児童福祉文化賞推薦作品に選定された。

□日時□平成22年1月3～10日

□スタッフ□脚本：吉村温子／演出：高谷静治
□出演□オペラクリエーション・イン・青山、こどもの城児童合唱団、平多正於舞踊研究所、金田・こうのバレエアカデミーほか
□主催□（財）キリン福祉財団／（財）児童育成協会（こどもの城）

■青山演劇 LABO#003

劇団鹿殺し「スーパースター」■

昨今の小劇場界では、注目の若手劇作家が多数現れ、所属劇団では魅力的な客演希望を受けたり、大きな演劇賞にノミネートされたりなど、進境著しい人が増えてい

る。その反面客演による出演料の高騰、さらなる公演規模の拡大など、さまざまな劇団内での経済的理由を抱えて、比較的高額な青山円形劇場使用を躊躇している。結果として、青山円形劇場からは注目劇団による話題作が生まれないという傾向が続いてきた。

未開拓の新たな才能を紹介する『Aoyama First Act』とは趣旨を変えて、人気若手劇作家を抱え、青山円形劇場使用を希望しながら、さまざまな理由から躊躇してきた劇団と提携し、新たな興行形態を模索しながら公演を実現。青山円形劇場を代表する傑作公演を生み出すべく、[子どもの城] 発信の演劇企画として 2009 年度（平成 20 年度）に立ち上げたのが『青山演劇 LABO』である。

第 3 弾は、路上ライブなどで話題になり、そのパフォーマンス色の強い舞台で注目を集めてきた「劇団鹿殺し」。ノスタルジックなストーリー展開のなか、劇団の持つエンタテイメント性・音楽性を強く打ち出し、多くの観客を魅了。力強さと圧倒的な存在感を示した。

今後も『青山円劇カウンシル』（プロデュース公演）、『Aoyama First Act』（未経験者）、『青山演劇 LABO』を、それぞれの趣旨にあわせて使い分け、対外的には演劇界の活性化に貢献し、同時に青山円形劇場のラインナップの質の向上をはかり、[子どもの城] にさらなる注目を集めたい。

□日時□平成 22 年 1 月 21 ~ 28 日

□スタッフ□作：丸尾丸一郎／演出：菜月チョビ／音楽：李

□出演□オレノグラフティ、菜月チョビ、丸尾丸一郎、山岸門人、政岡泰志（動物電気）、高木凜（転球劇場）、森貞文則、西田夏奈子ほか

□主催□オフィス鹿

□提携□財児童育成協会（子どもの城）

■中西俊博 Leapingbow2010 ~ Reel's Trip ~ ■

中西俊博が、毎回新しい実験的な音楽にチャレンジしていくコンサート『Leapingbow』。今回はバイオリン、ベース、ギター、ピアノ、パーカッションの 5 人編成。才能ある若手メンバーをそろえ、彼らの新しい感性を生かした音作りに取り組んだ。近年、アイリッシュミュージックに傾倒している中西は、音に風景があり、音から香りが漂うイメージの音楽表現を意識したプログラムを構成した。

□日時□1 月 30・31 日（2 回公演）

□スタッフ□演出：吉澤耕一

□出演□中西俊博（Violin）、木村将之（Bass）、ファルコン（Guitar）、伊賀拓郎（Piano）、はたけやま裕（Percussion）

□協力□ヤマハ（株）

□制作協力□（株）エムアンドビーデザイン

■ TOKYO DANCE TODAY #5 井手茂太 新作ソロ公演 イデソロリサイタル [idésolo] ■

構成・演出力のあるアーティストがレジデンスして作品作りにのぞみ、完全円形のユニークな空間を生かした独創的な作品を発表する「TOKYO DANCE TODAY シリーズ」。継続して日本のダンスシーンに刺激を与えるながら、作品記録を蓄積・発信することで、日本のダンスの潮流を国内外に向けても提示する。

発足から 15 年間活躍し続けたイデビアン・クルーの活動休止を 2009 年 8 月に発表、その後 2011 年 3 月の新国立劇場での活動再開が決まった井手茂太への期待はさらに高まる一方である。日本のコンテンポラリーダンスを牽引する井手の集大成とも言える今回のソロ作品は、その演出・構成力で舞台関係者、次代を担うアーティストたちにも大きな刺激を与えた。

□日時□3 月 18 ~ 22 日

□振付・演出・出演□井手茂太

□スタッフ□照明：沢田祐二／音響：島猛／衣裳：堂本教子／舞台監督：筒井昭善／照明操作：片田光彦／音響操作：山下菜美子／衣裳製作：大石若草子、富永美夏／舞台監督助手：横尾友広、渡辺まり／演出助手：原田悠／リハーサル進行助手：高村美郷／青山円形劇場機構操作：三井裕子、鈴木芳幸／同照明：元木浩一、長谷川淳一、坂井優穂、永井夕紀子／同音響：佐藤陽子、森谷明子／インターンスタッフ：飯島八栄、重廣愛美、田島萌子、松村彩香／宣伝美術：太田博久（golzopocci）／制作協力：高樹光一郎（ハイウッド）、平岡久美（Dance in Deed!）／制作：小野晋司（子どもの城劇場事業本部）

□協力□（株）マッチポイント／インターンシップ協力：玉川大学芸術学部

□主催□財児童育成協会（子どもの城）

□助成□芸術文化振興基金

※イデソロリサイタル [idésolo] の大阪公演（主催：サンケイホールブリーゼ）も 2010 年 5 月に開催。

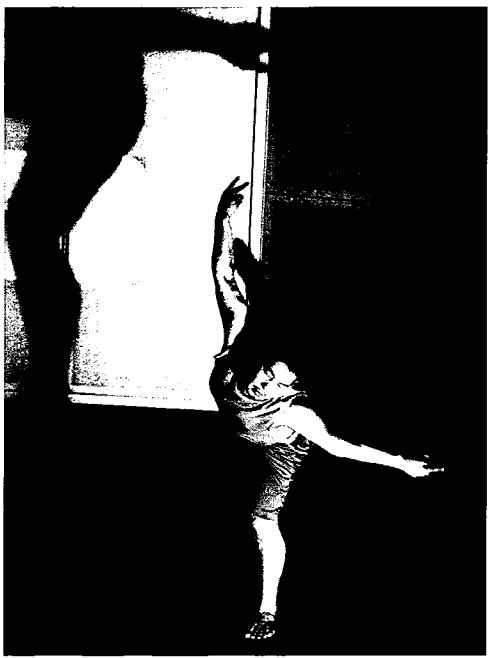
■ Classical ROLLY 2010 ■

エンターティナー ROLLY による、クラシックをテーマにしたコンサートの第 2 弾。誰もが耳にしたことがある楽曲を多く取り上げて、ROLLY ならではの解釈の歌詞と、音楽監督・中西俊博のアレンジで演奏した。ジャンルを意識せずに音楽の魅力を追求し、音楽を楽しむことを意識したこのコンサートで、観客は音楽の楽しさ、そしてクラシックのおもしろさを体感していた。

□日時□3 月 25 ~ 28 日（5 回公演）

□演出□吉澤耕一

□音楽監督□中西俊博



イテ
ソリ
サイタル

□出演□ ROLLY (Vocal / Guitar)、中西俊博 (Violin)、クリス・シルバースタイン (Bass)、楠均 (Percussion)、林正樹 (Piano)

□共催□ソニー・ミュージックアーティスツ

■デーモン閣下の邦楽維新 Collaboration ■

和の調べの既成概念を打破し続ける、デーモン小暮閣下の人気 Collaboration シリーズの 10 周年記念公演と 3 回のツアー公演を行った。

◆ Vol.28 デーモン閣下の邦楽維新 Collaboration と煩惱のハムレット

□日時□ 6 月 20 日

□会場□横浜市港北区公会堂（港北芸術祭アートピア 2009）

□主催□港北芸術祭実行委員会／港北区役所

□出演□ゲスト邦楽奏者：国本武春（浪曲）、三橋貴風（尺八）／ホスト：デーモン閣下（朗読・歌唱）／洋楽器：黒船バンド=松崎雄一（編曲・キーボード）、雷電湯澤（ドラムス）、石川俊介（ベース）／朗読題材：新釈・仮名手本忠臣蔵

◆ Vol.29 デーモン閣下の邦楽維新 Collaboration ~ 歳末地獄絵図~

□日時□ 12 月 17 日（木）～ 19 日

□会場□よしもとプリンスシアター

□主催□（株）児童育成協会（こどもの城）／（株）よしもとクリエイティブ・エージェンシー

□出演□ゲスト邦楽奏者：稲葉明徳（篠篥）、福田千栄子（箏・三絃）、外山香（二十絃箏）、三橋貴風（尺八）／特別ゲスト：やくみつる（絵師）／ホスト：デーモン

閣下（朗読・歌唱）／洋楽器：黒船バンド／朗読題材：地獄変（芥川龍之介）

◆ Vol.30 デーモン小暮の邦楽維新 Collaboration ~新春縁起・日本海~

□日時□平成 22 年 1 月 9 日

□会場□鳥取県立倉吉未来中心（大ホール）

□主催□鳥取県文化振興財団

□出演□ゲスト邦楽奏者：福田千栄子（箏・三絃）、三橋貴風（尺八）／ホスト：デーモン閣下（朗読・歌唱）／洋楽器：黒船バンド／朗読題材：春琴抄（谷崎潤一郎）

◆ Vol.31 デーモン小暮の邦楽維新 Collaboration ~新春縁起・日本海~

□日時□平成 22 年 1 月 11 日

□会場□島根県民会館（大ホール）

□主催□文化庁・島根県・しまね地域文化芸術振興プラン実行委員会・（株）島根県文化振興財団（島根県民会館）

□出演□ゲスト邦楽奏者：福田千栄子（箏・三絃）、三橋貴風（尺八）／ホスト：デーモン閣下（朗読・歌唱）／洋楽器：黒船バンド／朗読題材：春琴抄（谷崎潤一郎）

□スタッフ□プロデュース：三橋貴風／舞台監督：山村唯史（Waltz）／照明：雑賀博文（ステップアップ）／音響：渋谷博（オフィスクロコ）／協力：（株）よしもとクリエイティブ・エージェンシー／制作： 小野晋司（こどもの城劇場事業本部）

3.まとめ

昭和 60 年の開館以来、25 年が経過し、青山劇場の舞台機構のメンテナンスに要する期間も、これまでより長期化することが予測される。さらに、近い将来、近隣にいくつかの劇場が新設されるという、周辺環境の変化をふまえて、どのような改修をしていくのがベストなのか、具体的な検討を急ぐ必要がある。

また、青山劇場・青山円形劇場を含めた「こどもの城」を取り巻く社会的、経済的な変化を踏まえて、これからの劇場運営を考えいかなければならない。貸し劇場の質を落とすことなく稼動率を確保することはもちろんのこと、現在はパブリックな文化機関として公的助成、協賛支援などを得て自主公演を行っているが、「パブリックな文化機関としての役目を果たしているのだから、収益は度外視でよい」という認識ではなく、自主公演といえどもマネージメントとして成立させることが必要である。ただし、「こどもの城」として、取り上げるべき公演、取り上げなければならない公演については、十全の努力をして取り組んでいきたい。

平成 21 年度公演演目一覧表

1. 青山劇場

名 称	日 時	回数	料 金	総 席 数	入場者数	入場率	備 考
〈自主・提携公演〉		(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
青山太鼓見聞録 太鼓進化論	8.27・28	1	S = 4,500 (前売= 4,000) A = 4,000 (前売= 3,500)	1,110	1,028	92.6	
第 8 回東京国際和太鼓コンテスト (東京新聞)	8.29・30	3	大人= 2,500 / 中学生以下 = 1,000	2,316	1,705	73.6	
ダンストリエンナーレトーキョー 2009 ~限りなき瞬間~「La Vie qui bat(ラヴィキバ)」 (1999/2009 改訂版初演)	10.1 ~ 5	1	4,500 (前売= 4,000) / 学生= 3,000	966	551	57.0	
チャリティーコンサート デュークエイセス & 芹洋子 愛唱歌でつづる昭和のうた (オフィスイレブン)	12.21	1	5,000	1,174	1,084	92.3	
Dance Noel 2009 「クリスマスの贈物」 (NPO — DAM)	12.22・23	1	1 階席 = 4,000 / 2 階席 = 3,500	1,090	710	65.1	
(自主・提携公演 小計)	5 件	12	7	6,656	5,078	76.3	
〈貸し館〉							
D-BOYS STAGE VOL.3「鴉～KARASU～04」 (ワタナベエンターテイメント)	4.9 ~ 18	9	S = 7,000 / A = 6,000 / 立見= 3,000	10,726	9,100	84.8	
丸美屋食品ミュージカル「アニー」 (日本テレビ)	4.20 ~ 5.10	25	S = 8,000 / A = 6,000 / 立見= 4,000	28,589	24,992	87.4	
伊東四朗一座・熱海五郎一座 合同公演 喜劇 日本映画頂上決戦～銀幕の掟をぶっとばせ!～ (アミューズ)	5.12 ~ 30	18	S = 10,500 / A = 8,400 /立見= 4,000	21,598	20,121	93.2	
女信長 (RUP)	6.1 ~ 21	20	S = 9,500 / A = 8,500 / 補助席= 9,500 /立見= 5,000	22,882	18,277	79.9	
super collaborate show 「Mr. PINSTRIPE 2009」 (K-Links)	6.23 ~ 28	5	10,000 (前売= 9,500)	5,780	4,300	74.4	
PLAYZONE2009 「太陽からの手紙」 (ヤングコミュニケーション)	7.1 ~ 8.9	38	S = 8,500 / 立見= 6,300	41,748	41,231	98.8	
春野寿美礼 ソロ・コンサート 09 「男と女 Un homme et une femme」 (梅田劇術劇場)	8.15 ~ 24	9	S = 10,000 / A = 7,000	10,404	8,367	80.4	
北島三郎 特別公演 股旅人情「木曾恋しぐれ」/ ヒットパレード「北島三郎、魂の唄を…」 (コマスタジアム)	9.1 ~ 29	34	S = 14,000 / A = 12,000 / B = 9,000	39,482	35,311	89.4	
BROADWAY MUSICAL 「ALL SHOOK UP (オール・シュック・アップ)」 (クオラス)	10.6 ~ 17	13	SS = 12,000 / S = 11,000 / A = 9,500 /補助席= 12,000 /立見= 8,000	15,070	12,930	85.8	
D-BOYS STAGE VOL.3「鴉～KARASU～10」 (ワタナベエンターテイメント)	10.18 ~ 25	10	S = 7,000 / A = 6,000 / 補助席= 7,000 /立見= 3,000	11,892	11,272	94.8	
劇団 EXILE 第 3 回公演「Words ～約束／裏 切り～すべて、失われしもののため…」 (ネルケプランニング)	10.26 ~ 11.11	19	S = 9,500 / A = 8,000 / 補助席= 9,500 /立見= 6,000	22,392	20,944	93.5	
前進座特別公演 法然上人 800 回忌・親鸞聖 人 750 回忌記念「法然と親鸞」(前進座)	11.12 ~ 29、 12.1 ~ 15	37	A = 11,000 / B = 5,000 / C = 3,000	43,915	27,506	62.6	
アニメクリスマスコンサート (日本テレビ)	12.19・20	4	S = 5,800 / A = 4,800 / 立見= 3,000	4,840	4,077	84.2	
サクラ大戦巴里花組ライブ 2009 ～燃え上がり自由の翼～ (レイネット)	12.25 ~ 27	3	SS = 9,000 / S = 8,000 / A = 6,000 /ファミリー = 15,000 /立見= 3,000	3,536	3,312	93.7	

名 称	日 時	回数	料 金	総 席 数	入場者数	入場率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
シャーマンヒシネスマン「乱童 RAN - DOH ～Voice in City～」 (レイネット)	12月28・29、 H22.13～5	4	S = 8,500／A = 6,000	4,648	2,155	46.4	
ミューシカル「ウーマン・イン・ホワイト」 (ホリプロ)	18～24	17	S = 12,000／A = 8,400 ／B = 3,150／補助席 = 12,000／立見 = 3,000	19,694	14,106	71.6	
ティートリッヒ～生きた愛した永遠に～ (クオラス)	3月8～28	15	S = 12,000／A = 9,000 ／B = 6,000／補助席 = 12,000／立見 = 5,000	17,484	15,524	88.8	
(貸し館 小計)	17件	274		324,680	273,525	84.2	
(青山劇場 合計)	22件	286		331,336	278,603	84.1	

2. 青山円形劇場

名 称	日 時	回数	料 金	総 席 数	入場者数	入場率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
〈自主・提携公演〉							
ミューシカル・レビュー「タウンタウン・フォーリース VOL.6」 (K-LINKS)	4月3～19	16	8,000	5,076	4,565	89.9	
桜の園 (ネルケプランニング)	4月20～29	10	4,000	2,519	2,230	88.5	
こともの城ファミリー劇場 キャブテンチンパンジー公演 「ネロとパトラッシュと貧乏神～フランタースの大より」	5月1～5	7	1,500	1,710	1,294	75.7	
遊機械オフィス×青山円形劇場プロデュース公演 タカイズミプロジェクト vol.2 「Second Lesson」～カエルの王子か導く超個人的恋愛作法～	5月25～6月7	10	5,000	2,603	2,205	84.7	
玉川大学+青山円形劇場提携公演 「Performing Arts Fair 2009」(玉川大学)	6月8～14	6	一般 3,000 (前売 2,500) ／学生 2,500 (前売 2,000)	1,500	1,443	96.2	
* pinish * on vol.7 (パニッシュ)	7月9～18	11	4,500	3,488	3,238	92.8	
えほん×ノヤズ=コトモオトナもめちゃ?楽しいノアーライブ 「月猫えほん音楽会 2009」 (ことも未来財団)	7月21～26	7	入場無料 (応募制招待)	2,450	2,283	93.2	
熊谷和徳「TAPPERS RIOT volume II」 (SMA プレイヤーズ)	8月14～23	6	6,600	1,962	1,672	85.2	
太鼓見聞録外伝 和心～女か打つ、歌う～	8月26	1	3,500 (前売 3,000)	271	169	62.4	
和太鼓カレッジ	8月27～30	8	4,000 ほか	310	230	74.2	
口ハ下る presents 02 「わるくち草原の見はり塔」(口ハ下る)	9月1～9	10	3,500 (前売 3,000)／ 男女編通し 5,000	1,532	950	62.0	
ダンストリエンナーレ トーキョー 2009	9月21～10月8	10	4,000 (前売 3,500)／ 学生 2,500	2,003	1,743	87.0	
青山円劇カウンシル #3～sensitive～ ピチチ5プロデュース「サホテンとハントライン」	10月28～11月8	13	5,000	3,792	3,401	89.7	
青山円形劇場プレゼンツ「おしゃへりなレストラン」 ア・ラ・カルト リニューアルオーブン準備中	12月4～25	16	6,000	5,920	5,372	90.7	
第22回こともの城・キリン・ファミリー・オペレッタ タントさんのふしきなレストラン ～タントさんといしわるいもむし～ (キリン福祉財団)	12月26～29、 H22.13～10	12	2,800	3,821	3,042	79.6	
青山演劇 LABO #3 劇団鹿殺し 10周年記念公演・第一弾 「スーパースター」(劇団鹿殺し)	11月8～28	10	3,900	2,290	2,109	92.1	
中西俊博コンサート Leapingbow 2010	12月9～31	2	6,000	558	521	93.4	
TOKYO DANCE TODAY #5 井手茂太 ソロ公演 イテソロリサイタル [idéolo]～見てる僕、見られてる僕～	3月15～22	5	4,000 (前売 3,700)	988	778	78.7	

名 称	日 時	回数	料 金	総 席 数	入場者数	入場率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
Classical ROLLY 2010 (SMA プレーヤーズ)	3 24 ~ 28	5	7,000	1,640	1,289	78.6	
(自主・提携公演 小計)	19 件	184	165		44,433	38,534	86.7
〈内部利用〉							
第 24 回こともの城マタニティ・コンサート 今野尚美・里中トヨコ～ピアノと歌でリラックス～	7 4・5	1	無料（応募制招待）	305	196	64.3	小児保健
第 17 回キンダー・フィルム・フェスティバル	8 9～12	13	子ども 500／おとな 700	3,843	1,946	50.6	企画研修
こともたちからのサウントメッセージ	3 12～14	5	1,500	1,310	1,107	84.5	音楽
(内部利用 小計)	3 件	9	19		5,458	3,249	59.5
〈貸し館〉							
劇団ステーシートア第 18 回公演 ミュージカル「いつまでもあなたを」 (ステーシートア)	5 9・10	3	2,500	930	841	90.4	
音楽・舞踊劇「プシケとセウス」 (キョートー東京)	5 11～17	7	8,000	1,999	1,577	78.9	
吉武大地ソロコンサート（キョートー東京）	6 15	1	6,300	384	370	96.4	
ヨーロッパ企画 第 27 回公演 「ホス・イン・ザ・スカイ」（ヨーロッパ企画）	6 16～28	14	3,800（前売 3,500）	4,714	4,202	89.1	
座☆トム「久女」（トムコーポレーション）	6 30～7 3	5	3,500	1,152	321	27.9	
EPO[AQUA NOME]～アルハム発売記念コンサート～ (楽インターナショナル)	7 7・8	2	6,000	614	542	88.3	
初台子どもミュージカル 第 4 回公演 ミュージカル「ロビンソン・ロビンソン」 (劇団 BDP)	7 19・20	3	2,500（前売 2,000）	972	833	85.7	
夏休みワクワク音楽体験「100 人シャンヘアンサンブル」 (シャンヘアンサンブル事務局)	7 30～8 5	26	一般 2,200／小学生 1,700	6,396	867	13.6	
アキコ・カンタ モダンダンス公演「おもかけ」 (アキコカンタ事務局)	8 6～8	4	5,250	712	631	88.6	
樋口了一「手紙～親愛なる子供たちへ～」 (サ・カンパニー)	8 24	1	5,000	376	314	83.5	
パパ荒川デヒューコンサート「こともたちへ」 (サ・カンパニー)	8 25	1	5,000	376	294	78.2	
Orega Challenge Vol.4「夏の穴」（トリス）	9 14～20	8	4,800	2,686	2,127	79.2	
abc～青山ホーリスキャハレー (ケイダッシュステーシ)	10 10～25	23	4,800	7,782	6,177	79.4	
恋するハロー・キティ (アップフロントエーシェンシー)	11 9～19	11	6,000（前売 5,600）	3,590	3,332	92.8	
即興演劇集団 FREECRUZ 第 37 回公演「裸」 (フリークルース)	11 20	1	4,000（前売 3,800）／ワーグショップ付き 5,500	280	191	68.2	
太鼓の里 韶和館 教室発表会 響和祭 Vol.2～響く音・広かる和～ (浅野太鼓)	11 21・22	2	1,200（前売 1,000）	610	535	87.7	
劇団 TEAM - ODAC 5 周年記念 第 8 回公演 「タルマ」（チームオタック）	11 23～29	7	4,800（前売 4,500）	1,821	1,655	90.9	
パパ荒川ライブ～ONE MAN～ (サ・カンパニー)	12 1	1	5,000	296	219	74.0	
あさみちゆきコンサート オンナココロ ～31 の秋の終わりに～（サ・カンパニー）	12 2	1	5,000	340	308	90.6	

名 称	日 時	回数	料 金	総 席 数	入場者数	入場率	備 考
〈貸し館〉 花岡優平 with Brothers ライブコンサート 今だから届けたい 恋ごころ (ザ・カンパニー)	(日) 12.3	(回) 1	(円) 5,000	(人) 380	(人) 341	(%) 89.7	
bump・y (ハンピー) (る・ひまわり)	H22.1.16	2	SS = 9,600 / 5 = 8,700	616	530	86.0	
Oriental ancient theatre	2.7	1	4,500 (前売 4,000)	366	349	95.4	
NECK (ネルケプランニンク)	2.8 ~ 2.24	20	7,000	6,269	5,797	92.5	
第3回 藤井昭子「地歌 Juta」(ヒクター)	3.1	1	5,000	313	142	45.4	
G - up presents 「棄憶～Kioku～」	3.2 ~ 11	9	4,300	1,404	1,004	71.5	
FESTIVAL NEO - VOICE # 1 声の挑戦 (巻上公一)	3.29 ~ 31	3	4,500 (前売 4,000)	780	614	78.7	
(貸し館 小計)	26 件	122	158		46,158	34,113	73.9
(青山円形劇場 合計)	48 件	315	342		49,891	41,783	83.7

3. その他

〈青山パフォーミング・アーツ・セミナー 2009 (APAS) など〉

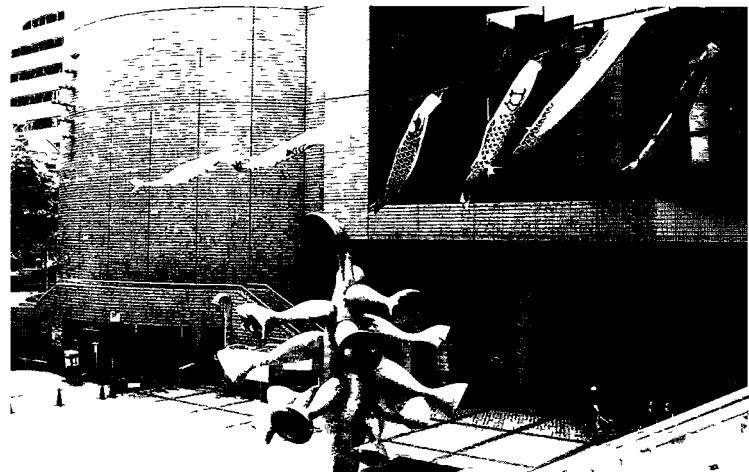
名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第4回 海外で活躍する日本人アーティストから、海外のアート環境を聞こう会	一般 (人) 30	(人) 24	4.8 19:00 ~ 21:00	セスト=遠藤暁子 (オランタ)。進行=JOU。無料。
第5回〃	// 30	27	7.9 19:00 ~ 21:00	セスト=宮澤さおり (ヘルギー)。進行=JOU。無料
第6回〃	// 30	22	8.17 19:00 ~ 21:00	セスト=成澤幾波子 (イタリア)。進行=JOU。無料
和太鼓カレッジ				
チャッハ講座~リズムと書き~	// 30	25	8.28 10:30 ~ 13:00	講師=柳理子。受講料 4,000 円。
太鼓を打ちながら民謡をうたおう「しげりずむ」	// 40	13	// 14:00 ~ 16:30	講師=木津茂理。受講料 4,000 円。
初心者向け はしめての錫笛	// 30	11	// 14:00 ~ 16:30	講師=武田朋子。受講料 4,000 円。
八丈太鼓	// 30	33	8.29 10:30 ~ 13:00	講師=菊池隆、菊池卓 (八丈太鼓の会)。受講料 4,000 円。
鬼剣舞	// 30	18	// 14:00 ~ 16:30	講師=藤本吉利。受講料 4,000 円
錫太鼓~ちょっとした中級編~	// 40	43	// 17:30 ~ 20:00	講師=浅野町子。受講料 4,000 円。
錫笛ワークショップ~基礎向上編~	// 40	17	// 14:00 ~ 16:30	講師=村山二朗 (東京打撃団)。受講料 6,000 円 (笛持込 4,000 円)。
ミニ太鼓つくり	// 30	14	// 14:00 ~ 15:30	指導=浅野太鼓。受講料= 4,000 円 (材料費込)。
〃	// 30	9	8.30 14:00 ~ 15:30	〃
超初心者コース	// 40	7	// 10:30 ~ 13:00	講師=露木一博 (東京打撃団)。受講料= 4,000 円。
ゆるんてたく~自然の力を感しながらたく~	// 30	37	// 14:00 ~ 16:30	指導=金子竜太郎。受講料= 4,000 円。
ステップアップ太鼓クリニック~上達コース~	// 40	30	// 17:30 ~ 20:00	講師=田川智文 (東京打撃団)。受講料= 4,000 円。
いかしたオリンナル曲を作ろう!	// 30	24	// 14:00 ~ 16:30	指導=細谷一郎。無料。
ダンスワークショップ	// 20	8	9.18 9.19 19:00 ~ 21:00 14:00 ~ 16:00	講師=エーウア・ムイル。受講料= 5,000 円 (2 日間)。
〃	// 20	20	9.20・21 14:00 ~ 16:00	講師=ヤスミン・コーテル。受講料= 5,000 円 (2 日間)。
〃	// 20	19	9.22・23 14:00 ~ 16:00	講師=ミシェル・ノワレ。受講料= 5,000 円 (2 日間)。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ダンスワークショップ	" (人) 20	(人) 7	9 25・26 14 00～16 00	講師＝キム・ヒシン。受講料＝5,000 円 (2 日間)。
"	" 20	8	9 29 9 30 19 00～21 00 14 00～16 00	講師＝フランク・ミケレッティ。受講料＝5,000 円 (2 日間)。
"	" 20	7	10 1・2 14 00～16 00	講師＝タルダンス・カンパニー。受講料＝5,000 円 (2 日間)。
"	" 20	9	10 6・7 13 00～15 00	講師＝アヌーク・ファン・タイクタンスカンパニー。受講料＝5,000 円 (2 日間)。
〃 Transformers (Dance#2)	" 10	9	9 28～10 2 13 00～17 00	講師＝エステル・サラモン。受講料＝10,000 円 (5 日間)。

〈青山劇場プロデュースによるツアー公演〉

名 称	期 間	回 数	内 容
月猫えほん音楽会 2009	5 4・5 7 29～30 9 18・19 10 10・11	1 1 1 1	滋賀県立芸術劇場ひわ湖 中ホール (滋賀県) 北九州芸術劇場 中劇場 (福岡県) 高知市文化プラザかるぽーと 大ホール (高知県) 名護市市民会館 (沖縄県)
テーモン小暮の邦楽維新	6 19・20 12 16～19 H22 18・9 1 10・11	1 3 1 1	港北公会堂 (神奈川県) よしもとプリンスシアター (東京都) 倉吉未来中心 大ホール (鳥取県) 島根県民会館 大ホール (島根県)

広報部



平成 21 年度の活動

1. はじめに

「こども活動エリア」という健全育成施設を運営すると同時に、健全育成思想の普及という役割を持つ【こどもの城】の広報活動は、広報= PR (public relations) と宣伝 (advertisement) の2つの側面を持っている。たくさんの人々に、【こどもの城】を利用してくださいと呼びかける“宣伝”だけではなく、子どもの健やかな〈育ち〉を支えることの必要性や重要性=健全育成思想の普及ということを、【こどもの城】が具体的に推進しているということを理解してもらうための広報が重要なになってくる。

【こどもの城】の“遊びのプログラム”は、楽しいひとときを過ごすだけの“遊び”ではない。ほとんどの場合、“遊びのプログラム”的なかに意図的に人やものとの出会いの場を設けて、子どもたちに体験してほしいこと、知ってほしいことなどをもりこんでいる。したがって、【こどもの城】の活動に参加してもらうこと自体が、健全育成の普及にもつながっている。プログラムへの信頼度も高いのではなかろうか。

各種メディアも、さまざまな形で【こどもの城】の活動を取り上げてくれている。定期的に情報を提供するなどの努力をしているものの、これまでの活動実績をふまえて、子どもの〈あそび〉の重要性を理解してもらっているからだと考えている。

本年度も、新聞 30 件、テレビ・ラジオ 22 件、雑誌 60 件、その他 59 件の合計 171 件の取材があり、それそのメディアで取り上げられた。取材を受けたメディアには、定期的に情報を提供。引き続き、【こどもの城】

への理解と協力をお願いしている。

2. 【こどもの城】のメディア

メディアとは、送り手のメッセージを受け手に伝える媒介物のこと。新聞・雑誌などの「活字(紙)媒体」、テレビ・ラジオなどの「電波(放送)媒体」、看板などの「屋外(定置)媒体」などに、最近ではインターネットなどの「ネット媒体」が加わる。

メディアに対価を支払って有償で行うのが「広告」ということになる。どのような受け手を想定するのか、どのようなメッセージを届けたいのかなどによって、メディアを選択し、組み合わせる。有償であるがゆえに、収益を期待するものになる。

多くの団体・組織では、機関紙・誌を発行するという形で、自前のメディアを持っている。発行の目的はさまざまだが、団体・組織としての活動の目的・考え方などを伝えるケースが多い。定期的に情報を発信できるものを持っているのは、大きな力になる。もちろん、持っているだけでなく活用しなければならない。

「こどもの城ニュース」は、機関紙として、【こどもの城】が伝えたいもの—催し物の案内・お知らせ、活動の紹介・報告などを、健全育成のための活動という視点から取り上げるようにしている。“読んでもらう”ためには、“理屈っぽく”なっても、“手前味噌”になりすぎてもためなのは、言うまでもない。【こどもの城】理解への下地作りが役割の一つと考えている。

印刷物であることの利点も少なくない。掲示してあれば目にしてもらえるし、テーブルの上に置いてあれば、時間つぶしに読んでくれることもある。“受け身”的

用も期待できる。

最近は「ネット媒体」が、注目を集めている。ブログ、ツイッターなど、手軽に情報を発信できる。たくさんの人がネットをとおして情報を送っている。そして、たくさんの人人がネットをとおして情報を得ている。しかし、「たくさん」の内容・質を考えなければならない。

【こともの城】もホームページを開設して、情報を提供。たくさんの人がアクセスしてくれている。「今日は、どんな催しがあるのかな」「今度遊びに行くのだけれど、その日はなにがあるのかな」など、【こともの城】に遊びに行くという目的を持った人の利用が想定される。【こともの城】は、どのようなところかを調べようとする人にも対応しているが、利用者の多くは催し物という具体的な情報を期待しているのではないか。



2009 優良施設認定 ゴールデンウイーク特別期間 (ゴールデンウイーク) ちらし (デザイン クワデザイン)

ホームページにアクセスして、なかまで入ってのぞいてくれる“積極的”な利用者像が浮かぶ。メディアの特性を考えながら、自前のメディアの活用を考えていきたい。

3.まとめ

“広報”というのは、広報するもの、広報したいものがあつてはじめて、その役割が生じてくる。その意味では常に脇役である。主役は、健全育成という大義のもとで、ある意図をもって活動を展開し、伝えたいものを持っている【こともの城】そのものである。

【こともの城】は何をすべきか、何をしなければならないのか——メディアの特性などを考えながら、より多くの情報を伝えて行きたい。



夏休み特別期間ちらし (デザイン クワデザイン)



冬休み特別期間ちらし (デザイン クワデザイン)



春休み特別期間ちらし (デザイン クワデザイン)

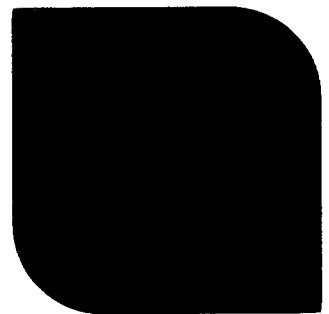
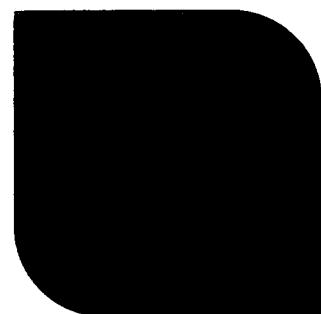
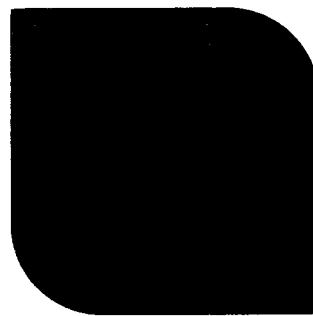
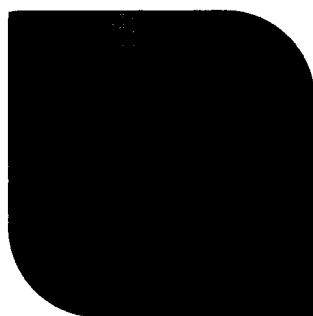
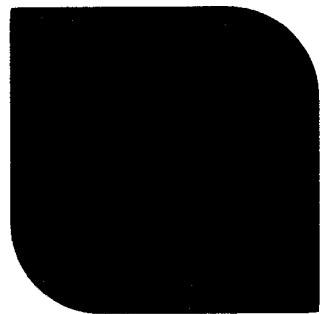
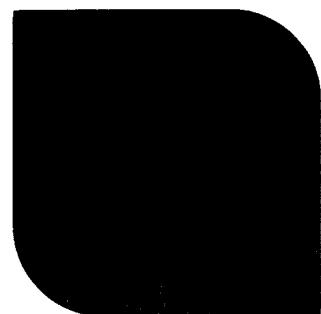
平成 21 年度活動一覧表

名 称	日 時	内 容
「こともの城ニュース」の編集・発行	毎月 1 日発行	<p>本年度から月刊化し、毎月 1 日発行となった。B3 判、表面 4 色、裏面 1 色印刷。各号 17,000 部発行。主な配布先は下記のとおり。</p> <p>都道府県児童館連絡協議会など (3,310 部) / 都道府県児童福祉主管課 (3,710 部) / こともの城友の会 (約 1,000 部) / 渋谷・港区内の保育所、幼稚園、小・中学校 (340 部) / 渋谷区町会ほか (220 部) / 市町村 (1,000 部) / その他・一般来館児・者、視察・見学者など (約 13,700 部)</p> <p>◇主な内容◇</p> <p>第 204 号 (4月1日号) = 応援します楽しく子育て ～「赤ちゃんサロン」「ぽかぽか広場」「よちよちクラブ」～ 第 205 号 (5月1日号) = 〈動くこともの城〉で「遊びのプロクラム 紹介 第 206 号 (6月1日号) = プレイホールの“ひかわりプロクラム” 第 207 号 (7月1日号) = [こともの城]女性ホランティア 子ともたちの〈あそび〉を支える 第 208 号 (8月1日号) = 「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」健康的な生活習慣を身につける 第 209 号 (9月1日号) = 遊びいろいろ 秋のフェスティバル 第 210 号 (10月1日号) = 第 10 回全国児童館おりかみ作品展 私たちの街Ⅱ 第 211 号 (11月1日号) = [こともの城]ファミリー月間 家族で〈あそび〉ふれあい楽しむ 第 212 号 (12月1日号) = 「昔遊び（伝承遊び）」はおもしろい！？ 第 213 号 (平成 22 年 1 月 1 日号) = みんなでつくろう !! 新世界 チキチキトルッチャワールト 第 214 号 (2月1日号) = 暗くした広い空間で〈映画〉を楽しむ「こともの城映画劇場」 第 215 号 (3月1日号) = [こともの城]の講座・クラブ 1 年のしめくくりに“発表会”</p>
[こともの城] のホームページの運用	通年	催し物情報の提供を中心としたサイトの運営を行っている。月間スケジュール、日替りカレンダー、講座・講習会などの募集案内など。無理なく継続的に運営していくために検討していくなければならないことは多いが、できる範囲で更新に努めている。年間、700 万件近いアクセスがある。
「こともの城写真ニュース」の制作・掲示	毎月 20 日	館内に掲示している A3 判横サイズ・カラーの写真ニュース。毎月 20 日に更新。 4月 20 日 = 春開幕！カモン！みんなであそんしゃ王国／妖怪ライフラリー ほか 5月 20 日 = みんなで春の運動会／あそひのおもちゃ箱 ほか 6月 20 日 = こともの城子育て支援講習会／児童厚生員等実技指導講習会 ほか 7月 20 日 = 三味線体験ワークショノブ／とり + かえっこ with スポーツゲーム ほか 8月 20 日 = 月猫えほん音楽会／オープニングセレモニー～造形菜園～ ほか 9月 20 日 = 集まれ！ちひっこ海賊団／キリ・ペタ・クラフト（パソコン） ほか 10月 20 日 = こともの城の秋まつり／わいわいスタジオ「カラーカ」ほか 11月 20 日 = 遊びでつくる家族の WA／全国児童館おりかみ作品展 ほか 12月 20 日 = こともの城クリスマス／こともの城水泳記録会 ほか 平成 22 年 1 月 20 日 = クルッとまわしてめてタイマー／おぞなえ餅づくり ほか 2月 20 日 = 保育活動展／集まれ！小学生／チキチキトルッチャワールト ほか 3月 20 日 = ぽかぽか広場／アートスケープ 2010／トキトキッソൺステーション ほか
特別期間のちらしの作成	特別期間開始日の 1 か月前	以下の催し案内ちらし・ポスターなどを作成した。 ○児童福祉週間（コールテンウイーク）特別期間ちらし（A4 判 / 4 色 × 2 色 / 23,000 部） ○夏休み特別期間ちらし（B4 判 2 つ折り / 4 色 × 1 色 / 48,000 部） ○冬休み特別期間ちらし（A4 判 / 1 色 × 1 色 / 18,500 部） ○春休み特別期間ちらし（A4 判 / 4 色 × 2 色 / 27,000 部） × 英語版（1 色 / 簡易印刷）もあわせて作成した。
その他のちらしの作成	通年	講座・クラブの募集ちらし（2期、3期、夏休み短期講座）や土曜日プロクラム・高学年プロクラムなどのちらしのほか、月間スケジュール（カレンダー／毎月発行）などを作成した。
平成 22 年度講座・クラブ一覧	H21 1 月	新年度の講座・クラブ受講生の募集にあわせて、例年同様に一覧を作成した。B4 判 2 ページ（2 色）。271,000 部印刷。一部を新聞折り込み・ポストインちらしとして使用。

名 称	日 時	内 容
新聞広告		朝日小学生新聞、毎日小学生新聞への定期的な記事広告掲載のほか、特別期間などの時期に、新聞広告をとおして広報した。
催し物案内ほか	通年	朝日小学生新聞（年 14 回）と毎日小学生新聞（年 3 回）に定期的に記事広告を特約掲載。
夏休み特別期間のお知らせ	7 5 ~ 8 31	朝日新聞（都内版・多摩版・埼玉版・神奈川版 全 5 段ほか）／読売新聞（都内版・多摩多摩版・神奈川版・埼玉版 半 5 段ほか）／毎日新聞（都内版 半 3 段）／埼玉少年少女スポーツ新聞（タフロイト半 2 段）／朝日小学生新聞（全 5 段）／毎日小学生・中学生新聞（タフロイト 3 段）／東京新聞（半 5 段）
その他の広告		新聞以外の広告媒体を使って【こともの城】の催し物の案内を行った。
夏休み特別期間のお知らせ（都営交通とのタイアップ広告）	8 2 ~ 8	都営交通とのタイアップ広告。車内つりの記事下スペース（80mm × 515mm）で夏休み特別期間を PR。都営交通（都営地下鉄・都バス・都電）の全線・全車両内に 7 日間にわたり掲出した（約 3 500 枚）。
ウェブ	通年	ウェブサイト「エリア毎日」で【こともの城】の案内および PR を行う。無料。
読者プレゼント	随時	「こともぴあ」「京王沿線カイト」「東京新聞」などのメディアの読者プレゼントに入館招待券を提供し、【こともの城】の案内を掲載してもらった。無料。
取材関係	通年	取材の申し込みがあり、その後記事として掲載されたり放送されたものは以下のとおり（カッコ内は前年度の数）。新聞 30（27）、テレビ・ラジオ 22（25）、雑誌 60（53）、その他 59（44）で、全体では 171（149）となっている。取材を受けたところには、その後、毎月定期的にプレスリリースを送っている。
第 26 回 渋谷スタンプラリー	7 18 ~ 8 31	恒例となった「渋谷スタンプラリー」に本年度も参加した。NHK スタジオパーク、こともの城、たはこと塩の博物館、電力館、東京都児童会館の 5 館で共催した。参加者は約 1 万人。
あ・ら・かるちゃー 渋谷・恵比寿・原宿	通年	渋谷・恵比寿・原宿周辺の文化施設が集まり、交流・情報交換を行うと同時に、協力して PR 活動などを行う。NHK スタジオパーク、渋谷 CC レモンホール、たはこと塩の博物館、トーキョーワンターサイト渋谷、Bunkamura、観世能楽堂、戸栗美術館、キャラリーティー TOM、渋谷区立松濤美術館、太田記念美術館、地球環境パートナーシッププラザ、国連大学キャラリー、セルリアンタワー能楽堂、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館、渋谷区ふれあい植物センター、東京都立中央図書館、エビスヒール記念館、山種美術館、JICA 地球ひろは、東京都写真美術館、こともの城の 21 施設が参加している。「渋谷ふるさとまつり」（10 月 31・11 月 1 日）に参加して「あ・ら・かるちゃー」を PR した。

3

子どもの城から
全国へ



子どもの城 から全国へ



平成 21 年度の活動

1. はじめに

【子どもの城】がひとつの施設としての存在にとどまらず、地域の児童館や子育て支援のための活動を行う人たちへ必要な情報を発信する、ナショナルセンターとしての機能は、ますますその重要性を増している。こうした機能を果たすため、「子どもの城児童厚生員等実技指導講習会」の開催、〈動く子どもの城〉事業、講師派遣や実習生・研修生の受け入れなどを行った。

また、独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金の助成を受けて、「児童館を活用した父親ネットワークつくり事業」や、厚生労働省と財団が主催した「子育てサークル活動者研修事業」にも取り組んだ。

2. 事業の概要

(ア) 児童厚生員等指導者対象の講習会

児童厚生員等実技指導講習会は、児童館で活動する児童厚生員を中心とした指導者の、技能向上のための講習会として位置づけている。第1回は遊びの専門技術「手技を楽しむ」をテーマにした。手を使って遊ぶ活動の展開例を「手品」「なわとひ」「ジャグリング」「手遊び歌」などさまざまな角度から紹介した。第2回では、これから幅広い児童館のあり方を考え、その対象である「子どもを考える」をテーマを取り上げ、子ども理解を深めるため、多角的な視点から考える機会とした。

このほかにも、指導者および一般向け講習会「つくって演じる人形劇」「おりがみにつよくなる講習会」を開催。人形劇、折り紙という、特に児童館で関心の高い遊

びの実際をトピックス的に取り上げた講習会である。いずれも一日講習で、気軽に参加できると好評であった。

(イ) 研修生・実習生の受け入れ

大型児童館の初任者研修などとして、研修生2人を受け入れた。実習生は、大学・短期大学、専門学校から依頼のあった保育、博物館学などの科目履修を目的とした実習の場として、本年度は22人を受け入れた。

また、中学生・高校生の受け入れは、キャリア教育の一環としての「職場体験」や次世代育成としての「乳幼児とのふれあい体験」などである。学校の授業として、体験実習を希望する件数は、年間をとおして定着の傾向にある。本年度は、中学生5件9人、高校生1件48人の受け入れを行った。また、中学生1件、高校生1件が、新型のインフルエンザの影響で中止となった。

(ウ) 講師派遣

地域で開催される児童健全育成の研修会や催しのために、【子どもの城】の職員か講師として招かれた件数は、172件であった。基本的に職員の勤務時間外に行われているとはいえ、〈動く子どもの城〉などの派遣事業と補完関係にある。また、こうした派遣が職員の自己啓発や技能向上につながるケースも多い。今後も、事業とのバランスに考慮しつつ、地域からの派遣要請に応じていきたい。

(エ) 〈動く子どもの城〉など

【児童館巡回等支援活動事業=〈動く子どもの城〉】

平成6年度から開始。国庫補助金を受けて、全国に約

4,700 館ある児童館に、遊び・音楽・体育・造形・映像などの専門的な知識・技能を有する職員が、「こともの城」で実践してきた遊びのプログラムを紹介する事業。児童館が、地域社会から求められる多様なニーズに対応するために活用されている。

遊びのプログラムを地域で活用できるように、指導者研修会も同時に開催し、紹介だけという一方通行に終わらないよう配慮している。また、地域児童館およびスタッフ間の交流の場としても活用されるように働きかけている。

本年度も、乳幼児をもつ親に対する子育て支援プログラムの需要が高い。新規プログラム「うきうき！おんがくあそひ！」を筆頭に、「親子ふれあい体操 1・2・3」「ぽかぽか広場～広場の持ち方と相談」などの利用が多くかった。

一方、新型のインフルエンザの影響からか、申し込み件数自体が、例年に比べ 63 か所と少なくなっている。さらに派遣が決まった後、新型のインフルエンザのために延期を余儀なくされた所が 3 か所あった。内 1 か所は期日を変えて実施できたが、2 か所がそのまま中止となつた。

【中央児童厚生施設事業】の巡回活動】

児童館が地域のネットワークを広げ、子どものための豊かな事業を展開するために、ボランティアのはたす役割は大きい。ボランティアの育成や交流にかかるプログラムや、ボランティア自身が資質向上をめざすためのプログラムなどを全国各地に紹介している。地域の児童館にとって、事業実施の具体的な方法論の会得や、ボランティア交流による活動の活性化は重要なテーマになっている。

本年度は、親世代のボランティアに向けた「親子で遊ぶパペットランド」や、ネットワークを広げるための“かえっこ”というプログラムをツールとして使う「とり+かえっこ」の要望が多くあった。施設ボランティア同士の交流は 1 回の開催ながら、4 施設のボランティアが一堂に会することができた。

(オ) 助成金による事業

独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金の助成を受け、「児童館を活用した父親ネットワークつくり事業」に取り組んだ。

継続事業（2 年）の 2 年目。父親の子育て参加や、父親の地域活動を推進するために、児童館が拠点としてどのように機能していくべきかについて、モデル事業を

とおして検討した。ネットワーク作りのプロセスについて、十分な知見を得るために単年度では不充分であると考え、モデル事業 6 か所のうち 2 か所は前年度に引き続き実施した。

また、これらの成果を広く周知し、各地の活動にかかる情報を共有する場として、愛知県と東京都で「父親ネットワーク・サミット」を開催した。

(カ) その他の共催事業

平成 14 年度から厚生労働省・財團未来財団主催の「子育てサークル活動者研修事業」を委託されている。本年度は、岩沼市（宮城県）、和歌山市、宇部市（山口県）、小城市（佐賀県）の 4 か所で事業を実施した。

研修会は、参加者が主体的に学べるようにワークショップ形式とした。4 回連続の講座だったため、徐々に参加者同士の距離が縮み、連絡先を交換するなど、新たな関係を築いたようすだった。また、モデル事業には研修会の参加者も参画し、協力団体を中心とした草の根レベルでのネットワークが築かれたようだ。今後は、この事業で得られた手法やネットワークを「こともの城」の事業にも生かしていきたい。

3. まとめ

〈動くこともの城〉をはじめとして、全国に情報発信をしていく事業の対象となる地域の子育て環境は一様ではない。それぞれの児童館、子育て支援センター、NPO などの民間団体あるいは個人が、子どもの良き育ちのため、多様な状況のなかで努力している。

【こともの城】が行う情報発信は、遊びのプログラムやボランティアの活動についてなど、極めて具体的である。発信したこれらの情報は、活動スタイルの画一化や標準化をめざすものではなく、地域の実情にあつた活性化への提案、きっかけ作りに過ぎない。また、派遣先の地域の実情に根差した活動例を収集して、それを再発信していくことも、センター機能の重要な役割である。情報の発信、受信、再発信が一体となって機能するようなシステム作りを進めていきたい。

【こともの城】は、全国で活動している人たちの助けとなる事業に積極的に取り組むとともに、センター機能が【こともの城】という施設の事業と一体となって、さらに効果をあげられるように努めていきたい。また、外部への働きかけ、外部からの情報の収集が、【こともの城】全体で共有できるような内部の体制作りにも傾注したい。

平成 21 年度活動一覧表

1. 講座・クラブなど

〈専門指導者向け講習会など〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
平成 21 年度こともの城児童厚生員等実技指導講習会				
第 1 回 遊びの専門技術 「手技を楽しむ」	(人) 児童館職員 ほか (50)	(人) 31	6 10・11	前年度に引き続き〈遊びの専門技術〉。今回は「手を使った遊び(手技)」かテーマ。1日目の午前は「手品」を題材に、「身近なモノをつかって手品で遊ぼう!」。小学館レクリエーションリーダースクラフ代表の岩田勉さんの指導で、身の回りの素材で楽しむ手品(その技術)を学んだ。午後は、「シャクリングで遊ぼう!たれもが気軽にパフォーマンス」。シャクリングパフォーマー・ミューシシャンの坂口勝さんの指導で、子どもたちとシャクリングを楽しむ方法を実習した。2日目は午前中か「タフルタッチ」。日本タフルタノチ協会公認インストラクターの沖山聖子さん(viva 女!!)の指導で「長縄あそひからタフルタッちへ」。全員が跳び方や縄回しの体験をして、自館に戻ってからも継続して取り組めるような講習を行った。午後は、「徹底的に手あそび」。人形劇団コロン团长の荒木文子さんを迎へ、たくさんの手遊びを学びあった。今回は〈手〉をキーワードにして、すぐに実践できる4種の異なった遊びを学習し、指導者としての技術を深めることができた。 (研修室)
第 2 回 今の子どもを徹底研究! 「これからの活動を考えるために」	" (50)	54	H22 1 20 ~ 22	子どもの本質や現状を幅広く考えるために、改めて子どもを見つめ直し、さまざまな角度から学習した。1日目はアイスブレイクをかねて、仲間を感じるためのゲームを紹介。夜は、こともの城小児保健部長井口由子(臨床心理士)の講義「子どもの発達と遊び～遊びをとおして子どもの成長を考える」。2日の午前中は、早稲田大学教授の増山均さんか、「社会の変化と子ども～過去から未来へ子どもの今を究める」。写真集に収められている子どもの姿から、子育ての今と昔について学んだ。午後は、実技演習をまじえて「子どものからた‘36’の動きは遊びの原点～鬼ごっここの実際をとおして」(こともの城事業本部長羽崎泰男)。引き続き夕方からは、講義「メディアと子ども～メディアがもたらす遊びの変化」(千葉大学教授の明石要一さん)。最終日は、参加者全員で、「まとめにかえてディスカッション～子ども徹底研究!今の子どもをどう育てる?」。子どもの指導者として、その求められる役割についてグループに分かれ語り合い、まとめた意見をもとに全体で意見を交換した。(研修室ほか)
つくって演じる人形劇	" (各 30)	22 9	8 24 9 7	8月は〈つくる〉。扱いやすいうえに、本格的な仕様にできるカラーウレタンを使って制作。9月は〈演じる〉。児童館や保育所などで生かせるように、使う場を想定して人形操作にチャレンジ。表情人形の扱い方の基本(さしかねの持ち方など)の指導をうけ、5グループに分かれて練習、最後に発表した。人形の持ち方や声の出し方のほか、「絵本など原作のあるものを使う場合は、テーマをくすしてはいけない」「何度も演してみる、長期間やってみることが大切」「人前に出て何かするのは誰にとっても大変。しかし、伝えたいこと=核、が自分のなかにあれば大丈夫!」など、現場で生きる具体的なアドバイスや励ましを受けながら、充実した講習会となった。講師は、「人形劇・木くつの木」の鹿島佳子さん。 (研修室)
おりかみにつよくなる講習会	" (各 50)	26 22	11 8 11 15	「おりかみカーニバル」にあわせて、児童館職員などを対象に開催。初心者にも応対できるよう、折り図の見方をていねいに説明しながら進めた。子どもたちとの活動に、すぐ取り入れられる内容にしている。本年度は「クリスマス」をテーマに開催。正方形の折り紙だけではなく、きれいな包装紙などを活用して作る装飾や、プレゼントにしても喜ばれるキャンテー入れなど、日替わりのメニュー。講師は、日本折紙協会に推薦してもらっている。 (研修室)

2. 〈動く子どもの城〉ほか(派遣プログラム)一覧

〈乳幼児とその家族を対象とした子育て支援プログラム〉

名 称	内 容
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	赤ちゃんが自然に健康に成長していることは、母親でも意外と意識しないもの。音楽や楽しい遊具を使いながら、赤ちゃんのできる簡単な体操をとおして、表情や動きの新しい発見をする。
親子ふれあい体操“1・2・3”	1・2歳または、2・3歳の幼児と親を対象とした運動プログラム。親子で楽しく体を動かしながらふれあい、子どもの成長を感じながら、コミュニケーションを楽しむ。
親子いっしょにうきうき！おんかくあそび！	音楽にあわせて体を動かしたり、親子で手遊び・歌遊びなど。子どもの成長に応した「親子のふれあい」「家族では得難い集団での遊び」を紹介。親子のスキンシップを大切にしたプログラム。
親子で遊ぶパペットラント	幼児にとって小さな人形は、安心して接することができる大切な友たち。幼児とその親を対象に、身近にあるものを人形に見立てて遊ぶ、“親子のふれあい”プログラム。対象年齢別に、1歳6ヶ月～3歳向けの「ふれあい遊び」と、3歳以上向けの「劇遊び」がある。
ほかほか広場 乳幼児と親のための交流広場	児童館では、乳幼児とその親が気軽に集まり、親同士で話をするなかで子育ての悩みを解消し、仲間作りができる「広場」への取り組みが始まっている。そのような“ふれあい広場”的実践を紹介。 【「広場」の持ち方と相談（小児保健部ほか）】 乳児とその親を対象とした「広場」の環境設定、雰囲気作り、子育て相談の持ち方などの運営方法を紹介。 【「広場」で遊ぼう（音楽事業部・保育研究開発部ほか）】 ワンポイントの音楽遊びなどをとおして、親子でふれあって遊ぶ楽しさを体験。親同士の仲間作りを促進。 【身近なもので遊ぼう（プレイ事業部ほか）】 親子の時間を豊かにするために、ハンカチや新聞紙など身近な物を使って体を動かして遊んだり、親子のスキンシップを楽しむショートプログラムを紹介。

〈幼児や学童を対象とした遊びのプログラム〉

名 称	内 容
身近な道具でスポーツあそび	身の回りにある道具を使って体を動かしてみる。新聞紙・棒・ひも・そして特定のスポーツの道具として使うことが多いホールなどの使い方を、人数や場所の広さによって変えていく発展型プログラム。発想を変えることによって、さまざまな運動遊び、スポーツへと展開。
「おにっこ」で楽しく体力づくり	かつて、子どもたちは元気に軽快に遊ぶなかで、基本的な体力を自然に伸ばしていった。現代ではその基本的な体力の低下が危惧されている。簡単に転んたり、上手によけることかできず、ふつつかってしまったり。体力のなかでも「敏捷性」「ハラנס」を養うための陣取りゲームなどのスポーツ遊びを多彩に展開。
カトカトコンサート 「おんかくかスキ！」	従来のように参加者に聞かせるだけのコンサートではなく、歌遊びや手遊びの要素が盛り込まれているコンサート。演じる・見る・聞く・楽しむ行為が一体となり音楽の楽しさをより一層体験できる参加型のプログラム。
竹の響き 「アンクルンコンサート」	アンクルンは竹で作られたインドネシアの民族楽器で、「竹のハントヘル」とも呼ばれている。竹を奏てる優しく素朴な音のハーモニーを楽しむ。また、子どもたちがアンクルンを体験するコーナーもある。
絵本の読み語り 「おはなしコンサート」	スライドで写し出した大きなイラストと、ピアノとパーカッションの生演奏をハックに、絵本の読み語りを行うプログラム。絵本の楽しさを家族一緒に体験してもらうことかできるプログラム。小劇場向けの「心をこめた贈り物」と、小さなスペースでも上演できる「おはなしおんかくパンパカパーン」がある。
音楽ゲームセンターで遊ぼう 「スーパースターケッター」	日常の子どもとの遊びの活動のなかから作り上げた、オリジナルの音楽遊びプログラム。「踊る」「歌う」「聞く」「リズムをたたく」「楽器を体験する」などさまざまな音楽的要素を含んだゲームが屋台のように並ぶ。
アニメ・ワークショップ	遊びをとおして、映像の仕組みを考えることかできるプログラム。2枚の簡単な絵を描いて作る「ばたばたアニメ」、映画発明以前の動く絵を楽しむ「視覚かん具」の制作などをとおして映画、映像の仕組みを体験。また、ワークショップでは制作の難しい、複雑な「視覚かん具」などの展示も行う。
映像探検 写真ワークショップ	写真の‘写る仕組み’を体験するプログラム。写真の発明以前に、画家たちがテノサンの補助的器具として用いていた カメラ・オブスクラ や、レンズを使わないカメラ“ピンホールカメラ”を使ったワークショップを行う。また、写真の仕組みや歴史を探る展示も併設。

名 称	内 容
こどもの城映画劇場	子ども向けに作られた、国内外の芸術的な短編アニメーション作品の上映。基本的に、こどもの城フィルム・コレクション「武藤行雄記念文庫」に収蔵作品から数本を選んで上映。「武藤行雄記念文庫」にはカナタ国立映画制作庁 NFBC のアニメーションをはじめ、世界中の優れた作品約 110 本が収蔵されている。
科学あそびにチャレンジ 音のふしき	音が作る不思議な世界を体験するプロクラム。糸電話の工作、録音した声を逆再生して正しく聞こえる 言葉作り、音の波形(図形)を描いて音にするプロクラムなど、幅広く紹介。目に見えない音の姿を見たり、音の伝わるしくみに触れる展示もある。
みんなで遊ぼう バベット・ラント	人形作りと人形遊び。紙コノプや封筒など身近な素材で人形を作成。作った人形でお話をしたり、仲間と一緒に楽しんだり、こっこ遊びを繰り広げたりと、イメージの世界を楽しむ、人形遊びのプロクラム。
レクリエーションゲーム大会 「忍者マスター決定戦」	こっこ遊びの要素を取り入れて、レクリエーションゲームをよりおもしろく演出しようというプロクラム。忍者の世界をテーマに、ファンタジーの世界を仲間と共にしながら、協力、相談、競争をキーワードに、さまざまなゲームをとおして交流をはくくむことをねらいとしている。
やってみよう！ パソコン遊びのプロクラム	パソコンで楽しく遊ぶコーナーを一定期間設置。実施するプロクラムは、「きれいなクラフィック遊び」やさまざまなペーパークラフトをパソコンでデザインし、実際に作って遊ぶ「パソコンクラフト」など、今まで「こどもの城」のパソコンルームで実施したプロクラムのなかから、いくつかを選択して実施。

〈児童厚生員などを対象とした実技研修会〉

名 称	内 容
つくって遊ぼう	紙・布・木など身近な素材を使った、子育て広場や子育てサークルで活用できる造形プロクラムの研修。子どもと一緒に造形活動を行う時の素材・道具の使い方や、環境設定などについて学ぶ。
乳幼児の食生活	乳幼児の食生活(授乳・離乳食など)について、親の悩みはつきない。食生活の基本的な考え方などを、子育ての実情をふまえて、管理栄養士が説明。
乳幼児の健康管理と応急処置	乳幼児の成長をふまえ、けかの応急処置をはじめ、事故の予防や日常生活の健康管理などを看護師が説明。
乳幼児の発達と大人のかかわり	0～2歳の子どもは、遊び、言葉、自己主張など、目覚ましい発達をとけ、親が接し方に悩む時期もある。この時期の発達の特徴や大人のかかわり方などについて臨床心理士が説明。
不思議な映像実験室	『映像の時代』ともいえる現代に生きる子どもたちにとって、豊かな映像にふれることは欠かせない。映像の基本的な原理について、遊びを通して理解できるプロクラムを紹介。
手作り楽器のワークショップ	ふたんは、からくたとして捨ててしまうようなものを生き返らせて、音が出るようにする。全金属の缶やフィルムのケースなど、音の道具に早変わり。そして制作終了後には、全員で作った楽器で音をたして遊ぶ。
打楽器で遊ぶワークショップ	ブラジルのサンバを中心に、アフリカの大鼓・タムタム、和太鼓、スプーンなど、身の回りにあるものや手作り楽器なども活用して、リズム遊び。元気よく打楽器をたたき、アンサンブルを楽しむ。
想像遊びのワークショップ	さまざまな絵本をモチーフにして、想像遊び、見立て遊び、言葉遊びを楽しむワークショップ。簡単なカードを作成をとおして協同制作者とのコミュニケーションをはかる。
人形遊びのワークショップ	紙コップ・タオル・靴下など身近な素材を使って人形を制作し、遊びにつなげていくための講習会。人形を使った表現遊びをするためのノウハウを学ぶ。
パソコン遊びのワークショップ	パソコンを使った遊びのプロクラムをいくつか体験しながら、活動テーマの設定、ソフトやデータの準備など、子どもたちにパソコン遊びを提供するまでの具体的な方法を紹介する。
レクリエーションゲーム大会の演出プラン	レクリエーションゲームに“こっこ遊び”的要素を取り入れることにより、子どもたちがより意欲的にプロクラム参加する。ストーリー性のあるレクリエーションゲーム大会の演出方法について、実践例を参考に考える。
造形ワークショップ	素材・発想・技法などで、さまざまなプロクラムが生まれる。ここにでもある素材を用いて、ほんの少しだけ発想を変えると、ふたんは見えないものか見えてくる。こうしたプロクラムを何種類か参加者と体験制作し、それが生まれる考え方や、発想法についても考える。

名 称	内 容
児童館を拠点としたネットワークづくり	【研修】児童館が地域の子育て支援拠点として機能するためには、地域の社会資源を結びつけるコーディネート機能が大切。さまざまな地域の事例に基づき、ネットワーク作りについて学ぶ。 【実践】「とり+かえっこ」を通したネットワーク作り。おもちゃの交換を中心とした「子どもの街」を使って、地域のさまざまな社会資源とのネットワークを築くきっかけに。

〈地域の児童館などの展示とワークショップ〉

名 称	内 容
造形ワークショップ展	【こともの城】造形スタジオのプロクラムを、視覚的に分かりやすく、展示パネルの形式にまとめて展示。そのなかからいくつかのプロクラムを子どもたちやその家族を対象に実施。パネル展示を中心となるプロクラム。「素材アラカルト」「こともの歳時記」「絵本の世界へ」「竹体験ワークショップ」「音・光体験」の5種。
お父さんの少年時代	児童館などを訪れる子どもたちのお父さん、お母さんか子どもたったころ、昭和30～40年代の〈遊び〉の展示。めんこ、へいこま、凧、日光写真などの遊び道具の展示をきっかけにして、親子のコミュニケーションをはかり、子どもたちに昔遊びのエクスペリエンスを体験してもらう。
全国児童館おりかみ作品展	各地の児童館活動のなかで制作した折り紙作品の展示。全国の児童館に参加を募り、寄せられた25作品を【こともの城】での展示。終了後、全国で巡回展を実施。

〈児童館などのボランティア育成のための研修〉

名 称	内 容
ホランティア1・2・3	児童館が地域と密着して、豊かな事業を展開していくためには、ホランティア活動のコーディネートが必要不可欠。児童厚生員を対象にした研修、ホランティアの資質向上を目的にした研修を選択して実施。「児童館のホランティアコーディネート1・2・3」「児童館でのホランティア活動1・2・3」「児童館ホランティア交流研修」がある。

〈動くこともの城派遣実績一覧〉

都道府県	開 催 団 体	実 施 日 時	プロ グ ラ ム 名	催し	研修	展示
福岡県	宗像ユリックス	4.3～19	全国児童館おりかみ作品展			○
埼玉県	ふしみ野市立児童センター	4.27～5.1	全国児童館おりかみ作品展			○
鹿児島県	キッスラント児童館	5.8～20	全国児童館おりかみ作品展			○
福島県	福島市野田児童センター	5.26～31	全国児童館おりかみ作品展			○
三重県	明照児童館	5.28～6.2	全国児童館おりかみ作品展			○
愛知県	東郷町立兵庫児童館	6.7～19	全国児童館おりかみ作品展			○
奈良県	奈良県児童館協議会	6.9	身近な道具でスポーツ遊び	○	○	
新潟県	青少年育成南魚沼市民会議	6.13	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
島根県	大田市少年補導委員連絡会	6.21	からくた楽器のコンサート	○	○	
岐阜県	美濃加茂市健康福祉部ことも課	6.25	親子で遊ぶパペットラン	○	○	
茨城県	守谷市市民交流プラザ	6.26～7.5	全国児童館おりかみ作品展			○
兵庫県	姫路市立北児童センター	6.27～7.2	全国児童館おりかみ作品展			○
埼玉県	清瀬児童センター	7.16	手作り楽器のワークショップ	○		
山口県	児童館連絡協議会	7.16	おりかみ研修会		○	
鹿児島県	キッスラント児童館	8.1	身近な道具でスポーツ遊び	○	○	
埼玉県	草加市子ども未来部子育て支援課	9.4	ばかばか広場「広場」の持ち方と相談	○	○	
山形県	鶴岡市中央児童館ひろっぴあ	9.5	「おにこっこ」で楽しく体力つくり	○	○	
宮城県	気仙沼市立大島児童館	9.11・12	みんなであそぶパペットラン	○	○	
徳島県	阿南市平島こともセンター	9.15	うきうき!おんかくあそひ!	○	○	
沖縄県	那霸市社会福祉協議会	9.24・25	ばかばか広場「広場」の持ち方と相談	イノフルエノサのため延期		
埼玉県	北本市保健福祉部ことも課	9.25	うきうき!おんかくあそひ!	○	○	
岐阜県	岐阜県児童館連絡協議会岐阜フロック	10.1	想像遊びのワークショップ		○	

都道府県	開催団体	実施日時	プログラム名	催し	研修	展示
岩手県	花巻市こどもセンター	103	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
愛知県	ファミリーステーションRin	103	うきうき！おんかくあそひ！	○	○	
福岡県	古賀市千鳥児童センター「COSMOX」	1023	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
香川県	さぬきこどもの国	113・4	科学あそびにチャレンジ 音のふしき	○	○	
兵庫県	神戸市須磨区社会福祉協議会	116	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
山口県	山口県児童センター	1112	手作り楽器のワークショップ		○	
兵庫県	姫路市立飾磨児童センター	1118	うきうき！おんかくあそひ！	○	○	
兵庫県	宝塚市子ども家庭支援センター	1130	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
山形県	大石田町ふたは児童館	125・6	からくた楽器のコンサート			イノフレエノサのため延期
北海道	札幌市青少年女性活動協会	125～20	全国児童館おりかみ作品展			○
東京都	社会福祉協議会母子部会従事者会	1210	手作り楽器のワークショップ	○	○	
千葉県	千葉県児童館連絡協議会	1222	造形ワークショップ		○	
岩手県	種市放課後児童クラブ「とりーむキャンパス」	1225～H22110	全国児童館おりかみ作品展			○
千葉県	浦安市児童センター	H22116～30	全国児童館おりかみ作品展			○
山梨県	富士河口湖町教育委員会	117～30	全国児童館おりかみ作品展			○
京都府	京都市久我の杜児童館	23	おりかみ研修会		○	
山口県	山口県児童センター	25～19	全国児童館おりかみ作品展			○
大阪府	大阪狭山市教育委員会	214	「おにこっこ」で楽しく体力つくり	○	○	
岐阜県	川辺町教育委員会	223	ぽかぽか広場 「広場」の持ち方と相談	○	○	
兵庫県	姫路市立北児童センター	224～28	全国児童館おりかみ作品展			○
埼玉県	春日部市第1児童センター「エンセル・トーム」	226	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
埼玉県	ふしみ野市立児童センター	37～13	全国児童館おりかみ作品展			○
千葉県	松戸市東部地区社会福祉協議会	312	うきうき！おんかくあそひ！	○	○	
長崎県	諫早市こどもの城	318～20	お父さんの少年時代	○	○	○
兵庫県	神戸市総合児童センター	320～28	全国児童館おりかみ作品展			○

〈中央児童派遣実績一覧〉

	開催団体	実施日時	プログラム名	催し	研修
福岡県	宗像ユリックス	724・25	ネットワークつくり「とり+かえっこ」	○	○
福岡県	宗像ユリックス	88・9	ネットワークつくり「とり+かえっこ」現地開催	○	
宮城県	仙台市貝ヶ森児童館	925・26	ネットワークつくり「とり+かえっこ」	○	○
宮城県	仙台市南吉成児童館	1017	ネットワークつくり「とり+かえっこ」現地開催	○	
香川県	さぬきこどもの国	1025	中央児童ホランティア1・2・3	○	
東京都	足立区区民部住区推進課あよひふらっとまつ	1016	親子で遊ぶパペットラント事前指導	○	
東京都	足立区区民部住区推進課（鹿島いきいき館）	1113	親子で遊ぶパペットラント	○	○
東京都	足立区区民部住区推進課（綾瀬ブルミ工）	1127	親子で遊ぶパペットラント	○	○
東京都	豊島区子ども家庭部子とも課地域支援係	H22116	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	○	
岡山県	岡山県立児童館	116・17	児童館交流研修	○	○
北海道	釧路市こども遊学館	122・23	ネットワークつくり「とり+かえっこ」	○	○
北海道	釧路市こども遊学館	213 14	ネットワークつくり「とり+かえっこ」現地開催	○	

3. 助成金による事業

〈独立行政法人福祉医療機構 子育て支援基金助成事業「児童館を活用した父親ネットワークづくり事業」〉

名 称	日 時	内 容
児童館を活用した父親ネットワークづくりのためのモデル事業	H22.2月	地域の子育て環境を整えていくためには男性の参画も必要であり、また父親にとっても地域に仲間かいることはさまざまなメリットと考えられる。児童館を活用して父親同士のネットワークを構築するためのモデル事業に取り組んだ。実施地 札幌市川北児童会館、合志市西児童館（熊本県）、鹿児島いきいき館（東京都）、神戸市立細田児童館、王川学園子ともクラフころころ児童館（東京都）、坂井市春江児童館ぱぱクラフ（福井県）。
父親ネットワーク・サミット	H22.1.30（東京会場） 2.13（愛知会場）	モデル事業の成果の発表と、父親グループの交流をはかるために実施。父親活動博覧会、公開討論会、懇談会の3部構成。父親活動博覧会ではモデル事業の6児童館に加え、さまざまな父親グループを招き、ポスターや映像などで活動を紹介すると同時に、グループ間の交流をはかった。参加父親グループ（順不同） みどりのばば（東京都）、父親サポート関西（兵庫県）、子育て農業応援団（石川県）、お父さん子育て支援グループ「オヤーシュ」（山口県）、NPO法人新座子育てネットワーク お父さん盛り上げ隊（埼玉県）、NPO法人わこう子育てネットワーク パパ組（埼玉県）、おやしの部屋・みたか組（東京都）、NPO法人ファーサーリンク・シャパン（東京都）、おやしの休日の会（愛知県）、なこや子連れ狼の会（愛知県）。
「みんなで子育て DADDY'S NET」の発行	H22.3月	モデル事業や父親の地域活動の先進事例などの情報をまとめ、父親の子育て参画の普及・推進のために、報告書「みんなで子育て DADDY'S NET」を発行し、全国の自治体・児童館などに配布した。

〈財団法人こども未来財団委託事業「子育てサークル活動者研修事業」〉

名 称	日 時	内 容
子育てサークル活動者研修事業	厚生労働省・財団とも未来財団が主催する「子育てサークル活動者研修事業」について、財団とも未来財団から委託されて4地域で実施。4日間の研修会と協力団体が企画するモデル事業で構成。まとめの小冊子を作成した。	
つないでひろげて Happy子育て～楽しさ発見！ママ友発見!! (宮城県岩沼市)	10.9、15、23、28 (研修会)	【研修会】①ワークショップ「新しい出会いで発見！」②ワークショップ「新しい自分を発見！」③基調報告「次世代育成支援の取り組みについて」／パネルディスカッション「つないでひろげて Happy子育て～サークルで発見！～」／交流会 ④ワークショップ「あそびを発見！」 協力 子育てサポートー「ほっぺの会」／子育て応援者グループ「おもちゃはこ」／岩沼市健康福祉部子とも福祉課
子育て仲間を見つけよう～新しい出会いと発見のチャンス～ (和歌山県和歌山市)	10.23、29、11.6、19 (研修会) 11.26 (モデル事業)	【研修会】①ワークショップ「素敵な自分を見つける」②ワークショップ「みんなが違う、たから楽しい」③パネルディスカッション「サークルってどうやったら作れるの？」／交流会 ④ワークショップ「グループのコミュニケーション力をアップしよう」 【モデル事業】わかやま子育て仲間大集合！ 協力 和歌山市子育て支援ネットワーク実行委員会
子育てをもっと楽しむヒントを見つけよう! (山口県宇部市)	11.26、12.2、9、14 (研修会) H22.1.18 (モデル事業)	【研修会】①ワークショップ「出会いのヒント」②ワークショップ「自分を知るヒント」③パネルディスカッション「子育てを楽しむヒント」／交流会 ④ワークショップ「つながるヒント」 【モデル事業】子育てサークル交流会 協力 うへ育児サークルネットワーク
元気が出る子育てサプリ講座～楽しく育児＆育自～ (佐賀県小城市)	11.17、12.1、8、15 (研修会) H22.2.21 (モデル事業)	【研修会】①コミュニケーションワーク「はじめまして・こんにちは」②グループワークI「自分らしく・わたし発見！」③ティスカッション「つかろう・子育て談義交流会」／交流会 ④グループワークII「ひろげよう・ママ友の輪」 【モデル事業】ふれあいエンセルフェスタ2009 協力 子育てサークル活動者研修事業小城実行委員会

財団法人 児童育成協会
 **こどもの城**

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676
<http://www.kodomono-shiro.jp/>